

茨城県教育財団文化財調査報告第248集

いぬ だ じん じゃ まえ
犬田神社前遺跡 2

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書 X

下 巻

平成 17 年 3 月

日 本 道 路 公 団
財団法人 茨城県教育財団

目 次

—下 巻—

(7) 土坑	335
(8) 土坑群	358
(9) 溝跡	372
(10) 道路跡	403
(11) 不明遺構	405
6 その他の遺構と遺物	407
(1) 竪穴住居跡	407
(2) 方形竪穴遺構	418
(3) 土壙墓	423
(4) 井戸跡	425
(5) 土坑	430
(6) 溝跡	474
(7) 柵跡	475
(8) ビット群	475
(9) 遺構外出土遺物	493
第4節 まとめ	502
付章 犬田神社前遺跡出土銅鏡の保存処理及び分析結果	545
写真図版	
付図	

(7) 土坑

第2113号土坑 (第265図)

位置 調査区西部2区のB 1b0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸1.13m, 短軸0.72mの長方形で、長軸方向はN-0°である。深さは19cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

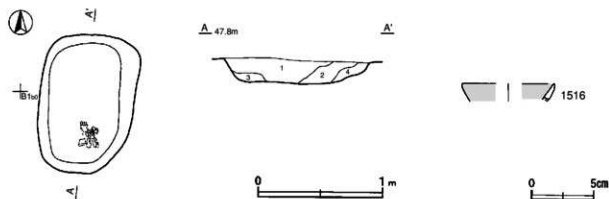
覆土 4層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・骨粉微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 磁器片1点(猪口), 馬骨片35点が出土している。1516は覆土中から出土している。また, 馬骨片は南部の覆土中から底面にかけて, 下顎や部位不明の破片が重なって出土しており, 埋葬されたものではなく投棄されたものと考えられる。また, 混入した土師器片が出土している。

所見 馬骨などを廃棄した土坑と考えられる。時期は, 出土した磁器の生産年代から江戸時代と考えられる。



第265図 第2113号土坑・出土遺物実測図

第2113号土坑出土遺物観察表(第265図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施釉	手法	特徴	産地・年代	出土位置	備考
1516	白磁	猪口	[7.2]	(1.5)	-	灰白	透明釉	口縁部無文		肥前系, 江戸時代	覆土中	5%

第2642号土坑 (第266図)

位置 調査区西部1区のC 3j3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第230号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.99m, 短軸0.53mの長方形で、長軸方向はN-11°-Wである。深さは16~30cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は北部が深く掘り込まれている。

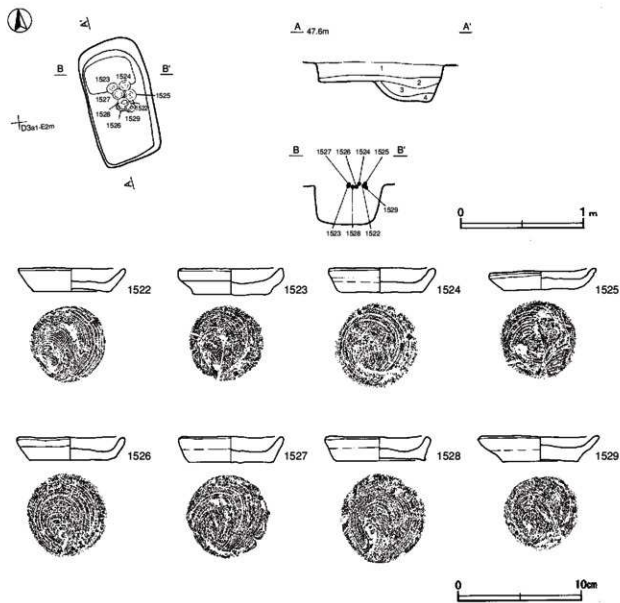
覆土 4層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師質土器片13点（小皿）、鉄滓1点が出土している。1522～1529は正位で並べられた状態で、覆土上層から出土している。また、混入した弥生土器片と土師器片が出土している。

所見 小皿8枚が並べられている点は、意識的な行為の結果という印象を受けるが、性格は不明である。時期は、出土土器から12世紀後半から13世紀前半にかけてと考えられる。



第266図 第264号土坑・出土遺物実測図

第264号土坑出土遺物観察表(第266図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1522	土師質土器	小皿	8.4	1.8	6.1	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	上層	100%, PL113
1523	土師質土器	小皿	8.2	2.2	6.0	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	上層	100%, PL113
1524	土師質土器	小皿	8.5	2.0	6.6	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ, 口縁部に歪みあり, 底部回転糸切り	上層	100%, PL113
1525	土師質土器	小皿	8.4	1.7	5.6	石英・長石・金雲母	にぶい黄橙	普通	内・外面ロクロナデ, 底部回転糸切り	上層	95%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1526	土師質土器	小皿	8.5	1.9	6.1	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ、口縁部に歪みあり、底部回転糸切り	上層	100%、PL113
1527	土師質土器	小皿	8.3	2.1	6.8	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ、口縁部に歪みあり、底部回転糸切り	上層	100%、PL113
1528	土師質土器	小皿	8.3	2.0	7.1	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内・外面ロクロナデ、口縁部に歪みあり、底部回転糸切り	上層	95%、PL113
1529	土師質土器	小皿	9.3	2.1	6.0	石英・長石・金雲母	にぶい褐	普通	内・外面ロクロナデ、底部回転糸切り	上層	80%、PL113

第3085号土坑（第267図）

位置 調査区中央部5区のE8h4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第65号溝を掘り込み、第20号土坑墓、第3086・3087号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸は2.04mで、下場から短軸が0.72mの隅丸長方形と推測される。長軸方向はN-83°-Wである。深さは60cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

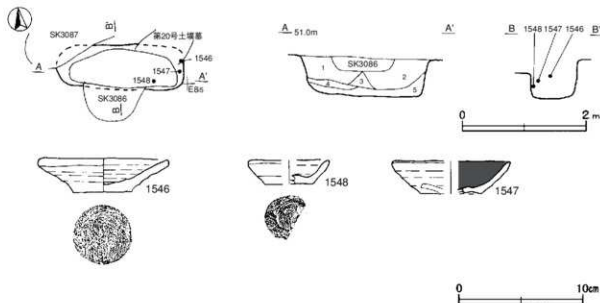
覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミス少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 5 灰褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片13点（小皿4、内耳鍋9）が出土している。1546・1547は東壁際の覆土上層、1548は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。1547の内面には煤が付着しており、灯明皿に転用されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積であることと重複する第20号土坑墓と規模と形状が酷似していることから、土坑墓の可能性が高い。時期は、出土土器から18世紀前葉に廃絶した溝を早い段階で掘り込んでいると推測され、18世紀前葉と考えられる。



第267図 第3085号土坑・出土遺物実測図

第3085号土坑出土遺物観察表(第267図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1546	土師質土器	小皿	10.3	2.7	4.7	黒雲母	橙	普通	体部下端回転へう削り、底部外面スノコ状圧痕、底部内面一方向の指ナデ	上層	80%, PL113
1547	土師質土器	小皿	[9.2]	2.7	[4.8]	長石・黒雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	上層	40%, 内面僅付着
1548	土師質土器	小皿	[6.4]	1.9	[3.8]	白雲母・赤色砂子	浅黄橙	普通	白かわらけ、内面ロクロナデ、底部回転糸切り後、板状圧痕	下層	50%

第3143号土坑 (第268図)

位置 調査区中央部5区のE 8 e4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3144号土坑を掘り込み、第3124号土坑、ピット(2か所)に掘り込まれている。

規模と形状 土坑に掘り込まれているため、東西軸は1.12mで、南北軸は2.56mだけが確認された。南北軸を長軸方向とすると、長軸方向をN-10°-Eとする隅丸長方形と推測される。深さは18cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

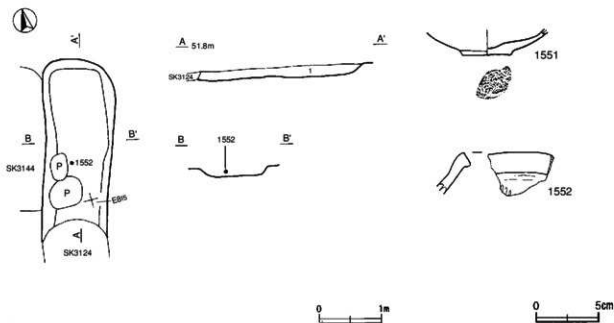
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色、ロームブロック中量、塵屑バミス少量

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿、焙烙、内耳鍋)、陶器片3点(摺鉢)が出土している。1551は覆土中、1552は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、出土した陶器が18世紀中葉から後半に位置づけられていることと近接している第19号土坑墓と形状が類似していることから、18世紀中葉から後半の土坑墓の可能性がある。



第268図 第3143号土坑・出土遺物実測図

第3143号土坑出土遺物観察表(第268図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1551	土師質土器	小皿	-	(2.0)	3.8	金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1552	陶器	鉢鉢	-	(3.3)	-	にぶい赤褐色	無軸	1単位3条までは確認	信楽産, 18C中～後半	下層	5%

第3185号土坑(第269図)

位置 調査区中央部5区のE 8 c3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第4・5号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.01m, 短軸0.58mの隅丸長方形で、長軸方向はN-4°-Eである。深さは26cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

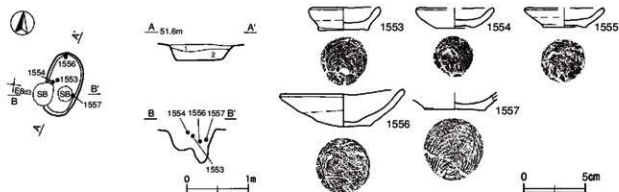
覆土 2層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミススを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 鹿沼バミスブロック微量 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片20点(小皿)が出土している。1553・1554は中央部の覆土上層, 1556は北壁際, 1557は東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片が出土している。

所見 時期は、17世紀前半に廃絶した掘立柱建物に掘り込まれていることと出土土器から、16世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第269図 第3185号土坑・出土遺物実測図

第3185号土坑出土遺物観察表(第269図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1553	土師質土器	小皿	5.7	1.8	4.0	金雲母	橙	普通	内・外面口クロナテ, 底部回転糸切り	上層	90%, PL114
1554	土師質土器	小皿	[6.1]	1.6	3.1	金雲母	橙	普通	内・外面口クロナテ, 底部回転糸切り	上層	60%, PL114
1555	土師質土器	小皿	[6.2]	1.5	3.5	金雲母	橙	普通	底部内面指ナテ, 底部回転糸切り後, ナテ	覆土中	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1556	土師質土器	小皿	97	29	45	金雲母・赤色粒子	明褐色	普通	底部内面指ナア、底部回転糸切り後、スノコ状の圧痕	下層	100%, PL113
1557	土師質土器	小皿	-	(L5)	5.0	石英・長石・金雲母	灰黄褐色	普通	底部回転糸切り	下層	40%

第3239号土坑 (第270・271図)

位置 調査区中央部5区のE 8 e1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第45号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

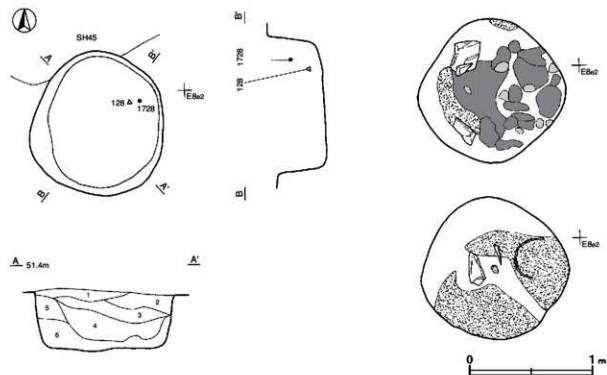
規模と形状 長径1.19m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-0°である。深さは40cmで、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスなどを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

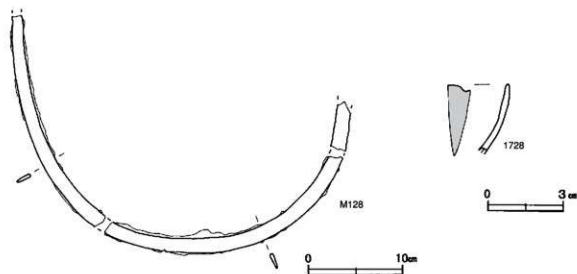
- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化物少量、ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 4 黒色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片2点(碗)、磁器片1点(輪花小鉢)、鉄製品3点(弧状鉄製品)、自然礫8点が出土している。焼土塊や炭化物、粘土ブロックや自然礫が覆土上層から覆土下層にかけて出土していることから、投棄されたものと考えられる。1728は北東部の覆土中層、M128は北東部の覆土下層から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。



第270図 第3239号土坑実測図

所見 粘土や焼土などを廃棄した土坑であるが、鍛冶もしくは竈に関連する遺物は出土しておらず、粘土などの用途については不明である。時期は、出土した磁器の生産年代から、江戸時代後期と考えられる。



第271図 第3239号土坑出土遺物実測図

第3239号土坑出土遺物観察表(第271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	胎付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1728	青磁	輪花小鉢	-	(27)	-	明オリブ灰・灰白	青磁軸	口縁部輪花	肥前系、江戸時代後期	上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M128	弧状鉄製品	(60.0)	1.5	0.3	(132.0)	鉄	弧状に彎曲している、断面三角形、用途不明	下層	PL123

第3333号土坑(第272図)

位置 調査区中央部5区のE7h0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3332号土坑、ピット(1か所)に掘り込まれている。

規模と形状 土坑に掘り込まれているため、南北軸は3.39mで、東西軸は0.78mだけが確認された。南北軸を長軸方向とすると、長軸方向をN-8°-Eとする隅丸長方形と推測される。深さは18cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

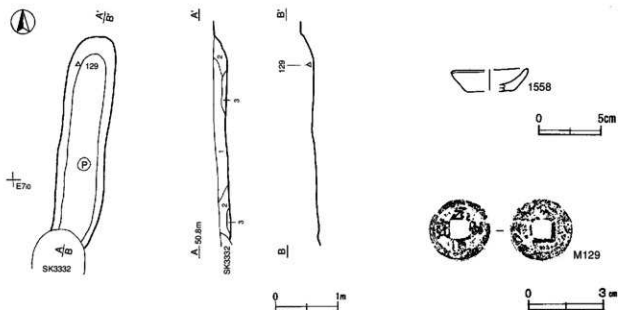
覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック中量、炭化物少量 3 灰褐色 鹿沼バミスブロック少量
2 黄褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、古銭1点が出土している。1558は覆土中、M129は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片が出土している。

所見 古銭が出土しているが、骨粉は認められない。土墳墓としては細長い形状であるため、性格は不明である。時期は、出土土器から16世紀後半から17世紀前半と考えられる。



第272図 第3333号土坑・出土遺物実測図

第3333号土坑出土遺物観察表(第272図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1558	土師質土器	小皿	[5.9]	1.8	[3.6]	黒雲母	灰白	普通	白かわらけ, 内・外面ロクロナデ	覆土中	40%

番号	銭名	径	孔	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M129	元祐通寶カ	2.28	0.80	2.2	1086(北宋)	銅	行書	下層	

第3413号土坑(第273図)

位置 調査区中央部5区のE7b0区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3414・3501・3502号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.80m, 短軸1.18mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-84°-Wである。深さは46cmで, 壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面は皿状を呈している。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

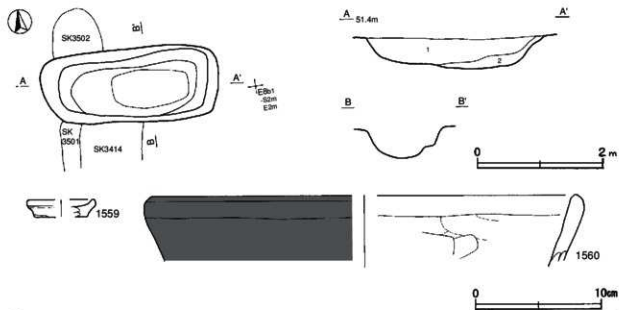
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片9点(小皿1, 内耳鍋8)が出土している。1559・1560は覆土中から出土している。また, 混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積であることと形状から, 土塚墓の可能性も考えられる。時期は, 出土土器から16世紀から17世紀と考えられる。



第273図 第3413号土坑・出土遺物実測図

第3413号土坑出土遺物観察表(第273図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1559	土師質土器	小皿	[5.1]	1.4	[4.1]	金雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ、 底部回転糸切り	覆土中	30%
1560	土師質土器	内耳鍋	[33.4]	(5.7)	-	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中	5%、外面保存者

第3496号土坑(第274図)

位置 調査区中央部5区のE7a0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3515号土坑を掘り込んでいる。

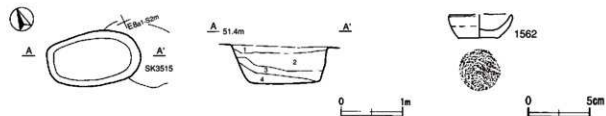
規模と形状 長軸1.50m、短軸0.80mの隅丸長方形で、長軸方向はN-71°-Wである。深さは58cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿1, 内耳鍋2)が出土している。1562は覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。



第274図 第3496号土坑・出土遺物実測図

所見 人為堆積であることと形状から、土墳墓の可能性も考えられる。時期は、出土土器から16世紀から17世紀と考えられる。

第3496号土坑出土遺物観察表(第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1562	土師質土器	小皿	[4.8]	1.9	3.3	長石・金雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り後、スノコ状の圧痕	覆土中	50%

第3506号土坑(第275図)

位置 調査区中央部5区のE7a9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3507号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.00m、短軸1.63mの隅丸長方形で、長軸方向はN-84°-Wである。深さは44cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

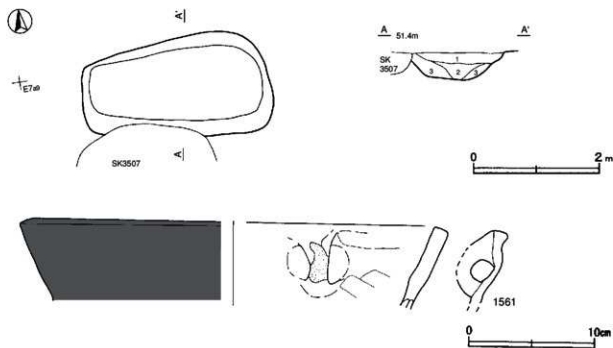
覆土 3層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量
 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
 3 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(小皿1, 内耳鍋5), 鉄滓2点が出土している。1561は覆土中から出土している。また、混入した土師器片と須恵器片が出土している。

所見 長軸が3mで、土墳墓としては大きすぎると考えられ、性格は不明である。時期は、出土土器から16世紀から17世紀と考えられる。



第275図 第3506号土坑・出土遺物実測図

第3506号土坑出土遺物観察表(第275図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1561	土師質土器	内耳鍋	[31.6]	(6.6)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	内耳1か所残存、耳は円形	覆土中	5%、体部外面淡く煤付着

第3524号土坑(第276図)

位置 調査区中央部5区のE 8 d1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡、第3525号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.98m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-18°-Eである。深さは70cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は南側が深く掘り込まれている。

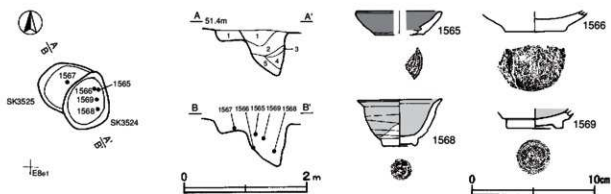
覆土 5層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックなどを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材・鹿沼バミスブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量、炭化材微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿1、鍔鉢1、内耳鍋2)、陶器片3点(端反小碗1、天目茶碗2)が出土している。1565・1569は北部の覆土上層、1568は中央部の覆土下層、1566は北部の底面からそれぞれ出土し、破断面が摩滅していないことから投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 時期は、17世紀前半に廃絶した第5号掘立柱建物跡を掘り込んでいることと出土した陶器から、17世紀中葉と考えられる。性格は不明である。



第276図 第3524・3525号土坑、第3524号土坑出土遺物実測図

第3524号土坑出土遺物観察表(第276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1565	土師質土器	小皿	[6.8]	1.9	[3.9]	白雲母	陶灰	普通	内・外面ロクロナア	上層	30%
1566	土師質土器	小皿	-	(1.6)	4.8	赤色粒子	浅黄橙	普通	白かわかけ、底部回転糸切り後、スノコ状の圧痕	下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	胎付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1568	陶器	灰輪端反小碗	6.8	3.8	2.6	灰オリーブ・灰白	灰輪	体部外面へラ削り、削り出し高台、体部外面下位露胎	瀬戸産、古瀬戸後期IV期古設障(15C中葉)	下層	100%、PL124
1569	陶器	鉄輪天目茶碗	-	(1.6)	4.6	黒褐・浅黄	鉄輪	削り出し輪高台、体部外面下位露胎	瀬戸産、連房登壇II期(1630～1670)	上層	30%

第3525号土坑 (第276・277図)

位置 調査区中央部5区のE 8 d1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第5号掘立柱建物跡を掘り込み、第3524号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北径は0.82m、東西径は0.60mだけが確認された。長径方向や形状は不明である。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを不規則に含み、人為堆積と考えられる。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿1、内耳鍋3)が出土している。1567は中央部の覆土下層から出土している。破断面が摩擦していないことから、投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 時期は、17世紀前半に廃絶した第5号掘立柱建物跡を掘り込んでいることと17世紀中葉の土坑に掘り込まれていることから、17世紀中葉には廃絶したものと考えられる。性格は不明である。



第277図 第3525号土坑出土遺物実測図

第3525号土坑出土遺物観察表(第277図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1567	土師質土器	内耳鍋	[33.0]	(4.4)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	5%、体部外面淡く煤付着

第3530号土坑 (第278・279図)

位置 調査区中央部5区のE 8 i5区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.52m、短径1.50mの円形である。深さは49cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

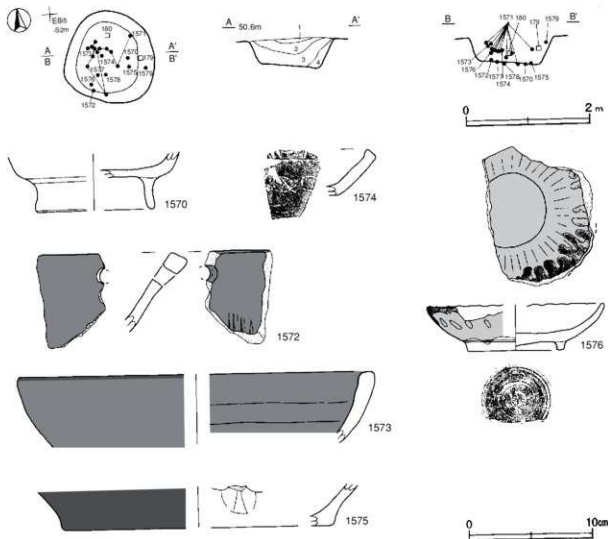
覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

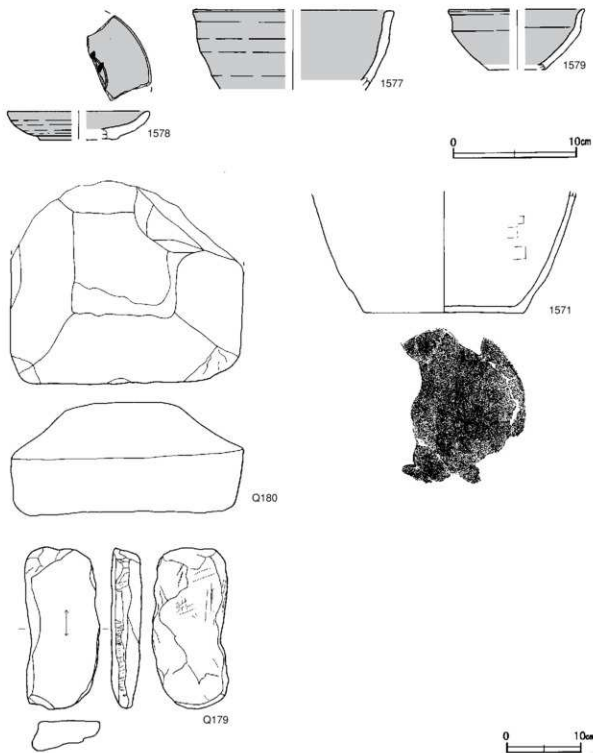
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭屑・バミスブロック微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭屑・バミス微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭屑・バミスブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師質土器片114点(播鉢5, 焙烙22, 内耳鍋72, 甕15), 瓦質土器片5点(盃洗1, 火舎1, 鍋3), 陶器片8点(菊皿1, 鉄絵皿1, 天目茶碗5, 片口鉢1), 石器1点(砥石), 石製品1点(五輪塔火輪), 磔16点が出土している。1571は覆土上層から中層にかけての離れた場所から出土した破片が接合したものであり, 投棄されたものと考えられる。1579は東壁際, 1573は中央部の覆土上層から, Q180は北部, Q179は東部, 1574は中央部の覆土中層から, 1572は南壁際, 1575は中央部, 1576は南部の覆土下層からそれぞれ出土したものであり, 破断面が摩滅していないことから投棄されたものと考えられる。1570・1577・1578は中央部の底面からそれぞれ出土し, 破断面が摩滅していないことから投棄されたものと考えられる。また, 混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 土器や陶器の出土状況から土器などは投棄されたものと考えられるが, 性格は不明である。廃絶時期は, 一番新しい陶器の生産年代から, 18世紀前半と考えられる。



第278図 第3530号土坑・出土遺物実測図



第279図 第3530号土坑出土遺物実測図

第3530号土坑出土遺物観察表(第278・279図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1575	土師質土器	焙烙	-	(3.4)	[21.6]	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ナデ、内耳1か所一部残存	下層	5%、体部外面保付着
1572	土師質土器	襷鉢	-	(6.4)	-	石英・長石・金雲母	灰褐	普通	6条1単位の襷り目、口縁部に穿孔(1か所)	下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1571	土師質土器	壺	-	(16.2)	[21.4]	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ、体部内面ヘラナデ、底部ナデ削し	上層・中層	40%
1574	瓦質土器	香炉	-	(3.7)	-	長石・白雲母	灰	普通	体部外面精巧の印文押捺	中層	5%
1570	瓦質土器	盃洗	-	(4.6)	[9.3]	長石・白雲母	灰黄褐	普通	内・外面ロクロナデ、高台貼り付け、底部調整不明	底面	30%、底部内・外面・高台部火熱痕、体部外面器面荒れ、酸化炎焼成
1573	瓦質土器	火舎	[28.4]	(5.7)	-	金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面横ナデ	上層	5%、酸化炎焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1576	陶器	灰輪織部流し菊皿	[14.0]	3.7	7.6	灰オリープ 灰・灰白・浅黄橙	灰輪	口縁部菊花状の切り込み、ロクロ成形後、形整形、体部外面菊花状のヘラ削り、口縁部織部軸、体部内・外面灰軸、体部外面下位露胎	瀬戸産、連房登壇Ⅲb期(1710～1750)	下層	60%、PL124
1578	陶器	志野鉄給皿	[11.4]	2.4	[6.2]	灰白・灰黄	長石軸・鉄軸	底部内面鉄軸(草花文)、体部内・外面・高台内施軸、畳付無軸、細かい貫入	瀬戸産、連房登壇Ⅰ期(1605～1630)	底面	20%、PL126
1577	陶器	灰輪片口鉢	[16.2]	(6.5)	-	灰白・灰黄	灰輪	体部やや内彎、貫入多し	瀬戸産、連房登壇Ⅲb期(1710～1750)	底面	10%、PL126
1579	陶器	鉄輪天目茶碗	[10.7]	(4.9)	-	オリープ 黒・灰白	鉄輪	体部外面下位露胎	瀬戸産、連房登壇Ⅲb期(1710～1750)	上層	30%、PL125

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q179	砥石	(21.7)	(9.7)	(4.1)	(1340.0)	粘板岩	砥面3面、2面には溝状の擦痕あり	中層	PL122
Q180	五輪塔	(27.3)	31.5	14.5	(18900.0)	花崗岩	火輪、一部欠損、表面風化	中層	PL122

第3538号土坑 (第280・281図)

位置 調査区中央部5区のE7h9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3536号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.91m、短軸1.36mの長方形で、長軸方向はN-82°-Wである。深さは46cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

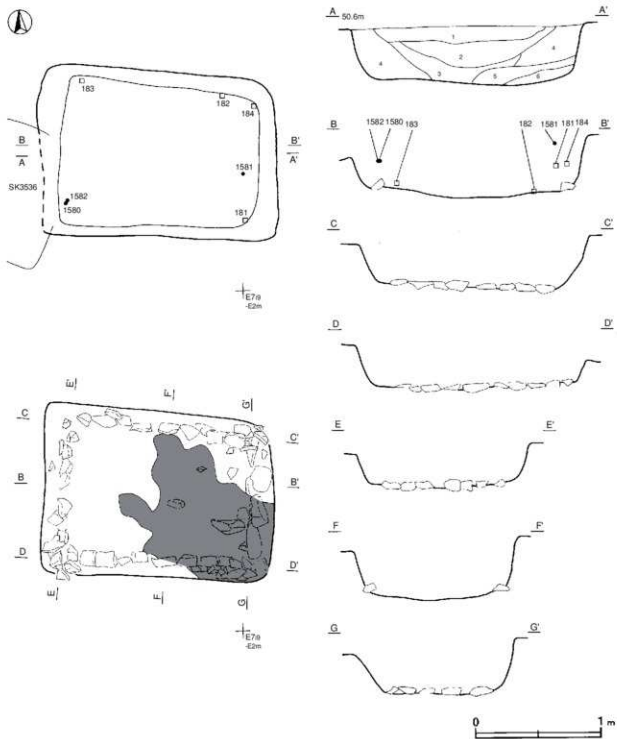
土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-----------------------|
| 1 褐色 | 鹿沼バミサブロック多量 | 4 黒褐色 | ローム粒子中量、鹿沼バミス少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス少量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量、鹿沼バミス中量 |
| 3 棕褐色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 | 6 灰黄褐色 | 粘土ブロック・鹿沼バミス中量、炭化粒子微量 |

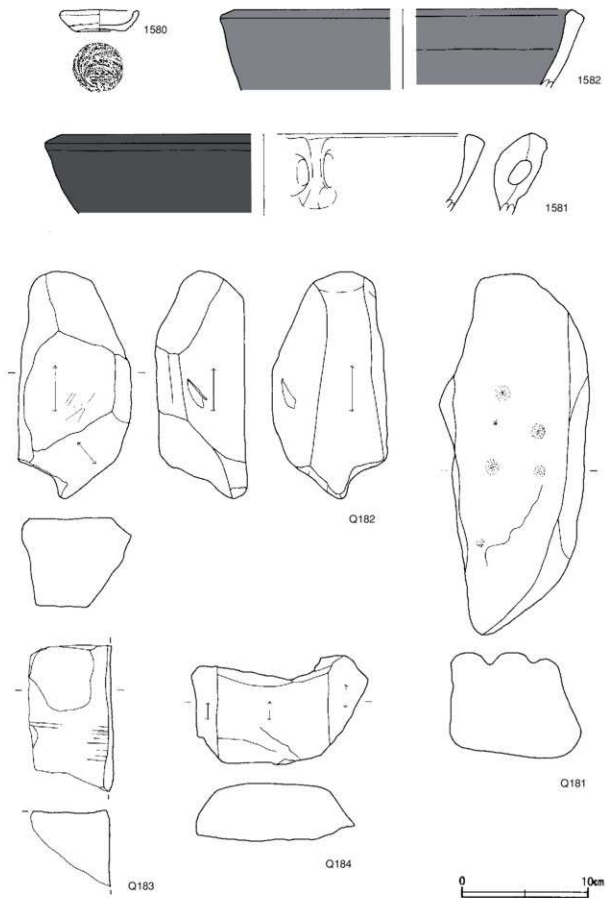
遺物出土状況 土師質土器片19点(小皿1, 内耳鍋18), 石器4点(凹石1, 砥石3), 鉄滓1点, 破砕面を持つ礫83点(砂岩73, 泥岩4, 雲母片岩4, チャート1, ホルンフェルス1)が出土している。1581は東部の、1580・1582は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。また、破砕面を持つ礫が底面の壁に沿って、上面が同じ高さになるように敷かれている。Q183は北西コーナー部の覆土下層から、Q182は北壁際の底面からそれぞれ出土し、敷石に転用されたものである。Q181・Q184は東壁際の覆土中層から出土し、壁の土留めに転用されたものと考えられる。東部の覆土下層から底面にかけて粘土塊が出土し、底に充填されていた

ものと考えられる。混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 竪の上面が同じ高さで並べられ、粘土塊が充填されていることから、上に板などを敷いていた可能性が考えられるが、木片は出土しておらず、土層観察でも最下層に炭化粒子が微量確認できただけである。また、下部施設の状況から、貯蔵施設的な土屋があったことも推測される。廃絶時期は、出土土器から17世紀前半と考えられる。



第280図 第3538号土坑実測図



第281图 第3538号土坑出土遺物実測図

第3538号土坑出土遺物観察表(第281図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1580	土師質土器	小皿	6.1	1.6	4.0	石英・長石	橙	普通	体部内・外面口ロナデ、底部回転糸切り後、板状圧痕	上層	100%、PL114
1581	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(6.5)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	内耳1か所残存、耳は扁平	上層	5%、体部外面保付着
1582	土師質土器	内耳鍋	[26.6]	(6.2)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	口縁部内面横ナデ	上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q181	凹石	28.7	11.9	8.4	3890.0	砂岩	凹み6か所	中層	
Q182	紙石	(18.0)	(9.2)	7.2	(1580.0)	雲母片岩	紙面4面、断面台形	底面	
Q183	紙石	(11.6)	(6.5)	(6.1)	(590.0)	砂岩	溝状の擦痕あり	下層	
Q184	紙石	(8.7)	(13.9)	(4.6)	(620.0)	泥岩	紙面3面、他は剥離面	中層	

第3539号土坑(第282図)

位置 調査区中央部5区のE7i8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3540号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.61m、短径1.21mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。深さは50cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック・炭化物微量
 2 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック・炭化物少量
 3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量、炭化物少量
 4 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片7点(内耳鍋)が出土している。1583は覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積であることと形状から、土塚墓の可能性も考えられる。時期は、出土土器から中世後半もしくは近世前半と考えられる。



第282図 第3539号土坑・出土遺物実測図

第3539号土坑出土遺物観察表(第282図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1583	土師質土器	内耳鍋	-	(5.5)	[23.2]	石英・長石・金雲母	橙	普通	体部内・外面ナデ	覆土中	5%、体部外面保付着

第3540号土坑（第283図）

位置 調査区中央部5区のE7 8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3539号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.05m、短軸0.74mの長方形で、長軸方向はN-9°-Eである。深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子中量、炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量
2 極暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）、瓦質土器片1点（摺鉢）が出土している。1584は覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積であることと隅丸長方形の形状から、土壇墓の可能性も考えられる。時期は、出土土器から中世後半もしくは近世前半と考えられる。



第283図 第3540号土坑・出土遺物実測図

第3540号土坑出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1584	瓦質土器	摺鉢	[296]	(48)	-	長石・白雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、口縁部外面に1条の沈線、摺り目1単位5条までは確認	覆土中	5%

第3552号土坑（第284図）

位置 調査区中央部5区のE7 9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第23号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.38m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-74°-Eである。深さは18cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

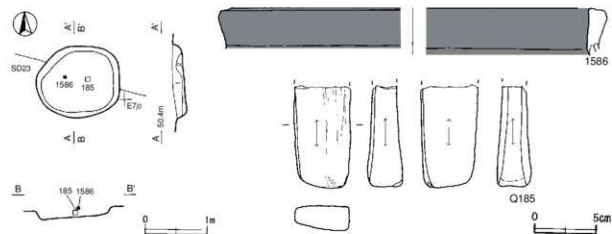
覆土 2層に分層される。ロームブロックや粘土ブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・鹿沼バミス少量 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

遺物出土状況 土師質土器片7点(小皿4, 内耳鍋3), 石器1点(砥石), 自然礫8点が出土している。1586は中央部の覆土上層から, Q185は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。自然礫も覆土下層から底面にかけて出土し, 埋め戻しの際に流入したものと考えられる。また, 混入した縄文土器片が出土している。

所見 人為堆積ではあるが, 掘り込みも浅く, 性格は不明である。時期は, 18世紀初頭に廃絶したと考えられる溝を掘り込んでいることや出土土器から, 18世紀中葉から後葉にかけてと考えられる。



第284図 第3552号土坑・出土遺物実測図

第3552号土坑出土遺物観察表(第284図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1586	土師質土器	内耳鍋	[28.4]	(3.8)	-	石英・長石・白雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q185	砥石	(8.2)	4.5	2.8	(164.0)	泥岩	紙面4面, 断面長方形	下層	PL122

第3575号土坑(第285図)

位置 調査区中央部5区のE8d1区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第45号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.48m, 短軸1.58mの長方形で, 長軸方向はN-0°である。深さは46~74cmで, 壁は直立している。底面は中央部が段状に深く掘り込まれている。

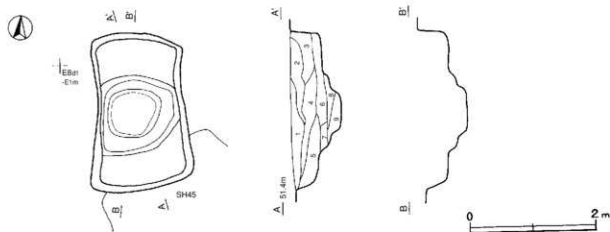
覆土 9層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスを不規則に含み, ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 灰暗褐色	ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック中量	6 暗褐色	ロームブロック多量, 鹿沼バミス中量
2 暗褐色	鹿沼バミスブロック多量, ロームブロック中量	7 暗褐色	鹿沼バミス中量, ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミス少量	8 褐色	ロームブロック多量, 鹿沼バミス中量
4 暗褐色	ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック少量	9 褐色	ロームブロック多量
5 褐色	ロームブロック・鹿沼バミス多量		

遺物出土状況 土師質土器片7点(小皿2, 内耳鍋5), 陶器細片2点(碗)が出土している。また, 混入した縄文土器片が出土している。

所見 中央部を段状に深く掘り込む構造であるが、性格は不明である。時期は、15世紀後半以前に廃絶した第45号方形竪穴遺構を掘り込んでいることと中・近世の遺物が出土していることから、15世紀後半以降の中世もしくは近世と考えられる。



第285図 第3575号土坑実測図

第3576号土坑 (第286図)

位置 調査区中央部5区のE7d0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第4号掘立柱建物跡を掘り込み、第28号ピット群に掘り込まれている。第7号掘立柱建物跡とも重複しているが、柱穴との切り合いがなく新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸2.98m、短軸1.64mの不定形で、長軸方向はN-0°である。深さは80cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面は皿状を呈している。

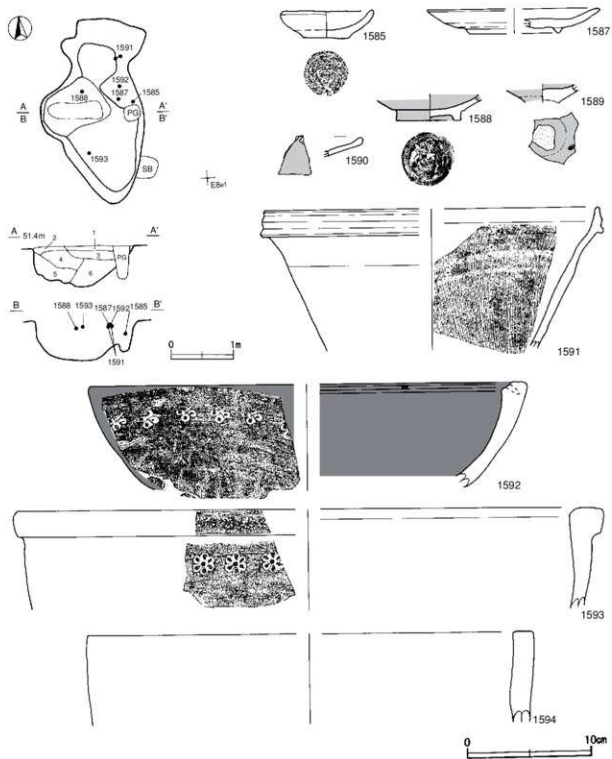
覆土 6層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスなどを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------------|
| 1 糊状褐色 鹿沼バミス少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 灰褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック粒子少量、炭化粒子微量 | 5 灰褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック中量、炭化物・粘土ブロック微量 |
| 3 糊状褐色 鹿沼バミス中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、鹿沼バミスブロック微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿1, 内耳鍋3), 瓦質土器片9点(火舎5, 火鉢4), 陶器片6点(輪壳皿1, 丸碗2, 天目台1, 擂鉢2), 磁器片1点(仏飯具), 鉄滓4点が出土している。1589・1590・1594は覆土中から、1591は北部、1587・1588・1592は中央部、1593は南部の覆土上層から、1585は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、出土した陶器の生産年代から、18世紀中葉から後半と考えられる。形状が不定形であり、性格は不明である。



第286図 第3576号土坑・出土遺物実測図

第3576号土坑出土遺物観察表(第286図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1585	土師質土器	小皿	7.2	2.2	3.6	石英・長石 に多い	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り	中層	95%, PL.114

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1594	土師質土器	火鉢	[35.6]	(7.3)	-	長石	灰	普通	内・外面ロクロナデ	覆土中	5%
1592	瓦質土器	火舎	[34.9]	(8.3)	-	長石・白雲母	灰黄緑	普通	口縁部外面横ナデ後、花菱文の印文押捺、口縁部内面に穿孔(1か所確認) 体部内面ナデ	上層	10%
1593	瓦質土器	火鉢	[46.6]	(8.2)	-	長石・白雲母	黄灰	普通	口縁部外面・菊花文と六弁の花文の印文押捺、口縁部内面横ナデ	上層	5%、PL119

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	胎土・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1587	陶器	灰軸輪壳皿	[13.8]	2.0	[7.2]	オリーブ黄・灰黄	灰軸	底部回転へう削り後、高台貼り付け。高台内無軸。見込み口縁部の積み重ね痕	瀬戸産、連房登壇Ⅲa期(1670～1710)	下層	30%、PL126
1588	陶器	鉄軸丸瓶	-	(2.2)	5.2	オリーブ黒・にぶい黄緑・灰白	鉄軸	削り出し輪高台、体部内・外面・高台内施軸、登付無軸	瀬戸産、連房登壇Ⅲa期(1670～1710)	底面	20%、PL125
1589	磁器	仏飯器	-	(1.5)	-	灰白	透明軸	体部外面に輪状及び文様不明の染め付け、染め付けは灰色	肥前系、Ⅳ期(1690～1780)	底面	10%
1590	陶器	灰軸天目台	-	(1.7)	-	灰白・灰黄	灰軸	口縁部内・外面施軸、細かい貫入	瀬戸産、連房登壇Ⅲb期(1710～1750)	覆土中	5%
1591	陶器	罌鉢	[26.3]	(11.3)	-	灰白・にぶい黄緑	無軸	1単位8条、口縁部外側に折り曲げ、口縁部自然軸付着	信楽産、18C中葉～後半	上層	10%、PL125

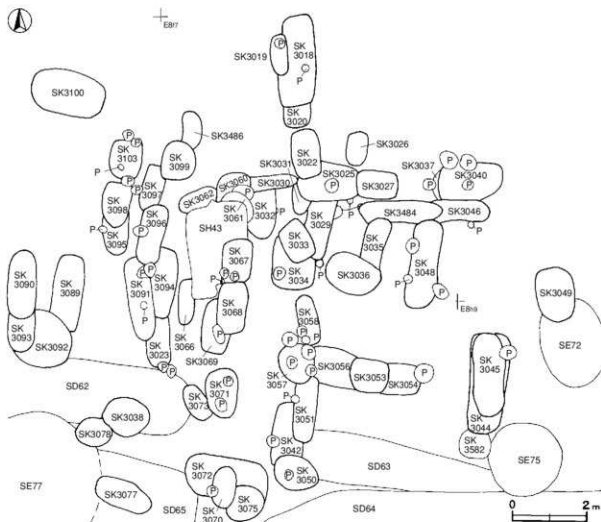
表18 中・近世土坑一覽表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考(時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2113	B 1 b0	N-0°	長方形	1.13 × 0.72	19	外傾	平坦	人為	磁器、馬骨	江戸時代、馬骨などを廃棄した土坑
2642	C 3 j1	N-11°-W	長方形	0.99 × 0.53	16～30	外傾	段状	人為	土師質土器、鉄滓	12世紀後半～13世紀前半
3085	E 8 h4	N-83°-W	[隅丸長方形]	2.04 × [0.72]	60	外傾	平坦	人為	土師質土器	18世紀前半、土坑墓の可能性あり
3143	E 8 e4	N-10°-E	[隅丸長方形]	(2.56) × 1.12	18	外傾	平坦	人為	土師質土器、陶器	18世紀中葉から後半、土坑墓の可能性あり
3185	E 8 c3	N-4°-E	隅丸長方形	1.01 × 0.58	26	外傾	平坦	人為	土師質土器	16世紀後半
3239	E 8 e1	N-0°	楕円形	1.19 × 1.06	40	直立	平坦	人為	土師質土器片、陶器片、磁器、鉄製品、焼土塊、炭化物、粘土塊、礫	江戸時代後半、粘土などを廃棄した土坑
3333	E 7 b0	N-8°-E	[隅丸長方形]	(3.39) × 0.78	18	緩斜	平坦	人為	土師質土器、古銭	16世紀後半～17世紀前半
3413	E 7 b0	N-84°-W	隅丸長方形	2.80 × 1.18	46	緩斜	皿状	人為	土師質土器	16世紀～17世紀、土坑墓の可能性あり
3496	E 7 a0	N-71°-W	隅丸長方形	1.50 × 0.80	58	外傾	平坦	人為	土師質土器	16世紀～17世紀、土坑墓の可能性あり
3506	E 7 a9	N-84°-W	隅丸長方形	3.00 × 1.63	44	緩斜	平坦	人為	土師質土器、鉄滓	16世紀～17世紀
3524	E 8 d1	N-18°-E	楕円形	0.98 × 0.76	70	外傾	段状	人為	土師質土器、陶器	17世紀中葉
3525	E 8 d1	-	-	0.82 × (0.60)	20	外傾	平坦	人為	土師質土器	17世紀中葉
3530	E 8 i5	N-0°	円形	1.52 × 1.50	49	外傾	平坦	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁石、五輪塔	18世紀前半
3538	E 7 h9	N-82°-W	長方形	1.91 × 1.36	46	外傾	平坦	人為	土師質土器、磁石、礫、粘土塊	17世紀前半、土屋構造を持っていた可能性あり

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (時 代)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
3539	E 7 18	N-80°-W	楕円形	1.61 × 1.21	50	外傾	平坦	人為	土師質土器	中世後半～近世前半、土坑墓の可能性あり
3540	E 7 18	N-9°-E	長方形	2.05 × 0.74	45	外傾	平坦	人為	土師質土器、瓦質土器	中世後半～近世前半、土坑墓の可能性あり
3552	E 7 19	N-74°-E	楕円形	1.38 × 1.20	18	外傾	平坦	人為	土師質土器、砥石、礫	18世紀中葉～後葉
3575	E 8 d1	N-0°	長方形	2.48 × 1.58	46～74	直立	段状	人為	土師質土器、陶器断片	15世紀後半以降の中世～近世
3576	E 7 d0	N-0°	不定形	2.98 × 1.64	62	外傾	皿状	人為	土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器	18世紀中葉

(8) 土坑群

調査区中央部5区の南東部には、中世後半もしくは近世前半と考えられる土坑が59基確認されている。特徴的な土坑6基について、その概要を記述する。また、その他の土坑は実測図(第295～298図)と土層解説を記載し、位置や規模などについては一覧表に示す。



第287図 土坑分布図

第3049号土坑（第288図）

位置 調査区中央部5区のE 8g9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第72号井戸跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.48m、短軸1.04mの隅丸長方形で、長軸方向はN-10°-Wである。深さは11cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを不規則に含んでいることから人為堆積と考えられる。

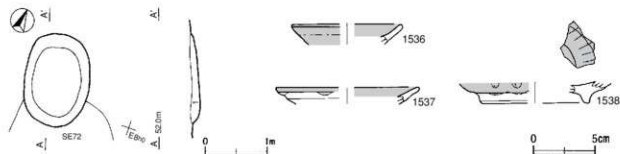
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点（小皿、内耳鍋）、陶器4点（丸皿、端反皿、菊皿、丸碗）が出土している。

1536・1537・1538は覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積であることと形状から、土壌墓の可能性も考えられる。時期は、陶器の生産年代から、18世紀前半と考えられる。



第288図 第3049号土坑・出土遺物実測図

第3049号土坑出土遺物観察表（第288図）

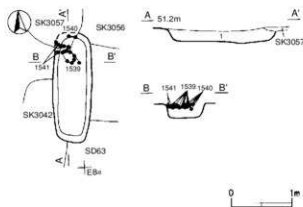
番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施釉	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1536	陶器	志野丸皿	[8.6]	(1.7)	-	灰白・にぶい橙	長石釉	口縁部直線的に外反、貫入あり	瀬戸産、大室Ⅱ期 (1530～1570)	覆土中	5%
1537	陶器	灰釉 端反皿	[11.4]	(1.3)	-	オリブ灰・ 浅黄	灰釉	体部外面回転ヘラ削り、貫入	瀬戸産、大室Ⅰ期 (1490～1530)	覆土中	5%
1538	陶器	灰釉織部 流し菊皿	-	(1.7)	[8.4]	灰白・浅黄橙	織部釉・灰 釉	口縁部菊花状の切り込み、ロク ロ成形成。形整形。体部外面菊 花状のヘラ削り、口縁部織部釉。 体部内・外面灰釉。体部外面下 位露胎	瀬戸産、連房登窯Ⅲ b期(1710～1750)	覆土中	10%

第3051号土坑（第289・290図）

位置 調査区中央部5区のE 8h7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第63号溝、第3042・3056号土坑を掘り込み、第3057号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が掘り込まれているため東西軸は0.60mで、南北軸は1.78mだけが確認された。長軸方向をN-7°-Eとする隅丸長方形と推測される。深さは20cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平



第289図 第3051号土坑実測図

所見 人為堆積であることと形状から、土墳墓の可能性も考えられる。時期は、17世紀後半に廃絶した溝を掘り込んでいることと出土土器から、17世紀後半と考えられる。

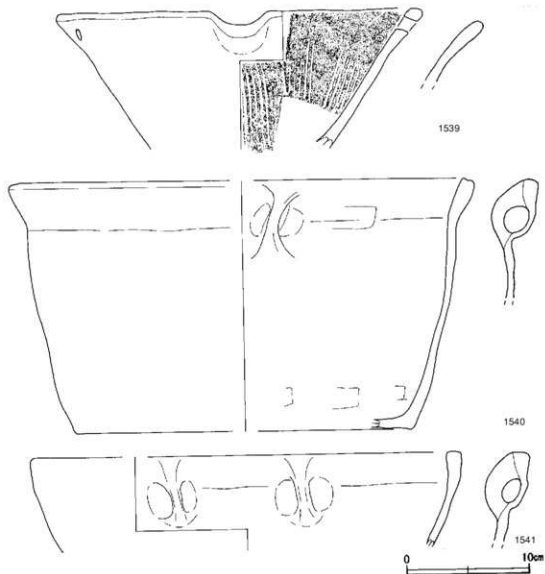
坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックを中量含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、焼岩パイスブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片48点（内耳鍋）、瓦質土器片23点（摺鉢）が出土している。1539～1541は北部の覆土上層から出土した破片が接合したものであり、土坑が窪地の状態のとき投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。



第290図 第3051号土坑出土遺物実測図

第3051号土坑出土遺物観察表(第290図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1540	土師質土器	内耳鍋	[35.8]	20.4	[27.1]	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	内耳1か所残存。耳は円形。口縁部内・外面横ナデ	上層	30%。底部外面保付着。PL119
1541	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(7.7)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	内耳2か所残存。耳は円形。口縁部内面横ナデ	上層	10%
1539	瓦質土器	播鉢	29.4	(11.2)	-	石英・長石	橙	普通	5条1単位の播り目を14単位確認。播り目に摩滅なし。片口。口縁部に穿孔(1か所。片口から140°の位置)あり	上層	30%。酸化炭焼成。PL119

第3057号土坑(第291図)

位置 調査区中央部5区のE8h7区で、台地上の平坦部に位置している。

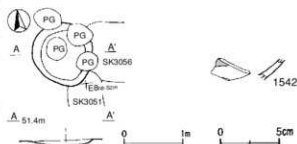
重複関係 第3051・3056号土坑を掘り込み、第21号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.10m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-8°-Wである。深さは11cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面は皿状を呈している。

覆土 単一層である。ロームブロックを不規則に含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量



第291図 第3057号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(丸碗)が出土している。1542は覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 時期は、出土した陶器の生産年代と、17世紀後半以降の土坑を掘り込んでいることから、17世紀後半以降の近世と考えられる。掘り込みが浅く、性格は不明である。

第3057号土坑出土遺物観察表(第291図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1542	陶器	鉄軸丸碗	-	(1.8)	-	オリーブ黒・灰	鉄軸	体部外面下位露胎	瀬戸産、江戸時代	覆土中	5%

第3077号土坑(第292図)

位置 調査区中央部5区のE8i6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第77号井戸跡、第65号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.58m、短軸0.79mの隅丸長方形で、長軸方向はN-33°-Wである。深さは18cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

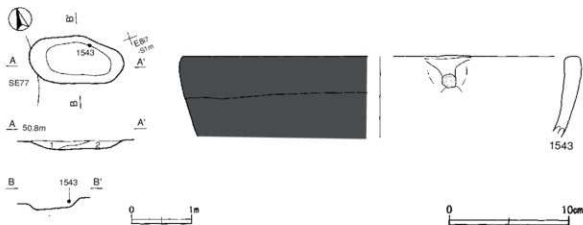
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 瓦質土器片7点(火舎)が出土している。1543は北壁際の覆土上層から出土し、破断面が摩擦していることから混入したものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 人為堆積で、隅丸長方形の形状から土塚墓の可能性も考えられる。時期は、18世紀前葉に廃絶した溝跡を掘り込んでいることと出土土器から、18世紀前葉以降の近世と考えられる。



第292図 第3077号土坑・出土遺物実測図

第3077号土坑出土遺物観察表(第292図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1543	土師質土器	内耳鍋 [32.6]	(6.7)	-	-	石英・長石・金雲母	にぶい程	普通	内耳直1か所残存、口縁部内・外面横ナデ	上層	5%、外面黒付着

第3078号土坑 (第293図)

位置 調査区中央部5区のE 8 h6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第77号井戸跡、第62号溝跡を掘り込み、第3038号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸0.98m、短軸0.78mの隅丸長方形で、長軸方向はN-72°-Wである。深さは17cmで、壁は外傾して緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックや粘土ブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック混量



第293図 第3078号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 瓦質土器片2点(火舎)、陶器片1点(常滑甕)が出土している。1544は中央部の覆土上層から出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 隅丸長方形の形状から土塚墓の可能性も考えられる。時期は、17世紀中葉に廃絶した井戸を掘り込んでいることと出土土器から、17世紀中葉以降の近世と考えられる。

第3078号土坑出土遺物観察表(第293図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1544	瓦質土器	火舎	[29.4]	(5.4)	-	石英・長石・金雲母	灰褐	普通	口縁部外面横ナデ、内面ヘラナデ	上層	5%

第3095号土坑(第294図)

位置 調査区中央部5区のE8g6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3098号土坑、ピット(1か所)に掘り込まれている。

規模と形状 北部を掘り込まれているため、東西軸は0.75mで、南北軸は0.72mだけが確認された。長軸方向をN-3°-Wとする隅丸長方形と推測される。深さは10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

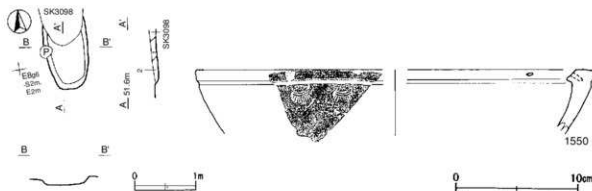
土層解説

1 褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 瓦質土器片2点(火舎、鉢)が出土している。1550は覆土中から出土している。

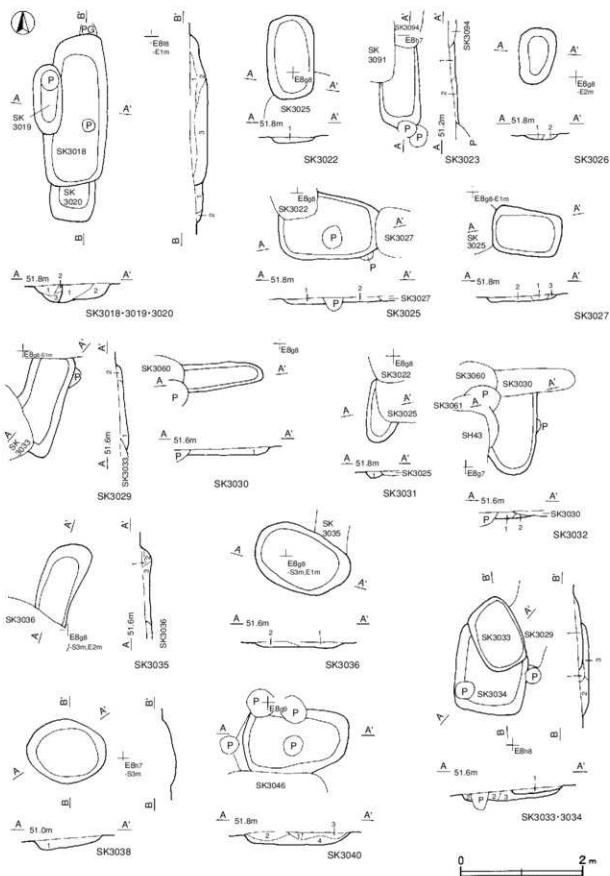
所見 時期は、出土土器から中世後半もしくは近世初頭と考えられる。近接し、形状が酷似している土坑に17世紀前葉以降に位置づけられているものがみられることから、同時期に機能していた可能性も考えられる。また、人為堆積であることと形状から土塚墓の可能性も考えられる。



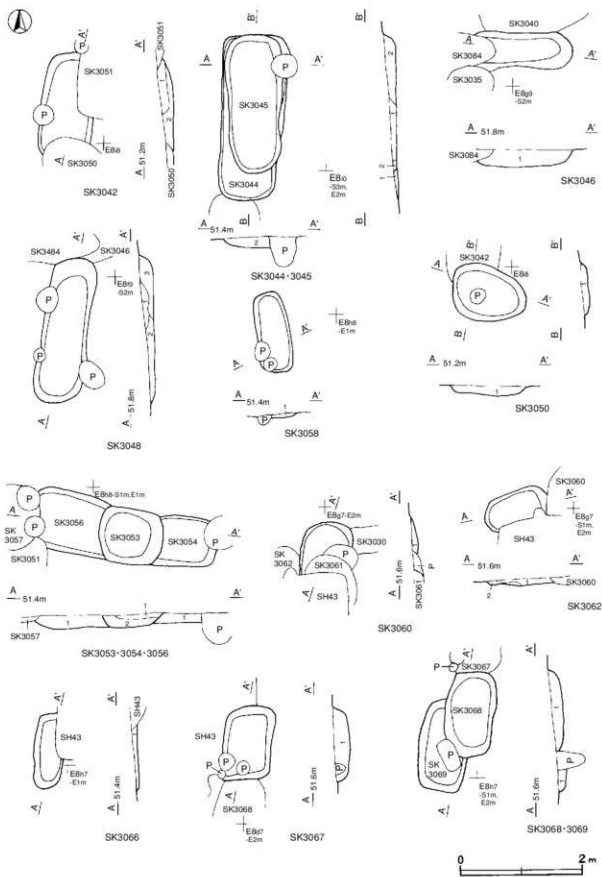
第294図 第3095号土坑・出土遺物実測図

第3095号土坑出土遺物観察表(第294図)

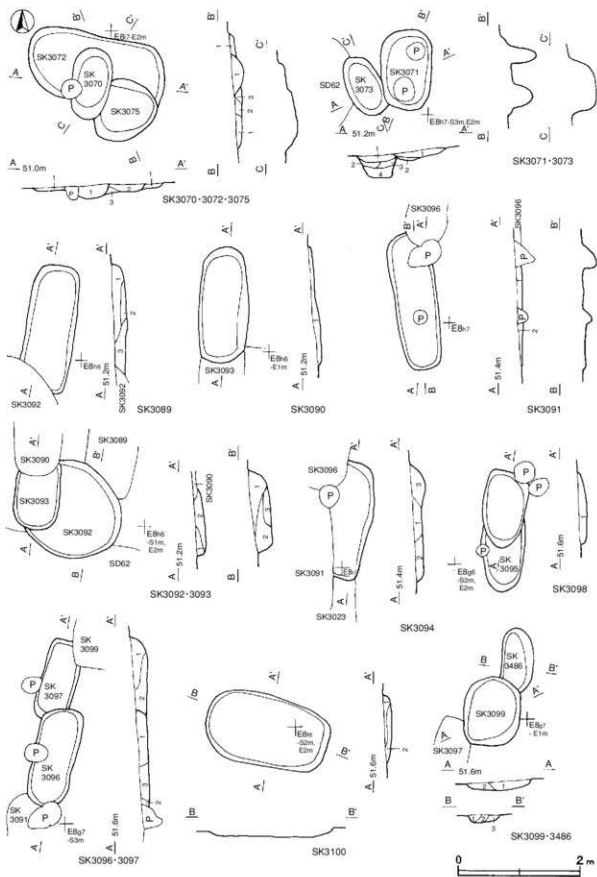
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1550	瓦質土器	火舎	[32.4]	(5.3)	-	長石・白雲母	灰	普通	口縁部外面1条に沈殿、松葉状文の印文押捺。口縁部上面に穿孔(1か所)	上層	5%



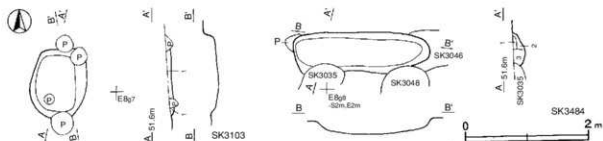
第295図 土坑群の土坑実測図 (1)



第296図 土坑群の土坑実測図(2)



第297図 土坑群の土坑実測図 (3)



第298図 土坑群の土坑実測図(4)

第3018号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス微量

第3019号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第3020号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化材微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第3022号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第3023号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第3025号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第3026号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第3027号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第3029号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

第3030号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量

第3031号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第3032号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、鹿沼パミス少量

第3033号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

第3034号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス微量

第3035号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第3036号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化材微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第3038号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量

第3040号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

第3042号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第3044号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第3045号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第3046号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第3048号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量

第3050号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

第3053号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック微量

第3054号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量

第3056号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量

第3058号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

第3060号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミス微量

第3062号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック少量
2 褐色 ロームブロック少量

第3066号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3067号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

第3068号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・鹿沼バミス微量

第3069号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化材・鹿沼バミス微量

第3070号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

第3071号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量

第3072号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

第3073号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
3 暗褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量

第3075号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
3 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3089号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第3090号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第3091号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
2 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

第3092号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・鹿沼バミス微量
3 暗褐色 ロームブロック中量

第3093号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 黒褐色 ロームブロック多量

第3094号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミス微量
2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

第3096号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック微量
3 灰褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

第3097号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量

第3098号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第3099号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3100号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
2 黒褐色 ロームブロック微量

第3103号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3484号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ロームブロック中量

第3486号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

表19 中・近世土坑群の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (重複・時期)
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
3018	E 847	N-2'-W	隅丸長方形	2.42 × 1.03	28	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3020 → 本跡 → SK3109. 中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3019	E 847	N-3'-W	隅丸長方形	1.13 × 0.48	30	外傾	皿状	人為	土師質土器	SK3018 → 本跡 → PG21. 中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3020	E 847	N-8'-E	[隅丸長方形]	0.75 × (0.47)	11	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK3018. 中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3022	E 847	N-6'-W	隅丸長方形	1.34 × 0.78	7	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3025・3031 → 本跡. 中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (重複・時期)
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
3023	E 8 f 7	N - 1° - W	[隅丸長方形]	(1.35) × 1.15	7	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3091・3094, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3025	E 8 g 7	N - 87° - W	[隅丸長方形]	(1.60) × 1.04	10	外傾	凹凸	人為	土師質土器, 鉄滓	SK3029・3031→本跡→SK3022・3027, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3026	E 8 f 8	N - 6° - E	隅丸長方形	0.81 × 0.57	8	緩斜	皿状	人為	土師質土器	中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3027	E 8 g 8	N - 86° - W	隅丸長方形	1.12 × 0.73	6	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3025→本跡, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3029	E 8 g 8	N - 15° - E	隅丸長方形	(1.60) × 0.67	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3034→本跡→SK3025・3031・3033, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3030	E 8 g 7	N - 84° - E	[隅丸長方形]	(1.26) × 0.43	10	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK3032→本跡→SK3060・PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3031	E 8 g 8	N - 10° - E	[隅丸長方形]	(1.05) × 0.50	11	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3029→本跡→SK3022・3025・3030, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3032	E 8 g 7	N - 5° - W	[隅丸長方形]	(1.28) × (0.63)	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SH43, SK3030・3060・3061, PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3033	E 8 g 7	N - 29° - W	隅丸長方形	1.10 × 0.75	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3029・3034→本跡, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3034	E 8 g 7	N - 4° - E	[長方形]	(1.40) × 1.14	14	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3029・3033, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3035	E 8 g 8	N - 16° - E	[隅丸長方形]	(1.27) × 0.60	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3484→本跡→SK3036, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3036	E 8 g 8	N - 69° - W	隅丸長方形	1.60 × 1.03	8	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3035→本跡, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3038	E 8 h 6	N - 59° - W	楕円形	1.20 × 1.06	15	緩斜	凹凸	人為	土師質土器	SK3078, SD62→本跡, 17世紀中葉以降の近世
3040	E 8 g 9	N - 89° - E	[隅丸長方形]	1.82 × (1.02)	16	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3037→本跡→SK3046, PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3042	E 8 h 7	N - 8° - E	[長方形]	(1.41) × 0.86	17	外傾	皿状	人為	土師質土器	SD63→本跡→SK3050・3051, 17世紀後半以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3044	E 8 i 0	N - 4° - E	隅丸長方形	2.71 × 0.92	6	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3582→本跡→SK3045, PG21, 18世紀中葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3045	E 8 i 0	N - 2° - W	隅丸長方形	2.25 × 0.87	21	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3044→本跡→PG21, 18世紀中葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (重複・時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	高さ(cm)					
3046	E8g9	N-85°-W	隅丸長方形	(1.25) × 0.54	25	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3037・3040→本跡→SK3048・3484, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3048	E8g8	N-13°-E	隅丸長方形	2.42 × 0.74	20	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3046・3484→本跡→PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3049	E8g9	N-10°-W	隅丸長方形	1.48 × 1.04	11	緩斜	平坦	人為	土師質土器, 陶器	SE72→本跡, 18世紀前半, 土壌墓の可能性あり
3050	E8i7	N-64°-W	楕円形	1.28 × 0.90	9	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3042, SD63→本跡, 17世紀後半以降の近世
3051	E8h7	N-7°-E	[隅丸長方形]	(1.78) × 0.60	20	外傾	平坦	人為	土師質土器, 瓦質土器	SK3042・3056, SD63→本跡→SK3057, 17世紀後半, 土壌墓の可能性あり
3053	E8h8	N-79°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.86	21	外傾	凹状	人為	土師質土器, 炭化材	SK3054・3056→本跡, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3054	E8h8	N-81°-W	[隅丸長方形]	(0.88) × 0.82	15	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3053, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3056	E8h8	N-76°-W	[隅丸長方形]	(1.00) × 1.00	20	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3051・3053・3057・PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3057	E8h7	N-8°-W	楕円形	1.10 × 0.98	9	緩斜	凹状	人為	土師質土器, 陶器	SK3051・3056→本跡→PG21, 17世紀後半以降の近世
3058	E8h8	N-13°-W	隅丸長方形	1.31 × 0.55	6	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG21, 中世後半もしくは近世
3060	E8g7	N-8°-E	[隅丸長方形]	(0.55) × 0.85	10	緩斜	凹状	人為	土師質土器	SK3030・3062→本跡→SH43, SK3061, PG21, 中世後半もしくは近世
3062	E8g7	N-68°-E	[隅丸長方形]	1.09 × (0.47)	9	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SH43, SK3060, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3066	E8g7	N-2°-E	隅丸長方形	1.25 × 0.45	8	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SH43, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3067	E8g7	N-5°-E	隅丸長方形	1.20 × 0.78	24	外傾	平坦	人為	土師質土器	SH43, SK3068→本跡→PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3068	E8g7	N-5°-E	隅丸長方形	1.40 × 0.83	17	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK3069→本跡→SK3067・PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3069	E8h7	N-11°-E	[隅丸長方形]	(1.50) × 0.78	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3068, PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3070	E8i7	N-11°-E	隅丸長方形	1.13 × 0.65	23	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3072・3075→本跡, 18世紀前半以降の近世, 土壌墓の可能性あり

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (重複・時期)
				長径(軸)×短径(軸)cm	高さ(cm)					
3071	E8h7	N-0°	隅丸長方形	1.33 × 0.83	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3073 → 本跡 → PG21, 17世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3072	E8i7	N-78°-W	隅丸長方形	2.28 × 1.13	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	SD65 → 本跡 → SK3070・3075, 18世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3073	E8h7	N-27°-W	[隅丸長方形]	1.04 × (0.54)	15	外傾	平坦	人為	土師質土器	SD62 → 本跡 → SK3071, 18世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3075	E8i7	N-78°-E	隅丸方形	1.06 × 1.00	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3072 → 本跡 → SK3070, 17世紀後葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3077	E8i6	N-33°-W	隅丸長方形	1.58 × 0.79	18	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SE77, SD65 → 本跡, 18世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3078	E8h6	N-72°-W	隅丸長方形	0.98 × 0.78	17	緩斜	平坦	人為	土師質土器, 陶器	SE77, SD62 → 本跡 → SK3038, 17世紀中葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3089	E8g6	N-9°-E	長方形	2.06 × 0.81	25	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK3092, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3090	E8g6	N-2°-E	隅丸長方形	1.90 × 0.79	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3092・3093 → 本跡, 17世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3091	E8g6	N-8°-W	隅丸長方形	2.24 × 0.70	8	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3023・3094 → 本跡 → SK3096・PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3092	E8h6	N-54°-W	[隅丸長方形]	[1.88] × 1.52	28	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3089・SD62 → 本跡 → SK3090・3093, 17世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3093	E8h6	N-5°-E	[隅丸長方形]	[1.16] × 0.72	15	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3092, SD62 → 本跡 → SK3090, 17世紀前葉以降の近世, 土壌墓の可能性あり
3094	E8g7	N-10°-E	[隅丸長方形]	1.90 × (0.72)	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3023 → 本跡 → SK3091・3096, PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3095	E8g6	N-3°-E	[隅丸長・方形]	(0.75) × 0.72	10	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK3098, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3096	E8g6	N-15°-E	隅丸長方形	1.65 × 0.70	15	外傾	平坦	人為	瓦質土器	SK3091・3094・3097 → 本跡 → PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3097	E8g6	N-19°-E	隅丸長方形	1.28 × 0.58	21	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡 → SK3096・3099, PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり
3098	E8g6	N-3°-W	隅丸長方形	1.25 × 0.73	11	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3095 → 本跡 → PG21, 中世後半もしくは近世, 土壌墓の可能性あり

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 (重複・時期)
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
3099	E8f7	N-8°-E	隅丸方形	1.12×0.94	13	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3097・3486→本跡、中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3100	E8f6	N-75°-W	隅丸長方形	2.00×1.17	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3103	E8f6	N-10°-E	隅丸長方形	1.10×0.88	9	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG21、中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3484	E8g6	N-88°-W	隅丸長方形	2.23×0.64	20	外傾	平坦	人為	土師質土器	SK3046→本跡→SK3035・3048、中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり
3486	E8g8	N-6°-W	[隅丸長方形]	(1.03)×0.52	12	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK3099、中世後半もしくは近世、土壌墓の可能性あり

(9) 溝跡

第21号溝跡 (第299・300図)

位置 調査区中央部5区のE8h2-E8j1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3309号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 E8j1区から北東方向(N-23°-E)に直線的に延び、1.4m地点から若干彎曲して北方向(N-15°-E)に6m延びている。今回確認された長さは7.4mで、平成14年度に確認された南側と合わせる上、37.2mとなる。上幅は1.2~1.7m、下幅は0.4~0.7m、深さは119cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱薬研状を呈している。

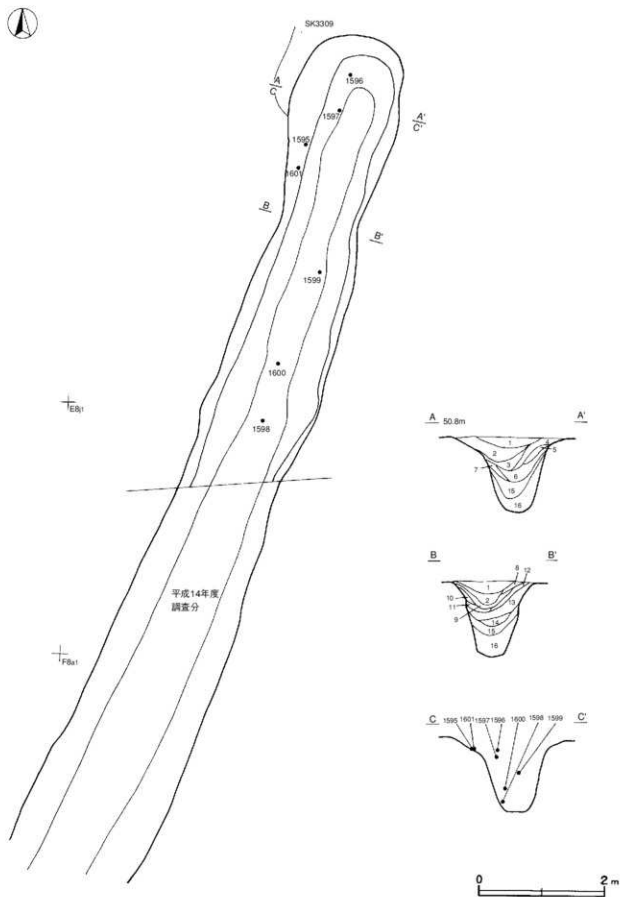
覆土 16層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

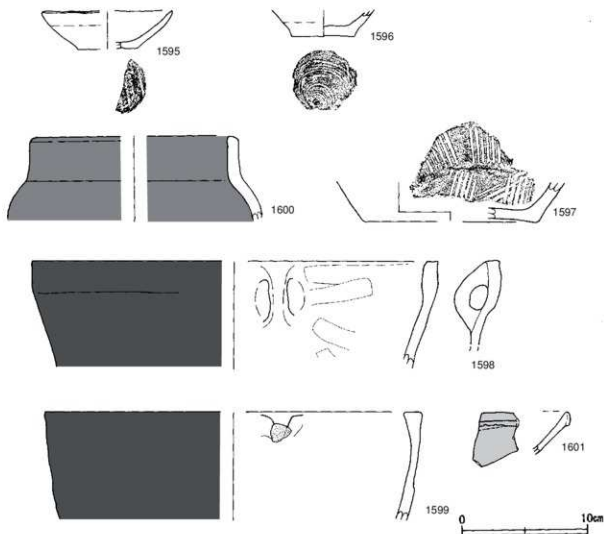
1	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量	9	暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
2	黒褐色	鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量	10	暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミス少量
3	暗褐色	鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量	12	黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量	13	暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
6	暗褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック・微量	14	褐色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子中量
7	褐色	鹿沼バミスブロック・ローム粒子少量	15	暗褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック微量
8	褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量	16	褐色	ローム粒子多量、鹿沼バミスブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片53点(小皿14、内耳鍋3)、瓦質土器片2点(播鉢、茶釜)、白磁片1点(碗)、鉄滓5点、自然礫11点が出土している。1595・1596・1597・1601は北部の覆土上層から、1599は中央部の覆土中層から、1598・1600は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。1601は中世の白磁の碗であるが、他の土器に比べて古く、破断面が摩滅していることから混入したものと考えられる。他の土器はほぼ同時期で、破断面も摩滅していないことから、投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 平成14年度調査分については廃絶時期を15世紀から16世紀と考えていたが、平成15年度調査分と合わせ出土遺物を再検討し、廃絶時期を17世紀後半と判断した。本跡の北側13mの位置には、17世紀後葉から18世紀初頭に廃絶した第4・7号掘立柱建物跡があり、本跡と同時期に機能していた可能性が考えられる。



第299図 第21号溝跡実測図



第300図 第21号溝跡出土遺物実測図

第21号溝跡出土遺物観察表(第300図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1595	土師質土器	小皿	[10.2]	3.0	[4.8]	赤色粒子	浅黄橙	普通	白かわらけ。体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り後、棒状圧痕	上層	20%
1596	土師質土器	小皿	-	(2.1)	5.0	白色粒子	灰黄褐	普通	白かわらけ。底部内面指ナデ。底部回転糸切り	上層	20%
1598	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	(8.6)	-	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内耳1か所残存。口縁部外面横ナデ。内面ヘラナデ	下層	5%。外面塚付着
1599	土師質土器	内耳鍋	[29.6]	(8.6)	-	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内耳1か所残存。内・外面ナデ	中層	5%。外面塚付着
1597	瓦質土器	播鉢	-	(3.1)	[13.6]	石英・長石	にぶい橙	普通	6条1単位の摺り目。底部内面摺り目が交差	上層	10%。酸化炎焼成
1600	瓦質土器	茶釜	[15.0]	(6.8)	-	長石・白色粒子・赤色粒子	黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	5%。酸化炎焼成

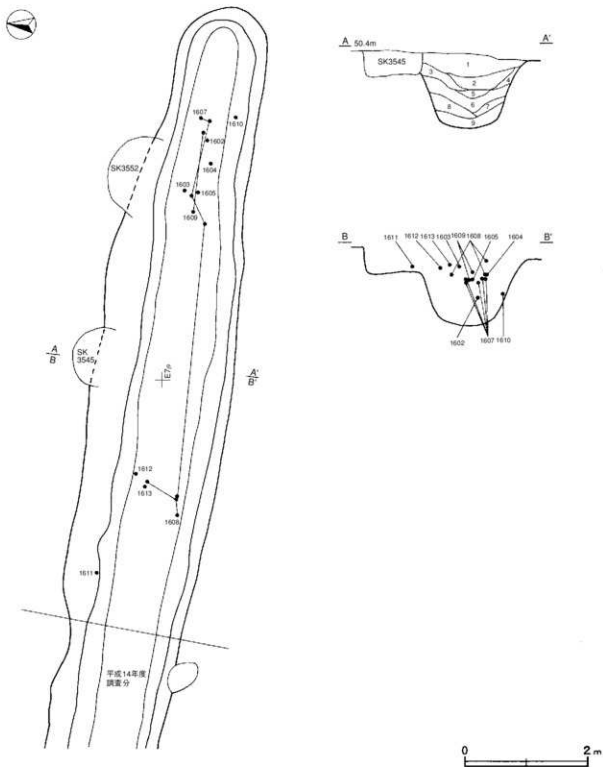
番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1601	白磁	碗	-	(3.3)	-	灰白	透明釉	折り返し口縁。碗Ⅳ-2類	那密。Ⅱ期(11C中~12C初)	上層	5%。PL126

第23号溝跡（第301～303図）

位置 調査区中央部5区のE7f8～E7j0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3545・3552号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 E7j0区から西方向（N-72°-W）に直線的に延びている。西側は平成14年度に調査されている。今回確認された長さは10.2mで、平成14年度に確認された西側と合わせると、31.3mとなる。上幅は1.5～2.2m、下



第301図 第23号溝跡実測図

幅は0.5~1.0m、深さは120cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱葉研状を呈している。

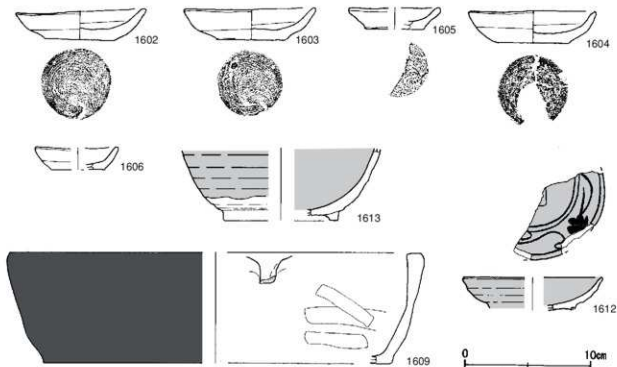
覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

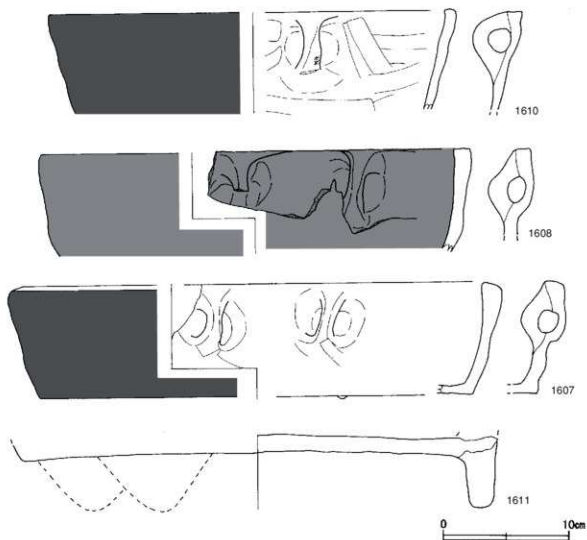
- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス中量、粘土粒子少量、炭化物微量 | 6 暗褐色 | 鹿沼パミス多量、ロームブロック中量、炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼パミス中量、ロームブロック・炭化物少量 | 7 褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 鹿沼パミス中量、ロームブロック・炭化物少量 | 8 褐色 | 鹿沼パミス多量、ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 鹿沼パミス多量、ローム粒子少量、炭化物微量 | 9 褐色 | 鹿沼パミス多量 |
| 5 黒褐色 | 鹿沼パミス中量、ローム粒子少量、炭化物微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片176点（小皿34，内耳鍋142），瓦質土器片6点（播鉢5，火舎1），陶器片6点（丸碗3，丸皿2，片口鉢1），土製品3点（羽口），鉄滓9点，自然礫6点が出土している。1606は覆土中，1603は東部の，1611・1612・1613は西部の覆土上層から，1602・1604・1605・1610は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。これらの遺物は破断面が摩滅しておらず，投棄されたものと考えられる。1607は東部と西部の覆土中層から出土した破片が，1608は西部の覆土上層と中層から出土した破片が，1609は東部の覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。離れた場所から出土した破片が接合関係にあり，破断面が摩滅していないことから，投棄されたものと考えられる。また，混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 陶器は，覆土上層から出土しており，本跡の最終段階の遺物と考えることができる。平成14年度調査分については廃絶時期を中世と考えていたが，平成15年度調査分の出土陶器に17世紀後葉から18世紀初頭に位置づけられるものがあることから再検討し，廃絶時期を17世紀後葉から18世紀初頭と判断した。本跡の北側19~20mの位置には第4・7号掘立柱建物跡，本跡の東側には規模と形状が酷似する第64・65号溝があり，いずれも廃絶時期が17世紀後葉から18世紀初頭であることから，同時期に機能していたと考えられる。また，覆土中から鉄滓や羽口が出土していることから，周囲に製鉄関連遺構があったものと推測される。



第302図 第23号溝跡出土遺物実測図(1)



第303図 第23号溝跡出土遺物実測図(2)

第23号溝跡出土遺物観察表(第302・303図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1602	土師質土器	小皿	10.2	2.5	5.4	白雲母微量	浅黄橙	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ(円状のナデ)、底部回転糸切り	中層	100%、PL114
1603	土師質土器	小皿	10.2	2.6	5.2	金雲母微量	灰白	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ(円状のナデ)、底部回転糸切り	上層	90%、PL114
1604	土師質土器	小皿	10.0	2.5	5.4	金雲母・赤色粒子微量	灰白	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ(円状のナデ)、底部回転糸切り後、ナデ	中層	65%、PL114
1605	土師質土器	小皿	[7.0]	1.7	[4.6]	長石・黒雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	体部内・外面ロクロナデ、底部回転糸切り	中層	50%
1606	土師質土器	小皿	[6.5]	1.8	[4.2]	金雲母・赤色粒子微量	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ、底部板状圧痕	覆土中	40%
1607	土師質土器	内耳鍋	[36.6]	9.0	[34.4]	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	内耳2か所残存、耳は円形、底部板状痕あり	中層	30%、体部・底部外面煤付着、PL119
1608	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(8.2)	-	石英・長石・金雲母・小礫	にぶい橙	普通	内耳2か所残存、耳は扁平、口縁部内面横ナデ	上層・中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1609	土師質土器	内耳鍋	[32.4]	8.8	[27.4]	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	内耳直1か所あり、体部外面ナナア、体部内面ヘラナア	中層	10%、外面煤付着
1610	土師質土器	内耳鍋	[31.8]	(8.0)	-	石英・長石・金雲母	にぶい褐	普通	内耳1か所残存、耳は円形、体部外面ナナア、体部内面ヘラナア	中層	10%、外面煤付着
1611	瓦質土器	火舎	-	(5.9)	37.2	長石・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部1か所残存、脚部直1か所あり	上層	30%、底部外面器面荒れ、酸化炭焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1612	陶器	鼠志野鉄 絵草花文 丸皿	[11.0]	(2.6)	-	オリーブ黒・灰	長石軸・鉄 絵	体部外面クワ目顯著、体部内面鉄絵の草花文、内・外面細かい貫入、高台内施軸	瀬戸産、連房登窯Ⅱ期(1630～1670)	上層	30%、壘付剥離、PL126
1613	陶器	灰軸片口鉢	-	(5.8)	[9.0]	淡黄・灰白	灰軸	体部内、外面灰軸、細かい貫入、体部外面下位置胎、高台内・壘付無軸、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	瀬戸産、連房登窯Ⅲa期(1670～1710)	上層	30%、PL126

第51号溝跡 (第304・305図)

位置 調査区西部2区のB1c7～B2d1区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第108号住居跡、第2106・2107・2128・2169号土坑を掘り込み、第2120号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 B2d1区から西方向(N-81°-W)に直線的に延びている。長さは16.2m、上幅は0.6～1.2m、下幅は0.4～0.6m、深さは16～22cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は皿状を呈している。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片3点(小皿1、内耳鍋2)、陶器片3点(丸碗2、絵皿1)が出土している。

1614・1615は覆土中から出土している。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、陶器の生産年代から江戸時代中期から後期と考えられる。



1614



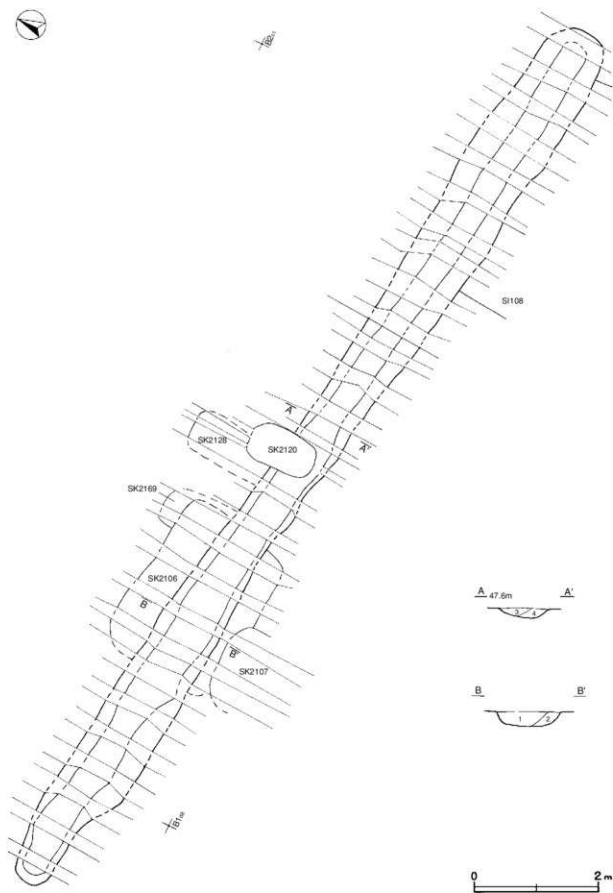
1615



第304図 第51号溝跡出土遺物実測図

第51号溝跡出土遺物観察表(第304図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1614	陶器	銅緑軸 織部丸碗	-	(2.6)	-	青灰・浅黄	銅緑軸	内・外面施軸、外面クワ目明瞭	瀬戸産、連房登窯Ⅱ期(1630～1670)	覆土中	5%
1615	陶器	灰軸片須 絵皿	-	(1.6)	-	灰オリーブ・灰	灰軸・呉須	体部内面一条の呉須、体部外面下位置胎	瀬戸産、江戸中期～後期	覆土中	5%



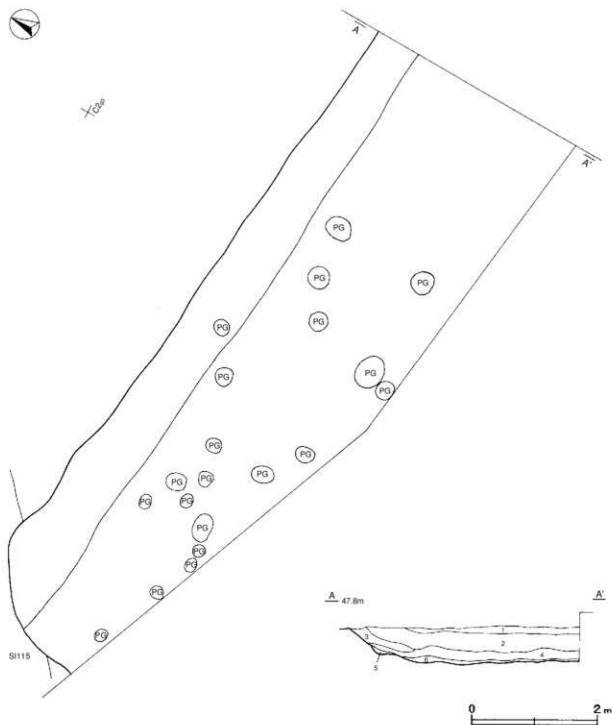
第52号溝跡 (第306図)

位置 調査区西部2区のC 2 g1-C 2 h3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第115号住居跡を掘り込み、第13号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 C 2 h3区から西方向 (N-84°-W) に直線的に延びている。東側と南側が調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは11.2m、上幅は3.6m、下幅は2.8m、深さは58cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は皿状と推測される。

覆土 6層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。



第306図 第52号溝跡実測図

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	4 黒褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子極微量	5 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿1, 焙烙2, 内耳鍋2), 陶器細片1点(丸碗)が出土している。また, 混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は, 焙烙片が出土していることから, 近世と考えられる。本跡の東側は調査区域外で, さらにその先には調査区西部1区があるが, 本跡の続きは確認できなかった。区画溝にしては幅が広く, 性格は不明である。

第54号溝跡 (第307図)

位置 調査区西部1区のC2b6-C2f6区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第150・162・171・201号住居跡, 第2408号土坑を掘り込み, 第87号井戸, 第2274号土坑, 第57号溝, ビット(17か所)に掘り込まれている。

規模と形状 C2f6区から北方向(N-12°-E)に直線的に延びている。長さは13.6m, 上幅は1.7m-2.5m, 下幅は1.4-2.2m, 深さは10-16cmである。底面には多少凹凸が見られ, 外傾して立ち上がっている。断面は箱築研状を呈している。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	3 極暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック少量	4 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片2点(内耳鍋), 陶器片2点(端反皿)が出土している。1616は覆土中から, 1617は中央部の底面から出土している。また, 混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は, 底面から出土した陶器の生産年代から, 16世紀前葉と考えられる。性格は不明である。

第57号溝跡 (第307図)

位置 調査区西部1区のC2d6-C2f6区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第171号住居跡, 第54号溝跡を掘り込み, ビット(1か所)に掘り込まれている。

規模と形状 C2e6区から北方向(N-8°-E)に直線的に延びている。長さは6.0m, 上幅は0.8m, 下幅は0.6-0.7m, 深さは24cmである。底面はほぼ平坦で, 外傾して立ち上がっている。断面は箱状を呈している。

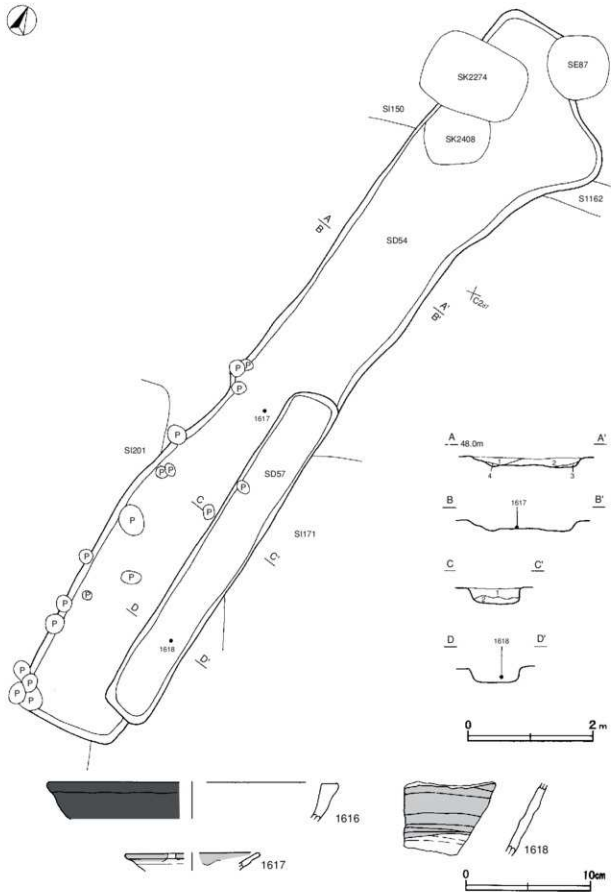
覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含み, ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量	2 黒褐色	ロームブロック微量
-------	-----------	-------	-----------

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋), 陶器片1点(直縁大皿)が出土している。1618は南部の覆土下層から出土している。また, 混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は, 出土した陶器の生産年代が15世紀前半に位置づけられているが, 16世紀前葉と考えられる溝を掘り込んでいることから, 16世紀前葉以降の中世もしくは近世と考えられる。性格は不明である。



第307图 第54・57号溝跡・出土遺物実測図

第54号溝跡出土遺物観察表(第307図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1616	土師質土器	内耳鍋	[228]	(3.0)	-	石英・長石	にぶい陶	普通	口縁部内・外面横ナデ、外傾して立ち上がる	覆土中	5%、体部外面採付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1617	陶器	灰輪端反皿	[108]	(1.4)	-	灰オリーブ・灰	灰軸	口縁部のみ施軸、体部外面下位露胎	瀬戸産、大室1期(1490～1530)	底面	5%

第57号溝跡出土遺物観察表(第307図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1618	陶器	灰輪直縁大皿	-	(5.8)	-	灰オリーブ・にぶい橙	灰軸	体部内・外面下位露胎	瀬戸産、15 C前半	下層	5%

第55号溝跡(第308図)

位置 調査区西部1区のC2 a8～C2 b7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第150・162号住居跡を掘り込み、第46号方形竪穴遺構、第14号土壌墓に掘り込まれている。

規模と形状 C2 b7区から北東方向(N-28°-E)に直線的に延びている。北東部が掘り込まれているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは6.0m、上幅は0.6～2.2m、下幅は0.4～0.5m、深さは24cmである。北東部が広く、南西部が狭い構造をしている。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱状を呈している。

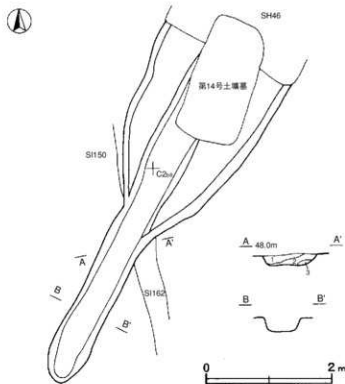
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿3、内耳鍋1)が出土している。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、出土土器と15世紀前半以前と考えられる遺構に掘り込まれていることから、15世紀前半以前の中世と考えられる。性格は不明である。



第308図 第55号溝跡実測図

第58号溝跡 (第309図)

位置 調査区西部1区のC 2j6~D 3b5区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第237号住居跡、第59号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 D 3b5区から西方向(N-78°-W)に直線的に延びている。東・南・西部が調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは45.6m、上幅は1.8m、下幅は1.6m、深さは10~16cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して緩やかに立ち上がっている。

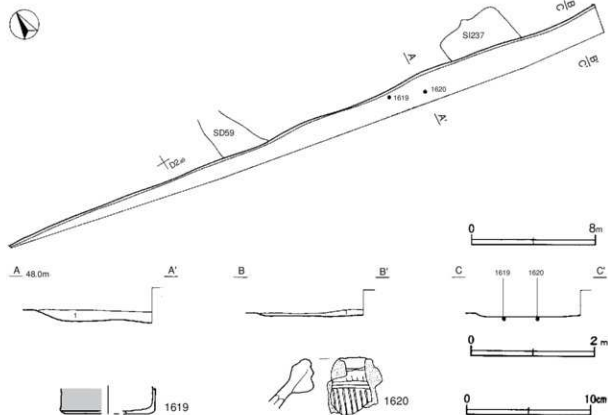
覆土 単一層である。薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 陶器片5点(碗3, 汁次1, 播鉢1)が出土している。1619・1620は中央部の底面から出土している。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 時期は、出土した陶器の生産年代から、19世紀後半と考えられる。直線的に延びていることから、区画溝としての機能を持っていたものと考えられる。



第309図 第58号溝跡・出土遺物実測図

第58号溝跡出土遺物観察表(第309図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1619	陶器	灰釉汁次	-	(2.3)	[6.6]	灰白・灰黄	灰軸	体部外面・底部外面施軸, 細かい貫入, 内面無軸	信楽産, 19 C後半	底面	20%
1620	陶器	播鉢	-	(4.1)	-	赤褐	無軸	1単位7条までは確認, 掘り目摩滅なし, 貼り付け口縁, 赤褐色の胎土に長石を含む	堺産, 18 C	底面	5%

第62号溝跡 (第310・311図)

位置 調査区中央部5区のE 8 h4～E 8 h7区で、台地上の平坦部に位置している。

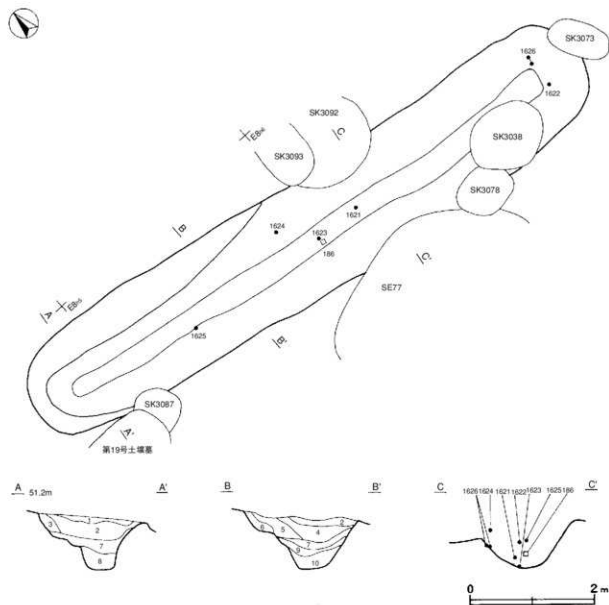
重複関係 第77号井戸、第19号土塚墓、第3038・3073・3078・3087・3092・3093号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 E 8 h7区から西方向(N-80°-W)に直線的に延びている。長さは10.4m、上幅は1.7～1.9m、下幅は0.3～0.4m、深さは80cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は段状を呈している。

覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

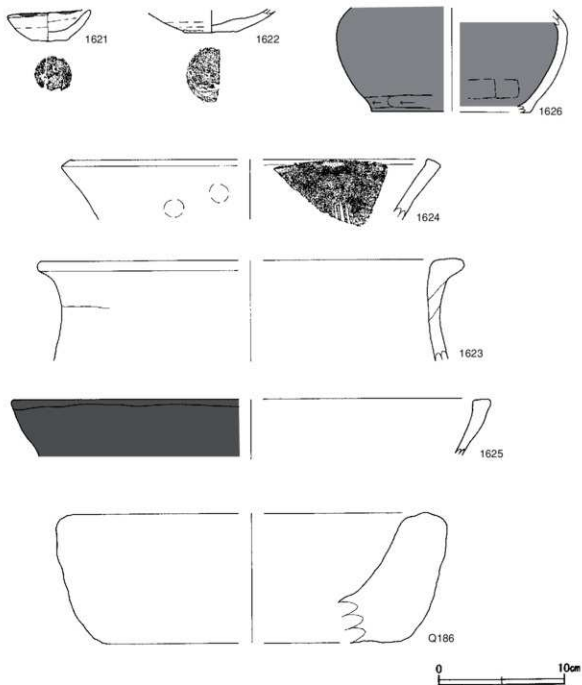
- | | | | |
|-------|------------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミス少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミス微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量、炭化材微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量、焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭屑パミスブロック少量、炭化材微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量 |



第310図 第62号溝跡実測図

遺物出土状況 土師質土器片94点（小皿14，内耳鍋80），瓦質土器片11点（火入3，擋鉢1，鉢5，甕2），陶器片1点（碗），石製品1点（石鉢），鉄滓7点が出土している。1624は中央部の覆土上層から，1622・1626は東部の，1625は西部の覆土中層から，1621・Q186は中央部の覆土下層から，1623は中央部の底面からそれぞれ出土している。破断面が摩滅しておらず，投棄されたものと考えられる。また，混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は，17世紀中葉と考えられる井戸に掘り込まれていること出土土器から，17世紀前葉と考えられる。本跡に区画され北側に位置する第5・6・9・10号掘立柱建物跡の廃絶時期が17世紀前半であることから，同時期に機能していたと考えられる。



第311図 第62号溝跡出土遺物実測図

第62号溝跡出土物観察表(第311図)

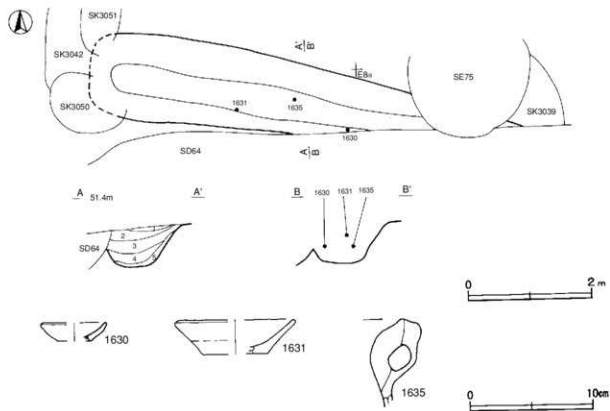
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1621	土師質土器	小皿	6.4	2.5	2.8	金雲母・赤色 粒子微量	浅黄橙	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ、 底部外面ナデ	下層	95%、PL114、口縁 部内・外面油煙付着
1622	土師質土器	小皿	-	(1.7)	4.4	石英・長石・ 金雲母	にぶい褐	普通	底部内面へツ状にくぼけ、底部 回転糸切り後、ナデ	中層	30%
1625	土師質土器	内耳罎	[37.8]	(4.5)	-	石英・長石・ 白雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、外傾し て立ち上がる	中層	5%、口縁部外面煤 付着
1623	瓦質土器	壺	[33.1]	(8.0)	-	石英・長石・ 金雲母・小礫	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	底面	30%、輪横痕、内面 磨滅、酸化共焼成
1624	瓦質土器	罐鉢	[28.2]	(4.8)	-	石英・長石・ 金雲母	灰褐	普通	3条1単位の襷り目、口縁部内・ 外面横ナデ、体部外面指頭庄痕	上層	5%
1626	瓦質土器	火入	-	(8.2)	[12.6]	石英・長石	褐灰	普通	体部下端へツ削り、内面ヘラナ デ、体部内唇	中層	20%

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q186	石鉢	[28.4]	10.3	[24.0]	(1390.0)	玄武岩	底面内部に捺痕あり、底部・体部外面削痕あり	下層	20%、PL122

第63号溝跡(第312図)

位置 調査区中央部5区のE8h7~E8i9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3039号土坑を掘り込み、第75号井戸、第3042・3050・3051号土坑、第64号溝に掘り込まれている。



第312図 第63号溝跡・出土遺物実測図

規模と形状 E 8 i9区から西方向 (N-78°-W) に直線的に延びている。東側が溝や井戸に掘り込まれているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは7.0m、上幅は1.1~1.4m、下幅は0.2~0.5m、深さは60cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱葉研状を呈している。

覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミス少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片47点 (小皿8, 茶釜7, 内耳鍋32), 瓦質土器片14点 (鉢), 陶器片1点 (碗) が出土している。1631は中央部の覆土上層から、1630は東部の、1635は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 廃絶時期は、18世紀前葉と考えられる溝に掘り込まれていることと出土土器から、17世紀後半と考えられる。

第63号溝跡出土遺物観察表 (第312図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1630	土師質土器	小皿	[5.2]	1.8	[2.7]	黒雲母・白雲母	灰白	普通	白かわらけ、底部回転糸切り	中層	30%
1631	土師質土器	小皿	[9.4]	2.8	[5.2]	白雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ	上層	30%
1635	土師質土器	内耳鍋	-	(7.0)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	耳部破片、耳は扁平、口縁部内・外面横ナデ	中層	5%、口縁部外面煤付着

第64号溝跡 (第313~317図)

位置 調査区中央部5区のE 8 i7~E 8 i0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第76号井戸跡、第63号溝跡、第3039号土坑を掘り込み、第75号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 E 8 i7区から東方向 (N-90°-E) に直線的に延びている。東側が調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは10.5m、上幅は2.1m~2.6m、下幅は0.4~0.6m、深さは56cmである。底面は平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱葉研状を呈している。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。

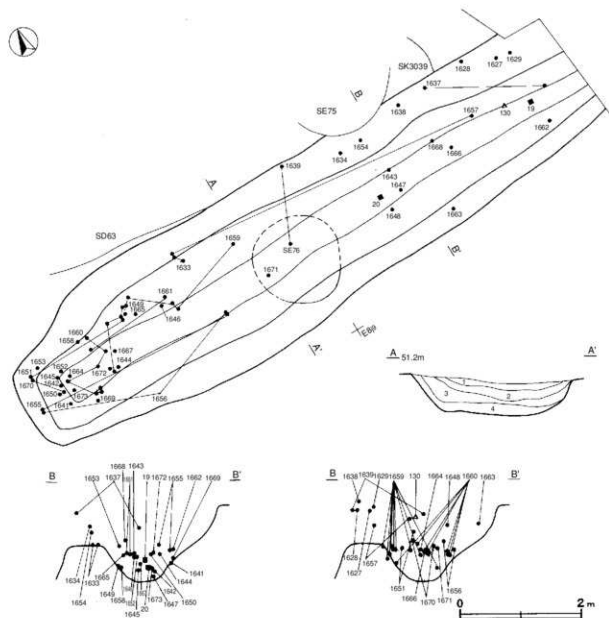
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼パミス微量 | 3 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・鹿沼パミス微量 |

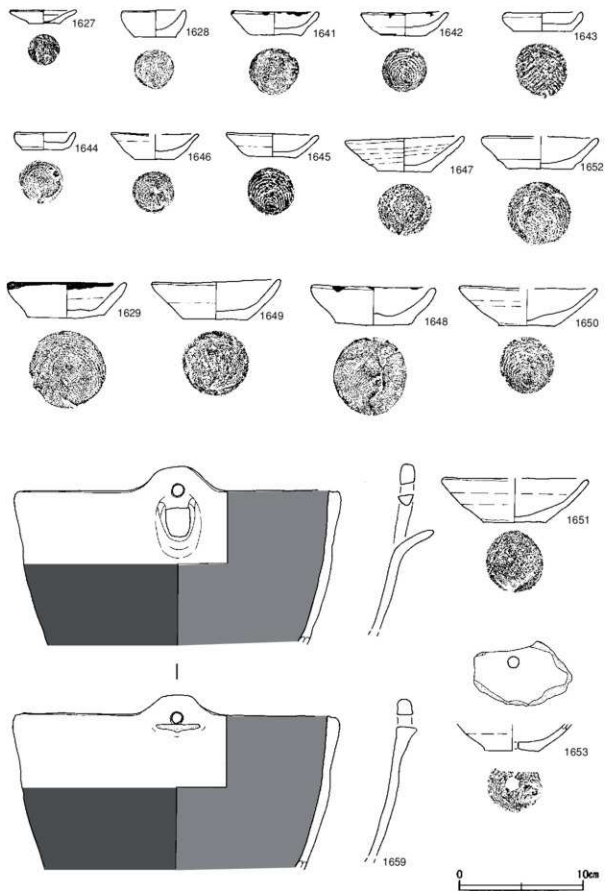
遺物出土状況 土師質土器片148点 (小皿16, 鉢2, 注口付土鍋13, 内耳鍋117), 瓦質土器片19点 (描鉢17, 火舎2), 陶器片6点 (天目茶碗1, 丸碗1, 折縁皿2, 輪壳皿1, 丸皿1), 青磁片1点 (折縁鉢), 木製品3点 (木椀2, 木片1), 鉄製品1点 (包丁) が出土している。1627・1628・1629・1638・1663・M130は東部の覆土上層から、1643・1654・1662・1666・1668は東部の、1633・1634・1648・1671は中央部の、1644・1645・1646・1650・1652・1653・1664・1665・1669・1672は西部の覆土中層から、1647・W19・W20は東部の、1641・1642・1649・1658・1667・1673は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。1629・1641・1642・1648は口縁部に油煙が付着していることから、灯明皿に転用されたものと考えられる。1653は底部に穿孔があり、灯明皿受けに転用したものと推測される。小皿類は破断面が摩滅しておらず、残存率が高いことから投棄され

たものと考えられる。1637は東部の覆土上層から出土した破片が、1639は中央部の覆土上層から出土した破片が、1657は東部と西部の覆土中層から出土した破片が、1651・1655・1656・1661・1670は西部の覆土中層から出土した破片が、1659・1660は西部の覆土中層と覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。これらの遺物は破断面が摩滅しておらず、離れた場所から出土した破片が接合関係にあることから、投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片と須恵器片が出土している。

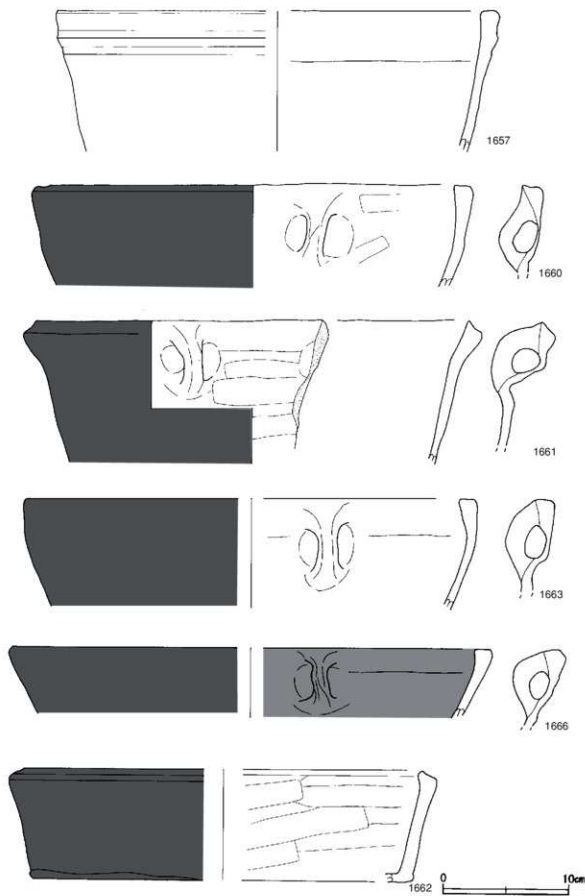
所見 陶器は覆土上層から多く出土しており、本跡の最終段階の遺物と考えることができる。時期は、18世紀中葉に廃絶したと考えられる井戸に掘り込まれていることから、生産年代が17世紀後葉から18世紀初頭に位置づけられている陶器が出土していることから、17世紀後葉から18世紀初頭と考えられる。本跡は、規模と形状が酷似する第63号溝跡が埋没した後、本跡を構築したものと考えられる。また、本跡の北西25～28mの位置には第4・7号掘立柱建物跡が、本跡の西側には規模と形状が酷似する第23・65号溝があり、廃絶時期がほぼ同じであることから、同時期に機能していたものと考えられる。



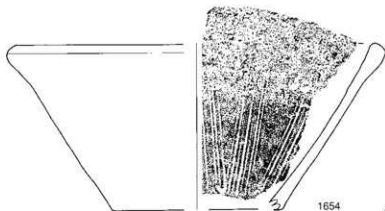
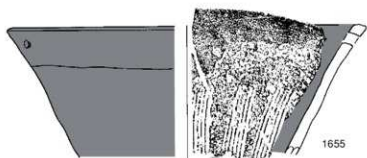
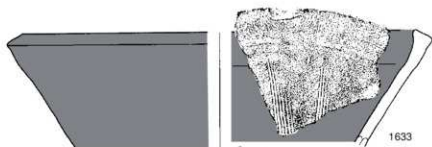
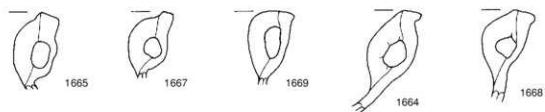
第313図 第64号溝跡実測図



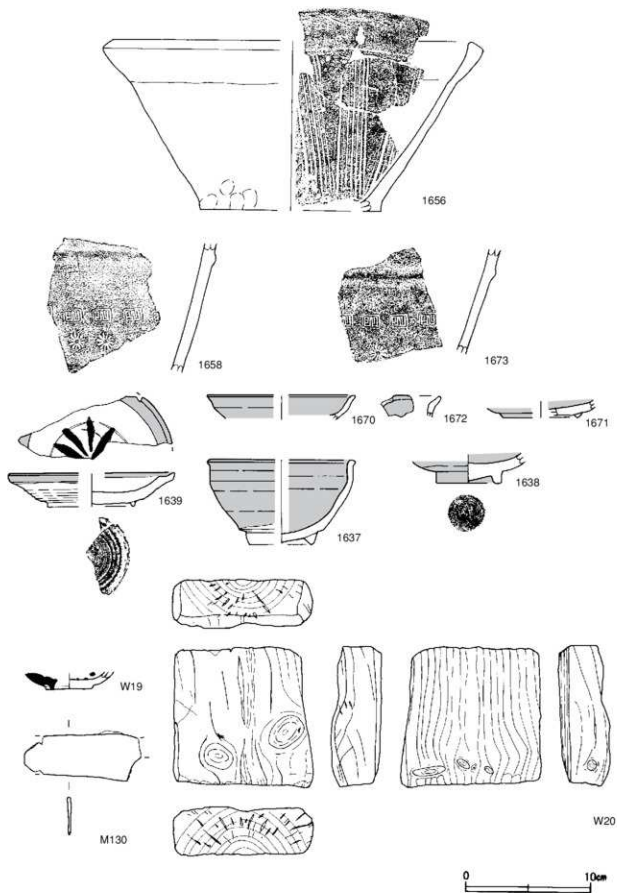
第314图 第64号沟跡出土遺物実測図 (1)



第315图 第64号沟跡出土遺物実測図(2)



第316图 第64号沟跡出土遺物実測図 (3)



第317图 第64号沟跡出土遺物実測図(4)

第64号溝跡出土遺物観察表(第314~317図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1627	土師質土器	小皿	5.2	1.1	2.5	長石・黒雲母微量	浅黄橙	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	上層	100%、PL114
1628	土師質土器	小皿	5.0	2.2	3.2	長石・白雲母微量	橙	普通	底部回転糸切り後、ナデ	上層	95%、PL114
1629	土師質土器	小皿	9.4	2.9	6.0	長石・金雲母	橙	普通	底部回転糸切り	上層	100%、口縁部内・外面油煙付着、灯明皿転用、PL115
1641	土師質土器	小皿	6.8	1.9	4.0	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	下層	100%、口縁部内・外面油煙付着、灯明皿転用、PL115
1642	土師質土器	小皿	6.9	1.9	3.4	長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	中層	100%、口縁部内・外面油煙付着、灯明皿転用、PL115
1643	土師質土器	小皿	6.2	1.6	4.5	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、スノコ状圧痕	中層	95%、PL115
1644	土師質土器	小皿	4.9	1.4	3.3	黒雲母・赤色粒子	灰褐	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	70%、PL115
1645	土師質土器	小皿	7.3	1.9	3.7	金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	80%、PL115
1646	土師質土器	小皿	[6.9]	2.1	3.2	白雲母微量	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	中層	60%、PL115
1647	土師質土器	小皿	9.3	3.0	4.2	白雲母微量・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面口クロ目顯著、底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	95%、PL115
1648	土師質土器	小皿	9.7	3.1	6.0	金雲母	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	60%、口縁部内・外面油煙付着、灯明皿転用、PL115
1649	土師質土器	小皿	10.1	3.2	5.1	長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	下層	70%、PL115
1650	土師質土器	小皿	[10.8]	3.1	4.4	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ状にくぼむ、底部外面回転糸切り	中層	60%、PL116
1651	土師質土器	小皿	[11.5]	3.5	4.9	石英・長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	50%、PL116
1652	土師質土器	小皿	[9.0]	2.5	5.1	白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面口クロ目顯著、底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	中層	60%
1653	土師質土器	小皿	-	(2.1)	4.3	石英・長石・金雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り、底部中央部穿孔	中層	20%、灯明皿受け転用力、PL116
1657	土師質土器	鉢	[34.6]	(11.8)	-	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	口縁部外面凸帯、口縁部内面横ナデ	中層	10%
1659	土師質土器	注口付土鍋	25.6	(14.4)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	注口1か所、吊り手2か所残存、吊り手の下に注口あり	中層・下層	60%、体部内・外面器面荒れ、PL119
1660	土師質土器	内耳鍋	32.0	(8.2)	-	石英・長石・白雲母	灰褐	普通	内耳1か所残存、耳は扁平、口縁部内面ヘラナデ	中層・下層	30%、体部外面煤付着
1661	土師質土器	内耳鍋	[34.4]	(11.5)	-	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	内耳1か所残存、耳は円形、口縁部内面ヘラナデ	中層	10%、体部外面煤付着
1662	土師質土器	内耳鍋	[31.4]	8.9	[30.0]	石英・長石・白雲母	橙	普通	体部内面ヘラナデ、口縁部内・外面横ナデ	中層	5%、体部外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1663	土師質土器	内耳鍋	[35.2]	(8.8)	-	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	内耳1か所残存、耳は扁平、口縁部内面ヘラナデ。内壁して立ち上がる	上層	10%、体部外面煤付着
1664	土師質土器	内耳鍋	-	(8.4)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	耳部破片、耳は扁平、口縁部内・外面ナデ	中層	5%、体部外面煤付着
1665	土師質土器	内耳鍋	-	(6.1)	-	石英・長石・金雲母	赤褐	普通	耳部破片、耳は扁平、口縁部内面ヘラナデ	中層	5%、体部外面煤付着
1666	土師質土器	内耳鍋	[37.8]	(5.5)	-	石英・長石・金雲母	灰褐	普通	内耳1か所残存、耳はやや扁平、口縁部内面横ナデ	中層	5%、体部外面煤付着
1667	土師質土器	内耳鍋	-	(5.3)	-	石英・長石・黒雲母	明赤褐	普通	耳部破片、耳は楕円形	下層	5%
1668	土師質土器	内耳鍋	-	(7.5)	-	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	耳部破片、耳は楕円形、口縁部内・外面ナデ	中層	5%、体部外面煤付着
1669	土師質土器	内耳鍋	-	(6.0)	-	石英・長石・白雲母	にぶい黄橙	普通	耳部破片、耳は扁平	中層	5%、体部外面煤付着
1633	瓦質土器	摺鉢	[31.5]	(9.4)	-	石英・長石・白雲母	橙	普通	6条1単位の摺り目、口縁部内面横ナデ	中層	10%、酸化炭焼成、摺り目摩滅痕なし
1634	瓦質土器	摺鉢	-	(9.1)	[13.9]	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	8条1単位の摺り目、内・外面ナデ	中層	10%、酸化炭焼成、摺り目摩滅痕なし
1654	瓦質土器	摺鉢	[29.0]	13.4	[13.4]	石英・長石	灰褐	普通	7条1単位の摺り目	中層	20%
1655	瓦質土器	摺鉢	[28.0]	(10.5)	-	長石・赤色粒子微量	橙	普通	6単位1条の摺り目、口縁部1か所穿孔	中層	10%、酸化炭焼成、摺り目摩滅痕なし
1656	瓦質土器	摺鉢	[28.3]	(13.6)	[14.4]	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ、7単位1条の摺り目、外面下縁指頭圧痕	中層	20%、摺り目摩滅痕なし
1658	瓦質土器	火舎	-	(10.5)	-	石英・長石・金雲母	明褐	普通	体部外面凸帯及び雷状文・菊花文の印文押捺	下層	10%、酸化炭焼成、1673と同一個体か
1673	瓦質土器	火舎	-	(8.4)	-	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面凸帯及び雷状文・菊花文の印文押捺	下層	5%、酸化炭焼成、1658と同一個体か

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	胎付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1637	陶器	鉄軸天目茶碗	[11.7]	6.7	[5.1]	黒褐・浅黄橙	鉄軸	体部外面下位露胎、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	瀬戸産、連房堂Ⅲa期(1670～1710)	上層	50%、PL125
1638	陶器	鉄軸丸瓶	-	(2.4)	5.2	黒褐・にぶい黄橙・浅黄橙	鉄軸	畳付・高台内施軸、体部外面下縁薄く施軸	瀬戸産、連房堂Ⅲa期(1670～1710)	上層	30%、PL125
1639	陶器	青磁部薬竹文折縁皿	[13.0]	2.7	[6.8]	オリーブ黄・灰白	織部軸・鉄絵	口縁部織部軸、見込み部鉄絵薬竹文、輪状の重ね積み痕、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け	瀬戸産、連房堂Ⅱ期(1630～1670)	上層	40%、PL124
1670	陶器	灰輪軸光皿	[11.8]	(2.0)	-	浅黄・灰白	灰軸	体部内・外面全面軸、口縁部織やかに屈曲し、外反	瀬戸産、連房堂Ⅲa期(1670～1710)、瀬戸穴田Ⅱa	中層	10%
1671	陶器	志野九皿	-	(1.4)	[6.0]	灰黄・灰白	長石軸	体部内・外面・畳付施軸、高台部内面無軸、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	瀬戸産、大塚Ⅳ期(1580～1585)	中層	5%
1672	青磁	折縁鉢	-	(1.7)	-	明緑灰・灰白	青磁軸	口縁部屈曲して外反	龍泉窯系、14 C	中層	5%、PL126

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W19	木椀	-	(1.3)	3.6	(3.2)	木	体部内・外面漆付着	下層	腐食が進む

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W20	不明	11.3	11.1	4.0	311.0	木	全面に加工痕あり	下層	
M130	包丁	(9.3)	3.7	0.3	(22.0)	鉄	刃部の破片、基部欠損、片側	上層	PL123

第65号溝跡 (第318～321図)

位置 調査区中央部5区のE 8 g2～E 8 i7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第77号井戸跡、第3309号土坑を掘り込み、第74号井戸、第19・20号土壙墓、第3072・3077・3082・3085・3086・3087・3563号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 E 8 i7区から西方向 (N-79°-W) に直線的に伸び、12m地点から北側に若干彎曲し北西方向 (N-66°-W) に約9m延びている。長さは20.8m、上幅は1.8～2.5m、下幅は0.3～0.5m、深さは130cmである。底面は皿状で、外傾して立ち上がっている。断面はU字状を呈している。

覆土 17層と14層に分層される。1回の堀浅いが確認でき、土層解説Aにおいては第1～13層まで、土層解説Bにおいては第1～8層までが堀浅いの後の土層である。堀浅い前の土層はレンズ状に堆積した自然堆積であり、堀浅い後の土層はブロック状に堆積した人為堆積である。多量のロームブロックが北側から堆積していることから、北側に土塁が巡っていた可能性が考えられる。

土層解説A

1 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミスブロック少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミス少量
2 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミス中量	11 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミス中量、炭化粒子微量
3 棕褐色	ロームブロック多量、炭化バミスブロック中量、炭化粒子少量	12 褐色	炭化バミス中量、焼鉄鉱粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック多量、炭化バミス中量	13 灰褐色	炭化バミス微量
5 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミスブロック微量	14 灰褐色	炭化バミス少量
6 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミス中量	15 灰褐色	ローム粒子・炭化バミス・粘土粒子微量
7 棕褐色	ロームブロック・炭化バミス多量、炭化粒子微量	16 灰褐色	炭化バミス多量、炭化粒子少量
8 棕褐色	ロームブロック中量、炭化バミスブロック・炭化粒子微量	17 褐色	炭化バミス多量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
9 暗褐色	ロームブロック多量、炭化バミス少量、炭化物微量		

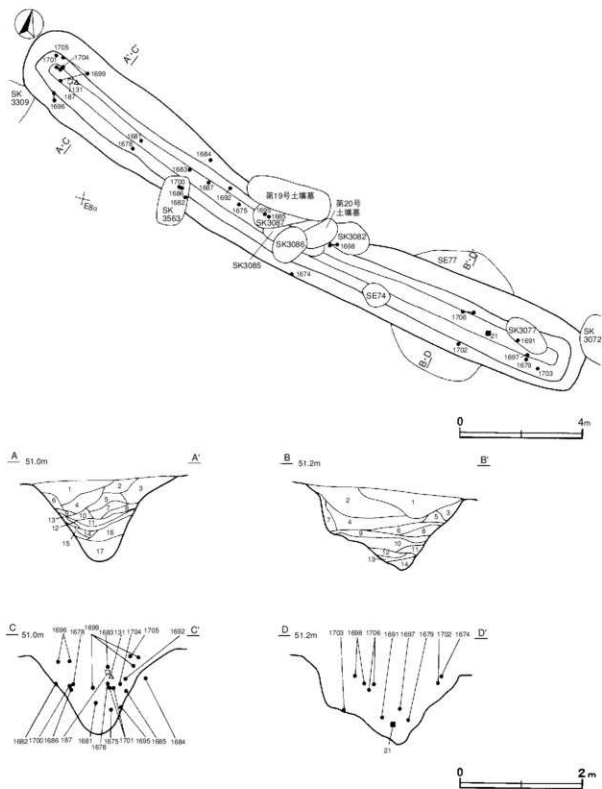
土層解説B

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化バミス微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化バミスブロック・焼鉄鉱粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、炭化バミスブロック微量	9 暗褐色	焼鉄鉱粒子中量、ローム粒子少量、炭化バミスブロック微量
3 棕褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック・炭化バミス・焼鉄鉱粒子微量
4 棕褐色	ロームブロック中量、炭化バミス少量	11 暗褐色	焼鉄鉱粒子中量、粘土ブロック・炭化バミス少量、ロームブロック微量
5 棕褐色	ロームブロック・炭化バミス微量	12 黒褐色	ローム粒子・炭化バミス・焼鉄鉱粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック中量、炭化バミスブロック・焼鉄鉱粒子微量	13 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化バミス・焼鉄鉱粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化バミス微量	14 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量

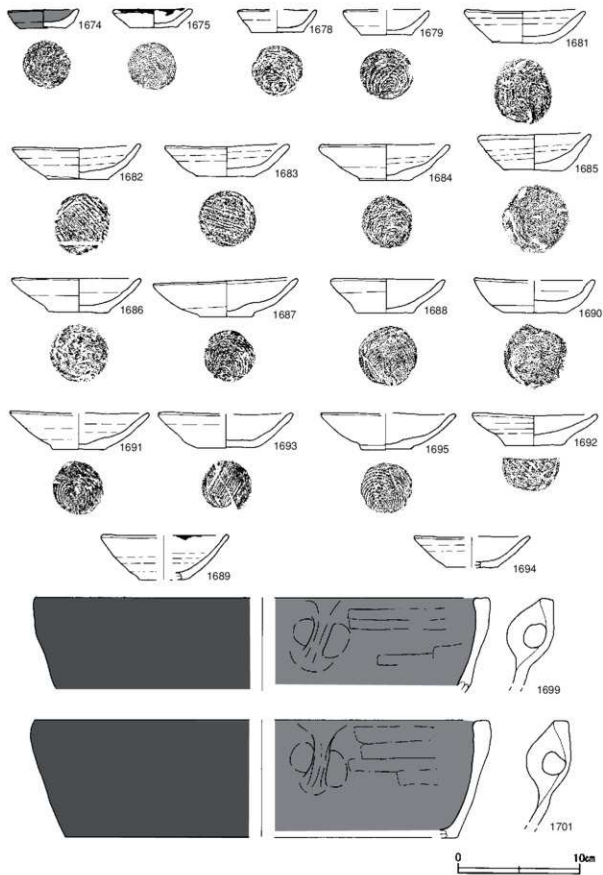
遺物出土状況 土師質土器片420点 (小皿77, 内耳鍋343)、瓦質土器片39点 (火舎2, 播鉢17, 香炉1, 壺20)、陶器1点 (丸碗)、石製品1点 (石鉢)、木製品1点 (不明)、鉄滓24点が出土している。1708は確認面から、1688～1690・1693・1694・1707は覆土中からそれぞれ出土している。1702は東部の、1674・1683・1684・1692は中央部の、1705・Q187・M131は西部の覆土上層から、1697・1703は東部の、1682・1685～1687・1700は中央部の、1678・1681・1704は西部の覆土中層から、1675・1695は中央部の、1679・1691・W21は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。1675・1689は口縁部に油煙が付着しており、灯明皿に転用されたものと考えられる。出土した小皿は、破断面が摩擦しておらず、残存率が高いことから、投棄されたものと考えられる。1706は東部の、1698は中央部の、1696は西部の覆土上層から出土した破片が、1701は西部の覆土中層と覆土中から出土した破片が、1699は西部の覆土上層と覆土中層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。これらの土器は破断面が摩擦しておらず、離れた場所から出土した破片が接合関係にあることから投棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片と須恵器片が出土している。

所見 廃絶時期は、18世紀中葉と考えられる井戸に掘り込まれていることと出土土器から、17世紀後葉から18世紀前葉と考えられる。17世紀中葉と考えられる井戸跡を掘り込み、18世紀中葉と考えられる井戸に

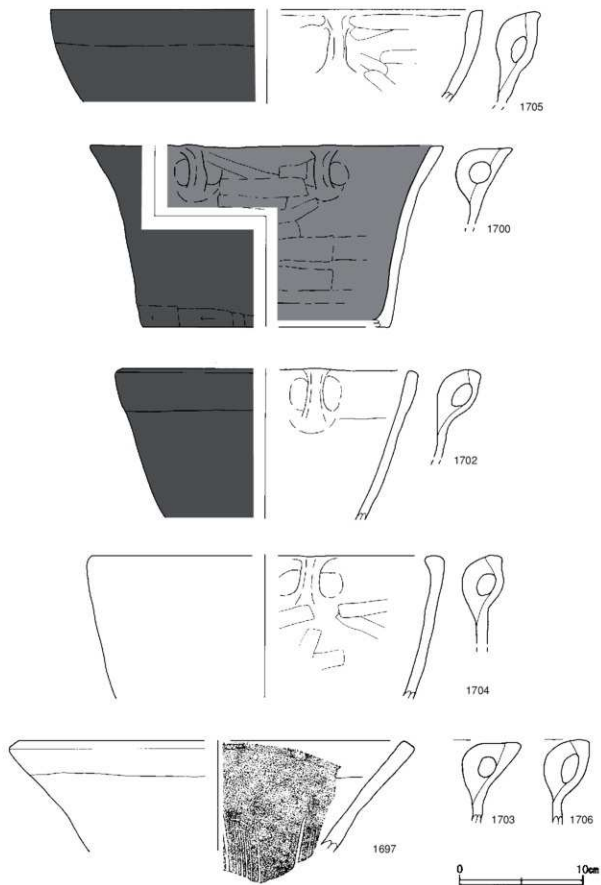
掘り込まれていることから、溝として機能していた期間は短かったと推測される。本跡の北側10mの位置には第4・7号掘立柱建物跡が、本跡の東側と西側には規模と形状が酷似する第23・64号溝跡があり、いずれも廃絶時期が17世紀後葉から18世紀前葉にかけてであることから、同時期に機能していたものと考えられる。また、覆土中から鉄滓が出土していることから、周辺に製鉄関連遺構があったものと推測される。



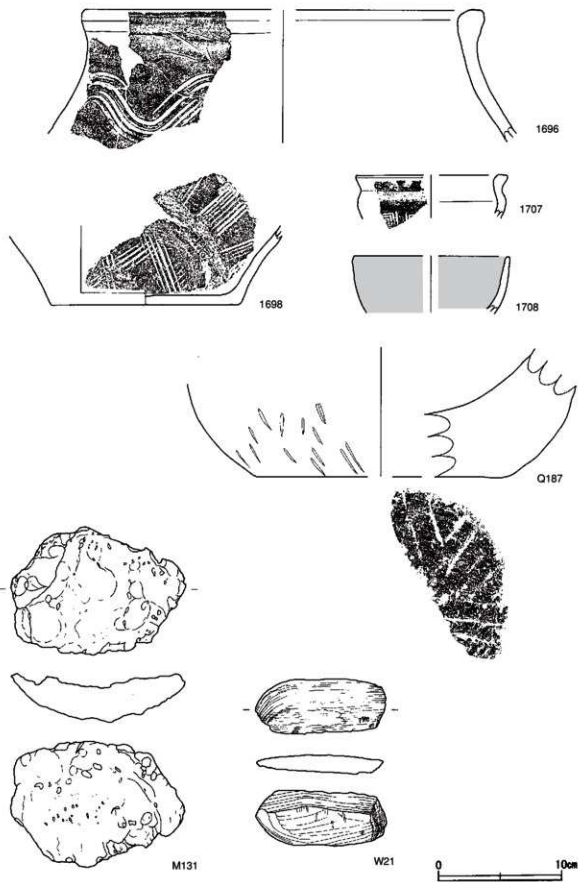
第318図 第65号溝跡実測図



第319图 第65号沟跡出土遺物実測図(1)



第320图 第65号沟跡出土遺物実測図(2)



第321图 第65号沟迹出土遗物实测图(3)

第65号溝跡出土遺物観察表(第319~321図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1674	土師質土器	小皿	5.6	1.6	3.9	金雲母	褐灰	普通	底部外面回転糸切り	上層	95%、PL117
1675	土師質土器	小皿	6.4	1.5	3.9	石英・長石・金雲母	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	下層	100%、口縁部内・外面油煙付着、灯明皿転用、PL116
1678	土師質土器	小皿	[6.2]	1.8	4.2	長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	中層	60%、PL116
1679	土師質土器	小皿	[6.9]	2.0	4.2	白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面回転糸切り	下層	50%、PL116
1681	土師質土器	小皿	9.7	2.7	4.7	石英・長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	100%、PL117
1682	土師質土器	小皿	10.3	3.1	4.9	石英・長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ・ヘソ状のくぼみ、底部外面回転糸切り後、スノコ状圧痕	中層	95%、PL117
1683	土師質土器	小皿	10.0	2.7	4.7	石英・長石・金雲母	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、スノコ状圧痕	上層	95%、PL117
1684	土師質土器	小皿	10.4	3.0	4.2	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ・ヘソ状のくぼみ、底部外面回転糸切り	上層	80%、PL117
1685	土師質土器	小皿	9.0	3.0	5.0	金雲母微量・黒色粒子	にぶい橙	普通	体部外面口ロ目顕著、底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	90%、PL117
1686	土師質土器	小皿	10.3	2.9	4.8	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	中層	70%、PL117
1687	土師質土器	小皿	11.6	3.1	4.3	石英・長石・白雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	底部内面指ナデ・ヘソ状のくぼみ、底部外面回転糸切り	中層	60%、PL116
1688	土師質土器	小皿	9.2	2.8	4.7	長石・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	覆土中	60%、底部外面火熱痕、PL117
1689	土師質土器	小皿	[10.0]	3.6	[4.2]	黒雲母微量	にぶい黄橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り	覆土中	50%、口縁部内面油煙付着、灯明皿転用、PL117
1690	土師質土器	小皿	[9.7]	2.7	5.0	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	底部外面回転糸切り後、ナデ	覆土中	50%
1691	土師質土器	小皿	[11.2]	3.1	4.3	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ・ヘソ状のくぼみ、底部外面回転糸切り	下層	50%
1692	土師質土器	小皿	10.0	2.6	4.6	石英・長石・黒雲母	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、スノコ状圧痕	上層	40%
1693	土師質土器	小皿	[10.8]	2.9	4.0	石英・長石	にぶい黄橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、スノコ状の圧痕	覆土中	50%
1694	土師質土器	小皿	[9.4]	2.5	[4.2]	石英・長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	覆土中	50%
1695	土師質土器	小皿	[10.8]	2.9	4.1	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部内面指ナデ、ヘソ状のくぼみ、底部外面回転糸切り後、板状圧痕	下層	40%、底部内面煤付着
1699	土師質土器	内耳鍋	[36.8]	(7.7)	-	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内耳1か所残存、耳はほぼ円形、口縁部内面ヘラナデ	上層・中層	30%、口縁部外面煤付着
1700	土師質土器	内耳鍋	[28.2]	14.7	[19.8]	石英・長石・白雲母	灰白	普通	内耳2か所残存、耳は円形、体部外面下縁へラ削り、内面ヘラナデ、口縁部がやや外傾	中層	20%、体部外面煤付着
1701	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	9.6	[32.2]	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	内耳1か所残存、耳は槽円形、体部内面ヘラナデ	中層・覆土中	10%、体部外面煤付着
1702	土師質土器	内耳鍋	[23.0]	(12.1)	-	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	内耳1か所残存、耳は扁平、口縁部内・外面傾ナデ	上層	10%、体部外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1703	土師質土器	内耳罎	-	(6.5)	-	石英・長石・白雲母	黄灰	普通	耳部破片、耳はやや扁平、口縁部内面へツナデ	中層	10%、口縁部外面煤付着
1704	土師質土器	内耳罎	[28.0]	(11.6)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	内耳1か所残存、耳はほぼ円形、体部内面へツナデ	中層	10%
1705	土師質土器	内耳罎	[34.8]	(7.4)	-	石英・長石・金雲母	にぶい赤褐	普通	内耳1か所残存、耳は扁平、口縁部外面横ナデ、内面へツナデ	上層	5%、口縁部外面若干煤付着
1706	土師質土器	内耳罎	-	(6.8)	-	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	耳部破片、耳は扁平、口縁部外面ナデ、内面横ナデ	上層	5%、口縁部外面煤付着
1707	瓦質土器	香炉	[12.2]	(3.6)	-	長石・金雲母	にぶい橙	普通	体部外面雷文の印文押捺	覆土中	5%、酸化炎焼成、PL119
1696	瓦質土器	壺	[32.2]	(10.7)	-	石英・長石・金雲母	橙	普通	体部外面に波状沈線(6本単位)、口縁部内・外面横ナデ	上層	10%、酸化炎焼成
1697	瓦質土器	雑鉢	[31.0]	(9.0)	-	石英・長石・白雲母	橙	普通	8条1単位の摺り目、口縁部内・外面横ナデ	中層	10%、酸化炎焼成
1698	瓦質土器	雑鉢	-	(6.5)	15.2	石英・長石・黒雲母	にぶい橙	普通	体部内面8条1単位の摺り目、底部内面4条1単位の摺り目	上層	10%、酸化炎焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1708	陶器	灰軸丸碗	[12.4]	(4.7)	-	淡黄・浅黄	灰軸	細かい貫入、体部縁やかに彎曲	瀬戸産。連房登壇Ⅳa期(1770～1800)	確認品	5%

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q187	石鉢	-	(10.5)	[20.4]	(2410.0)	安山岩	底面内部に擦痕、体部外面削痕、底部外面に白臼副溝状の削痕あり		上層	30%、PL122

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
W21	不明	(10.5)	(4.4)	(1.5)	(16.4)	木	先端部を細めている。用途は不明		下層	
M131	輪状洋	10.3	14.1	3.9	454.0	鉄	断面輪形。空気排出口が多数。弱い着磁性。表面前で赤褐色		上層	PL123

表20 中・近世溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				覆面	底面	覆土	出土遺物	備考(時期)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
21	E 8h2-E 8j1	N-23°-E、N-15°-E	直線	7.4	1.2-1.7	0.4-0.7	119	外傾	平坦	自然	土師質土器、瓦質土器、白磁、鉄洋、礫	17世紀後半
23	E 7f8-E 7j0	N-72°-W	直線	10.2	1.5-2.2	0.5-1.0	120	外傾	平坦	自然	土師質土器、瓦質土器、陶器、羽口、鉄洋、礫	17世紀後葉から18世紀初頭
51	B 1c7-B 2d1	N-81°-W	直線	16.2	0.6-1.2	0.4-0.6	16-22	外傾	平坦	自然	土師質土器、陶器	江戸時代中期から後期
52	C 2g1-C 2h3	N-84°-W	直線	(11.2)	(3.6)	(2.8)	58	外傾	平坦	自然	土師質土器、陶器細片	近世
54	C 2b6-C 2f6	N-12°-E	直線	13.6	1.7-2.5	1.4-2.2	10-16	外傾	凹凸	自然	土師質土器、陶器	16世紀前葉
55	C 2a8-C 2b7	N-28°-E	直線	(6.0)	0.6-2.2	0.4-0.5	24	外傾	平坦	自然	土師質土器	15世紀前半以前の 中世
57	C 2d6-C 2f6	N-8°-E	直線	6.0	0.8	0.6-0.7	24	外傾	平坦	人為	土師質土器、陶器	16世紀前葉以降の 中世もしくは近世

番号	位置	方向	形状	規模			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
58	C 2 6 - D 3 b 5	N-78°-W	直線	(45.6)	(1.8)	(1.6)	10~16	外傾	平坦	不明	陶器	19世紀後半
62	E 8 b 4 - E 8 h 7	N-80°-W	直線	10.4	1.7~1.9	0.3~0.4	80	外傾	平坦	自然	土師質土器、瓦質土器、陶器、石鉢、鉄滓	17世紀前葉
63	E 8 h 7 - E 8 i 9	N-78°-W	直線	(7.0)	1.1~1.4	0.2~0.5	60	外傾	平坦	自然	土師質土器、瓦質土器、陶器	17世紀後半
64	E 8 i 7 - E 8 i 0	N-90°-E	直線	(10.5)	2.1~2.6	0.4~0.6	56	外傾	平坦	自然	土師質土器、瓦質土器、陶器、木製品、鉄製包丁	17世紀後葉から 18世紀初頭
65	E 8 g 2 - E 8 i 7	N-79°-W	直線	20.8	1.8~2.5	0.3~0.5	130	外傾	皿状	人為・自然	土師質土器、瓦質土器、陶器、石鉢、木製品、鉄滓	17世紀後葉から 18世紀前葉

(10) 道路跡

第1号道路跡 (第322・323図)

位置 調査区西部1区のB 2 h 6 - C 2 a 6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第135・141号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 C 2 a 6区から北方向(N-9°-E)に直線的に延びている。西側と北側が調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは11.6m、上幅は2.9m、道路幅は2.0m、底幅は0.4mである。深さは道路面まで14~60cm、底面まで120cmである。道路面は平坦で、底面は皿状を呈している。断面は段状を呈し、外傾して立ち上がっている。

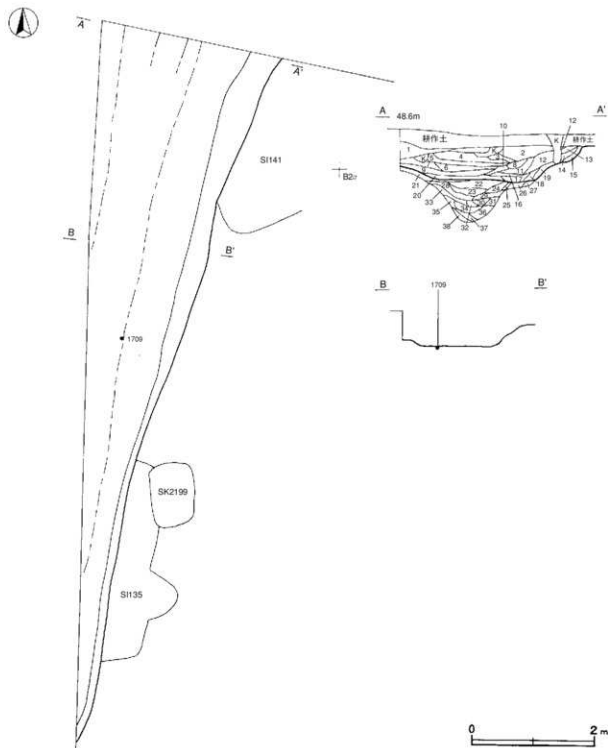
覆土 38層に分層される。レンズ状に堆積した自然堆積である。第20層は非常に硬化しており、踏み固められた層と考えられる。第21~38層は道路構築土である。第21・22層は礫が混じり、ブロック状に堆積した人為堆積である。第23~38層はレンズ状の堆積を示していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	22 黒褐色	礫中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (道路構築土)
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	23 黒褐色	炭化粒子微量、ロームブロック・焼土粒子微量 (道路構築土)
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	24 黒褐色	ロームブロック少量 (道路構築土)
4 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	25 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量 (道路構築土)
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗褐色	ロームブロック少量 (道路構築土)
6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	27 暗褐色	ロームブロック微量 (道路構築土)
7 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	28 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量 (道路構築土)
8 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	29 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量 (道路構築土)
9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	30 黒褐色	炭化粒子微量、ローム粒子微量 (道路構築土)
10 暗褐色	炭化粒子中量、ロームブロック微量	31 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子微量 (道路構築土)
11 黒褐色	ローム粒子少量	32 黒褐色	炭化粒子微量、ローム粒子少量 (道路構築土)
12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	33 黒褐色	炭化粒子微量 (道路構築土)
13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	34 黒褐色	炭化粒子微量、ローム粒子微量 (道路構築土)
14 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	35 黒褐色	炭化粒子微量、ローム粒子微量 (道路構築土)
15 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量	36 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子微量 (道路構築土)
16 黒褐色	ローム粒子微量	37 極暗褐色	炭化粒子微量 (道路構築土)
17 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	38 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量 (道路構築土)
18 暗褐色	ローム粒子少量		
19 暗褐色	ロームブロック中量		
20 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 締まり強		
21 黒褐色	礫少量、ロームブロック・炭化粒子微量 (道路構築土)		

遺物出土状況 土師質土器片45点(内耳鐃)、陶器片1点(直線大皿)、自然礫86点が出土している。1710は道路構築土中、1709は道路面上から出土している。自然礫(径6~10cm)は、道路構築土の最上層で確認され、道路に敷いたものと考えられる。また、混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 道路構築土の中層から下層にかけて自然堆積を示していることから、道路として掘り込んだものではなく、溝が埋没しかけたときに、礫を敷き、道路として利用したものと考えられる。道として整備されたものではないことから、生活道路として使用されたものと推測される。時期は、道路構築土中から出土した陶器の生産年代が15世紀後半に位置づけられていることや内耳鍋片が出土していることから、15世紀後半以降の中世もしくは近世と考えられる。



第322図 第1号道路跡実測図



第323図 第1号道路跡出土遺物実測図

第1号道路跡出土遺物観察表(第323図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1709	土師質土器	内耳鍋 [329]	(4.4)		-	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	硬化面上5%	口縁部外面彫付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1710	陶器	灰軸直縁大皿	-	(1.3)	9.8	浅黄・にぶい黄橙	灰軸	底部内面灰軸付着、底部回転糸切り	瀬戸産、15 C後半	道路構築土中	5%

表21 中・近世道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)	
				長さ(m)	上幅(m)	道路幅(m)	底幅(m)						深さ(cm)
1	B 2b6 ~ C 2a6	N - 9° - E	直線	(11.6)	(2.9)	(2.0)	0.4	道路面まで 14 ~ 60、底 面まで 120	外傾	道路面平坦、 底面皿状	自然、 人為	土師質土器、 陶器	15世紀後半以降 の中世もしくは 近世

(11) 不明遺構

第1号不明遺構(第324図)

位置 調査区中央部5区のE 8b2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第3578号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側が調査区域外に延びているため、東西軸は3.00mで、南北軸は3.21mだけが確認された。南北軸を主軸とすると、主軸方向がN-25°-Eの不定形と推測される。壁高は68~86cmで、底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。

覆土 17層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。

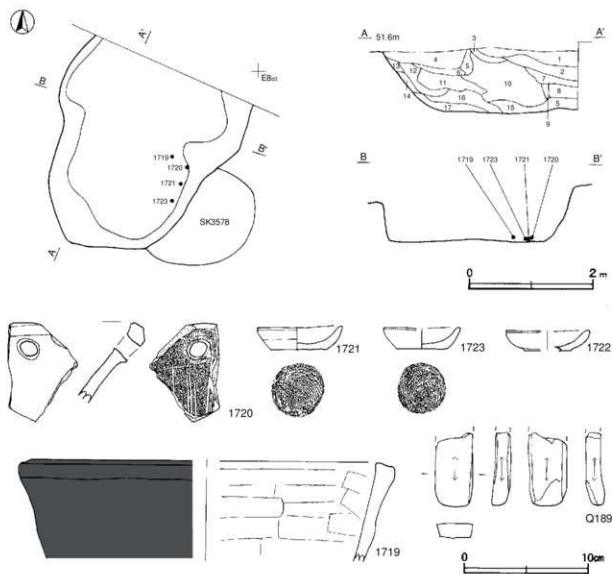
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量	10 褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック多量
2 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量	11 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック微量	12 黒褐色	ローム粒子微量
4 黒褐色	鹿沼バミスブロック微量	13 暗褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量
5 褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量	14 極暗褐色	ローム粒子微量
6 黒褐色	ロームブロック少量	15 暗褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	鹿沼バミスブロック・炭化粒子微量	16 暗褐色	鹿沼バミスブロック中量
8 灰褐色	鹿沼バミスブロック多量	17 黒褐色	ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
9 極暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師質土器片15点(小皿5, 鍔鉢2, 内耳鍋8), 石器1点(砥石)が出土している。1722は覆土中, 1719・1720は東壁際の覆土下層, 1721・1723は東壁際の底面からそれぞれ出土している。1719・1720

は破断面が摩滅していないことから、遺棄されたものと考えられる。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 遺構の形状は不定形である。底面は平坦であるが、踏み固められておらず、居住空間としての様相が見られない。また、形状から地下式坑や墓塚とも考えられず、性格は不明である。時期は、出土土器から17世紀後半から18世紀前葉と考えられる。



第324図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表(第324図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1721	土師質土器	小皿	6.7	1.9	4.2	金雲母・黒色靱子	橙	普通	底部内面指ナテ、底部外面回転糸切り	底面	80%、PL118
1722	土師質土器	小皿	[6.5]	[1.6]	[3.7]	白雲母微量	浅黄橙	普通	白かわらけ、底部内面指ナテ、底部外面回転糸切り	覆土中	40%
1723	土師質土器	小皿	[6.0]	1.7	4.0	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	底部内面指ナテ、底部外面回転糸切り後、スノコ状圧痕	底面	60%、PL117

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1720	土師質土器	襷鉢	-	(6.4)	-	石英・長石・金雲母	赤褐	普通	3条1単位の襷り目、口縁部穿孔(1か所残存)	下層	5%
1719	土師質土器	内耳鉢	[27.3]	(8.0)	-	石英・長石・金雲母	赤褐	普通	口縁部外面横ナデ、口縁部内面ヘラナデ	下層	5%、口縁部外面塚付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q189	砥石	(5.9)	3.1	1.4	(96.0)	凝灰岩	砥面4面	断面長方形	覆土中	

表22 中・近世不明遺構一覽表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壇面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	E 8 b2	N-25°-E	不定形	(3.2)×3.00	68-86	外傾	平坦	人為	土師質土器、砥石	17世紀後半-18世紀前半

6 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期不明の堅穴住居跡11軒、方形堅穴遺構3基、土壇墓3基、井戸跡10基、土坑623基、溝跡1条、横跡1列、ピット群8か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第127号住居跡 (第325図)

位置 調査区西部2区のB2j3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2223号土坑を掘り込み、第118号住居、第2225・2233号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東壁側が調査区域外に延びており、全容は不明である。東西軸は4.46m、南北軸は3.33mだけが確認され、方形と推測される。竈を通る軸線を主軸とすると主軸方向はN-30°-Wである。壁高は土層断面で25-30cm確認され、外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部に硬化面が広がっていたと推測される。断面U字状の壁溝が確認された北・西壁下に巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部までが62cm、袖部幅が63cm、火床部幅が26cmである。袖部は床面上に砂質粘土で構築されている。火床部は床面と同じ高さで、火床面が火熱で赤変している。煙道部の掘り込みはほとんどない。

竈土層解説

1 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 灰褐色	ロームブロック・粘土粒子少量
2 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量、粘土粒子中量
3 褐色	ローム粒子多量		

ピット 2か所。P1・P2は位置と規模から主柱穴と考えられ、深さは35-51cmである。

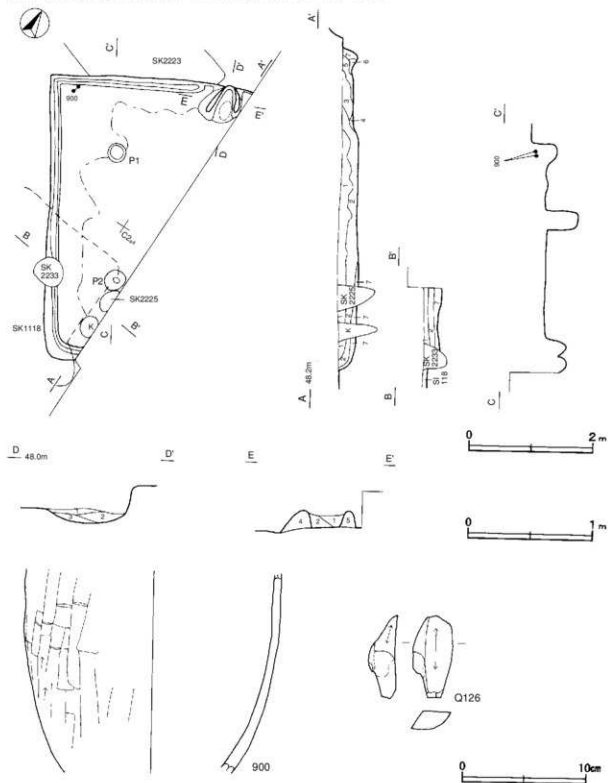
覆土 7層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 灰白色	粘土ブロック多量		

遺物出土状況 土師器片193点（坏54，碗1，甕138），石製品1点（砥石），不明鉄製品2点が出土している。大半が細片で，図示できたのは900・Q126である。900は北西コーナー部の覆土上層から出土している。破片であり破断面の摩滅が少ないことから，住居埋没時のくぼ地に廃棄されたと考えられる。また，混入した弥生土器片と奈良時代以降の須恵器片が出土している。

所見 第118号住居が10世紀前半であり，廃絶時期はそれ以前である。



第325図 第118号住居跡・出土遺物実測図

第127号住居跡出土遺物観察表(第325図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様および手法の特徴	出土位置	備考
900	土師器	甕	-	(16.2)	-	石英・長石・雲母	にぶい濁	普通	外面ヘラケズリ、内面ナデ	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q126	砥石	6.2	3.2	2.0	33.4	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

第139号住居跡 (第326図)

位置 調査区西部1区のC2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第123・154号住居、第2265・2266・2267号土坑、ピット(8か所)に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.50mの方形で、南北軸をもとにすると主軸方向はN-34°-Eである。立ち上がりは不明である。壁溝は確認された範囲で巡っている。

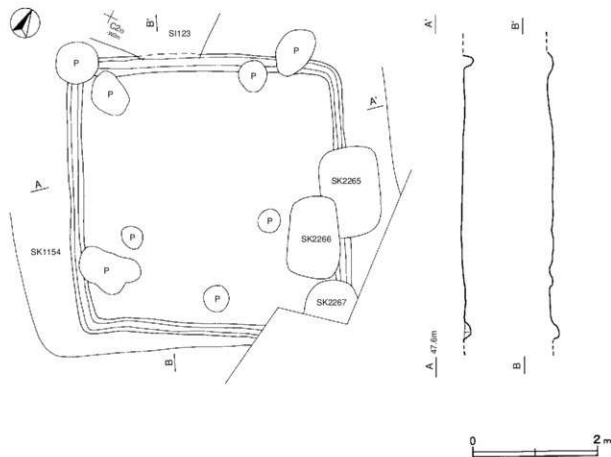
床 掘り込まれているため、詳細は不明である。

覆土 壁溝の覆土だけが確認された。堆積状況は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック散見

所見 時期は、8世紀中葉と考えられる第154号住居に掘り込まれていることから、8世紀中葉以前である。



第326図 第139号住居跡実測図

第144号住居跡 (第327図)

位置 調査区西部1区のB2h7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第141号住居、第2208・2249号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 耕作等の擾乱もあり、覆土がない状態で確認された。壁溝と主柱穴と考えられるP1～P3のみ確認され、規模は東西軸4.44mで南北軸は3.30mだけ確認され、北壁側が調査区域外に延びているため南北軸は不明である。形状は方形と推測される。南壁の中心を通るラインを主軸とすると、主軸方向はN-19°-Wと考えられる。第141号住居と第2249号土坑が重複しているため、土層断面でも壁の立ち上がりは不明である。表土から床面までの深さは6～15cmである。

ピット 3か所。P1～P3は位置と規模から主柱穴と考えられ、深さが12～26cmである。

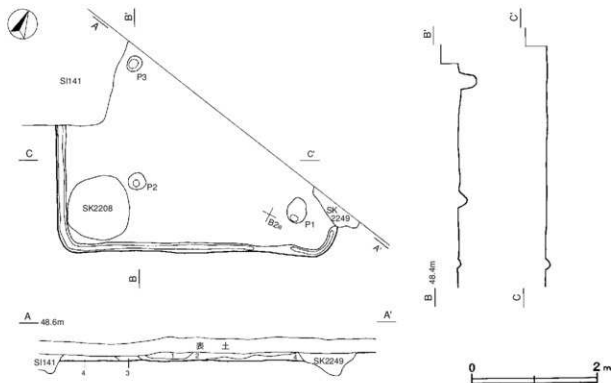
覆土 4層に分層される。ブロック状に堆積していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼ハミス微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片35点(坏11, 甕24)が壁溝とピットの覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できるものがない。

所見 第141号住居が9世紀前葉であり、廃絶時期はそれ以前である。



第327図 第144号住居跡実測図

第153号住居跡 (第328図)

位置 調査区西部1区のB3i2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第156号住居跡を掘り込み、第149号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸2.10m、南北軸3.10mだけが確認され、方形もしくは長方形と推測される。南北軸を主軸

とすると、主軸方向は $N-34^{\circ}-W$ である。壁高は土層断面で40cm確認されている。各壁とも外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。確認された壁下に壁溝が巡っている。

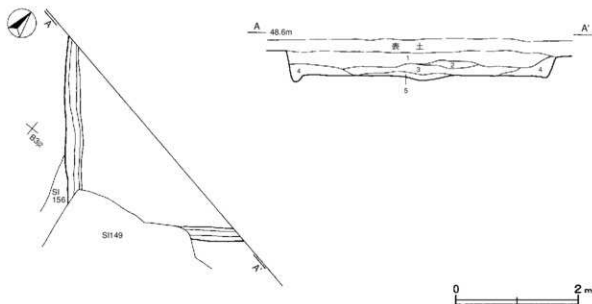
覆土 5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物出土状況 土師器片（坏2，高坏1，甕2）が覆土中から出土しているが、すべて細片で図示できるものがない。また、混入した弥生土器片が出土している。

所見 第149号住居が8世紀後葉であり、廃絶時期はそれ以前である。



第328図 第153号住居跡実測図

第156号住居跡（第329図）

位置 調査区西部1区のB3j2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第157号住居跡を掘り込み、第149・153号住居に掘り込まれている。

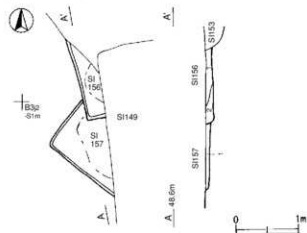
規模と形状 東西軸0.33m、南北軸1.55mだけが確認され、方形もしくは長方形と考えられる。南北軸を主軸とすると、主軸方向は $N-16^{\circ}-W$ である。壁高は10cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面が確認されている。

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | |
|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 |



第329図 第156・157号住居跡実測図

遺物出土状況 土師器片10点(坏5, 甕5), 砥石1点が覆土中から出土しているが, 土器のすべてが細片で図示できるものがない。また, 混入した弥生土器片が出土している。

所見 第149号住居が8世紀後葉であり, 廃絶時期はそれ以前である。

第157号住居跡 (第329図)

位置 調査区西部1区のB3j2区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第149・156号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸0.90m, 南北軸1.45mだけが確認された。南北軸を主軸とすると, 主軸方向はN-48°-Wである。壁高は5cmで, 壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 硬化面が確認されている。

覆土 単一層である。堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 土師器片5点(坏3, 甕2)が覆土中から出土しているが, すべて細片で図示できるものがない。

所見 第149号住居が8世紀後葉であり, 廃絶時期はそれ以前である。

第171号住居跡 (第330図)

位置 調査区西部1区のC2e6区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第236号住居跡を掘り込み, 第158・166号住居と第2467号土坑と第57号溝とピット(6か所)に掘り込まれている。

規模と形状 東壁側が残存していないため東西軸は3.48mだけが確認され, 南北軸は4.62mの方形もしくは長方形と推測される。南北軸を主軸とすると主軸方向はN-20°-Wである。壁高は13cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北・西壁下の一部に壁溝が確認され, 間仕切り溝が北壁側と西壁とP1・P2の間に確認されている。壁溝と間仕切り溝の断面形態はともにU字状である。

ピット 3か所。P1・P2は深さが41~55cmで, 位置と規模から主柱穴と考えられる。P3は深さが28cmで南壁際にあり, 出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

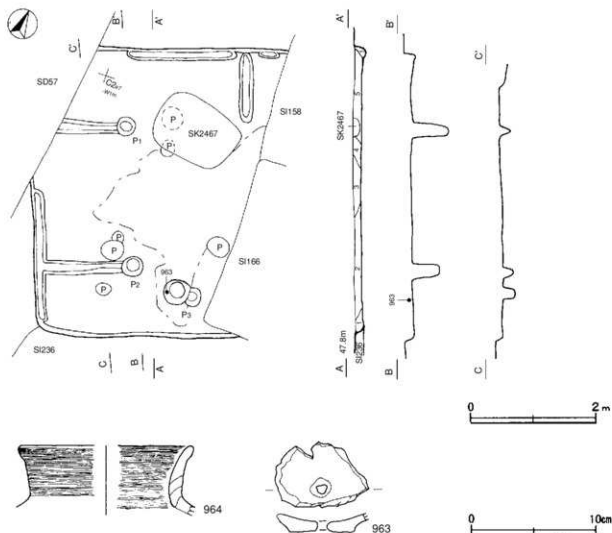
3 暗褐色 ローム粒子多量

4 黒褐色 ローム粒子多量

5 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片84点(坏18, 甕66)が出土している。土器は散在して出土している。963は南壁際の覆土下層から出土している。また, 混入した縄文土器片, 弥生土器片, 奈良時代以降の須恵器片, 古銭の破片が出土している。

所見 廃絶時期は出土土器から判断できないが, 弥生時代後期の第236号住居跡より新しく, 平安時代の第158・166号住居より古いと考えられる。しかし, 炉や竈が確認されないことや規模から方形竪穴遺構の可能性も否定できない。



第330図 第171号住居跡・出土遺物実測図

第171号住居跡出土遺物観察表(第330図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
963	土師器	甕	-	(1.5)	(7.2)	石英・長石・雲母	褐	普通	外面ヘラケズ)、内面ナデ、底部に焼成後穿孔。紡錘車転用	覆土下層	10%
964	土師器	甕	[13.6]	(5.5)	-	石英・長石・雲母	ぶい橙	普通	口縁部内外面横ナデ	覆土中	10%

第192号住居跡(第331図)

位置 調査区西部1区のB3j6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第181号住居、第40号方形竪穴遺構、第2422号土坑、第15号ピット群に掘り込まれている。

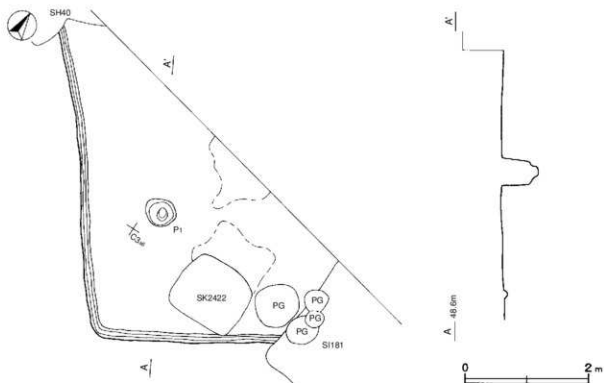
規模と形状 北壁と東壁が調査区域外に延びていることと重複を受けているため、全容は不明である。耕作等の擾乱のため床面が露出しており、壁溝間で東西長4.18m、南北長5.20mだけ確認され、方形もしくは長方形と推測される。南北壁を主軸とすると、主軸方向はN-36°-Wと考えられる。

床 ほほぼ平坦で、中央部が踏み固められていたと推測される。断面U字状の壁溝が部分的に確認された。

ピット 1か所。深さは57cmで、位置と規模から主柱穴と考えられる。

遺物出土状況 土師器片9点(坏4, 甕5)が壁溝とビットの覆土から出土している。すべて細片で図示できるものがない。

所見 第181号住居が8世紀中葉であり、廃絶時期はそれ以前である。



第331図 第192号住居跡実測図

第232号住居跡 (第332図)

位置 調査区西部1区のC3j5区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第229号住居と第2572・2630・2660号土坑とビット(2か所)に掘り込まれている。

規模と形状 重複が激しく全容は不明である。東西軸は3.87m, 南北軸は1.40mだけが確認され、方形もしくは長方形と推測される。竈を通る軸線を主軸とすると主軸方向はN-30°-Wである。壁高は7~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、断面U字状の壁溝が東壁下と北西コーナー部に巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までが80cm, 袖部幅が80cmだけ確認され、火床部幅が47cmである。火床部は地山を凹凸に4~10cm掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ暗褐色土を埋め戻して構築されており、袖部はその上に砂質粘土で構築されている。火床面は赤変している。煙道部は壁外へ28cm掘り込んでおり、ゆるやかに立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒 灰色	焼土ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量	7 黒 灰色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量
3 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量	8 黒 褐色	焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
4 黒 褐色	ロームブロック・焼土ブロック微量	9 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5 赤 褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック微量	10 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量

ビット 9か所。P1・P2は深さが20~27cmで、位置と規模から主柱穴と考えられ、その他のビットは壁柱

穴と考えられる。

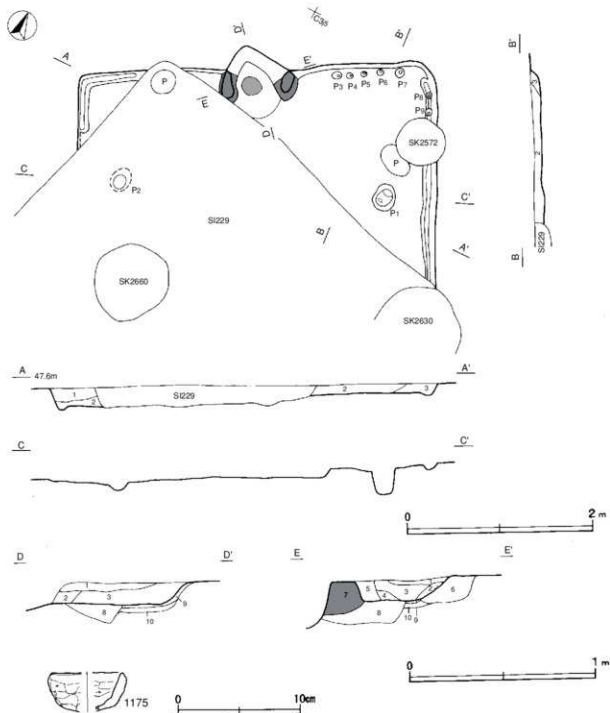
覆土 3層に分層される。堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片27点（坏5，甕22）と手捏土器2点が覆土中から出土している。手捏土器1点以外はすべて細片で、図示できるものはない。

所見 第229号住居が10世紀後葉であり、廃絶時期はそれ以前である。



第332図 第232号住居跡・出土遺物実測図

第232号住居跡出土遺物観察表(第332図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1175	手捏土器	-	[60]	(32)	-	石英・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	内・外面ヘラズリ後ナデ	覆土中	30%

第235号住居跡 (第333図)

位置 調査区西部1区のC3i2区で、台地上の平坦部に位置している。

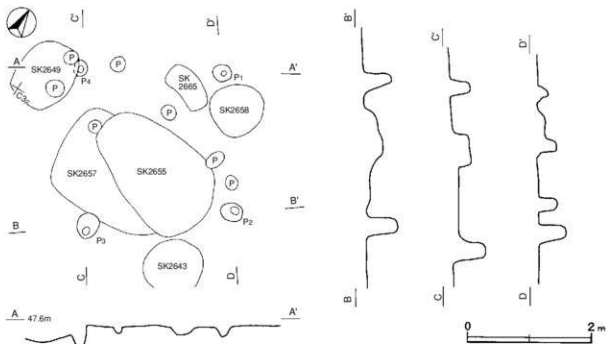
重複関係 第2649号土坑に掘り込まれている。第231号住居跡、第2643・2655・2657・2658・2665号土坑、ピット(7か所)とも重複しているが、覆土がないことから、新旧関係は不明である。

規模と形状 柱穴の配置から一辺2.90mの方形で、主軸方向をN-56°-Eと推定した。立ち上がりは不明である。

床 掘り込まれた状態で確認されたため、詳細は不明である。

ピット P1~P4は深さが15~46cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

所見 主柱穴だけが確認され、竈や炉あるいは覆土も確認できず、遺物も出土していないことから、時期は不明である。



第333図 第235号住居跡実測図

第238号住居跡 (第334図)

位置 調査区西部1区のC3i6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 ピット(9か所)に掘り込まれている。

規模と形状 東側部分が調査区域外に延びているため、南北軸3.00mで、東西軸1.50mだけが確認された。南北軸を主軸とすると、N-8°-Eを主軸方向とする方形または長方形と推測される。壁高は12cmで、外傾し

て立ち上がっている。

床 ほほ平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は北壁から西壁にかけて巡っている。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

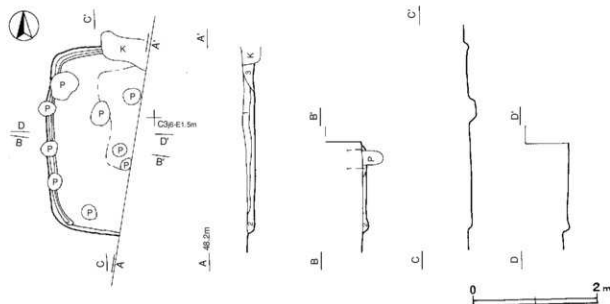
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が、覆土中から出土している。細片で破断面が摩滅しており、埋め戻しの際に混入したものである。

所見 炉も竈も確認できず、住居形態も明らかではないため、時期は不明である。



第334図 第238号住居跡実測図

表23 その他の住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高	床面	内 部 施 設							覆土	出土遺物	備考(時期)
							壁溝	隅柱切り溝	主柱穴	出入口	ピット	竈・炉	貯蔵穴			
127	B 2β	N-30°-W	[方形]	4.46×(3.33)	25-30	平坦	[全周]	-	2	-	-	竈	-	自然	土師器、紙石	10世紀前半以前
139	C 2δ	N-34°-E	[方形]	4.5×4.5	不明	不明	[全周]	-	-	-	-	-	-	不明	-	8世紀中葉以前
144	B 2b7	N-19°-W	[方形]	4.4×-	6-15	平坦	[全周]	-	3	-	-	-	-	人為	土師器	9世紀前半以前
153	B 3δ2	N-34°-W	[方・長]	(3.10×2.10)	40	平坦	[全周]	-	-	-	-	-	-	自然	土師器	8世紀後半以前
156	B 3δ2	N-16°-W	[方・長]	(1.55×0.33)	10	平坦	-	-	-	-	-	-	-	不明	土師器、紙石	8世紀後半以前
157	B 3δ2	N-48°-W	[方・長]	(1.45×0.90)	5	平坦	-	-	-	-	-	-	-	不明	土師器、剣形、不明鉄製品	8世紀後半以前
171	C 2ε6	N-20°-W	[方・長]	4.62×(3.48)	13	平坦	一部	3	2	1	-	-	-	自然	土師器	平安時代以前
192	B 3δ6	N-36°-W	[方・長]	(5.20×4.18)	-	平坦	一部	-	1	-	-	-	-	不明	土師器	8世紀中葉以前
232	C 3δ5	N-30°-W	[方・長]	3.87×(1.40)	7-20	平坦	一部	-	2	-	9	竈	-	不明	土師器、手捏土器	10世紀後半以前

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考(時期)
							壁溝	間仕切り溝	主柱穴	出入口	ピット	竈・炉			
235	C 3区	N-56°-E	[方形]	[2.9×2.9]	-	不明	-	-	4	-	-	-	-	-	-
238	C 3区	N-8°-E	[方・長]	3.0×(1.5)	12	平坦	一部	-	-	-	-	-	-	土師器	-

(2) 方形竪穴遺構

第28号方形竪穴遺構 (SI219) (第335図)

位置 調査区西部1区のC 2区10区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第30号方形竪穴遺構と第2647号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東西軸は2.46mで、南北軸は1.44mだけ確認され長方形と推測される。主軸方向はN-15°-Eである。壁高は7~10cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、軟弱である。

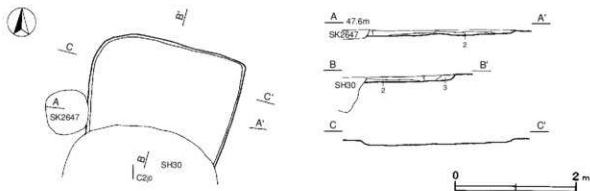
覆土 3層に分層される。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片27点(坏10, 高坏1, 甕16), 須恵器1点(甕)が覆土中から出土している。

所見 時期を特定できる出土土器はないが、第30号方形竪穴遺構より古く、本遺跡で古墳時代と特定できる方形竪穴遺構と形状が同じであり、古墳時代の可能性がある。



第335図 第28号方形竪穴遺構実測図

第30号方形竪穴遺構 (SI228) (第336図)

位置 調査区西部2区のC 2区9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第218号住居跡と第28号方形竪穴遺構と第59号溝跡を掘り込み、ピット(5か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m, 短軸1.83mの隅丸長方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で、軟弱である。断面U字状の壁溝が壁下をほぼ全周している。

ピット 2か所。P1・P2は深さが35~45cmで、P2は西壁から外に張り出している。性格は不明である。

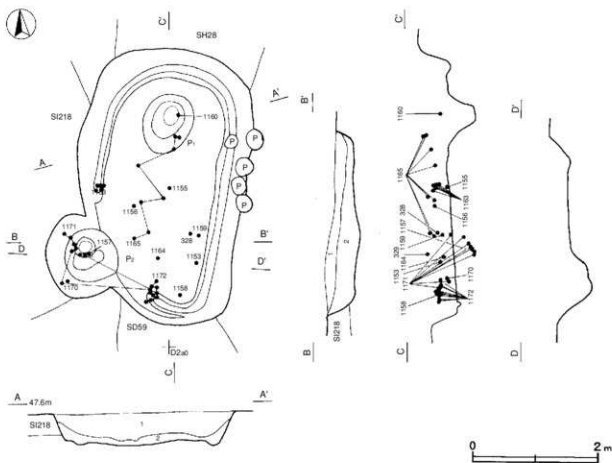
覆土 2層に分層される。周囲から土砂が流入した様相を呈しており、自然堆積と考えられる。

土層解説

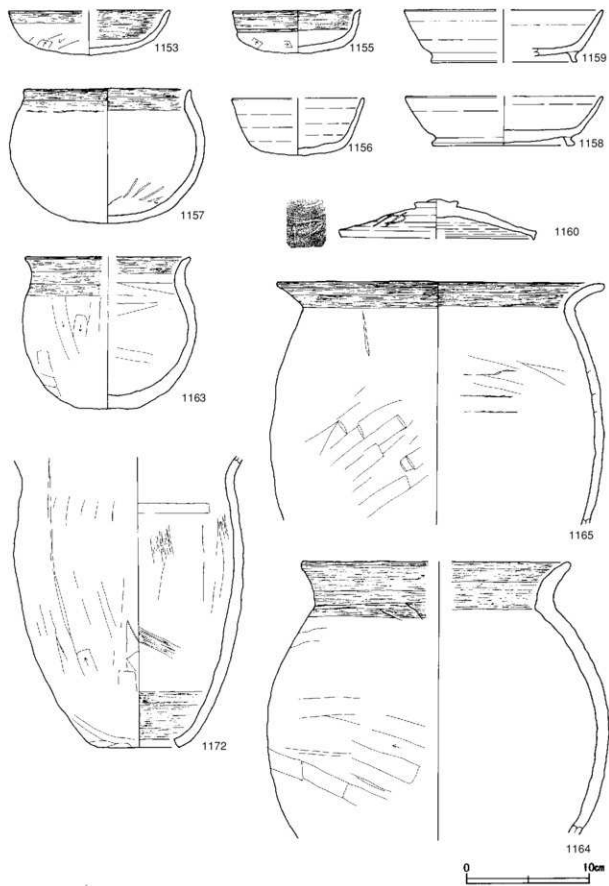
- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片1180点(坏186, 高坏2, 碗4, 甕934, 甕47), 須惠器片39点(坏12, 高台付坏3, 蓋6, 甕11, 鉢カ1, 横瓶カ1), 土製品1点(支脚)が出土している。遺物はすべて破片であり, 覆土中を中心に出土している。1153は東壁際の, 1155は中央部の, 1157はP2内から, 1163は西壁際の, 1164は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土しており, 破断面が摩滅していることから土砂の堆積とともに流れ込んだものと考えられる。1165は中央部の覆土上層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。1171は西壁際と南壁際の覆土上層とP2内から出土した破片が接合したものである。1172は南壁際の覆土上層の離れた位置から出土した破片が接合したものである。1156は中央部の, 1158・1160は南壁際の, 1159・TP328は東壁際の, 1170・TP329は西壁際の覆土上層から出土している。これらは破片や破損品であり, 破断面が摩滅していないことから廃絶後のくぼ地に廃棄したと考えられる。DP35Bは覆土中から出土しており, 第205号住居跡出土のDP35Aと接合する。

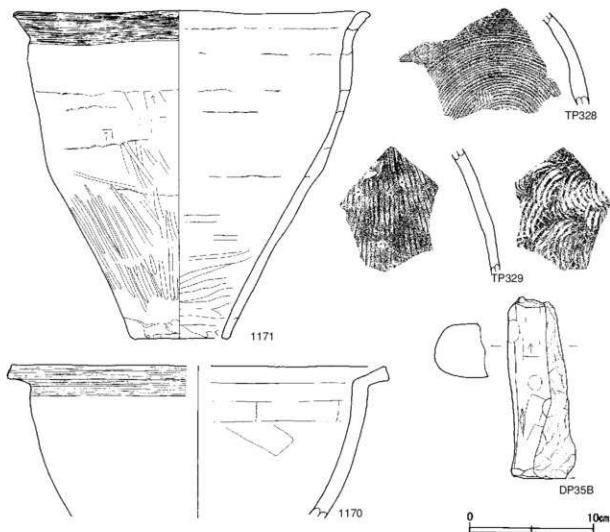
所見 6世紀後半の第218号住居跡と7世紀後半以前に廃絶された第59号溝跡より新しく, 1171の土器から古墳時代の可能性が高い。出土した須惠器の年代まで廃絶が行われたと推測される。P1とP2の覆土上面は硬化しておらず, 本跡に伴うピットである。



第336図 第30号方形竪穴遺構実測図



第337图 第30号方形竖穴遺構出土遺物実測図(1)



第338図 第30号方形竪穴遺構出土遺物実測図(2)

第30号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第337・338図)

番号	種別	器様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1153	土師器	坏	[129]	3.6	-	長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ	覆土上層	50%
1155	土師器	坏	10.2	3.4	-	石英・長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ	覆土上層	60%
1156	須恵器	坏	[103]	4.6	-	石英・長石	灰	普通	丸底。底部回転ヘラ切り	覆土上層	50%
1157	土師器	鉢	13.3	10.8	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。火熱により器面が荒れているため調整不明。体部外面輪積み痕残存	P2内	80%
1158	須恵器	高台付坏	[15.8]	4.1	11.3	石英・長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後。高台貼り付け	覆土上層	50% 堀の内室
1159	須恵器	高台付坏	[10.2]	(3.8)	[11.6]	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後。高台貼り付け	覆土上層	20%
1160	須恵器	蓋	[15.6]	3.1	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラケズリ	覆土上層	10% 堀の内室 天井部外面ヘラ書き「井」☆
1163	土師器	甕	[13.0]	12.3	[5.0]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ	覆土上層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1164	土師器	壺	[21.3]	(22.1)	-	長石・雲母・白色粒子・小塵	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面調整不明	覆土上層	50%
1166	土師器	壺	26.0	(19.6)	-	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ナデ・ヘラナデ。内面輪積み痕残存	覆土上層	20%
1170	須恵器	鉢 ^a	[30.0]	(12.2)	-	石英・長石	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き	覆土上層	10%
1171	土師器	瓶	27.9	26.3	7.8	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラケズリ後ナデ後ヘラミガキ。内面ナデ後ヘラミガキ。内・外面輪積み痕残存	覆土上層 P 2内	70%
1172	土師器	瓶	-	(23.4)	6.4	石英・長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	体部外面ヘラケズリ後ナデ。内面ヘラナデ後ナデ	覆土上層	70%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
TP328	須恵器	横瓶 ^a	石英・長石	灰	普通	体部外面同心円状の沈澱を連ねる(40本以上)	覆土上層	
TP329	須恵器	壺	白色粒子	灰	良好	体部外面縦位の平行叩き。内面同心円状の当て具痕	覆土上層	体部外面自然釉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
DP35 B	支脚	(14.5)	5.5	5.2	(340.0)	石英・長石・雲母	黄褐色	普通	ヘラケズリ後ナデ。指頭押圧痕残存	覆土中	第205号住居跡のD P 35 Aと接合

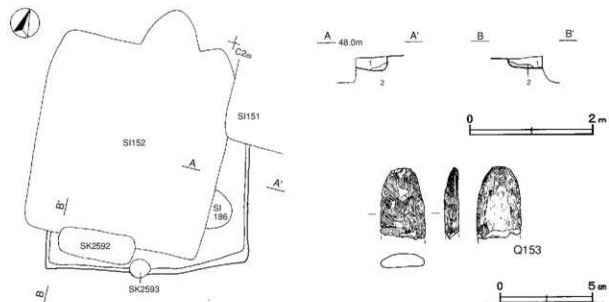
第47号方形堅穴遺構 (SI222) (第339図)

位置 調査区西部1区のC 2 d8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第178号住居跡と第21号方形堅穴遺構を掘り込み、第151・152・186号住居と第2592・2593号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複が激しいため全容は不明である。東西軸は3.78m、南北軸は3.02mだけが確認され、方形と推測される。主軸方向はN-20°-Wである。壁高が22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 はほぼ平坦で軟質である。



第339図 第47号方形堅穴遺構・出土遺物実測図

覆土 2層に分層される。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片23点(坏3, 甕類20)と石製模造品1点(剣形カ)が覆土中から出土している。土器のすべてが細片で、図示できるものはない。

所見 時期は特定できないが、7世紀前半の第178号住居跡より新しく、9世紀前半の第158号住居より古い。

第47号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第339図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q153	剣形模造品カ	(3.9)	(2.3)	(0.7)	(10.2)	蛇文岩	欠損品 孔径0.2cm 両面・側面研磨	覆土中	

表24 その他の方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (時期)
							壁溝	主柱穴	張り出し部	出入口	ピット	炉・竈			
28	C 20	N-15°-E	[長方形]	2.26 × (1.44)	7~10	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器、須恵器	古墳時代*
30	C 29	N-6°-E	長方形	4.40 × 1.83	30	平坦	-	-	-	2	-	-	自然	土師器、須恵器、支脚	古墳時代*
47	C 248	N-20°-W	[方形]	3.78 × (3.02)	22	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器、剣形石製模造品	時期不明

(3) 土墳墓

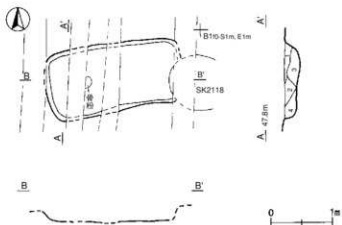
第16号土墳墓 (SK2121) (第340図)

位置 調査区西部2区のB10区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2118号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部と西部が攪乱のため壊されている。南北軸は1.08mで、東西軸は2.06mだけが確認され、長軸方向をN-82°-Eとする長方形と推測される。深さは24cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。第3・4層は骨粉を含んでいる。



第340図 第16号土墳墓実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック中量

- 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物・骨粉微量
4 暗褐色 ロームブロック多量、骨粉微量

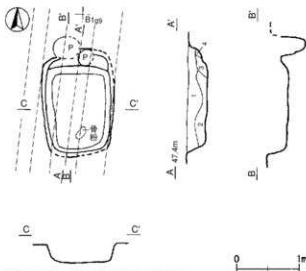
遺物出土状況 骨粉が西部の覆土下層から底面にかけて出土している。また、混入した土師器片と須恵器片が覆土中から出土している。

所見 骨粉に火熱痕がなく、また、形状が長方形で人為堆積を示していることから土葬墓と考えられる。埋葬形態は、遺構の規模から伸展葬と推測される。時期は、副葬された遺物がないため不明である。

第17号土壌墓 (SK2132) (第341図)

位置 調査区西部2区のB 1g8区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 ビット(2か所)に掘り込まれている。



第341図 第17号土壌墓実測図

規模と形状 長軸1.70m、短軸1.14mの長方形で、長軸方向はN-7°-Wである。深さは30cmで、底面はほぼ平坦であるが、北壁際は段状に8cm高くなっている。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。第2層は骨粉を含んでいる。

土層解説

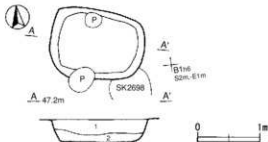
- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック多量、骨粉微量
3 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量
4 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

遺物出土状況 骨粉が南部の第2層から底面にかけて出土している。また、混入した土師器片が出土している。

所見 骨粉に火熱痕がなく、また、形状が長方形で人為堆積を示していることから土葬墓と考えられる。埋葬形態は、遺構の規模から伸展葬と推測される。また、北壁際に確認されたビット(2か所)は、墓標建立時の柱穴の可能性も考えられる。時期は、副葬された遺物がないことから不明である。

第18号土壌墓 (SK2697) (第342図)

位置 調査区西部2区のB 1h5区で、台地上の平坦部に位置している。



第342図 第18号土壌墓実測図

重複関係 第2698号土坑を掘り込み、ビット(2か所)に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.50m、短軸1.10mの長方形で、長軸方向はN-76°-Wである。深さは36cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。第2層は骨

粉を含んでいる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック・骨粉微量

遺物出土状況 骨粉が第2層から散在して出土している。

所見 骨粉に火熱痕がなく、また、形状が長方形で人為堆積を示していることから土葬墓と考えられる。埋葬形態は、遺構の規模から伸展葬と推測される。また、南壁際と北壁際に確認されたピット（2か所）は、墓標建立時の柱穴の可能性も考えられる。時期は、副葬された遺物がないことから不明である。

表25 その他の土壌墓一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考(時期)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
16	B 1 b0	N-82°-E	長方形	(2.06)×1.08	24	外堀	平坦	人為	骨粉	時期不明
17	B 1 a8	N-7°-W	長方形	1.70×1.14	30	外堀	平坦	人為	骨粉	時期不明
18	B 1 b5	N-76°-W	長方形	1.50×1.10	36	外堀	平坦	人為	骨粉	時期不明

(4) 井戸跡

第69号井戸跡（第343図）

位置 調査区西部1区のD 3 a3区で、台地上の平坦部に位置している。

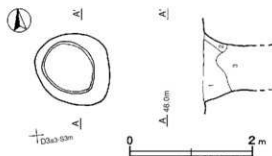
規模と形状 長径1.30m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-41°-Wである。深さ0.5mまでは漏斗状に、それ以下は長径0.93m、短径0.78mまで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さ0.9mまでしか確認できなかった。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・陶磁器粒子少量

所見 時期は出土土器がなく、重複関係もないため、不明である。



第343図 第69号井戸跡実測図

第81号井戸跡（SK2774）（第344図）

位置 調査区西部2区のB 1 e6区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2728・2733・2740号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.52m、短径1.50mの円形である。深さ0.8mまでは漏斗状に、それ以下は長径1.16m、短径1.09mまで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さ1.1mまでしか確認できなかった。

覆土 3層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

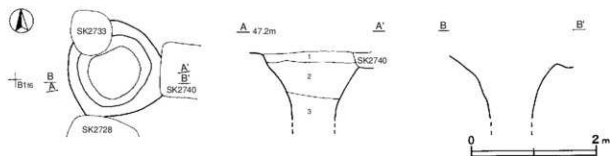
土層解説

1 黒色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

所見 時期は出土土器がなく、重複している土坑も時期が確定できないため、不明である。



第344図 第81号井戸跡実測図

第82号井戸跡 (SK2751) (第345図)

位置 調査区西部2区のB14区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外に延びているため、南北径1.63m、東西径0.60mだけが確認された。長径方向

をN-27°-Wとする楕円形と推測される。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.0mまでしか確認できなかった。

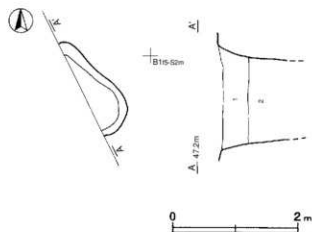
覆土 2層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

所見 時期は出土土器がなく、重複関係もないため、時期は不明である。



第345図 第82号井戸跡実測図

第83号井戸跡 (SK2736) (第346図)

位置 調査区西部2区のB1d7区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 径1.04mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.2mまでしか確認できなかった。

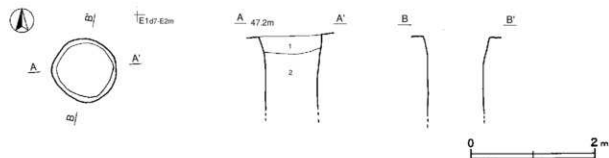
覆土 2層に分層される。ブロック状に堆積した人為堆積である。

土層解説

1 黒色 ロームブロック微量

2 黒色 ロームブロック少量

所見 時期は出土土器がなく、重複関係もないため不明である。



第346図 第83号井戸跡実測図

第84号井戸跡 (第347図)

位置 調査区西部2区のB2h3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第105号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m、短径0.98mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため深さ1.2mまでしか確認できなかった。

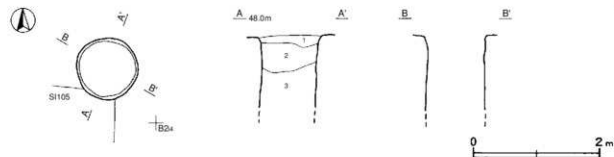
覆土 3層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 鹿沼バミスブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片54点(坏14, 甕40)、須恵器片3点(蓋)が出土している。細片であり破断面が摩擦していることから、混入したものと考えられる。

所見 9世紀後半の住居跡を掘り込んでいるが、明確な時期は不明である。



第347図 第84号井戸跡実測図

第85号井戸跡 (第348図)

位置 調査区西部2区のB1i0区で、台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.70m、短径1.60mの円形と推測される。深さ0.6mまでは漏斗状に、それ以下は径1.18mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さ1.0mまでしか確認できなかった。

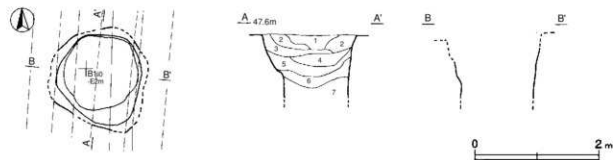
覆土 7層に分層される。ロームブロックや鹿沼バミスブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------|-------|---------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量 | 7 暗褐色 | 鹿沼パミスブロック多量、ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師器片18点(坏6, 高台付碗1, 甕11)が出土しているが, 細片である。破断面が摩滅していることから, 混入したものと考えられる。

所見 時期は, 不明である。



第348図 第85号井戸跡実測図

第86号井戸跡 (SK2150) (第349図)

位置 調査区西部2区のB 1i9区で, 台地上の平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.00m, 短径0.89mの楕円形で, 長径方向はN-21°-Eである。円筒状に掘り込まれているが, 湧水のため深さ0.7mまでしか確認できなかった。

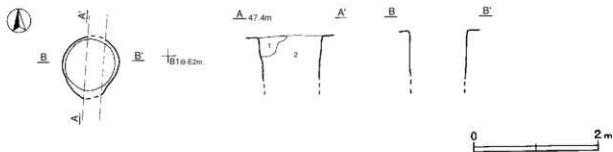
覆土 2層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 | 2 黒褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック中量 |
|-------|---------------------|-------|------------------------|

遺物出土状況 土師器片1点(高台付碗)が出土している。細片であり破断面が摩滅していることから, 混入したものと考えられる。

所見 時期は, 不明である。



第349図 第86号井戸跡実測図

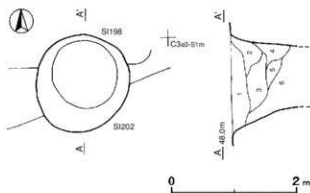
第88号井戸跡（第350図）

位置 調査区西部1区のC3e2区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第198・202号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.52m、短径1.50mの円形である。深さ0.7mまでは漏斗状に、それ以下は径1.04mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さ1.0mまでしか確認できなかった。

覆土 6層に分層される。ロームブロックを不規則に含み、ブロック状に堆積した人為堆積である。



第350図 第88号井戸跡実測図

土層解説

- | | |
|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 6 黒色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 土師器片25点（坏8、高台付椀1、甕16）、須恵器片4点（坏1、甕3）が出土している。細片であり破断面が摩滅していることから、混入したものと考えられる。

所見 8世紀中葉の住居跡を掘り込んでいるが、明確な時期は不明である。

第89号井戸跡（第351図）

位置 調査区西部1区のC2f9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第182号住居跡を掘り込み、第2471・2551・2565号土坑に掘り込まれている。

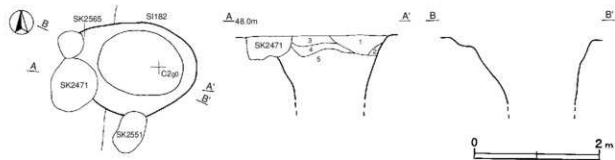
規模と形状 南北径は1.50mで、東西径は1.72mだけが確認された。楕円形で、長径方向はN-82°-Wと推測される。深さ0.9mまでは漏斗状に掘り込まれ、それ以下は長径1.38m、短径1.04mで円筒状に掘り込まれている。湧水のため、深さ1.0mまでしか確認できなかった。

覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス微量 | 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | | |

遺物出土状況 土師器片15点（坏3、甕12）、須恵器片3点（甕）が出土している。細片であり破断面が摩滅していることから、混入したものと考えられる。



第351図 第89号井戸跡実測図

所見 9世紀後半の住居を掘り込んでいるが、明確な時期は不明である。

第90号井戸跡 (SK2157) (第352図)

位置 調査区西部2区のC2a3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第112号住居跡を掘り込んでいる。

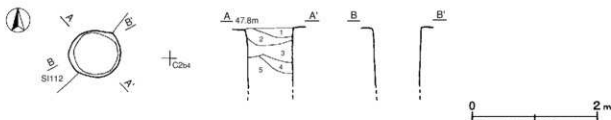
規模と形状 長径0.80m、短径0.78mの円形である。円筒状に掘り込まれているが、湧水のため、深さ1.0mまでしか確認できなかった。

覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 炭屑パミスブロック中量、ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭屑パミスブロック中量 |
| 2 黄土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック・炭屑パミスブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭屑パミスブロック中量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量、炭屑パミスブロック少量 |

所見 8世紀中葉と思われる住居跡を掘り込んでいるが、明確な時期は不明である。



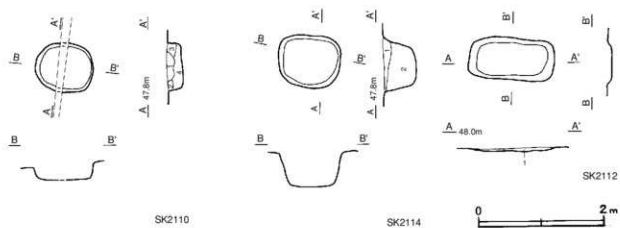
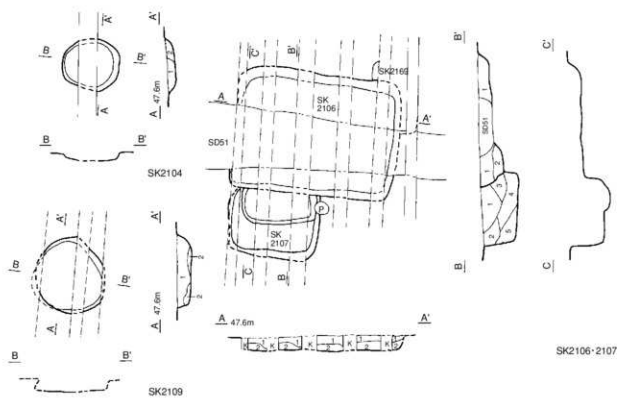
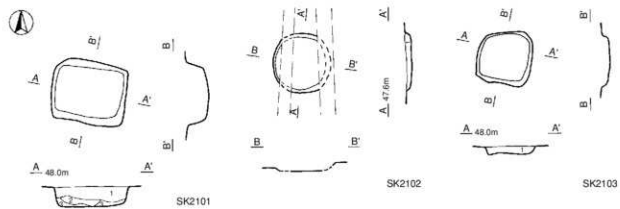
第352図 第90号井戸跡実測図

表26 その他の井戸跡一覧表

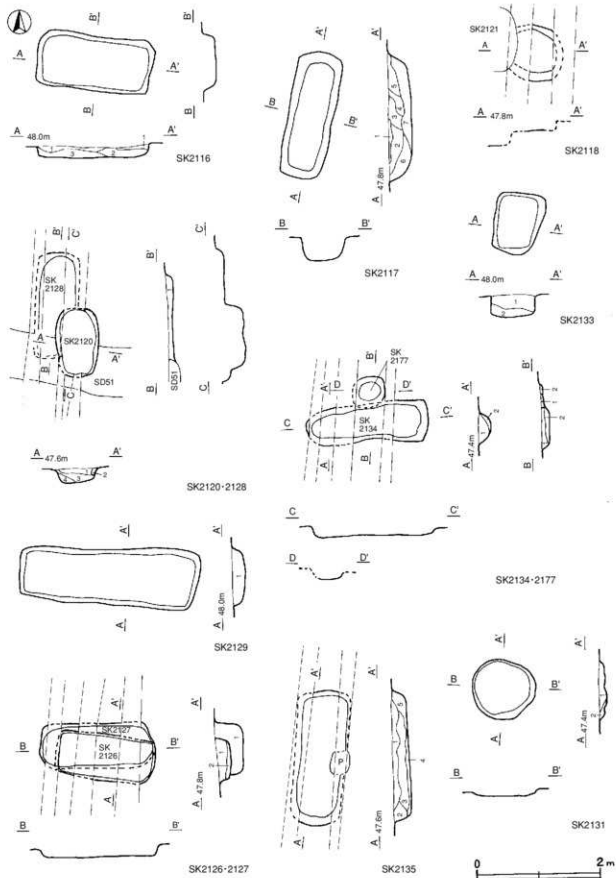
番号	位置	長径方向	平面形	規模		断面形	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)				
69	D 3a3	N - 41° - W	楕円形	1.30 × 1.16	(90)	漏斗状・円筒状	人為		時期不明
81	B 1e6	N - 0°	円形	1.52 × 1.50	(110)	漏斗状・円筒状	人為		時期不明
82	B 1f4	N - 27° - W	[楕円形]	1.63 × (0.60)	(100)	漏斗状・円筒状	人為		時期不明
83	B 1d7	N - 0°	円形	1.04 × 1.04	(120)	円筒状	人為		時期不明
84	B 2h3	N - 0°	円形	1.00 × 0.98	(120)	円筒状	人為	土師器、須恵器	時期不明
85	B 1f0	[N - 0°]	[円形]	[1.70 × 1.60]	(100)	漏斗状・円筒状	人為	土師器	時期不明
86	B 1f9	N - 21° - E	楕円形	1.00 × 0.89	(70)	円筒状	人為	土師器	時期不明
88	C 3e2	N - 0°	円形	1.52 × 1.50	(100)	漏斗状・円筒状	人為	土師器、須恵器	時期不明
89	C 2f9	[N - 82° - W]	[楕円形]	[1.72 × 1.50]	(100)	漏斗状・円筒状	人為	土師器、須恵器	時期不明
90	C 2a3	N - 0°	円形	0.80 × 0.78	(100)	円筒状	人為		時期不明

(5) 土坑

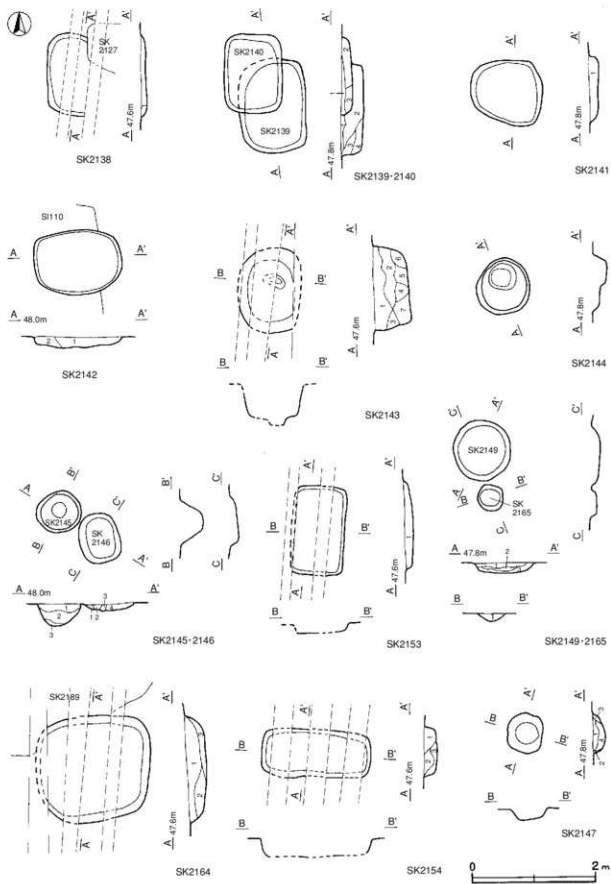
時期不明の土坑が495基確認され、位置や規模などについては一覧表に示す。そのうち364基(第353～374図)は実測図と土層解説を記載する。



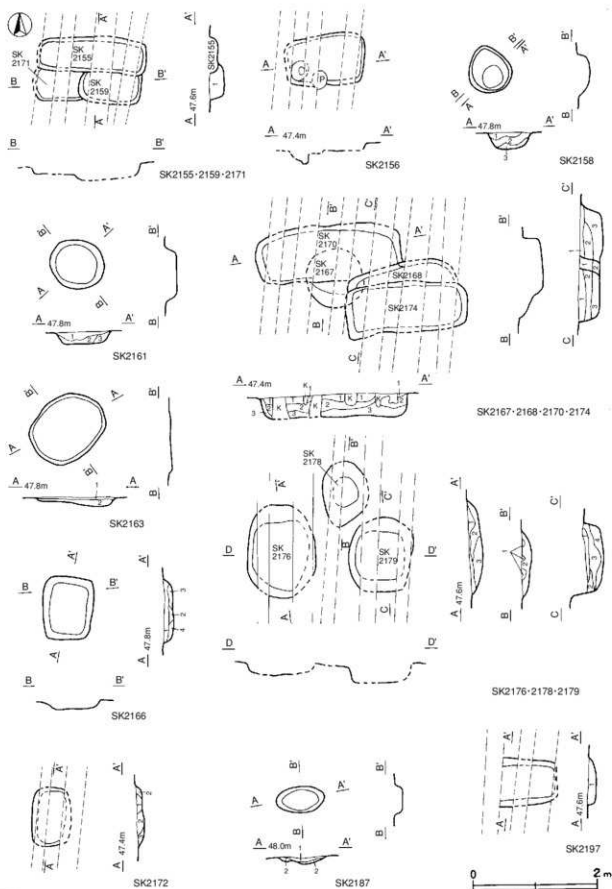
第353図 その他の土坑実測図(1)



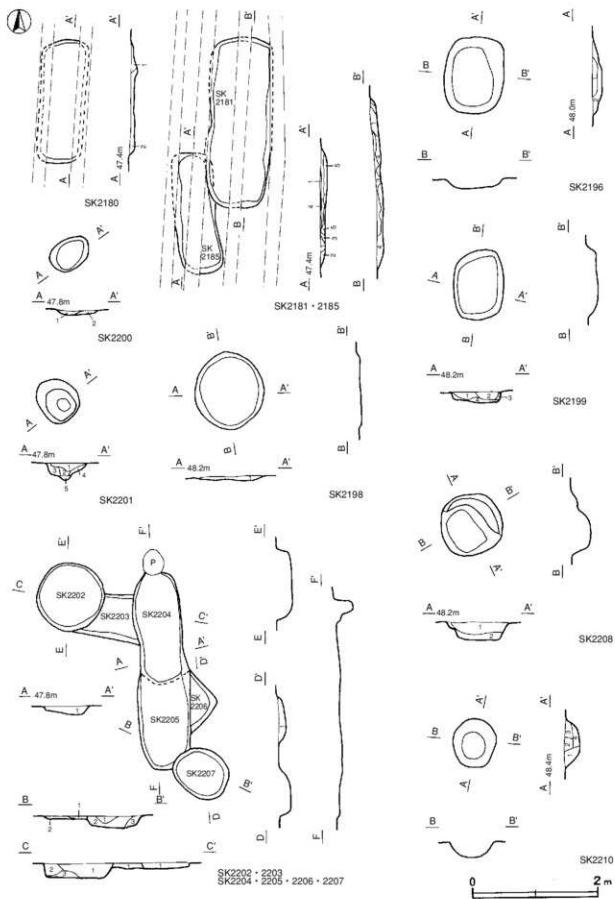
第354図 その他の土坑実測図(2)



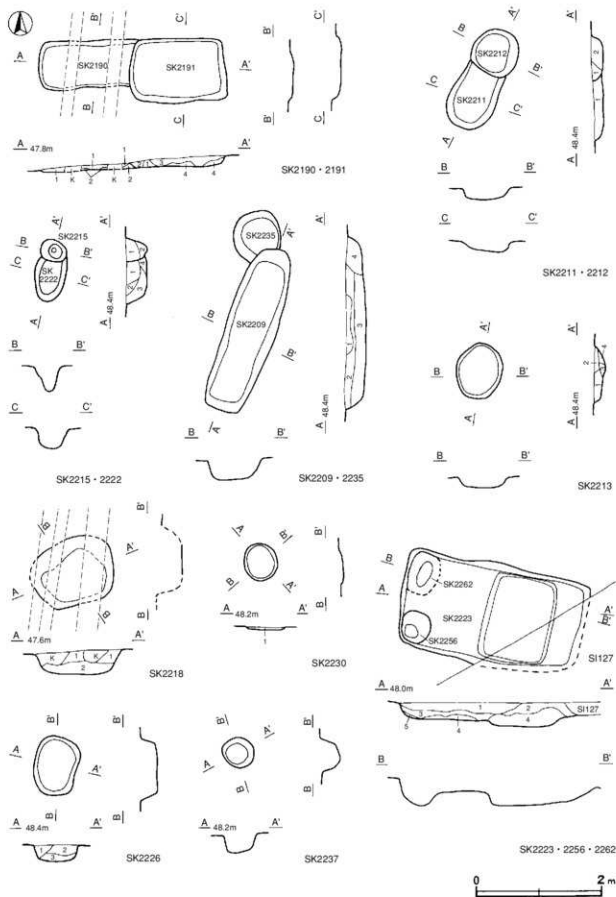
第355図 その他の土坑実測図 (3)



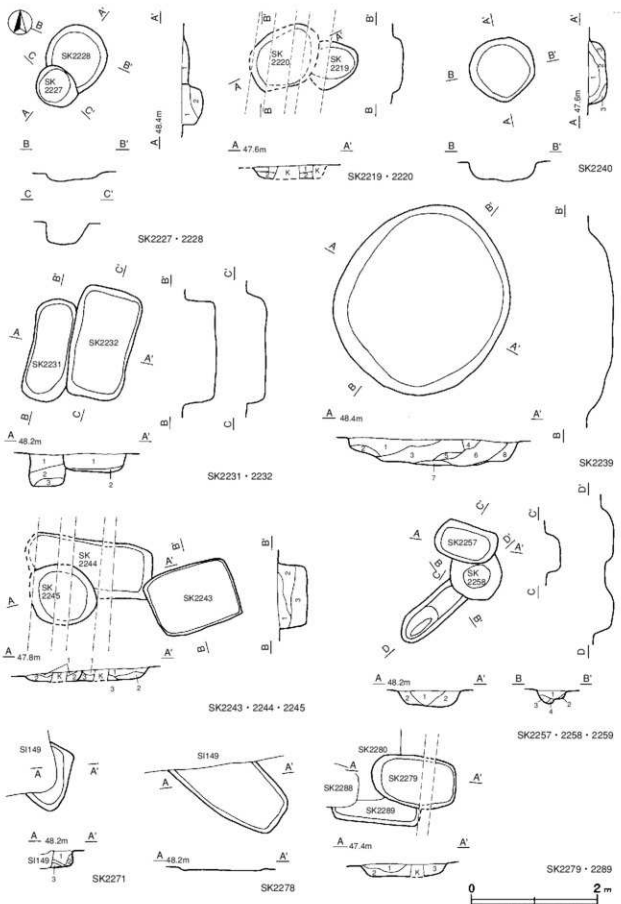
第356図 その他の土坑実測図 (4)



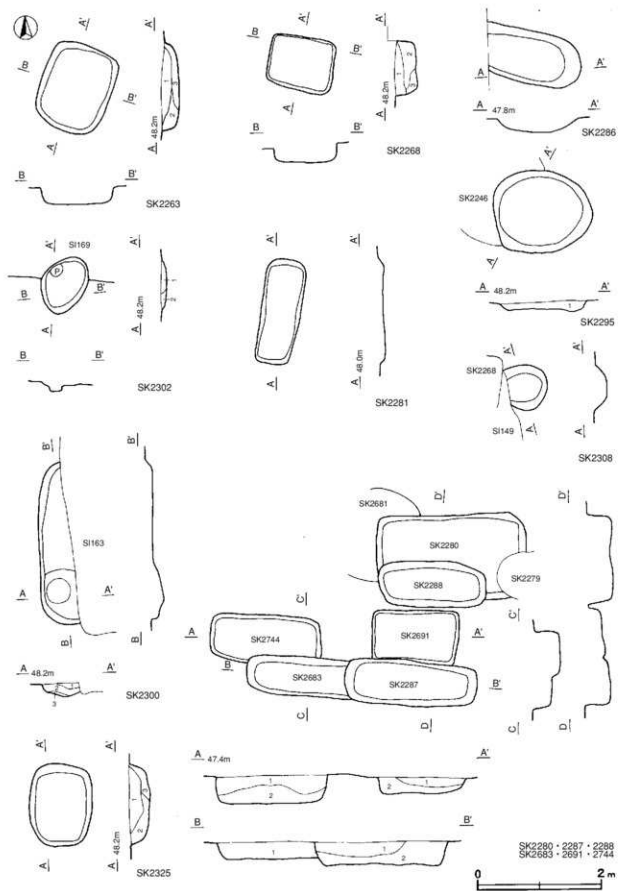
第357図 その他の土坑実測図 (5)



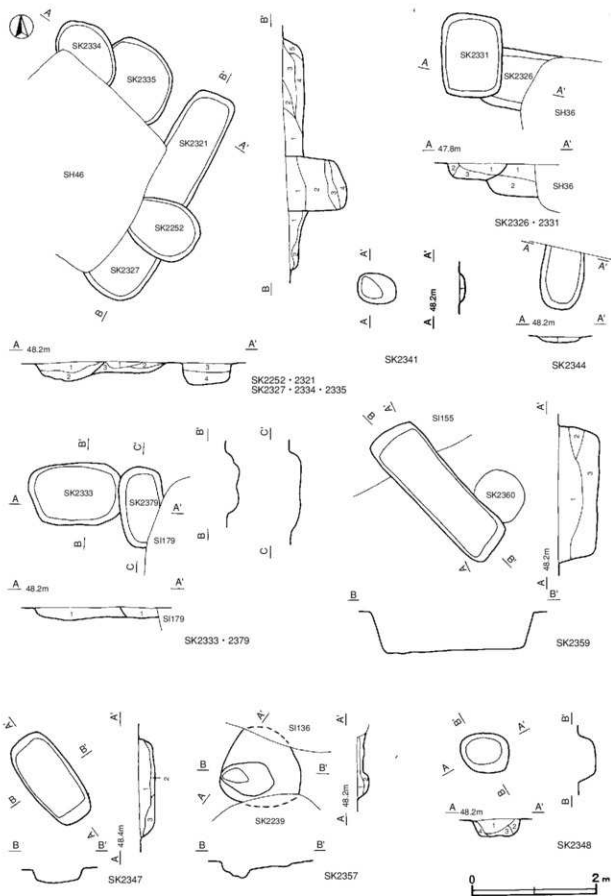
第358図 その他の土坑実測図 (6)



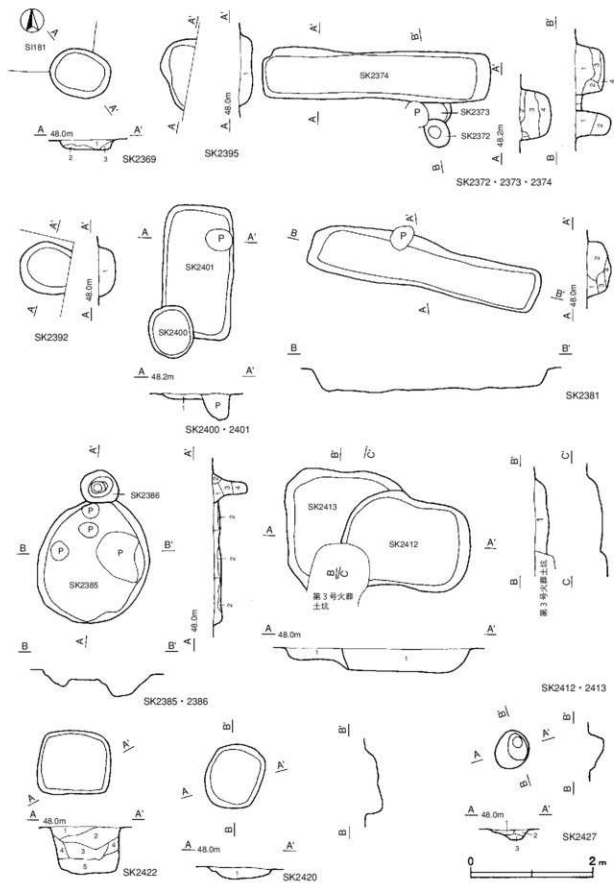
第359図 その他の土坑実測図 (7)



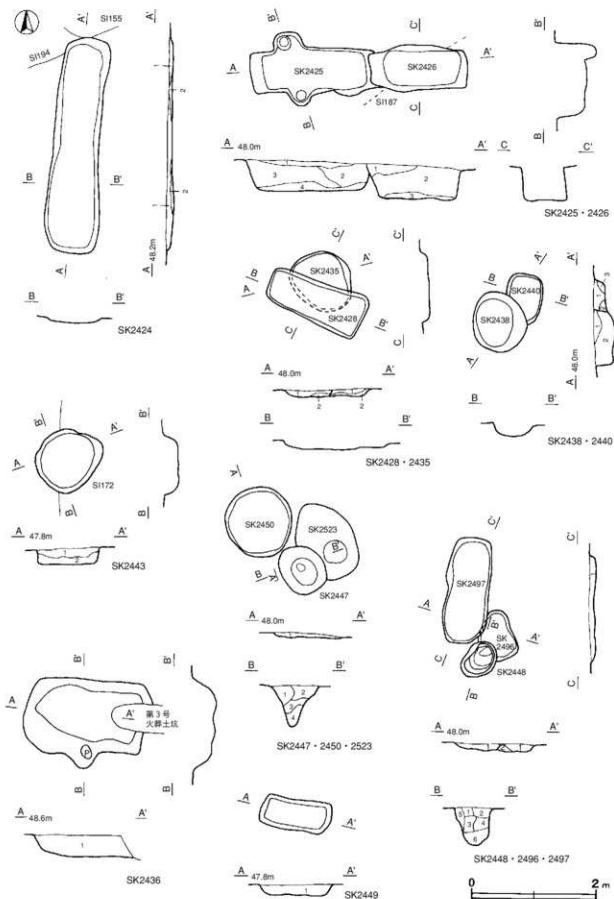
第360図 その他の土坑実測図 (8)



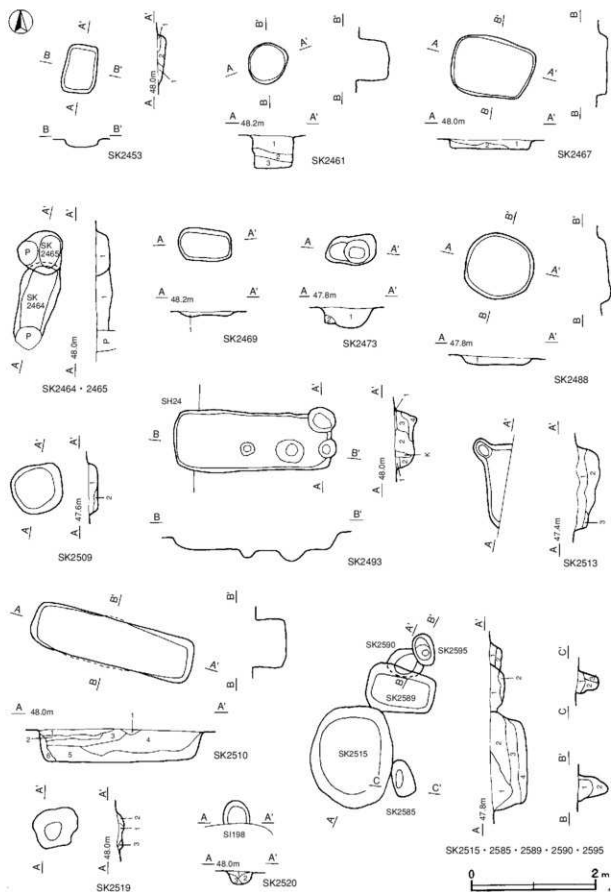
第361図 その他の土坑実測図 (9)



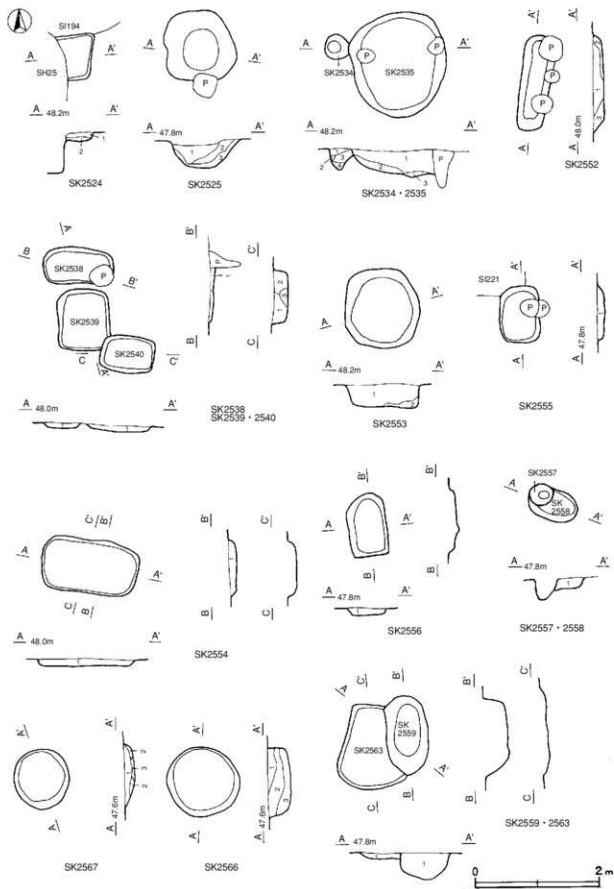
第362図 その他の土坑実測図 (10)



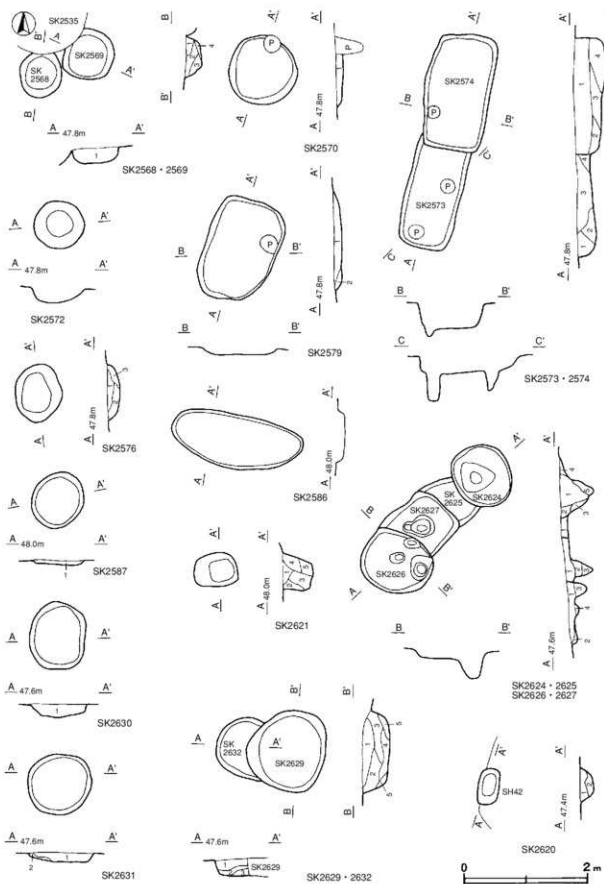
第363図 その他の土坑実測図 (11)



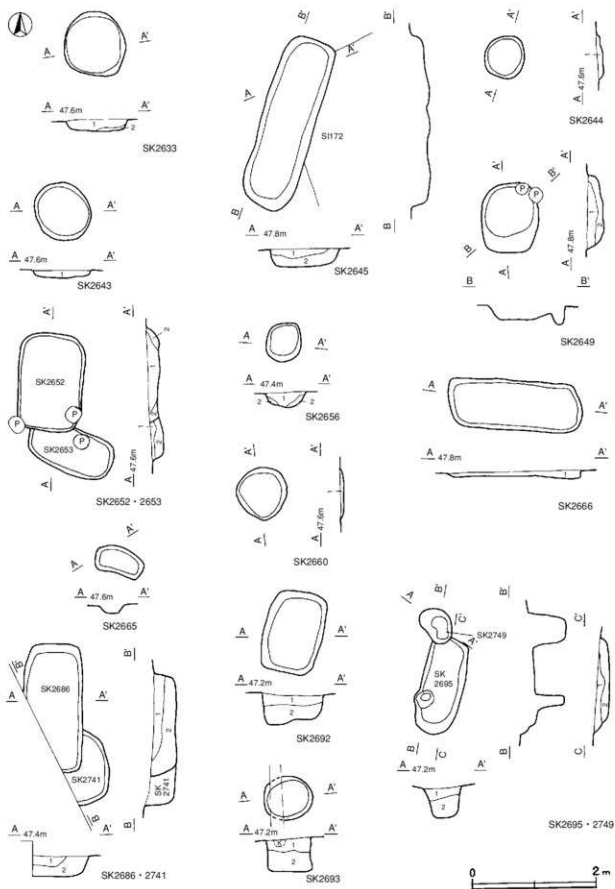
第364図 その他の土坑実測図 (12)



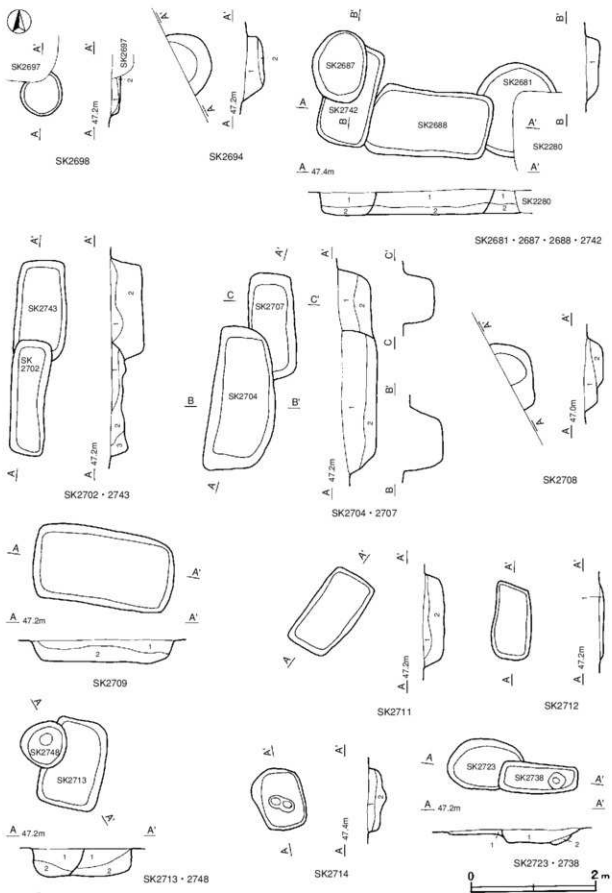
第365図 その他の土坑実測図 (13)



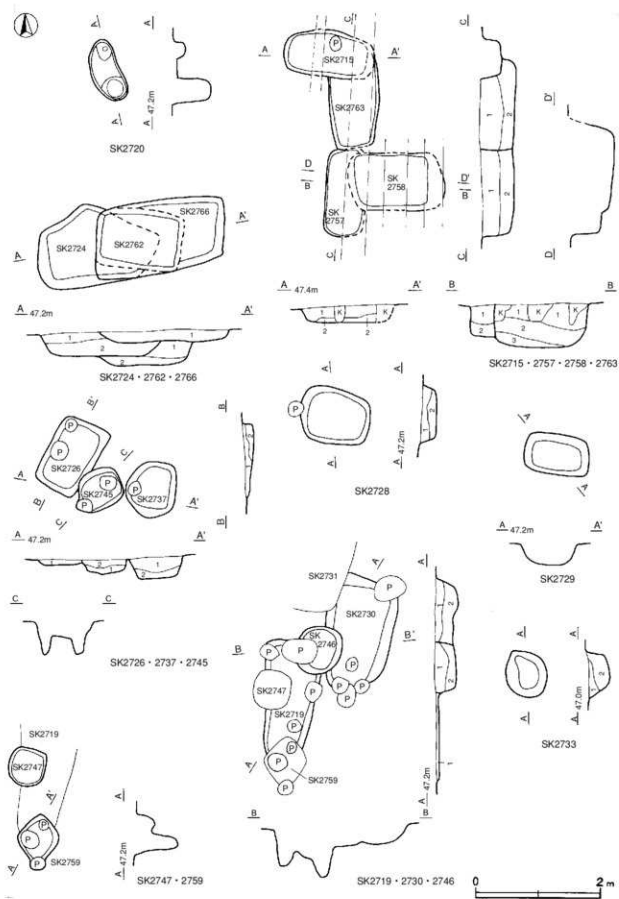
第366図 その他の土坑実測図 (14)



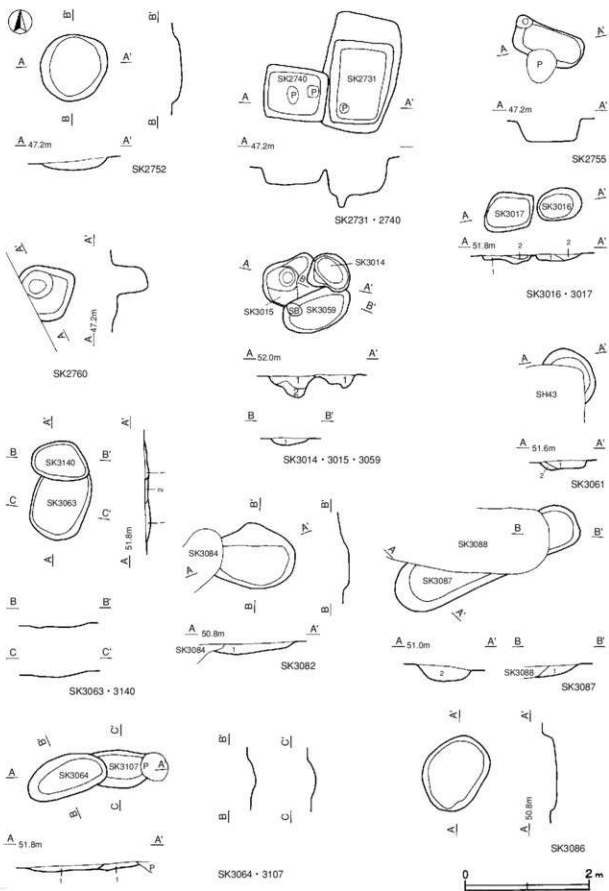
第367図 その他の土坑実測図 (15)



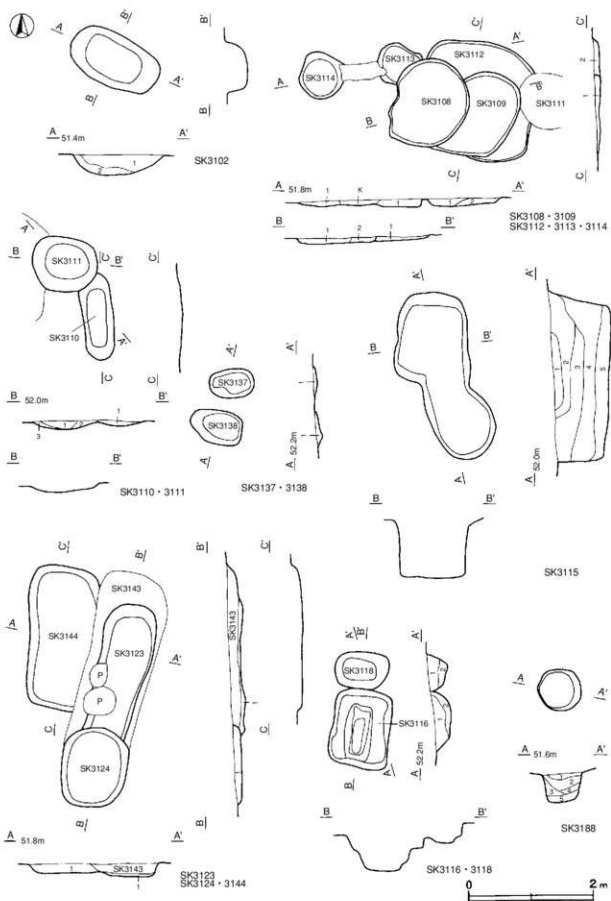
第368図 その他の土坑実測図 (16)



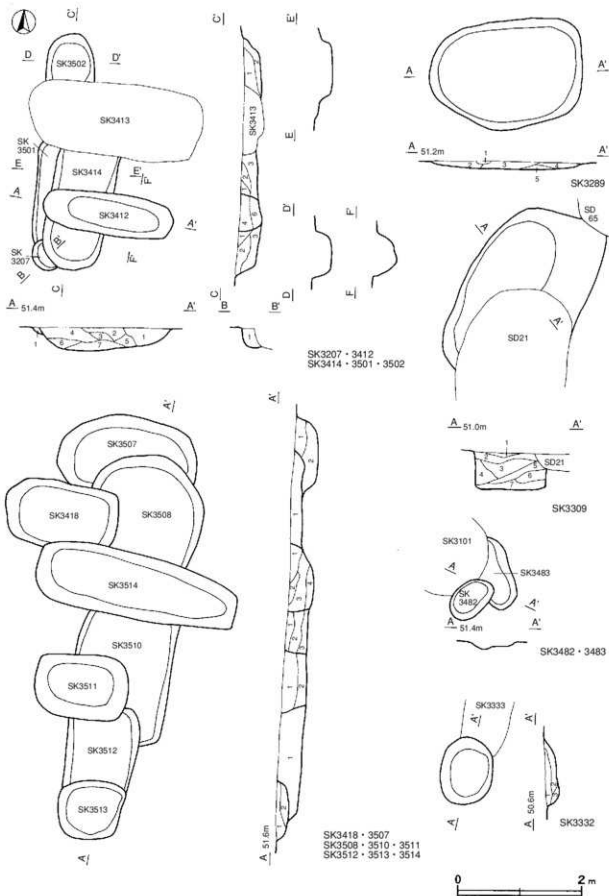
第369図 その他の土坑実測図 (17)



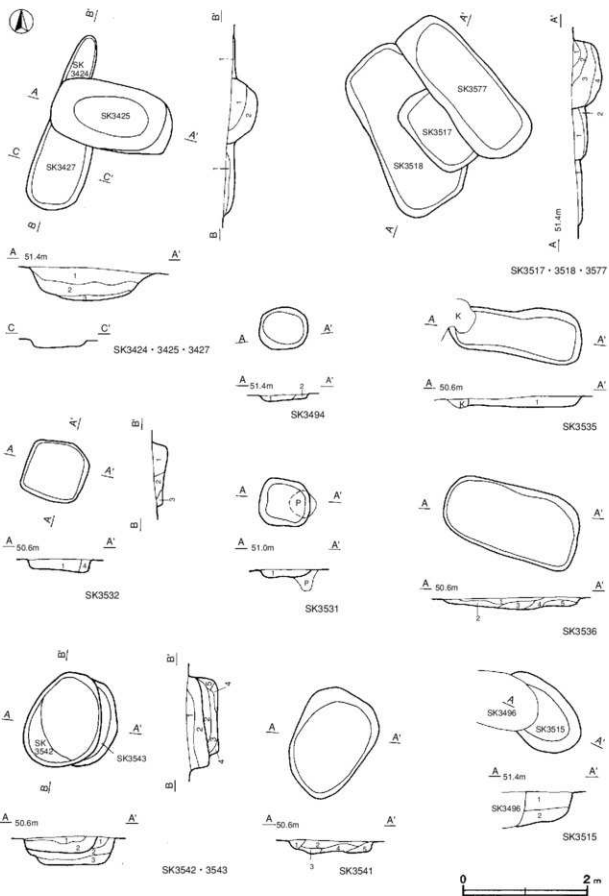
第370図 その他の土坑実測図 (18)



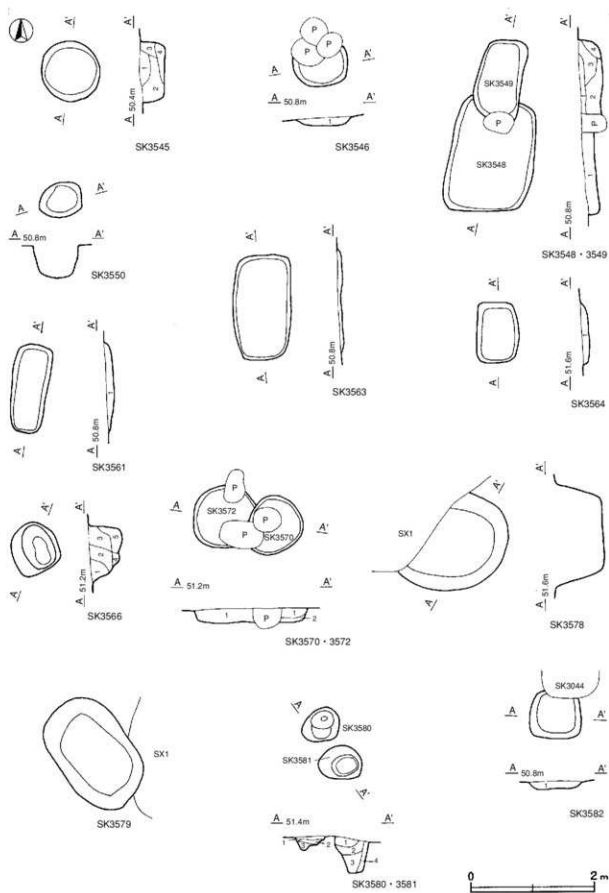
第371図 その他の土坑実測図 (19)



第372図 その他の土坑実測図 (20)



第373図 その他の土坑実測図 (21)



第374図 その他の土坑実測図 (22)

第2101号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第2102号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第2103号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

第2104号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック多量

第2106号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2107号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 棕暗褐色 ロームブロック多量
- 5 棕暗褐色 ロームブロック中量

第2109号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第2110号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第2112号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

第2114号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第2116号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第2117号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック多量

第2120号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第2126号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2127号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第2128号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2129号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック多量

第2131号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミス微量

第2133号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

第2134号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2135号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第2138号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量

第2139号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土パミス微量
- 4 棕暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼パミスブロック微量

第2140号土壌土層解説

- 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第2141号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2142号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

第2143号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミス少量
- 4 黒褐色 鹿沼パミスブロック少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼パミスブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼パミスブロック少量

第2145号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2146号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第2147号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第2149号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2153号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第2154号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第2158号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量
- 3 褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子中量

第2159号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子微量

第2161号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第2163号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第2164号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミス微量

第2165号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第2166号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第2168号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第2170号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第2172号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第2174号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2176号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2177号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土ブロック少量

第2178号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2179号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 極暗褐色 ロームブロック多量

第2180号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第2181号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第2185号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量

第2187号土壌土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第2190号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2191号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第2196号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2197号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第2198号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第2199号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第2200号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック多量

第2201号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量

第2202号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第2203号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

第2204号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

第2205号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

2 黒褐色 ロームブロック中量

第2206号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

第2207号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック微量

第2208号土壌土層解説

1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2209号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

2 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量

第2210号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ロームブロック微量

4 暗褐色 ロームブロック中量

第2211号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

第2212号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

第2213号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

4 暗褐色 ローム粒子中量

第2215号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

第2218号土壌土層解説

1 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック多量

第2220号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第2222号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック微量

第2223号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 棕褐色 ロームブロック微量

3 暗褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ロームブロック多量

5 黒褐色 ロームブロック中量

第2226号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック少量

第2227号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量・焼土ブロック・炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2228号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量・炭化物微量

第2230号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

第2231号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック少量

第2232号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量・焼土ブロック・炭化物微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第2239号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量・粘土ブロック・炭化粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック微量

5 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量

6 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

7 黒褐色 ロームブロック中量

8 黒褐色 ローム粒子少量

第2240号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック微量

3 褐色 ロームブロック少量

第2243号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

2 棕褐色 ロームブロック多量

3 黒褐色 ロームブロック中量

第2244号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック微量

第2245号土壌土層解説

1 棕褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2252号土壌土層解説

1 棕褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック中量・鹿沼バミスブロック少量

4 暗褐色 ロームブロック多量

第2257号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック多量

第2259号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック微量

3 黒褐色 ロームブロック微量

4 褐色 ロームブロック中量

第2263号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第2268号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第2271号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第2279号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第2287号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第2295号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2300号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2302号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2321号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

第2325号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第2326号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第2327号土壌土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2331号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第2333号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2334号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第2335号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第2341号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2344号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第2347号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2348号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量

第2357号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第2359号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第2369号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第2372号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第2373号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第2374号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

第2379号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2381号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第2385号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第2386号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 灰褐色 ロームブロック中量

第2392号土壌土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック多量

第2395号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量

第2401号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量

第2412号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第2413号土壌土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第2420号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量

第2422号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 黒褐色 ロームブロック多量

第2424号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第2425号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 極暗褐色 ロームブロック多量

第2426号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第2427号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第2428号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2435号土壌土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第2436号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第2438号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第2440号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第2443号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2447号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第2448号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第2449号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量

第2450号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量

第2453号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

第2461号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック多量

第2464号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

第2465号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第2467号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2469号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第2473号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第2488号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第2493号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第2496号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第2497号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

第2509号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第2510号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

第2513号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2515号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第2519号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第2520号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第2524号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ローム粒子微量

第2525号土壌土層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2534号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量

第2535号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第2538号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第2539号土壌土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量

第2540号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 棕暗褐色 ロームブロック多量

第2552号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第2553号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2554号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量

第2555号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第2556号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第2558号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第2559号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第2563号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第2566号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第2567号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第2568号土壌土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第2569号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物少量、焼土ブロック微量

第2570号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2573号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第2574号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量

第2576号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第2579号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック微量

第2585号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第2587号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2589号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2590号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2595号土壌土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第2620号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第2621号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量

第2624号土壌土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第2625号土壌土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第2626号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

第2627号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第2629号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

第2630号土壌層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量

第2631号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第2632号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量

第2633号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第2643号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

第2644号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

第2645号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第2649号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第2652号土壌層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第2653号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第2656号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第2660号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量

第2666号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第2681号土壌層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第2683号土壌層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

第2696号土壌層解説

- 1 棕暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第2687号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第2698号土壌層解説

- 1 棕暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第2691号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

第2692号土壌層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量

第2693号土壌層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量

第2694号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

第2695号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第2698号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第2702号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒色 ロームブロック微量

第2704号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第2707号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第2708号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2709号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第2711号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第2712号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第2713号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
- 2 棕暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第2714号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2715号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第2719号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

第2723号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

第2724号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2726号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第2728号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第2730号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2733号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2737号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

第2738号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック微量

第2742号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第2743号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

第2744号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第2745号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第2746号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

第2748号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック微量

第2749号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック微量

第2752号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

第2757号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第2758号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量

2 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

3 褐色 鹿沼バミスブロック多量

第2761号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

第2762号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック少量

第2763号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第3014号土壌土層解説

1 無暗褐色 ロームブロック少量

第3015号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック微量

第3016号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量

2 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3017号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量

第3059号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・粘土粒子微量

第3061号土壌土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

2 灰褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック少量

第3063号土壌土層解説

1 褐色 ロームブロック中量

2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量、焼土ブロック微量

第3064号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3082号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量

第3087号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・粘土粒子微量

第3102号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・鹿沼バミス微量

第3107号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3108号土壌土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量

第3109号土壌土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

第3110号土壌土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3111号土壌土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量

2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

3 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第3112号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第3113号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量

第3114号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3115号土壌層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量

第3116号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
- 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第3118号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第3123号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量

第3124号土壌層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3137号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量

第3138号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3140号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・鹿沼バミス微量

第3144号土壌層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

第3188号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量

第3207号土壌層解説

- 1 褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量

第3289号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
- 4 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼バミス少量

第3309号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
- 3 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 7 褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量

第3332号土壌層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス少量、焼土粒子微量
- 3 黄褐色 鹿沼バミス多量

第3412号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス微量
- 4 暗褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・鹿沼バミスブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、鹿沼バミスブロック微量

第3414号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量

第3424号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量

第3425号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 3 極暗褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

第3427号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

第3494号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第3501号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス中量

第3502号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量

第3507号土壌層解説

- 1 極暗褐色 鹿沼バミス少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミス少量、ローム粒子微量

第3508号土壌層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量、ロームブロック微量

第3510号土壌層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3511号土壌層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

第3512号土壌層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第3513号土壌層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量
- 2 極暗褐色 鹿沼バミスブロック中量

第3514号土壌層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
- 2 極暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
- 3 黒褐色 鹿沼バミスブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量

第3515号土壌層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミス少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック微量

第3517号土壌層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第3518号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス多量、ローム粒子少量

第3531号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量

第3532号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 2 黄褐色 ローム粒子多量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 褐色 鹿沼バミス多量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量

第3535号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量

第3536号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量
- 3 暗褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック微量
- 5 暗褐色 鹿沼バミス多量、ローム粒子少量

第3541号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック少量
- 2 暗褐色 鹿沼バミスブロック多量、ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 鹿沼バミスブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量
- 5 褐色 鹿沼バミス中量

第3542号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミス中量、粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量

第3543号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量
- 5 暗褐色 鹿沼バミス中量

第3545号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量
- 4 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ローム粒子少量

第3546号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量、ロームブロック少量

第3548号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第3549号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック多量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量

第3561号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミス多量、炭化粒子微量

第3563号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

第3564号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、鹿沼バミスブロック微量

第3566号土坑土層解説

- 1 黒褐色 鹿沼バミス多量、ローム粒子少量、粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック多量
- 3 黒褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック・炭化物少量
- 4 極暗褐色 鹿沼バミス少量
- 5 黒褐色 鹿沼バミス中量、炭化粒子少量

第3570号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、鹿沼バミス少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・鹿沼バミス少量

第3572号土坑土層解説

- 1 暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量

第3577号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量
- 2 黒褐色 鹿沼バミス多量、ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス中量
- 4 極暗褐色 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量

第3580号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・鹿沼バミスブロック微量
- 2 極暗褐色 焼土ブロック少量、鹿沼バミスブロック微量
- 3 黒褐色 鹿沼バミスブロック少量

第3581号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量、鹿沼バミスブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 鹿沼バミスブロック中量
- 3 黒褐色 鹿沼バミスブロック微量
- 4 暗褐色 鹿沼バミスブロック少量

第3582号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量

表27 その他の土坑一覧表

番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2101	B 2 g2	N-80°-W	長方形	1.16×1.00	32	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2102	B 1 b8	N-0°	円形	0.96×0.94	10	外傾	平坦	自然		
2103	B 2 g3	N-15°-E	方形	0.88×0.83	14	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2104	B 1 b9	N-89°-W	円形	0.90×0.82	12	緩斜	平坦	人為	土師器	
2105	B 1 a8	N-7°-E	円形	0.98×0.92	13	緩斜	平坦	自然	土師器	
2106	B 1 c8	N-81°-W	長方形	2.62×1.90	20	外傾	平坦	自然	土師器, 陶器細片	
2107	B 1 d8	N-82°-W	長方形	1.41×1.24	53~64	直立	平坦	自然	土師器	
2108	B 1 b7	N-89°-W	円形	0.82×0.74	6	外傾	平坦	自然		
2109	B 1 d8	N-0°	[円形]	1.18×[1.14]	22	直立	平坦	人為		
2110	B 1 d7	N-75°-W	楕円形	0.92×0.78	28	直立	平坦	人為	土師器	
2112	B 2 f1	N-89°-W	長方形	1.32×0.68	6	外傾	平坦	人為	土師器	
2114	B 2 f1	N-89°-E	不整形	0.98×0.86	12	緩斜	皿状	人為	土師器, 陶器細片	
2116	B 2 e2	N-83°-W	長方形	1.84×0.92	20	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2117	B 2 g1	N-12°-E	長方形	2.06×0.71	38	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2118	B 2 f1	N-0°	[円形]	0.91×[0.91]	14	直立	平坦	人為		
2119	B 2 f1	N-0°	不定形	0.80×0.64	82	外傾	凹凸	人為	土師器	
2120	B 1 c9	N-5°-E	[長方形]	1.10×(0.64)	25	外傾	平坦	自然	土師器	
2126	B 1 f0	N-86°-W	隅丸長方形	1.84×0.92	52	外傾	凹凸	人為	弥生土器, 土師器	
2127	B 1 f0	N-86°-W	隅丸長方形	1.82×0.96	40	外傾	平坦	人為		
2128	B 1 c9	N-5°-E	[長方形]	[1.70]×[0.68]	13	外傾	平坦	自然	弥生土器, 土師器	
2129	B 2 b3	N-87°-W	長方形	2.88×0.98	20	直立	平坦	人為	土師器	
2130	B 2 b3	N-6°-E	隅丸長方形	1.87×1.07	15	緩斜	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2131	B 1 b8	N-0°	円形	1.00×1.00	9	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2133	B 2 h2	N-6°-E	隅丸長方形	0.87×0.78	36	直立	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2134	B 1 e8	N-86°-E	[隅丸長方形]	[1.98]×[0.68]	14	外傾	平坦	自然		
2135	B 1 e8	N-0°	[隅丸長方形]	2.18×[0.80]	26	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2136	B 2 b1	N-15°-E	楕円形	0.48×0.43	28	外傾	皿状	人為		
2137	B 2 b2	N-0°	円形	0.35×0.34	12	外傾	平坦	人為		
2138	B 1 f0	N-0°	[隅丸長方形]	1.32×(0.62)	10	外傾	平坦	自然	土師器, 陶器細片	
2139	C 2 d1	N-0°	長方形	1.50×1.06	36	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2140	C 2 d1	N-0°	長方形	1.24×0.92	18	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2141	B 1 f0	N-85°-W	隅丸長方形	1.16×1.06	16	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
2142	B 2 j1	N-87°-E	隅丸長方形	1.40×1.04	18	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2143	B 1 f9	N-0°	[隅丸長方形]	1.36×[1.00]	56	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2144	C 2 c1	N-0°	円形	0.90×0.86	21	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
2145	C 2 b1	N-86°-E	楕円形	0.72×0.68	36	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2146	C 2 b1	N-12°-W	隅丸長方形	0.80×0.66	10~14	緩斜	凹凸	人為	土師器	
2147	C 2 b2	N-0°	円形	0.66×0.59	20	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
2149	C 2 c1	N-0°	円形	0.98×0.92	16	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2153	B 1 h9	N-5°-E	[隅丸長方形]	1.44×[0.84]	12	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2154	B 1 j9	N-86°-W	隅丸長方形	1.76×0.76	30	直立	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
2155	B 1 j8	N-87°-W	[隅丸長方形]	[1.73]×0.57	13	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2156	B 1 j8	N-85°-E	[不整形長方形]	[1.30]×0.84	12	外傾	平坦	人為	土師器	
2158	C 2 a2	N-12°-W	不整形楕円形	0.77×0.73	25	直立	平坦	人為	土師器	
2159	C 1 a8	N-83°-W	[隅丸長方形]	0.99×(0.59)	24	直立	平坦	人為	土師器	

番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)					
2161	C 2 b2	N - 0°	円形	0.88 × 0.80	20	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2163	C 2 c2	N - 50° - E	隅丸長方形	1.20 × 1.00	4	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2164	C 1 c9	N - 88° - E	[隅丸方形]	[1.88] × 1.75	31	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
2165	C 2 c1	N - 0°	円形	0.44 × 0.44	12	緩斜	皿状	自然	土師器	
2166	C 2 j1	N - 4° - E	隅丸長方形	0.99 × 0.80	14	緩斜	平坦	人為		
2167	B 1 j8	N - 0°	[円形]	[0.94] × [0.90]	20	外傾	平坦	人為		
2168	B 1 j8	N - 78° - E	[隅丸長方形]	[1.60] × [0.40]	34	直立	皿状	自然	土師器, 須恵器	
2169	B 1 c9	N - 0°	[長方形]	[1.28] × [0.68]	24	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2170	B 1 i8	N - 80° - E	隅丸長方形	2.30 × 0.84	30	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2171	C 1 a8	N - 90° - W	[隅丸長方形]	[0.73] × [0.48]	10	外傾	平坦	人為		
2172	B 1 f7	N - 0°	[隅丸長方形]	0.94 × [0.62]	22	緩斜	平坦	人為	土師器	
2174	B 1 j8	N - 84° - E	隅丸長方形	1.94 × 0.80	36	直立	平坦	人為		
2176	B 1 d9	N - 0°	楕円形	1.50 × 1.10	20	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
2177	B 1 e8	N - 0°	[円形]	[0.52] × [0.52]	15	外傾	平坦	人為		
2178	B 1 d9	N - 0°	[楕円形]	[1.00] × [0.74]	12 ~ 16	直立	凹凸	人為		
2179	B 1 d9	N - 0°	隅丸長方形	1.18 × 1.00	26	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2180	B 1 e9	N - 7° - E	[隅丸長方形]	1.96 × [0.72]	10	外傾	平坦	人為		
2181	B 1 e8	N - 6° - E	[長方形]	[2.70] × 1.40	10	緩斜	平坦	人為		
2185	B 1 e8	N - 10° - W	隅丸長方形	1.92 × 0.68	10	外傾	平坦	人為		
2187	B 2 c2	N - 76° - E	楕円形	0.80 × 0.46	12	外傾	平坦	人為	土師器	
2188	C 1 b9	N - 31° - E	[楕円形]	[1.90] × [1.48]	28	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	
2189	C 1 e8	N - 53° - E	[楕円形]	[1.35] × [1.01]	29	外傾	皿状	人為		
2190	B 1 i0	N - 89° - E	[長方形]	[1.70] × 0.76	8	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2191	B 2 i1	N - 89° - E	長方形	1.50 × 1.04	12	外傾	平坦	人為	土師器	
2192	C 2 j1	N - 7° - W	楕円形	0.61 × 0.45	42	緩斜	皿状	人為		
2193	B 2 j3	N - 0°	楕円形	0.94 × 0.70	6	緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2196	B 2 i1	N - 9° - E	隅丸長方形	1.22 × 0.95	16	緩斜	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2197	B 1 j9	N - 88° - E	[隅丸長方形]	[0.84] × 0.79	12	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2198	B 2 i7	N - 0°	円形	1.22 × 1.11	6	外傾	平坦	人為		
2199	B 2 j6	N - 0°	隅丸長方形	1.12 × 0.80	18	直立	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2200	C 2 b2	N - 49° - E	楕円形	0.70 × 0.49	13	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
2201	C 2 a2	N - 45° - W	楕円形	0.74 × 0.62	28	外傾	皿状	人為		
2202	C 2 d1	N - 0°	円形	1.10 × 1.08	22	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2203	C 2 d1	N - 85° - W	-	(1.04) × 0.70	8	-	平坦	人為		
2204	C 2 d2	N - 5° - W	隅丸長方形	1.80 × 0.64	10	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2205	C 2 d2	N - 0°	[隅丸長方形]	(1.52) × 0.82	6	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2206	C 2 d2	N - 40° - W	[方形]	(0.64) × (0.52)	12	外傾	皿状	人為	土師器, 陶器細片	
2207	C 2 e2	N - 50° - W	楕円形	0.91 × 0.74	18	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2208	B 2 i7	N - 0°	円形	1.02 × 1.02	30	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2209	B 2 i9	N - 21° - E	長方形	2.74 × 0.81	30	外傾	平坦	人為	土師器	
2210	B 2 j9	N - 2° - W	円形	0.76 × 0.71	26	外傾	皿状	人為	土師器	
2211	C 2 a0	N - 29° - E	[楕円形]	(0.94) × 0.80	16	外傾	平坦	人為	土師器	
2212	B 2 j0	N - 57° - W	円形	0.74 × 0.72	18	外傾	平坦	人為	土師器	
2213	B 2 j9	N - 0°	楕円形	0.88 × 0.77	18	外傾	平坦	人為	土師器	
2215	B 2 j0	N - 61° - W	楕円形	0.42 × 0.34	42	外傾	皿状	人為		

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2218	B 1 19	N - 63° - E	楕円形	1.36 × 1.08	40	外傾	平坦	人為		
2219	B 1 19	N - 89° - E	[楕円形]	[0.90] × [0.78]	21	外傾	平坦	人為		
2220	B 1 19	N - 42° - E	[楕円形]	[1.24] × [0.96]	18	外傾	平坦	人為		
2221	B 2 h3	N - 1° - W	[長方形]	1.59 × (0.30)	25	直立	平坦	人為		
2222	B 2 j0	N - 11° - E	[楕円形]	(0.68) × 0.51	34	外傾	皿状	人為	土師器	
2223	B 2 j3	N - 79° - E	長方形	2.95 × 1.66	21	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2225	C 2 a4	N - 0°	長楕円	0.45 × (0.20)	62	縦斜	皿状	人為		
2226	B 2 j0	N - 12° - E	楕円形	0.93 × 0.70	24	直立	平坦	人為	土師器	
2227	C 2 b0	N - 74° - W	円形	0.68 × 0.64	32	直立	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2228	C 2 b0	N - 0°	楕円形	1.10 × 0.94	10	外傾	平坦	人為		
2230	C 2 b9	N - 30° - W	楕円形	0.60 × 0.52	6	外傾	平坦	人為		
2231	C 2 b9	N - 15° - E	隅丸長方形	1.66 × 0.68	50	直立	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2232	C 2 b9	N - 17° - E	隅丸長方形	1.78 × 1.00	30	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2233	C 2 a3	N - 0°	円形	0.23 × 0.23	37	外傾	U字	人為		
2235	B 2 19	N - 0°	円形	0.80 × 0.78	30	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2237	B 2 17	N - 0°	円形	0.52 × 0.50	28	外傾	平坦	人為	土師器	
2239	B 2 19	N - 27° - E	楕円形	3.02 × 2.60	42	縦斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
2240	C 2 f1	N - 0°	円形	1.04 × 1.04	31	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2243	B 2 h1	N - 75° - E	長方形	1.35 × 1.03	34	直立	平坦	人為	土師器	
2244	B 2 h1	N - 81° - W	[不整長方形]	[2.01] × 0.86	14	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2245	B 1 h0	N - 71° - W	[楕円形]	1.13 × [0.94]	10	縦斜	平坦	人為	土師器	
2246	B 2 13	N - 75° - W	不定形	0.79 × 0.54	9	縦斜	平坦	人為		
2247	C 2 a9	N - 0°	円形	1.11 × 1.07	20	直立	平坦	人為		
2248	B 3 11	[N - 71° - W]	[隅丸長方形]	(1.10) × (0.50)	43	縦斜	凹凸	人為		
2249	B 2 h8	[N - 78° - W]	[不定形]	(0.90) × (0.25)	37	縦斜	皿状	人為		
2252	C 2 a8	N - 54° - W	[楕円形]	(1.10) × 0.98	90	直立	平坦	人為		
2256	B 2 j3	N - 0°	円形	0.50 × 0.47	26	縦斜	皿状	-		
2257	B 3 j1	N - 69° - W	長方形	0.96 × 0.60	22	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2258	B 3 j1	N - 0°	[円形]	[0.90] × 0.84	26	縦斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2259	B 3 j1	N - 47° - E	[隅丸長方形]	(1.20) × 0.47	30	外傾	凹凸	人為		
2262	B 2 j3	N - 20° - W	楕円形	0.68 × 0.50	20	外傾	皿状	人為		
2263	B 3 11	N - 23° - E	長方形	1.40 × 1.12	28	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2265	C 2 f3	N - 35° - W	隅丸長方形	1.46 × 0.93	48	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2266	C 2 f3	N - 28° - W	隅丸長方形	1.33 × 0.84	48	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2267	C 2 f3	-	-	(0.86) × (0.65)	50	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2268	B 3 13	N - 76° - W	長方形	1.05 × 0.97	30	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2269	C 2 c7	N - 65° - W	不整楕円形	1.69 × 0.95	15	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2271	B 3 j3	[N - 17° - E]	[長方形]	0.98 × (0.57)	34	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2272	B 2 h2	N - 40° - W	不整楕円形	0.60 × 0.28	19	縦斜	凹凸	人為	弥生土器	
2274	C 2 c6	N - 90° - W	隅丸長方形	1.63 × 1.29	66	直立	平坦	人為	土師器, 陶器破片	
2278	C 3 a3	[N - 52° - W]	[長方形]	(1.76) × 1.00	4	縦斜	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2279	B 1 17	N - 84° - W	長方形	1.34 × 0.80	19	外傾	平坦	人為	土師器	
2280	B 1 17	N - 88° - E	長方形	2.39 × 1.38	40	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2281	B 3 j3	N - 7° - E	長方形	1.70 × 0.62	42	直立	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2282	B 2 19	N - 80° - W	円形	0.30 × 0.28	30	外傾	平坦	人為		

番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
2286	C 2 b6	N-76°-W	[長楕円形]	(1.53)×0.88	21	縦斜	平坦	人為	土師器、陶器細片	
2287	B 1 j7	N-88°-W	[隅丸長方形]	0.70×(0.36)	52	直立	平坦	人為		
2288	B 1 j7	N-90°-W	[長楕円形]	0.70×(0.52)	54	外傾	平坦	人為		
2289	B 1 i7	N-84°-W	[長方形]	1.38×(0.40)	-	外傾	平坦	-		
2292	B 2 i8	N-0°	円形	0.62×0.61	39	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2293	B 2 i9	N-30°-E	[楕円形]	[1.03]×0.70	32	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2295	C 2 a0	N-72°-W	楕円形	1.60×1.40	16	縦斜	平坦	人為	土師器、須恵器	
2297	C 2 c7	N-9°-W	[隅丸長方形]	[1.15]×0.76	12	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2298	C 2 c7	N-66°-W	楕円形	0.56×0.48	48	外傾	皿状	人為		
2300	C 3 b3	N-0°	[長楕円形]	(2.58)×(0.58)	20	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2301	C 3 b4	N-0°	円形	0.37×0.36	58	外傾	皿状	人為		
2302	C 3 d4	N-26°-E	楕円形	0.97×0.70	4	縦斜	平坦	人為		
2308	B 3 j3	N-90°	[楕円形]	0.72×(0.63)	21	縦斜	平坦	人為		
2321	C 2 a8	N-29°-E	[長方形]	(1.92)×0.80	34	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2325	C 3 a5	N-5°-E	[隅丸長方形]	1.32×1.00	32	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
2326	B 3 j3	N-78°-W	[隅丸長方形]	[1.40]×0.95	52	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
2327	C 2 a8	N-25°-E	[楕円形]	(1.01)×0.86	36	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
2331	B 3 j3	N-1°-W	長方形	1.34×0.97	25	縦斜	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2333	C 3 c3	N-89°-E	[隅丸長方形]	(1.47)×0.99	20	縦斜	凹凸	人為	土師器、須恵器	
2334	B 2 j8	N-32°-W	[楕円形]	1.22×(0.62)	32	外傾	皿状	人為	土師器	
2335	B 2 j8	N-19°-W	楕円形	1.46×1.01	18	縦斜	平坦	人為		
2338	C 3 c4	N-88°-W	長方形	1.23×0.68	24	縦斜	平坦	人為	土師器	
2340	C 3 b2	N-90°-W	楕円形	0.67×0.59	14	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2341	C 3 d4	N-80°-W	楕円形	0.65×0.48	15	縦斜	凹凸	自然		
2344	B 3 j4	N-9°-E	[隅丸長方形]	(0.96)×0.70	10	縦斜	平坦	自然	土師器	
2347	C 3 a2	N-40°-W	長方形	1.60×0.77	24	外傾	平坦	自然	弥生土器、土師器	
2348	C 3 a3	N-89°-E	楕円形	0.79×0.66	26	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2350	C 3 a7	N-5°-E	[長方形]	[1.32]×1.11	28	外傾	凹凸	人為		
2351	C 3 c5	N-89°-E	長方形	0.80×0.40	11	外傾	平坦	自然		
2352	C 3 c5	N-5°-W	長方形	1.06×0.56	26	直立	平坦	人為		
2354	C 2 e0	N-8°-E	[隅丸長方形]	1.09×0.79	12	縦斜	凹凸	自然	土師器、須恵器	
2355	C 2 e0	N-90°-E	[隅丸長方形]	2.75×0.63	29	直立	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2357	B 2 i9	N-0°	[楕円形]	1.27×[1.26]	21	外傾	凹凸	人為	土師器	
2358	C 3 b3	N-7°-E	楕円形	1.90×0.60	8~12	外傾	平坦	自然		
2359	C 3 e2	N-45°-W	長方形	2.59×0.82	61~67	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2360	C 3 c2	N-21°-W	円形	0.82×0.80	50	直立	平坦	自然		
2361	C 3 c2	N-42°-W	楕円形	0.87×0.70	31	外傾	皿状	自然	土師器、須恵器	
2363	C 3 b3	N-7°-E	[隅丸長方形]	1.30×(0.42)	23	外傾	平坦	人為	土師器	
2369	C 3 a7	N-79°-E	楕円形	1.00×0.84	14	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2370	C 3 d1	N-0°	[円形]	0.99×0.93	18	縦斜	皿状	人為	土師器、須恵器	
2371	C 2 e0	N-37°-W	不定形	1.10×1.07	36	直立	凹凸	人為	弥生土器、土師器	
2372	C 3 e3	N-30°-W	楕円形	0.46×0.38	60	直立	皿状	人為	土師器	
2373	C 3 d3	N-0°	[円形]	0.76×(0.42)	12	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2374	C 3 d2	N-87°-W	長方形	3.72×0.83	48	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2376	C 3 b3	N-7°-E	長楕円形	1.90×0.60	33	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)					
2378	C 3 a3	N - 9° - E	長楕円形	1.33 × 0.45	27	外傾	皿状	人為		
2379	C 3 c3	N - 9° - W	隅丸長方形	1.31 × 0.72	20	緩斜	平坦	自然	土師器	
2381	C 3 f2	N - 76° - W	長方形	3.78 × 0.88	38	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2384	B 3 j4	N - 90° - W	楕円形	0.65 × 0.46	14	外傾	平坦	人為		
2385	C 3 e5	N - 21° - E	楕円形	2.09 × 1.76	10,24,38	緩斜	凹凸	人為	弥生土器、土師器	
2386	C 3 e5	N - 78° - W	円形	0.63 × 0.54	54	外傾	皿状	人為		
2388	C 3 d1	N - 7° - E	不整長方形	0.87 × 0.71	12	緩斜	平坦	人為		
2392	C 3 a8	N - 14° - E	[円形]	0.82 × (0.79)	26	外傾	平坦	人為		
2395	C 3 c7	-	-	1.14 × (0.44)	21	外傾	平坦	人為		
2400	C 3 b4	N - 8° - W	楕円形	0.86 × 0.74	12	外傾	平坦	自然		
2401	C 3 b5	N - 4° - E	長方形	2.15 × 1.15	6	緩斜	平坦	自然		
2404	C 3 a6	N - 22° - W	楕円形	[0.86] × 0.69	22	直立	平坦	人為	土師器	
2405	C 3 a4	N - 80° - E	楕円形	0.28 × 0.23	24	直立	平坦	人為		
2407	C 3 a6	N - 82° - E	不定形	1.25 × 0.55	16	緩斜	凹凸	人為		
2408	C 2 c6	N - 70° - E	[楕円形]	1.07 × (0.93)	47	外傾	平坦	人為		
2410	C 3 e1	N - 0°	円形	0.97 × 0.90	13	外傾	平坦	人為	弥生土器、土師器	
2411	C 2 c6	N - 55° - E	[楕円形]	(0.38) × 0.41	18	緩斜	皿状	人為		
2412	C 3 b8	N - 78° - W	不整楕円形	2.06 × 1.92	20	外傾	平坦	自然	土師器	
2413	C 3 b7	N - 70° - E	[隅丸長方形]	1.95 × (1.30)	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器、土師器	
2419	C 2 c7	N - 0°	円形	0.29 × 0.29	52	直立	平坦	人為		
2420	C 3 e5	N - 8° - E	隅丸長方形	1.04 × 0.93	20	緩斜	凹凸	人為	土師器、須恵器	
2422	C 3 a6	N - 89° - W	長方形	1.20 × 1.04	74	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	
2424	C 3 c1	N - 2° - E	長方形	3.47 × 0.87	8	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
2425	C 3 f4	N - 86° - E	長方形	1.91 × 1.20	66	直立	平坦	人為	土師器、灰軸陶器細片	
2426	C 3 f4	N - 87° - E	長方形	1.54 × 0.61	52	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	
2427	C 2 f9	N - 30° - E	楕円形	0.62 × 0.55	24	緩斜	皿状	人為	弥生土器、土師器	
2428	C 2 g9	N - 67° - W	長方形	1.60 × 0.74	11	外傾	平坦	人為	土師器	
2429	C 3 a4	N - 84° - W	隅丸方形	0.30 × 0.28	33	直立	平坦	人為		
2435	C 2 g9	N - 50° - W	[楕円形]	1.02 × [0.84]	9	外傾	平坦	人為	土師器、陶器細片	
2436	C 3 b7	N - 87° - W	不整楕円形	1.92 × 1.14	20	緩斜	凹凸	自然	土師器	
2438	C 2 g9	N - 24° - W	楕円形	0.98 × 0.86	30	外傾	平坦	人為	土師器	
2440	C 2 g9	N - 20° - E	[長方形]	(0.79) × 0.58	16	直立	平坦	人為		
2443	C 2 h9	N - 30° - E	楕円形	1.22 × 0.97	26	外傾	凹凸	人為	弥生土器、土師器	
2447	C 3 g1	N - 43° - W	楕円形	0.81 × 0.70	66	緩斜	皿状	人為	弥生土器	
2448	C 3 f1	N - 36° - E	楕円形	0.62 × 0.48	60	外傾	皿状	人為	弥生土器、土師器	
2449	C 3 g5	N - 80° - W	長方形	1.10 × 0.52	18	外傾	平坦	人為	土師器	
2450	C 3 g1	N - 22° - E	円形	1.12 × 1.08	10	外傾	平坦	人為	土師器	
2453	C 3 d2	N - 7° - E	長方形	0.76 × 0.54	16	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器	
2454	C 3 c3	N - 30° - W	円形	0.40 × 0.37	57	直立	皿状	人為	弥生土器、土師器	
2455	C 3 c3	N - 11° - W	楕円形	(0.82) × 0.47	8 ~ 12	外傾	平坦	自然	土師器	
2456	C 3 c3	N - 90° - W	楕円形	0.80 × 0.40	12	外傾	皿状	自然		
2461	C 2 b9	N - 55° - E	楕円形	0.68 × 0.62	52	外傾	平坦	自然	土師器、須恵器	
2464	C 3 g5	N - 15° - E	長楕円形	1.30 × 0.64	36	緩斜	平坦	人為	土師器	
2465	C 3 f5	N - 8° - E	楕円形	0.70 × 0.56	21	外傾	平坦	人為	土師器	
2467	C 2 e7	N - 76° - W	隅丸長方形	1.30 × 0.98	15	直立	平坦	自然	弥生土器、土師器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
2469	C 3 a6	N - 85° - W	隅丸長方形	0.86 × 0.52	6	外傾	平坦	人為		
2470	C 3 a6	N - 18° - W	不定形	0.90 × 0.61	63	外傾	皿状	人為		
2471	C 2 g9	N - 23° - E [楕円形]		[0.84] × 0.66	32	直立	凹凸	人為	土師器	
2473	C 3 g6	N - 85° - E	不定形	0.80 × 0.45	31	外傾	皿状	人為	土師器	
2488	C 2 i9	N - 57° - W	楕円形	1.22 × 1.07	16	直立	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2489	C 2 g9	N - 0°	[隅丸長方形]	(1.20) × 0.52	16	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2490	C 2 g9	N - 73° - W	隅丸長方形	[1.80] × 1.00	10	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2491	C 3 b8	N - 17° - W	[方形]	1.02 × (0.64)	42	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2493	C 3 e3	N - 88° - W	長方形	2.52 × 0.98	18	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2496	C 3 f1	N - 2° - W	[楕円形]	0.82 × (0.54)	9	縦斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2497	C 3 f1	N - 10° - E	長方形	1.74 × 0.70	10	縦斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2499	C 3 a4	N - 0°	[長楕円形]	(0.87) × 0.60	12	縦斜	平坦	自然		
2501	C 3 d2	-	-	1.02 × (0.45)	24	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2504	C 3 d4	N - 90° - E	[方形]	0.52 × (0.40)	8	外傾	平坦	人為		
2505	C 3 f3	N - 88° - W	隅丸長方形	1.96 × 1.05	24	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2507	C 3 d2	N - 4° - E	楕円形	0.6 × 0.49	32	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2509	C 2 i7	N - 44° - E	楕円形	0.88 × 0.82	14	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
2510	C 3 g3	N - 75° - W	長方形	2.65 × 0.72	50	直立	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2511	C 3 f3	N - 0°	円形	0.52 × 0.52	54	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2513	C 3 g7	N - 0°	不定形	1.32 × 0.40	30	外傾	平坦	人為		
2515	C 3 h1	N - 0°	楕円形	1.64 × 1.30	43	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2516	C 3 f2	N - 61° - W	長楕円形	1.11 × 0.48	20	縦斜	平坦	自然		
2517	C 3 f2	N - 74° - W	長楕円形	1.40 × 0.46	5	縦斜	平坦	自然		
2518	C 3 f3	N - 83° - W	隅丸長方形	1.02 × 0.66	6	縦斜	皿状	自然	弥生土器, 土師器	
2519	C 3 d2	N - 52° - E	不定形	0.71 × 0.60	9	縦斜	皿状	自然		
2520	C 3 d2	N - 0°	[楕円形]	(0.35) × 0.40	32	縦斜	皿状	人為	土師器	
2523	C 3 g1	N - 30° - W	楕円形	1.33 × 0.86	10	外傾	平坦	人為	土師器	
2524	C 3 e1	N - 0°	[方形]	0.72 × [0.65]	16	直立	平坦	自然	土師器	
2525	C 3 h1	N - 0°	不整形	1.12 × 1.12	34	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2529	C 3 f5	N - 0°	円形	0.43 × 0.40	50	外傾	皿状	人為		
2530	C 3 f5	N - 87° - W	長方形	1.32 × 0.96	14	外傾	平坦	人為	土師器	
2531	C 3 i3	N - 69° - W	不定形	0.84 × 0.61	28	縦斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
2532	C 3 d5	N - 43° - W	長楕円形	0.83 × 0.45	29	縦斜	皿状	人為		
2533	C 3 d5	N - 82° - W	[長方形]	(2.00) × 0.93	20	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2534	C 3 h1	N - 87°	不定形	0.74 × 0.44	34	外傾	皿状	人為	弥生土器, 土師器	
2535	C 3 h1	N - 12°	楕円形	1.68 × 1.42	36	縦斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
2537	C 2 e8	N - 15°	楕円形	0.59 × 0.51	44	直立	平坦	人為	土師器	
2538	C 3 e6	N - 88° - W	隅丸長方形	1.14 × 0.56	7	縦斜	平坦	人為	土師器	
2539	C 3 c7	N - 0°	隅丸長方形	1.00 × 0.84	9	縦斜	平坦	人為	土師器	
2540	C 3 c7	N - 84° - W	隅丸長方形	0.85 × 0.60	22	外傾	平坦	人為		
2542	C 2 e0	N - 13° - E	楕円形	1.40 × 0.81	55	直立	平坦	自然	土師器, 須恵器	
2544	C 2 e0	N - 24° - E	楕円形	0.90 × (0.64)	40	縦斜	平坦	人為		
2545	C 2 e0	N - 8° - W	方形	1.15 × 0.88	7	縦斜	平坦	自然		
2551	C 2 g9	N - 24° - E	[楕円形]	[0.68] × 0.42	51	外傾	皿状	人為		
2552	C 3 g0	N - 10° - E	隅丸長方形	1.54 × 0.48	18	外傾	平坦	人為		
2553	C 3 e1	N - 0°	円形	1.30 × 1.18	37	縦斜	皿状	人為	弥生土器, 土師器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2554	C 3 g3	N - 25° - E	隅丸長方形	1.56 × 0.84	12	外傾	平坦	人為	土師器	
2555	C 3 14	N - 8°	隅丸長方形	0.92 × 0.64	11	外傾	平坦	人為	土師器	
2556	C 3 h5	N - 7° - W	隅丸長方形	1.00 × 0.62	10	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
2558	C 3 h4	N - 68° - W	楕円形	0.84 × 0.52	16	外傾	平坦	人為		
2559	C 3 h4	N - 2° - W	楕円形	1.26 × 0.68	42	外傾	凹状	人為	土師器, 瓦質土器	
2563	C 3 h4	N - 17° - E	[長方形]	1.36 × 0.70	10	縦斜	凹状	人為		
2565	C 2 f9	N - 17° - E	円形	[0.44] × 0.44	12	外傾	凹状	-	土師器, 須恵器	
2566	C 3 j4	N - 90° - E	円形	1.16 × 1.12	38	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2567	C 3 j3	N - 0°	円形	0.97 × 0.90	15	縦斜	平坦	自然	土師器	
2568	C 3 h1	N - 0°	円形	0.70 × 0.68	25	外傾	平坦	人為	土師器	
2569	C 3 h1	N - 18° - E	方形	0.82 × 0.76	26	縦斜	凹状	人為	土師器	
2570	C 3 i2	N - 16° - W	円形	1.12 × 1.08	8	縦斜	平坦	自然	土師器, 土師質土器	
2571	C 2 i7	N - 79° - W	楕円形	0.93 × 0.66	24	縦斜	平坦	人為	土師器	
2572	C 3 j5	N - 0°	円形	0.78 × 0.78	24	外傾	凹状	自然	土師器	
2573	C 3 h2	N - 16° - E	長方形	1.66 × 0.90	28	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2574	C 3 h2	N - 10° - E	長方形	1.88 × 1.06	42	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2575	C 2 i7	N - 76° - W	楕円形	0.66 × 0.57	32	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2576	C 2 i0	N - 0°	楕円形	0.93 × 0.76	22	外傾	凹状	人為		
2579	C 3 i1	N - 20° - E	隅丸長方形	1.68 × 1.36	12	縦斜	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2580	C 3 d6	N - 79°	隅丸方形	1.20 × 1.11	20	外傾	平坦	人為		
2583	C 3 j4	N - 42° - W	円形	0.80 × 0.75	21	縦斜	凹状	人為	土師器, 須恵器	
2584	C 3 h2	N - 27° - E	[楕円形]	0.85 × (0.72)	21	縦斜	凹状	人為	土師器, 土製支脚	
2585	C 3 h2	N - 17° - W	舟形	0.89 × 0.34	32	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2586	C 3 d2	N - 80° - W	楕円形	2.08 × (0.88)	12	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2587	C 3 g1	N - 28° - E	楕円形	(0.90) × 0.80	6	外傾	平坦	人為	土師器	
2588	C 2 d9	N - 80° - W	舟形	0.63 × 0.56	68	外傾	凹凸	人為	弥生土器	
2589	C 3 h2	N - 79° - W	隅丸長方形	1.10 × 0.64	22	外傾	平坦	人為	土師器	
2590	C 3 h2	N - 66° - W	[円形]	0.56 × (0.46)	20	縦斜	平坦	人為		
2592	C 2 d8	N - 82° - E	隅丸長方形	1.22 × 0.46	16	直立	平坦	人為	土師器	
2593	C 2 d8	N - 68° - E	楕円形	0.33 × 0.28	20	外傾	凹状	人為	瓦質土器	
2595	C 3 h2	N - 18° - W	楕円形	0.52 × 0.32	50	直立	凹状	人為		
2610	C 2 g7	N - 44° - W	隅丸長方形	2.07 × 1.02	10	縦斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2611	C 2 h6	N - 0°	円形	0.33 × 0.31	39	縦斜	凹状	人為		
2612	C 2 h6	N - 0°	楕円形	0.45 × 0.29	40	縦斜	凹状	人為		
2614	C 2 g6	N - 36° - W	楕円形	0.53 × 0.38	9	縦斜	平坦	自然		
2615	C 3 h3	N - 42° - E	楕円形	0.48 × 0.33	36	直立	凹状	人為	土師器	
2616	C 3 h3	N - 73° - E	楕円形	0.72 × 0.50	18	縦斜	凹凸	人為	土師器	
2617	C 3 h3	N - 65° - W	楕円形	0.38 × 0.32	48	外傾	凹状	人為		
2618	C 3 h3	N - 67° - W	隅丸方形	0.29 × 0.28	22	外傾	凹状	人為		
2619	C 3 h2	N - 37° - E	隅丸方形	0.34 × 0.32	31	外傾	平坦	人為		
2620	C 2 g7	N - 6° - E	隅丸長方形	0.60 × 0.34	21	縦斜	凹状	自然		
2621	C 2 d9	N - 80° - E	隅丸長方形	0.70 × 0.56	50	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
2624	C 2 j0	N - 25° - W	楕円形	1.02 × 0.90	54	縦斜	凹凸	人為	土師器	
2625	C 2 j0	-	-	0.88 × (0.42)	10	外傾	平坦	人為		
2626	C 2 j0	N - 63° - W	楕円形	1.14 × 0.99	45	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	

番号	位 置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(cm)	深さ(cm)					
2627	C 2 j0	N - 50° - W	[長方形]	0.97 × (0.74)	44	外傾	平坦	人為		
2629	D 3 a1	N - 21° - E	楕円形	1.35 × 1.25	42	直立	平坦	人為	土師器	
2630	C 3 j5	N - 0°	楕円形	1.12 × 0.90	22	外傾	皿状	人為	土師器	
2631	D 3 a4	N - 0°	円形	1.00 × 1.00	15	外傾	平坦	人為		
2632	D 3 a1	N - 23° - E	[楕円形]	0.94 × (0.48)	26	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
2633	C 3 j3	N - 0°	楕円形	1.00 × 0.96	16	外傾	平坦	人為	土師器	
2635	C 3 h2	N - 61° - E	楕円形	0.53 × 0.38	20	直立	平坦	-		
2639	C 3 j4	N - 90° - W	楕円形	1.07 × 0.92	30	縦斜	平坦	人為	土師器	
2641	C 3 i4	N - 65° - E	[隅丸方形]	0.90 × (0.77)	22	外傾	凹凸	人為		
2643	C 3 j2	N - 43° - W	楕円形	0.96 × 0.88	12	外傾	平坦	人為		
2644	D 3 a2	N - 0°	円形	0.70 × 0.66	8	縦斜	平坦	人為		
2645	C 2 g7	N - 17° - E	隅丸長方形	2.82 × 0.90	30	外傾	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
2647	C 2 i9	N - 17° - W	方形	0.72 × 0.72	15	外傾	平坦	人為		
2649	C 3 i2	N - 4° - E	楕円形	1.13 × 0.90	28	外傾	皿状	自然	土師器, 須恵器	
2652	C 2 i6	N - 5° - E	隅丸長方形	1.52 × 1.05	17	縦斜	平坦	人為	土師器	
2653	C 2 i6	N - 71° - W	隅丸長方形	0.90 × 0.72	19	平坦	平坦	人為	土師器	
2656	C 2 i6	N - 2° - E	隅丸方形	0.61 × 0.58	25	縦斜	皿状	人為		
2660	C 3 j4	N - 0°	円形	0.85 × 0.80	6	縦斜	皿状	人為		
2665	C 3 i2	N - 71° - W	不整長方形	0.80 × 0.42	12	縦斜	皿状	人為	土師器	
2666	C 3 c6	N - 85° - W	不整長方形	2.08 × 0.82	105	直立	皿状	自然	土師器	
2681	B 1 i7	N - 0°	[円形]	1.50 × (1.26)	38	外傾	平坦	人為	土師器	
2683	B 1 j7	N - 85° - W	長方形	1.54 × 0.64	28	外傾	平坦	人為		
2686	B 1 i6	N - 0°	長方形	2.04 × 0.95	32	外傾	平坦	人為		
2687	B 1 i6	N - 0°	楕円形	1.16 × 0.88	22	外傾	平坦	人為		
2688	B 1 i7	N - 84° - W	長方形	1.86 × 1.14	38	外傾	平坦	人為		
2691	B 1 j7	N - 90° - E	長方形	1.38 × 0.88	22	直立	平坦	人為		
2692	B 1 i7	N - 14° - E	長方形	1.32 × 0.94	46	直立	平坦	人為		
2693	B 1 i7	N - 72° - E	楕円形	0.76 × 0.70	52	直立	平坦	人為	土師器	
2694	B 1 i6	[N - 0°]	[円形]	1.05 × (0.50)	26	外傾	平坦	人為		
2695	B 1 h6	N - 13° - E	隅丸長方形	1.56 × 0.69	21	縦斜	平坦	人為		
2698	B 1 h6	[N - 0°]	[円形]	0.70 × (0.51)	15	直立	平坦	人為		
2702	B 1 h6	N - 3° - E	隅丸長方形	1.82 × 0.58	18	外傾	平坦	人為		
2704	B 1 h6	N - 7° - E	隅丸長方形	2.28 × 1.03	54	外傾	平坦	人為		
2707	B 1 g7	N - 1° - E	隅丸長方形	1.70 × 0.77	52	直立	平坦	人為	土師器	
2708	B 1 g5	N - 27° - W	不定形	1.16 × (0.48)	30	外傾	平坦	人為		
2709	B 1 g5	N - 84° - W	隅丸長方形	2.26 × 1.23	35	外傾	平坦	人為		
2711	B 1 g5	N - 37° - E	長方形	1.43 × 0.75	32	外傾	平坦	人為		
2712	B 1 g5	N - 30° - E	隅丸長方形	1.17 × 0.60	6	縦斜	平坦	人為		
2713	B 1 g6	N - 12° - E	長方形	1.42 × 1.00	45	直立	平坦	人為		
2714	B 1 g6	N - 17° - W	不定形	1.02 × 0.82	30	外傾	平坦	自然		
2715	B 1 g7	N - 83° - W	隅丸長方形	1.47 × 0.73	32	直立	平坦	人為		
2719	B 1 i6	N - 9°	[長方形]	(1.86) × 0.88	6	外傾	平坦	人為		
2720	B 1 g6	N - 24° - W	楕円形	1.00 × 0.47	55	直立	皿状	人為		
2723	B 1 f5	N - 81° - E	楕円形	1.22 × 0.82	6	直立	平坦	自然		
2724	B 1 f5	N - 76° - E	不定形	[1.82] × 1.32	36	外傾	平坦	人為		
2726	B 1 f5	N - 31° - E	長方形	1.22 × 0.76	15	縦斜	平坦	人為		

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
2728	B 1 f6	N - 81° - W	隅丸長方形	1.12 × 0.88	23	直立	平坦	人為		
2729	B 1 f6	N - 81° - W	隅丸長方形	1.04 × 0.64	36	外傾	皿状	人為		
2730	B 1 f7	N - 11° - E	[長方形]	(1.62) × 1.10	28	緩斜	平坦	人為		
2731	B 1 e6	N - 10° - E	長方形	1.93 × 1.20	40	外傾	平坦	人為		
2733	B 1 e6	N - 24° - W	楕円形	0.78 × 0.68	33	直立	平坦	人為		
2737	B 1 f6	N - 9° - E	不定形	0.96 × 0.78	35	外傾	平坦	人為		
2738	B 1 f5	N - 87° - W	長方形	1.26 × 0.50	20	外傾	平坦	自然		
2740	B 1 e6	N - 84° - W	長方形	1.02 × 0.84	22	外傾	平坦	人為		
2741	B 1 j6	N - 86° - E	[楕円形]	1.20 × (0.72)	39	直立	平坦	人為		
2742	B 1 f6	N - 13° - E	長方形	1.66 × 0.84	48	外傾	平坦	人為		
2743	B 1 g6	N - 5° - E	[隅丸長方形]	[1.57] × 0.83	48	外傾	平坦	人為		
2744	B 1 j6	N - 88° - W	長方形	1.78 × 0.72	42	直立	平坦	人為	土師器、須恵器	
2745	B 1 f5	N - 40° - E	楕円形	0.80 × 0.66	27	直立	皿状	人為	土師質土器	
2746	B 1 f6	N - 50° - E	楕円形	0.84 × 0.72	22 ~ 30	外傾	平坦	人為		
2747	B 1 f6	N - 13° - E	隅丸方形	0.62 × 0.60	-	直立	平坦	-		
2748	B 1 f6	N - 0°	円形	0.76 × 0.74	45	緩斜	皿状	人為		
2749	B 1 h6	N - 37° - W	楕円形	0.63 × 0.45	60	外傾	皿状	人為		
2750	B 1 g6	N - 11° - E	不定形	0.52 × 0.38	70	外傾	皿状	人為		
2752	B 1 d6	N - 0°	円形	1.08 × 1.06	16	外傾	平坦	自然		
2755	B 1 h7	N - 68° - W	隅丸長方形	1.15 × 0.54	37	外傾	平坦	自然		
2757	B 1 g7	N - 3° - E	長方形	1.40 × 0.54	50	直立	平坦	人為		
2758	B 1 g7	N - 89° - W	長方形	1.50 × 0.86	72	外傾	平坦	人為		
2759	B 1 f6	N - 48° - E	隅丸方形	0.64 × 0.60	30 ~ 70	外傾	凹凸	人為		
2760	B 1 g5	N - 69° - W	[長・方形]	(0.90) × 0.86	52	直立	皿状	自然		
2761	B 1 f5	N - 80° - E	長方形	2.06 × 1.11	16	緩斜	平坦	人為		
2762	B 1 f5	N - 88° - W	長方形	1.38 × 0.96	42	外傾	平坦	人為	土師器	
2763	B 1 g7	N - 4° - W	[長方形]	[1.50] × 0.80	50	直立	平坦	人為		
2765	D 3 a4	N - 2° - E	隅丸長方形	1.70 × 1.16	60	直立	平坦	人為		
3014	E 8 f8	N - 40° - W	不定形	0.70 × 0.55	20	緩斜	凹凸	人為	土師器、土師質土器	
3015	E 8 f8	N - 39° - E	不定形	0.98 × 0.70	36	緩斜	凹凸	人為	土師器、土師質土器	
3016	E 8 f8	N - 75° - E	楕円形	0.74 × 0.53	14	緩斜	平坦	人為	縄文土器、土師器	
3017	E 8 f8	N - 85° - E	楕円形	0.76 × 0.60	13	外傾	平坦	人為		
3037	E 8 g8	N - 87° - E	[長方形]	(0.17) × (0.95)	25	外傾	平坦	人為		
3039	E 8 i9	-	-	(1.16) × (0.64)	16	-	平坦	-	土師質土器	
3041	E 8 d7	N - 82° - W	楕円形	0.95 × 0.66	22	緩斜	凹凸	人為		
3059	E 8 f8	N - 65° - E	楕円形	1.12 × 0.63	12	緩斜	凹凸	人為	縄文土器、土師器	
3061	E 8 g7	N - 37° - W	[楕円形]	[0.97] × (2.00)	27	緩斜	平坦	人為	縄文土器、土師器	
3063	E 8 e5	N - 15° - E	隅丸長方形	1.26 × 0.90	6	緩斜	平坦	人為		
3064	E 8 f6	N - 70° - E	楕円形	1.30 × 0.63	9	緩斜	皿状	人為		
3065	E 8 d7	N - 81° - W	[楕円形]	(1.00) × 0.62	21	外傾	平坦	人為		
3081	E 8 d4	N - 42° - W	楕円形	1.54 × 1.30	6	緩斜	平坦	自然	縄文土器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
3082	E 8 h5	N-90°-E	[楕円形]	(1.18) × 1.06	11	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3086	E 8 h4	N-13°-E	楕円形	1.26 × 0.94	9	緩斜	平坦	人為	土師器	
3087	E 8 h4	N-65°-E	隅丸長方形	3.14 × 0.75	18	緩斜	平坦	人為	土師器	
3102	E 8 g5	N-61°-W	隅丸長方形	1.46 × 0.82	32	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
3107	E 8 e6	N-86°-W	[楕円形]	[1.05] × 0.70	10	緩斜	皿状	人為		
3108	E 8 e6	N-35°-E	不定形	1.46 × 1.26	7	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
3109	E 8 e6	N-29°-E	楕円形	1.50 × 1.04	6	緩斜	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
3110	E 8 e7	N-5°-W	隅丸長方形	1.38 × 0.50	10	緩斜	平坦	人為		
3111	E 8 e7	N-79°-W	楕円形	1.04 × 0.88	12	緩斜	平坦	人為	土師器, 陶器細片	
3112	E 8 e6	N-11°-E	方形	1.86 × 1.74	12	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3113	E 8 e6	N-45°-W	不定形	0.72 × 0.50	12	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3114	E 8 e6	N-0°	円形	0.74 × 0.70	8	緩斜	平坦	人為	土師器	
3115	E 8 e7	N-12°-W	不定形	2.74 × 1.20	92	直立	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3116	E 8 d7	N-6°-E	隅丸長方形	1.25 × 0.90	27	外傾	平坦	人為	土師器	
3118	E 8 d7	N-85°-W	隅丸長方形	0.86 × 0.56	35	外傾	平坦	人為	土師器	
3124	E 8 f4	N-7°-E	楕円形	1.28 × 1.04	12	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
3129	E 8 d3	N-60°-E	楕円形	0.66 × 0.45	16	緩斜	皿状	自然	縄文土器, 土師器	
3130	E 8 d3	N-87°-E	[隅丸長方形]	(0.77) × 0.78	5	緩斜	平坦	自然		
3137	E 8 d6	N-72°-E	楕円形	0.72 × 0.47	5	緩斜	皿状	人為	陶器細片	
3138	E 8 d6	N-73°-W	不定形	0.84 × 0.54	9	緩斜	凹凸	人為	縄文土器, 土師器	
3140	E 8 e5	N-69°-W	不定形	0.95 × 0.66	7	緩斜	平坦	人為		
3144	E 8 e4	N-5°-E	長方形	2.30 × 1.10	14	外傾	平坦	人為	縄文土器	
3188	E 8 c2	N-0°	円形	0.71 × 0.70	46	外傾	皿状	人為	縄文土器, 土師器	
3207	E 7 b0	N-0°	[円形]	0.52 × (0.22)	30	直立	平坦	人為		
3289	E 8 g2	N-80°-E	楕円形	2.48 × 1.72	12	緩斜	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3306	E 8 h1	N-87°-W	楕円形	1.60 × 1.20	4	外傾	平坦	-	縄文土器, 土師器	
3309	E 8 h2	N-24°-E	[長方形]	[3.02] × 1.80	60	直立	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3332	E 7 i0	N-10°-E	楕円形	1.09 × 0.84	20	緩斜	平坦	自然	土師器	
3396	E 7 d9	N-58°-W	楕円形	0.82 × 0.64	76	直立	皿状	人為	土師器, 土師質土器	
3410	E 7 c0	N-19°-E	隅丸長方形	2.25 × 0.58	24	直立	平坦	自然	土師器, 土師質土器	
3412	E 7 b0	N-80°-W	隅丸長方形	2.10 × 0.68	36	外傾	皿状	人為	土師器, 土師質土器	
3414	E 7 b0	N-12°-E	[隅丸長方形]	(1.94) × 0.98	20	外傾	皿状	人為	土師器, 土師質土器	
3418	E 7 a9	N-81°-W	隅丸長方形	1.82 × 1.08	40	外傾	平坦	-		
3424	E 7 b0	N-15°-E	[楕円形]	(0.70) × 0.42	4	緩斜	平坦	人為		
3425	E 7 b0	N-80°-W	隅丸長方形	1.96 × 1.08	52	外傾	皿状	人為	土師器, 土師質土器	
3427	E 7 b9	N-15°-E	[隅丸長方形]	(1.20) × 0.78	12	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3430	E 7 c9	N-87°-W	隅丸長方形	7.30 × 6.90	20	外傾	平坦	人為		
3432	E 7 c9	N-18°-E	楕円形	0.32 × 0.27	6	緩斜	平坦	自然	土師器	
3434	E 7 d9	N-0°	円形	0.86 × 0.82	37	直立	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3436	E 7 d9	N-85°-E	不定形	0.88 × 0.70	72	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3482	E 8 g6	N-50°-E	楕円形	0.79 × 0.51	15	緩斜	皿状	人為		
3483	E 8 g6	N-20°-W	楕円形	1.22 × 0.65	8	緩斜	皿状	人為		
3494	E 7 c9	N-74°-W	楕円形	0.76 × 0.72	9	外傾	平坦	人為		
3501	E 7 b0	N-4°-E	[長方形]	(1.54) × (0.32)	8	緩斜	平坦	人為		
3502	E 7 b0	N-3°-E	[楕円形]	0.76 × (0.74)	30	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3507	E 7 a9	N-88°-W	楕円形	2.22 × 1.37	38	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)cm	深さ(cm)					
3508	E 7 a9	N-12°-W	[楕円形]	(1.36)×(1.20)	22	縦斜	平坦	人為	鉄滓	
3510	E 7 b9	N-11°-E	[長方形]	(2.08)×1.58	34	外傾	平坦	人為	縄文土器	
3511	E 7 b9	N-84°-W	[隅丸長方形]	1.54×1.04	40	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3512	E 7 b9	N-8°-E	[隅丸長方形]	1.10×(0.56)	38	外傾	平坦	人為		
3513	E 7 b9	N-85°-W	[隅丸方形]	1.00×0.96	26	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3514	E 7 a9	N-76°-W	長方形	3.26×1.02	38	外傾	平坦	人為		
3515	E 8 a1	N-47°-W	楕円形	0.94×0.74	48	外傾	平坦	人為		
3517	E 8 b1	N-46°-W	[長方形]	1.42×(0.68)	23	縦斜	平坦	自然	縄文土器, 土師器	
3518	E 8 b1	N-30°-W	長方形	2.67×1.18	7	縦斜	平坦	自然	縄文土器, 土師器	
3526	E 7 d9	N-88°-E	不定形	1.44×1.15	5	縦斜	平坦	自然		
3527	E 7 d9	N-66°-E	[隅丸長方形]	0.72×(0.65)	5	外傾	平坦	人為		
3528	E 7 d9	N-66°-E	[隅丸方形]	1.07×1.01	11	縦斜	平坦	人為		
3531	E 8 g1	N-81°-W	[隅丸方形]	0.80×0.76	12~34	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3532	E 8 i1	N-21°-E	[隅丸方形]	1.00×0.98	18	外傾	平坦	人為		
3535	E 7 h8	N-83°-W	[隅丸長方形]	2.12×0.86	18	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3536	E 7 h8	N-77°-W	[隅丸長方形]	2.22×1.14	20	縦斜	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3541	E 7 i9	N-24°-E	楕円形	1.76×1.26	22	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器	
3542	E 7 i9	N-48°-E	楕円形	1.34×1.20	26	縦斜	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3543	E 7 i9	N-0°	円形	1.42×1.32	42	直立	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3545	E 7 i9	N-0°	円形	0.98×0.94	40	直立	平坦	人為	土師質土器, 鉄滓	
3546	E 7 h8	N-80°-E	[隅丸長方形]	0.90×(0.66)	18	縦斜	平坦	人為		
3548	E 7 g8	N-11°-E	[隅丸長方形]	[1.90]×1.36	18	直立	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3549	E 7 g8	N-14°-E	[隅丸長方形]	1.20×0.70	26	直立	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3550	E 7 g8	N-57°-E	楕円形	0.74×0.56	54	直立	平坦	人為	縄文土器, 土師器	
3555	E 7 g0	N-77°-W	[隅丸長方形]	0.81×0.70	25	縦斜	平坦	自然	縄文土器, 土師器	
3556	E 7 g0	N-0°	円形	0.95×0.92	13	外傾	平坦	自然		
3557	E 7 f0	N-18°-W	楕円形	0.76×0.52	49	直立	平坦	自然	土師器, 鉄滓	
3559	E 7 g9	N-8°-W	長方形	1.39×0.63	32	直立	平坦	人為		
3561	E 8 i3	N-9°-E	長方形	1.44×0.58	10	外傾	平坦	人為	縄文土器, 土師質土器	
3562	E 8 e1	N-18°-E	長楕円形	2.45×0.91	21	縦斜	平坦	自然	土師質土器, 鉄滓	
3563	E 8 h3	N-0°	長方形	1.68×0.92	8	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
3564	E 8 i4	N-0°	長方形	1.00×0.66	12	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3565	E 8 e1	N-0°	円形	0.80×0.77	66	外傾	皿状	人為	土師質土器, 陶器細片	
3566	E 7 e0	N-22°-W	楕円形	0.80×0.76	53	外傾	皿状	人為	土師質土器, 瓦質土器	
3568	E 7 f9	N-14°-E	[隅丸長方形]	2.27×0.75	21	縦斜	平坦	自然	土師質土器, 鉄滓	
3570	E 8 f1	N-40°-E	円形	0.95×0.87	23	外傾	平坦	自然	土師器, 土師質土器	
3572	E 7 f0	N-76°-W	不定形	(0.90)×1.00	10	縦斜	平坦	自然		
3573	E 7 f0	N-77°-E	不定形	(1.60)×1.35	23	外傾	平坦	自然	縄文土器	
3577	E 8 a1	N-45°-W	長方形	2.59×0.96	47	縦斜	皿状	人為	土師器	
3578	E 8 b2	N-80°-W	[楕円形]	[1.70]×1.63	75	外傾	平坦	人為	土師器, 土師質土器	
3579	E 8 b2	N-44°-W	[隅丸長方形]	[1.72]×1.20	-	-	-	-		
3580	E 7 d9	N-63°-E	不定形	0.66×0.56	23	縦斜	皿状	自然	土師質土器, 陶器細片	
3581	E 7 e9	N-76°-W	楕円形	0.71×0.58	57	外傾	皿状	人為	縄文土器, 土師器	
3582	E 8 i0	N-87°-W	[楕円形]	0.83×(0.66)	16	縦斜	皿状	人為	土師質土器	
3584	C 2 b0	-	[長方形]	(1.98)×(1.45)	15	外傾	平坦	不明	土師器, 須恵器	
3585	C 2 b0	-	-	(1.16)×(0.40)	13	外傾	平坦	不明	土師器, 須恵器	

(6) 溝跡

第53号溝跡 (第375図)

位置 調査区西部2区のC1g0-C1h0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 C1h0区から北西方向(N-38°-W)に直線的に延びている。南東部が調査区域外に延びているため、全体の規模は不明である。確認できた長さは5.3m、上幅は0.7m、下幅は0.3~0.4m、深さは23~46cmである。底面はほぼ平坦で、外傾して立ち上がっている。断面は箱葉研状を呈している。

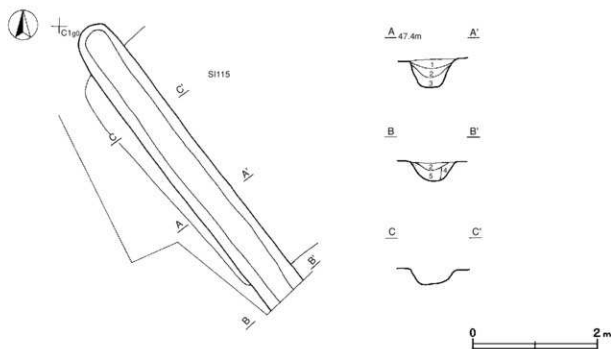
覆土 5層に分層される。ロームブロックを不規則に含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | 鹿沼パミスブロック・ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片1点(壺),土師器片15点(坏3,甕12),須恵器片4点(坏2,蓋2)が出土している。すべて細片で、破断面が摩擦しており、埋め戻しの際に混入したものと考えられる。

所見 時期は、8世紀中葉の住居跡を掘り込んでいることから、8世紀中葉以降である。



第375図 第53号溝跡実測図

表28 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 (時期)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
53	C1g0~ C1h0	N-38°-W	直線	(5.3)	0.7	0.3~0.4	23~46	外傾	平坦	人為	弥生土器, 土師器, 須恵器	時期不明

(7) 柵跡

第1号柵跡 (第376図)

位置 調査区西部1区のC 2 a0区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第140A・140B号住居跡を掘り込んでいる。

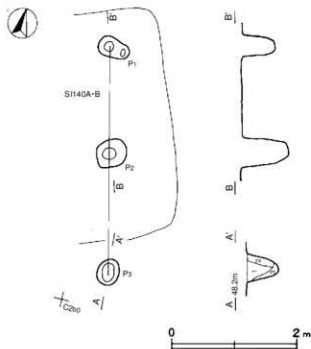
規模と形状 北北西方向(N-12°-W)に柱穴3か所が直線的に位置している。長さは3.64mで、柱間寸法は1.76mと1.88mである。

柱穴 3か所。長径42~50cm, 短径34~42cmの楕円形もしくは隅丸長方形で、深さは50~72cmである。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

所見 時期は、8世紀末葉から9世紀前葉にかけての住居跡を掘り込んでいることから、9世紀前葉以降である。



第376図 第1号柵跡実測図

表29 その他の柵跡一覧表

番号	位置	主軸方向	規模		柱穴数	内部施設			出土遺物	備考 (時期)
			長さ(m)	間 柱間(m)		平面形	長径(cm)	短径(cm)		
1	C 2 a0	N-12°-W	3.64	1.76, 1.88	3	楕円形・ 隅丸長方形	42~50	34~42	50~72	9世紀前葉以降

(8) ビット群

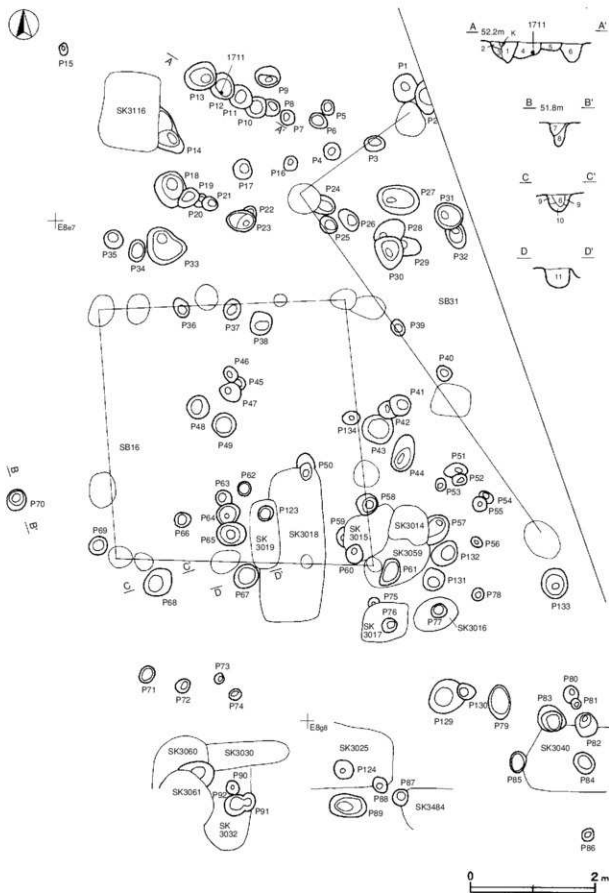
第21号ビット群 (第377・378図)

位置 調査区中央部5区のE 8 d7~E 8 h9区で、台地上の平坦部に位置している。

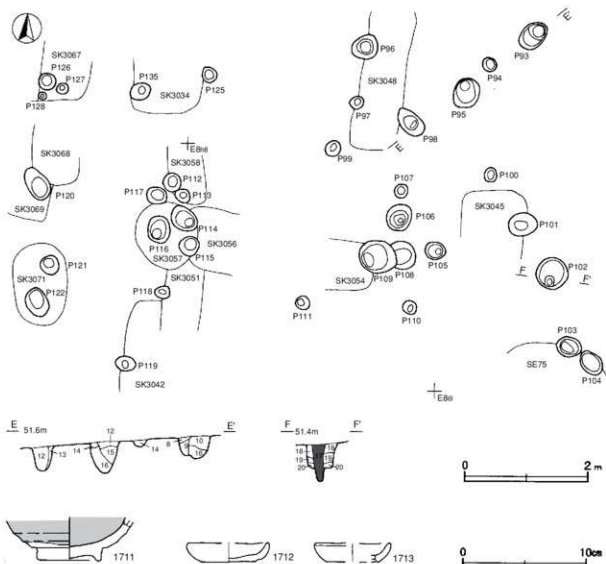
重複関係 第3014~3018・3025・3030・3032・3034・3040・3042・3045・3048・3051・3054・3056~3060・3067~3069・3071・3484号土坑, 第75号井戸跡を掘り込み, 第31号掘立柱建物, 第3061・3116号土坑に掘り込まれている。第16号掘立柱建物跡, 第3019号土坑とも重複しているが, ビットとの切り合いがないため, 新旧関係は不明である。

規模と形状 南北18.6m, 東西9.4mの範囲に存在する135か所のビットが確認された。最大のものは長径65cm, 短径55cmの不整形円で, 最小のものは径10cmの円形である。深さは6~65cmである。

覆土 20層に分層される。柱痕はP102で確認でき, 第17層が相当する。第18・19・20層は掘り方の覆土である。



第377図 第21号ピット群実測図



第378図 第21号ピット群・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 柿原褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 14 褐色 | ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 | 16 暗褐色 | ロームブロック少量、鹿沼バミス微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量 | 17 黒褐色 | ローム粒子少量、鹿沼バミス微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量 | 18 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック微量 | 19 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 |
| 10 褐色 | ロームブロック中量 | 20 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点(小皿)、陶器細片1点(丸碗)がP12・P51・P67・P98の覆土中から出土している。1711はP12の覆土下層から、1712はP67、1713はP51の覆土中からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 柱痕は1か所確認できたが、各ピット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のピット群とした。周囲に掘立柱建物跡があり、それらの掘立柱建物跡との関連、あるいは未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。時期は、中世もしくは近世と考えられる掘立柱建物跡に掘り込まれ、17世紀後葉から18世紀前葉に位置づけられる陶器が出土していることから、近世前半の可能性が高い。

第21号ビット群計測表(第377・388図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	42	(33)	36	P 46	30	20	24	P 91	50	32	49
P 2	51	(25)	27	P 47	32	32	26	P 92	38	(30)	12
P 3	32	25	26	P 48	38	38	34	P 93	52	35	37
P 4	30	28	19	P 49	35	35	22	P 94	22	20	10
P 5	27	21	17	P 50	48	28	34	P 95	45	45	52
P 6	31	24	17	P 51	35	(18)	23	P 96	40	38	47
P 7	22	22	8	P 52	25	20	31	P 97	26	20	32
P 8	28	(22)	22	P 53	20	18	11	P 98	50	33	42
P 9	40	33	43	P 54	25	(14)	28	P 99	28	28	38
P 10	32	32	30	P 55	25	25	26	P 100	20	20	25
P 11	39	37	12	P 56	20	15	9	P 101	50	40	47
P 12	42	40	27	P 57	50	40	18	P 102	50	48	59
P 13	52	43	33	P 58	38	34	20	P 103	40	30	39
P 14	62	(42)	42	P 59	32	28	15	P 104	43	30	14
P 15	16	16	17	P 60	30	24	21	P 105	36	28	34
P 16	22	22	12	P 61	43	30	40	P 106	42	42	41
P 17	30	30	25	P 62	22	22	8	P 107	28	24	29
P 18	56	50	47	P 63	25	(20)	9	P 108	46	(33)	-
P 19	40	25	24	P 64	38	(30)	27	P 109	60	57	55
P 20	23	(7)	17	P 65	45	40	15	P 110	22	18	12
P 21	28	20	18	P 66	28	25	19	P 111	26	20	11
P 22	23	(10)	11	P 67	40	38	32	P 112	30	30	26
P 23	43	35	25	P 68	50	45	28	P 113	22	20	11
P 24	(28)	28	13	P 69	30	30	10	P 114	45	38	29
P 25	30	22	27	P 70	33	30	38	P 115	34	30	50
P 26	40	25	22	P 71	30	22	8	P 116	30	26	45
P 27	65	44	45	P 72	24	22	13	P 117	39	30	40
P 28	40	(22)	21	P 73	18	14	17	P 118	26	18	20
P 29	(30)	28	14	P 74	20	16	6	P 119	28	26	40
P 30	50	40	36	P 75	18	16	14	P 120	51	35	48
P 31	45	42	43	P 76	22	20	16	P 121	35	32	58
P 32	(32)	30	35	P 77	28	22	20	P 122	48	40	55
P 33	65	55	16	P 78	18	18	15	P 123	24	22	-
P 34	35	25	21	P 79	52	40	14	P 124	30	30	24
P 35	30	30	28	P 80	25	(22)	19	P 125	25	20	-
P 36	30	22	24	P 81	18	18	10	P 126	28	25	-
P 37	35	30	13	P 82	40	40	65	P 127	20	18	17
P 38	40	40	40	P 83	42	40	50	P 128	10	10	-
P 39	28	22	25	P 84	32	32	20	P 129	54	52	62
P 40	26	24	31	P 85	34	28	20	P 130	30	26	-
P 41	35	35	35	P 86	22	18	21	P 131	37	35	-
P 42	30	(20)	38	P 87	25	25	32	P 132	45	35	-
P 43	52	50	50	P 88	24	24	32	P 133	50	40	31
P 44	62	32	37	P 89	61	33	65	P 134	28	20	-
P 45	20	(15)	18	P 90	28	25	23	P 135	35	26	25

第21号ピット群出土遺物観察表(第378図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1712	土師質土器	小皿	[6.4]	1.5	4.4	長石・金雲母・赤色粒子	橙	普通	底部内面指ナデ、底部外面回転糸切り後、ナデ	P 6 覆土中	30%
1713	土師質土器	小皿	[6.0]	1.5	[4.2]	石英・長石・金雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面回転糸切り	P 27 覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施釉	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1711	陶器	灰輪丸碗	-	(3.5)	5.2	淡黄・灰白	灰輪	体部外面下位置胎、削り出し輪高台、細かい貫入	瀬戸産。連房登壇Ⅲa期(1670～1710)	P 22 下層	30%、PL125

第30号ピット群(第379・380図)

位置 調査区中央部5区のE7e9～E8g3区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第10号掘立柱建物跡、第3546・3556・3559・3562・3568・3572・3573号土坑を掘り込み、第9・17号掘立柱建物跡、第3557・3565号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北13.0m、東西18.0mの範囲に存在する128か所のピットが確認された。最大のものは長径88cm、短径83cmの円形で、最小のものは長径22cm、短径19cmの楕円形である。深さは6～74cmである。

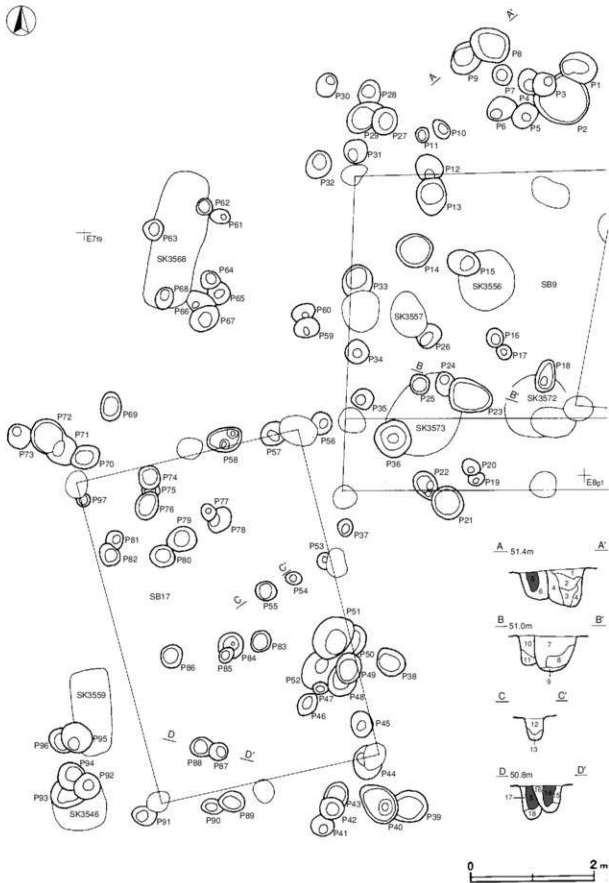
覆土 30層に分層される。柱痕はP9・P87・P88で確認でき、第5・14層が相当する。第6・15～18層が掘り方の覆土である。

土層解説

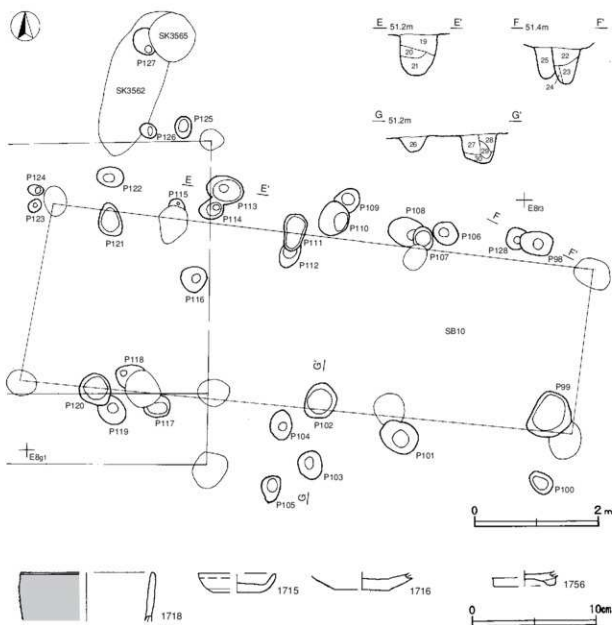
1 灰褐色	鹿沼バミス中量、ロームブロック少量	16 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミス中量
2 黒褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量	17 暗褐色	鹿沼バミス中量、ロームブロック微量
3 暗褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック微量	18 暗褐色	ローム粒子・鹿沼バミス少量
4 暗褐色	ロームブロック中量	19 極暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子・鹿沼バミス少量	20 暗褐色	ローム粒子多量、鹿沼バミスブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量	21 暗褐色	ローム粒子多量、鹿沼バミス少量
7 黒褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス中量、炭化物少量、焼土粒子微量	22 暗褐色	炭化物多量、ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
8 暗褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス中量	23 褐色	鹿沼バミスブロック少量
9 褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック少量	24 暗褐色	ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック少量
10 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子微量	25 褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量
11 褐色	ロームブロック多量	26 褐色	ロームブロック・鹿沼バミス微量
12 極暗褐色	鹿沼バミス少量	27 褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミス少量
13 黒褐色	鹿沼バミス少量、ロームブロック微量	28 褐色	鹿沼バミスブロック多量、鹿沼バミス中量
14 黒褐色	ローム粒子微量	29 黄褐色	ロームブロック・鹿沼バミスブロック多量
15 黒褐色	鹿沼バミス中量、ローム粒子少量、炭化物微量	30 褐色	ロームブロック多量、鹿沼バミスブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片14点(小皿5、内耳鍋9)、陶器片5点(碗)、灰落し2点がP2・P23・P40・P51・P113の覆土中から出土している。1715・1716はP113、1718はP23の覆土中からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片と須恵器片が出土している。

所見 各ピット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のピット群とした。周囲に掘立柱建物跡があり、それらの掘立柱建物跡との関連、あるいは未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。時期は、17世紀前半の掘立柱建物跡に掘り込まれているピットや、江戸時代後期の陶器が出土しているピットがあることから、近世の可能性が高い。



第379図 第30号ピット群実測図



第380図 第30号ピット群・出土遺物実測図

第30号ピット群出土遺物観察表(第380図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1715	土師質土器	小皿	[6.1]	1.5	[3.8]	長石微量	灰白	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ、底部外面回転系切り後、ナデ	P 138 覆土中	40%
1716	土師質土器	小皿	-	(4.5)	[4.5]	白雲母微量、赤色粒子	灰白	普通	白かわらけ、底部内面指ナデ、底部外面回転系切り後、ナデ	P 81 覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1718	陶器	灰落し	[10.5]	(4.0)	-	緑・白・明赤濁	緑軸・灰軸	緑軸流し掛け、口縁部軸割落、体部外面施軸、内面無軸	笠間産(室焼風)、江戸時代後期の可能性	P 124 覆土中	10%、1756と同一個体
1756	陶器	灰落し	-	(1.1)	[4.9]	白・明赤濁	灰軸	高台部内・畳付施軸、底部内面無軸	笠間産(室焼風)、江戸時代後期の可能性	P 124 覆土中	10%、1718と同一個体

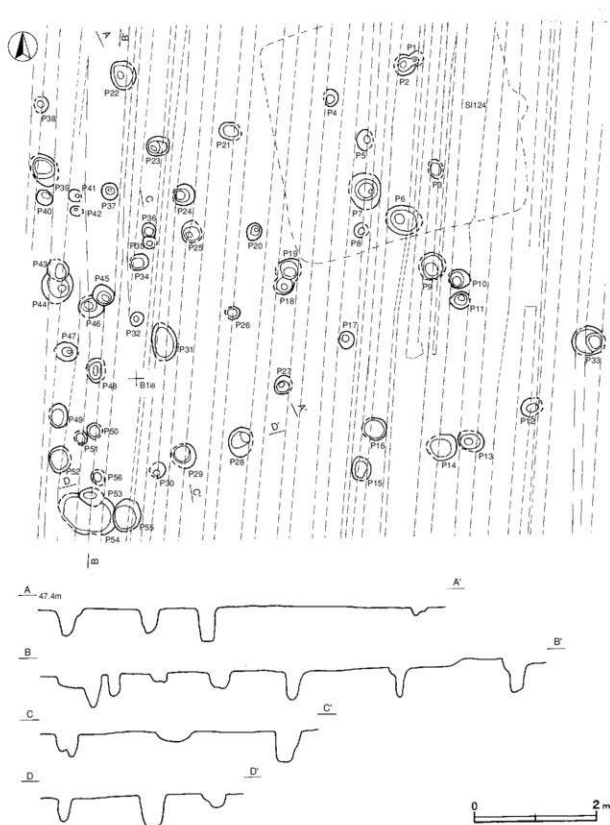
第30号ビット群計測表(第379・380図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	61	46	50	P 44	52	45	36	P 87	32	28	42
P 2	88	83	6	P 45	40	34	39	P 88	33	(28)	52
P 3	36	36	52	P 46	42	30	28	P 89	40	36	60
P 4	36	(28)	14	P 47	22	19	10	P 90	34	24	52
P 5	40	40	18	P 48	45	(28)	22	P 91	38	29	39
P 6	43	42	53	P 49	50	40	31	P 92	42	40	63
P 7	32	30	22	P 50	48	(25)	48	P 93	52	(40)	-
P 8	65	56	56	P 51	74	56	58	P 94	44	(30)	68
P 9	46	(45)	43	P 52	(52)	(40)	44	P 95	52	48	54
P 10	32	28	46	P 53	28	(16)	36	P 96	43	(20)	30
P 11	24	21	-	P 54	22	20	8	P 97	22	(15)	18
P 12	42	40	62	P 55	34	30	35	P 98	50	40	58
P 13	63	50	30	P 56	40	(28)	38	P 99	82	62	50
P 14	60	54	23	P 57	40	40	19	P 100	40	30	13
P 15	50	40	46	P 58	56	44	31	P 101	67	50	70
P 16	30	30	13	P 59	42	34	54	P 102	60	50	43
P 17	25	25	46	P 60	36	(25)	22	P 103	42	40	20
P 18	52	30	22	P 61	28	28	24	P 104	48	30	50
P 19	25	20	50	P 62	30	24	50	P 105	35	32	24
P 20	30	26	-	P 63	40	35	44	P 106	39	36	40
P 21	52	50	13	P 64	35	30	34	P 107	40	37	63
P 22	48	40	46	P 65	39	34	24	P 108	43	(40)	42
P 23	70	55	56	P 66	48	30	26	P 109	38	(32)	30
P 24	38	30	47	P 67	50	40	40	P 110	50	50	47
P 25	30	30	-	P 68	38	30	40	P 111	58	36	61
P 26	40	(25)	32	P 69	44	34	67	P 112	30	(24)	56
P 27	42	38	50	P 70	50	35	52	P 113	60	41	62
P 28	(36)	33	52	P 71	48	(30)	58	P 114	40	38	47
P 29	60	45	-	P 72	55	(45)	52	P 115	22	(14)	70
P 30	35	35	41	P 73	40	35	57	P 116	42	36	44
P 31	42	40	46	P 74	38	35	42	P 117	38	(25)	34
P 32	45	36	26	P 75	30	(8)	50	P 118	40	(20)	58
P 33	56	48	36	P 76	44	38	36	P 119	(40)	40	46
P 34	36	36	22	P 77	26	20	12	P 120	54	50	44
P 35	40	30	34	P 78	42	(25)	68	P 121	52	40	26
P 36	60	60	18	P 79	50	40	61	P 122	40	30	41
P 37	26	24	32	P 80	40	34	40	P 123	22	19	18
P 38	48	42	60	P 81	28	28	42	P 124	23	17	18
P 39	54	50	22	P 82	36	29	42	P 125	30	22	24
P 40	70	50	63	P 83	36	36	40	P 126	25	22	42
P 41	35	28	48	P 84	40	40	41	P 127	40	(25)	74
P 42	40	32	46	P 85	28	22	-	P 128	31	(22)	50
P 43	40	(28)	52	P 86	38	35	61				

第11号ピット群 (第381図)

位置 調査区西部2区のB 1g7～B 1i9区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第124号住居跡を掘り込んでいる。



第381図 第11号ピット群実測図

規模と形状 南北7.6m，東西9.0mの範囲に存在する56か所のピットが確認された。最大のものは長径96cm，短径58cmの楕円形で，最小のものは径20cmの円形である。深さは8～77cmである。

覆土 ローム粒子を少量含む黒褐色土からなっている。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

遺物出土状況 陶器細片1点（碗）がP49の覆土中から出土している。また，混入した弥生土器片と土師器片及び須恵器片が出土している。

所見 各ピット間に配列の規則性がなく，建物跡を想定できなかったため，性格不明のピット群とした。時期は，陶器片が出土していることから，中世もしくは近世の可能性が高い。

第11号ピット群計測表（第381図）

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	25	20	-	P 20	32	25	30	P 39	60	40	75
P 2	34	27	56	P 21	[40]	28	30	P 40	28	26	44
P 3	32	[26]	17	P 22	47	40	45	P 41	20	20	37
P 4	28	25	26	P 23	38	32	38	P 42	22	17	50
P 5	34	[28]	41	P 24	[37]	35	56	P 43	37	[37]	70
P 6	[60]	46	43	P 25	35	[34]	35	P 44	64	50	40
P 7	59	[51]	68	P 26	[25]	22	30	P 45	35	35	44
P 8	23	[23]	23	P 27	30	[30]	13	P 46	42	35	43
P 9	45	[45]	77	P 28	45	[39]	22	P 47	40	30	47
P 10	[34]	32	19	P 29	[41]	41	53	P 48	40	[33]	40
P 11	33	30	14	P 30	28	[27]	53	P 49	39	32	46
P 12	[35]	30	35	P 31	63	40	18	P 50	27	[27]	12
P 13	[40]	[30]	44	P 32	22	22	26	P 51	23	[23]	12
P 14	[50]	42	68	P 33	[54]	50	46	P 52	45	40	46
P 15	[40]	31	23	P 34	[33]	25	44	P 53	[40]	[31]	52
P 16	[40]	37	8	P 35	[24]	20	39	P 54	[96]	[58]	18
P 17	29	[27]	13	P 36	[24]	20	28	P 55	52	48	18
P 18	[30]	28	68	P 37	27	26	46	P 56	[18]	[18]	34
P 19	40	[40]	58	P 38	28	26	49				

第13号ピット群（第382図）

位置 調査区西部2区のC 2 g1～C 2 h3区で，台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第52号溝跡を掘り込んでいる。

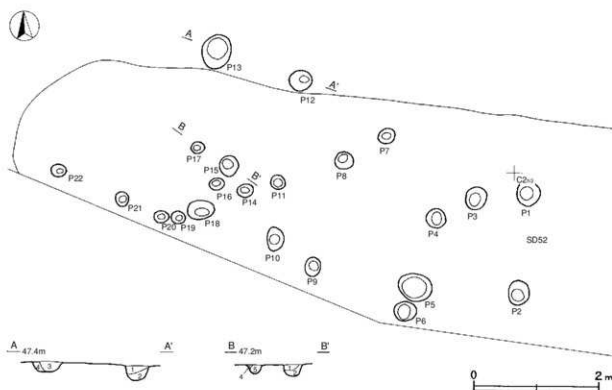
規模と形状 南北4.4m，東西8.0mの範囲に存在する22か所のピットが確認された。最大のものは長径54cm，短径45cmの楕円形で，最小のものは長径23cm，短径19cmの楕円形である。深さは7～27cmである。

覆土 5層に分層される。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量，腐沼バミス少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | | |

所見 各ピット間に配列の規則性がなく，建物跡を想定できなかったため，性格不明のピット群とした。時期は，近世と考えられる溝を掘り込んでおり，近世以降と考えられるが，詳細は不明である。



第382図 第13号ピット群実測図

第13号ピット群計測表 (第382図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	40	35	20	P 9	32	25	14	P 17	23	20	17
P 2	38	34	22	P 10	37	27	21	P 18	45	27	20
P 3	37	30	23	P 11	25	22	15	P 19	20	20	12
P 4	30	30	27	P 12	38	35	20	P 20	24	20	12
P 5	54	45	11	P 13	53	46	18	P 21	25	20	12
P 6	33	33	23	P 14	25	22	7	P 22	23	19	14
P 7	30	23	10	P 15	35	29	20				
P 8	30	29	26	P 16	23	20	7				

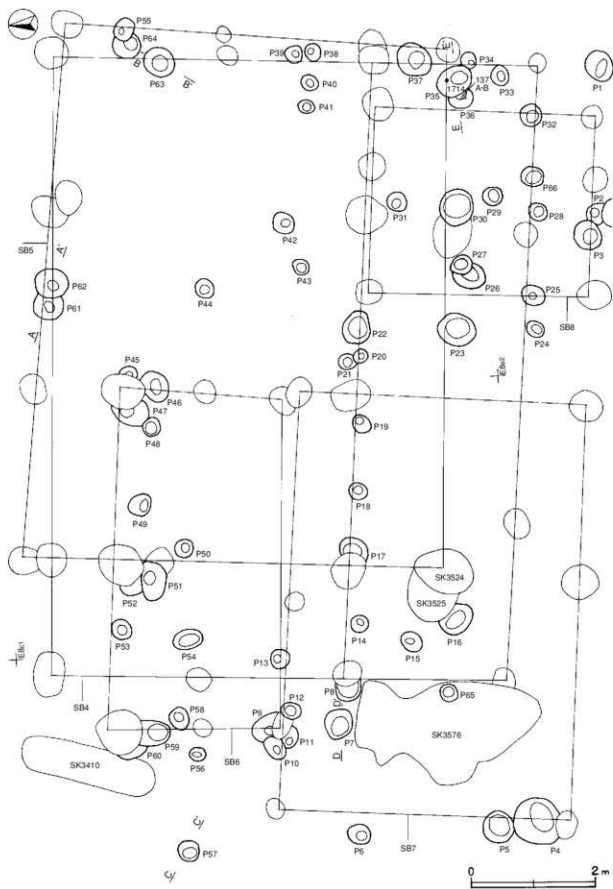
第28号ピット群 (第383・384図)

位置 調査区中央部5区のE7c0～E8e3区で、台地上の平坦部に位置している。

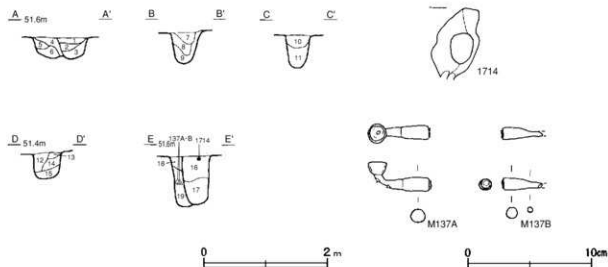
重複関係 第5・6号掘立柱建物跡、第3410・3576号土坑を掘り込み、第4・5・6・7号掘立柱建物、第3525号土坑に掘り込まれている。第8号掘立柱建物跡と重複しているが、ピットとの切り合いがないため、新旧関係は不明である。

規模と形状 南北9.2m、東西13.5mの範囲に存在する66か所のピットが確認された。最大のものは径80cmの円形で、最小のものは長径22cm、短径19cmの楕円形である。深さは12～90cmである。

覆土 19層に分層される。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。



第383図 第28号ピット群実測図



第384図 第28号ピット群・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | 鹿沼バミス少量、ロームブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミス中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック・粘土粒子微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量、鹿沼バミス少量 |
| 3 褐色 | 鹿沼バミスブロック・ローム粒子微量 | 12 極暗褐色 | 鹿沼バミス中量、ローム粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス中量 | 13 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物・鹿沼バミスブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス微量 | 14 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量、炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | 鹿沼バミスブロック多量 | 15 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 |
| 7 黒色 | ロームブロック・鹿沼バミス少量 | 16 褐色 | ローム粒子多量、鹿沼バミス中量、炭化粒子少量 |
| 8 黒褐色 | 鹿沼バミス中量、ロームブロック少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス少量 |
| 9 褐色 | ロームブロック中量、鹿沼バミス少量 | 18 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子・鹿沼バミス中量 |
| | | 19 褐色 | ローム粒子多量、鹿沼バミス少量 |

遺物出土状況 土師質土器片23点(小皿4, 内耳鍋19), 陶器細片3点(碗), 銅製品2点(煙管)がP3・P23・P35・P37・P62の覆土中から出土している。1714はP35の覆土上層から、M137A・BはP36の覆土中層からそれぞれ出土している。また、混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片が出土している。

所見 各ピット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のピット群とした。周囲に掘立柱建物跡があり、それらの掘立柱建物跡との関連、あるいは未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。時期は、17世紀前半と考えられる第5・6号掘立柱建物跡を掘り込み、あるいは掘り込まれる関係にあり、また、17世紀後半と考えられる煙管も出土していることから、17世紀代の可能性が高い。

第28号ピット群計測表(第383・384図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	51	42	83	P 11	(38)	(22)	50	P 21	30	28	32
P 2	30	30	75	P 12	34	26	41	P 22	50	46	54
P 3	48	42	65	P 13	30	28	50	P 23	60	50	64
P 4	80	80	72	P 14	30	26	45	P 24	30	24	33
P 5	52	46	56	P 15	32	29	35	P 25	38	30	31
P 6	38	33	51	P 16	58	(48)	66	P 26	42	(30)	33
P 7	48	45	40	P 17	49	(27)	58	P 27	30	30	60
P 8	42	(22)	-	P 18	30	28	56	P 28	31	29	50
P 9	50	(25)	51	P 19	35	28	68	P 29	32	28	44
P 10	34	30	12	P 20	22	19	-	P 30	58	54	76

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 31	30	30	35	P 43	26	24	32	P 55	33	30	53
P 32	34	34	46	P 44	32	30	52	P 56	25	20	22
P 33	32	28	33	P 45	30	(14)	35	P 57	39	36	50
P 34	28	20	-	P 46	36	33	60	P 58	33	32	-
P 35	62	50	78	P 47	52	30	69	P 59	52	40	72
P 36	40	(20)	81	P 48	30	30	42	P 60	(43)	(12)	67
P 37	60	50	26	P 49	40	35	34	P 61	50	(35)	32
P 38	30	24	57	P 50	32	30	27	P 62	52	48	32
P 39	30	28	56	P 51	64	40	90	P 63	50	47	50
P 40	26	26	15	P 52	(35)	(20)	-	P 64	47	40	42
P 41	26	22	45	P 53	(32)	(30)	55	P 65	30	26	53
P 42	32	32	26	P 54	(50)	(30)	30	P 66	36	32	28

第28号ピット群出土遺物観察表(第384図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1714	土師質土器	内耳鍋	-	(58)	-	石英・長石・金雲母	明赤褐	普通	耳部破片, 耳は楕円形, 口縁部内面ヘラナデ	P 35 上層	5%, 口縁部外面保付者

番号	器種	長さ	幅	径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M137A	横管雁首	5.0	1.5	1.0	9.55	銅	高さ2.4cm, 火皿部円形, 羅字横管(竹)一部残存, 17世紀後半	P 36 中層	PL123
M137B	横管吸口	(3.4)	1.0	1.0	(2.16)	銅	羅字横管(竹)一部残存, 吸口は直に延びる	P 36 中層	PL123

第15号ピット群 (第385図)

位置 調査区西部1区のB3j5~C3b8区で, 台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第181・192号住居跡, 第2401・2404・2407号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北8.0m, 東西12.0mの範囲に存在する50か所のピットが確認された。最大のもは長径77cm, 短径66cmの楕円形で, 最小のもは径26cmの円形である。深さは12~60cmである。

覆土 9層に分層される。柱痕はP17で確認でき, 第3層が相当する。第4層は掘り方の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック多量
2 暗褐色	ロームブロック微量	7 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 黒褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	ローム粒子多量
5 暗褐色	ロームブロック中量		

遺物出土状況 土師器片4点(坏1, 甕3), 須惠器片1点(坏)がP18・P21・P43・P46の覆土中から出土している。細片で断面が摩滅していることから, 混入したものと考えられる。

所見 柱痕は1か所確認できたが, 各ピット間に配列の規則性がなく, 建物跡を想定できなかったため, 性格不明のピット群とした。柱痕が確認できたことから, 未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。

8世紀中葉の住居跡を掘り込んでいるが, 明確な時期は不明である。



第385図 第15号ピット群実測図

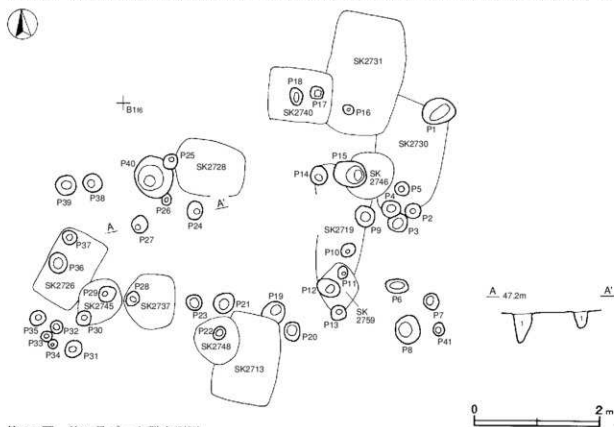
第15号ピット群計測表 (第385図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	30	29	31	P 18	32	32	48	P 35	36	32	47
P 2	32	28	23	P 19	29	25	24	P 36	29	29	-
P 3	50	30	46	P 20	29	28	44	P 37	34	33	45
P 4	26	26	28	P 21	29	24	29	P 38	36	30	45
P 5	61	40	50	P 22	37	30	50	P 39	27	23	34
P 6	40	33	46	P 23	41	30	32	P 40	30	29	45
P 7	51	40	33	P 24	29	23	26	P 41	41	39	32
P 8	47	40	59	P 25	38	30	24	P 42	50	42	41
P 9	40	28	56	P 26	38	33	46	P 43 (20)	20	16	
P 10	28	26	30	P 27	31	30	48	P 44	30	28	40
P 11	40	28	18	P 28	45	38	22	P 45	34	28	37
P 12	40	21	26	P 29	77	66	33	P 46	40	30	34
P 13	32	28	40	P 30	35	28	51	P 47	32	28	24
P 14	45	35	42	P 31 (26)	22	22	42	P 48	48	44	20
P 15	36	30	12	P 32	35	30	60	P 49	30	28	18
P 16	27	20	18	P 33	29	29	25	P 50	38	34	30
P 17	50	40	32	P 34	35	30	-				

第17号ピット群 (第386図)

位置 調査区西部2区のB 1e6～B 1f7区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第2719・2726・2728・2730・2731・2737・2740・2745・2746・2748・2759号土坑を掘り込み、第



第386図 第17号ピット群実測図

2713号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南北4.2m、東西6.6mの範囲に存在する41か所のビットが確認された。最大のものは長径68cm、短径60cmの楕円形で、最小のものは径14cmの円形である。深さは18～81cmである。

覆土 単一層である。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミスブロック微量

所見 各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のビット群とした。時期は、出土遺物がなく、不明である。

第17号ビット群計測表(第386図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	50	44	70	P 15	54	42	76	P 29	29	26	52
P 2	22	21	42	P 16	20	16	81	P 30	24	24	50
P 3	38	30	57	P 17	20	19	54	P 31	29	26	21
P 4	30	30	52	P 18	29	19	52	P 32	21	18	36
P 5	20	19	41	P 19	38	34	41	P 33	20	19	20
P 6	34	26	40	P 20	34	28	33	P 34	16	16	22
P 7	26	24	37	P 21	36	32	-	P 35	25	20	32
P 8	52	49	66	P 22	21	21	-	P 36	34	33	40
P 9	38	31	36	P 23	30	22	22	P 37	24	20	43
P 10	22	21	30	P 24	32	28	27	P 38	31	27	66
P 11	21	14	30	P 25	26	22	39	P 39	33	32	48
P 12	32	29	70	P 26	14	14	18	P 40	68	60	50
P 13	24	22	50	P 27	32	26	48	P 41	22	18	33
P 14	30	28	59	P 28	22	22	78				

第27号ビット群 (第387図)

位置 調査区中央部5区のE 8g2～E 8h4区で、台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第65号溝跡を掘り込み、第33号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南北5.3m、東西9.4mの範囲に存在する72か所のビットが確認された。最大のものは長径54cm、短径36cmの楕円形で、最小のものは径14cmの円形である。深さは4～51cmである。

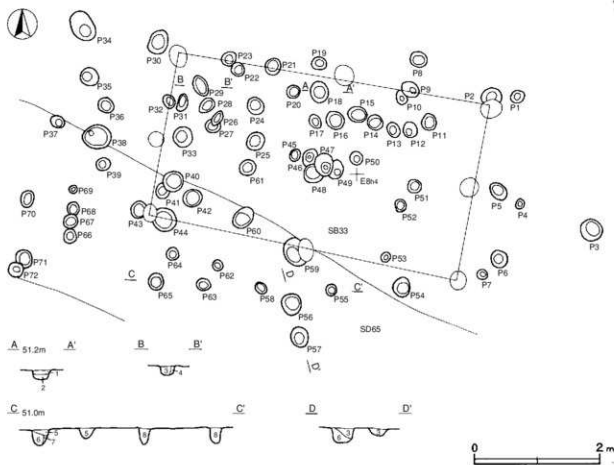
覆土 8層に分層される。柱痕や抜き取り痕は確認できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック少量
 2 褐色 ローム粒子中量、鹿沼バミスブロック少量
 3 暗褐色 ロームブロック中量、鹿沼バミスブロック微量
 4 褐色 ロームブロック少量、鹿沼バミス微量
 5 黒褐色 ロームブロック少量
 6 暗褐色 ロームブロック中量
 7 褐色 ロームブロック少量
 8 黒褐色 ロームブロック・鹿沼バミス微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)がP26の覆土中から出土している。また、混入した縄文土器片と弥生土器片及び土師器片が出土している。

所見 各ビット間に配列の規則性がなく、建物跡を想定できなかったため、性格不明のビット群とした。重複関係にある掘立柱建物跡との関連、もしくは未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。時期は、17世紀後葉もしくは18世紀前葉と考えられる溝を掘り込んでいることから、18世紀前葉以降と考えられる。



第387図 第27号ビット群実測図

第27号ビット群計測表(第387図)

番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 1	23	19	5	P 21	28	22	10	P 41	27	(20)	16
P 2	32	(19)	16	P 22	20	20	6	P 42	28	28	23
P 3	34	34	51	P 23	22	22	21	P 43	(24)	21	33
P 4	14	14	7	P 24	30	30	17	P 44	(36)	34	33
P 5	30	26	12	P 25	28	28	27	P 45	18	18	4
P 6	29	28	47	P 26	18	16	10	P 46	(26)	(22)	13
P 7	16	16	7	P 27	24	24	30	P 47	32	30	12
P 8	24	24	19	P 28	27	23	-	P 48	29	26	7
P 9	30	24	17	P 29	34	21	15	P 49	29	(21)	9
P 10	19	17	15	P 30	34	32	31	P 50	22	22	28
P 11	24	21	11	P 31	31	18	19	P 51	24	20	5
P 12	26	21	40	P 32	28	20	13	P 52	18	18	5
P 13	19	19	24	P 33	37	21	24	P 53	14	14	29
P 14	28	22	23	P 34	54	36	14	P 54	32	32	32
P 15	29	24	9	P 35	33	24	10	P 55	18	16	21
P 16	30	26	6	P 36	26	26	26	P 56	34	32	24
P 17	19	19	5	P 37	22	18	12	P 57	32	30	11
P 18	36	28	18	P 38	46	36	22	P 58	20	16	24
P 19	21	21	16	P 39	24	20	17	P 59	46	(21)	36
P 20	24	21	7	P 40	31	30	24	P 60	34	32	25

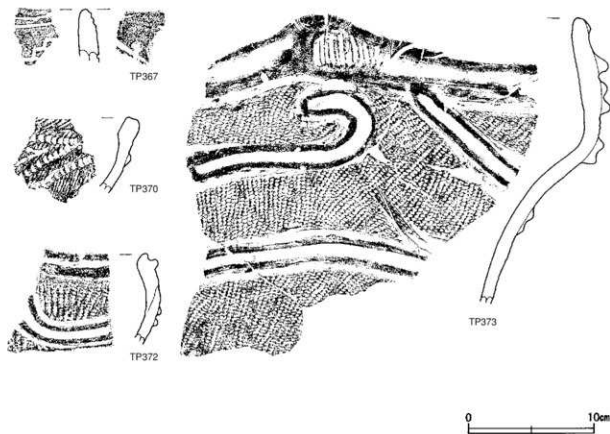
番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)
P 61	28	26	19	P 65	28	28	28	P 69	14	14	10
P 62	16	16	8	P 66	24	20	12	P 70	28	22	7
P 63	24	18	16	P 67	22	22	13	P 71	31	(26)	9
P 64	20	20	25	P 68	19	19	7	P 72	28	21	19

表30 その他のピット群一覧表

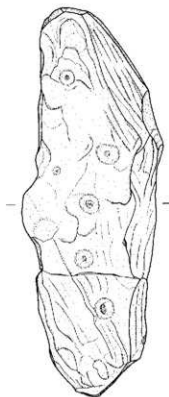
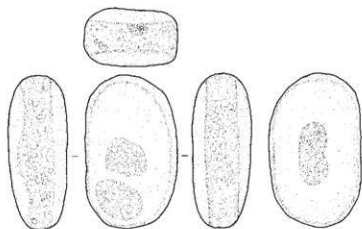
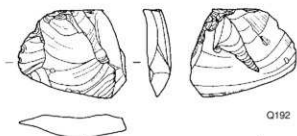
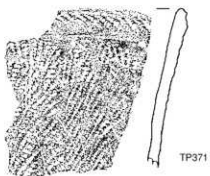
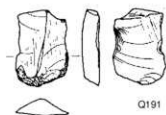
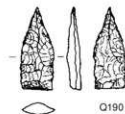
番号	位置	ピット数	大ピット			小ピット			深さ(cm)	出土遺物	備考(時期)
			長径(cm)	短径(cm)	平面形	長径(cm)	短径(cm)	平面形			
11	B 1 g7~B 1 i9	56	96	58	楕円形	20	20	円形	8~77	陶器	中世もしくは近世の可能性
13	C 2 g1~C 2 h3	22	54	45	楕円形	23	19	楕円形	7~27		近世以降
15	B 3 j5~C 3 b8	50	77	66	楕円形	26	26	円形	12~60	土師器, 須恵器	不明
17	B 1 e6~B 1 f7	41	68	60	楕円形	14	14	円形	18~81		不明
21	E 8 d7~E 8 h9	135	65	55	不整形円形	10	10	円形	6~65	土師質土器, 陶器	近世前半の可能性
27	E 8 g2~E 8 h4	72	54	36	楕円形	14	14	円形	4~51	土師質土器	近世前半の可能性
28	E 7 c0~E 8 e3	66	80	80	円形	22	19	楕円形	12~90	土師質土器, 陶器	17世紀代の可能性
30	E 7 e9~E 8 g3	128	88	83	円形	22	19	楕円形	6~74	土師質土器, 陶器	近世の可能性

(9) 遺構外出土遺物 (第388~392図)

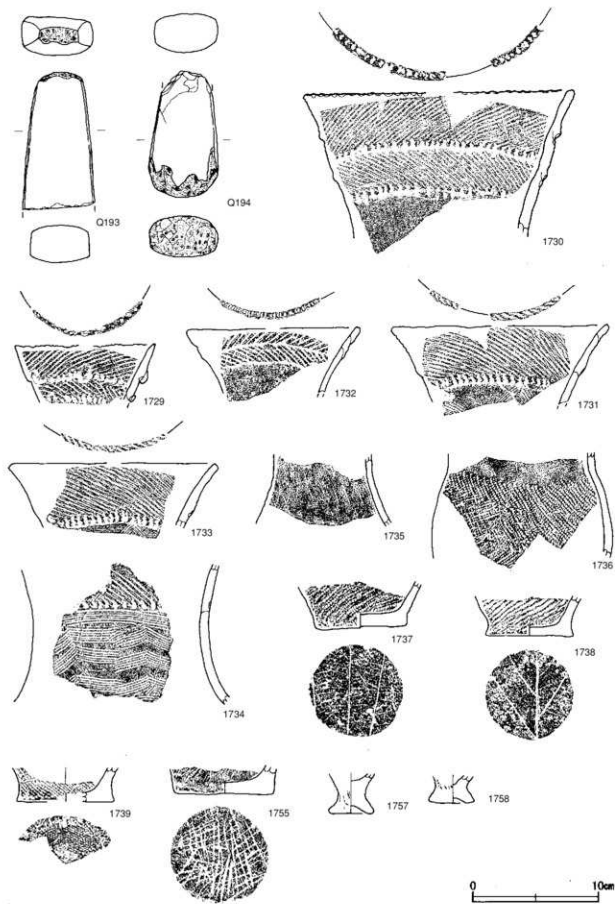
今回の調査で出土した遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



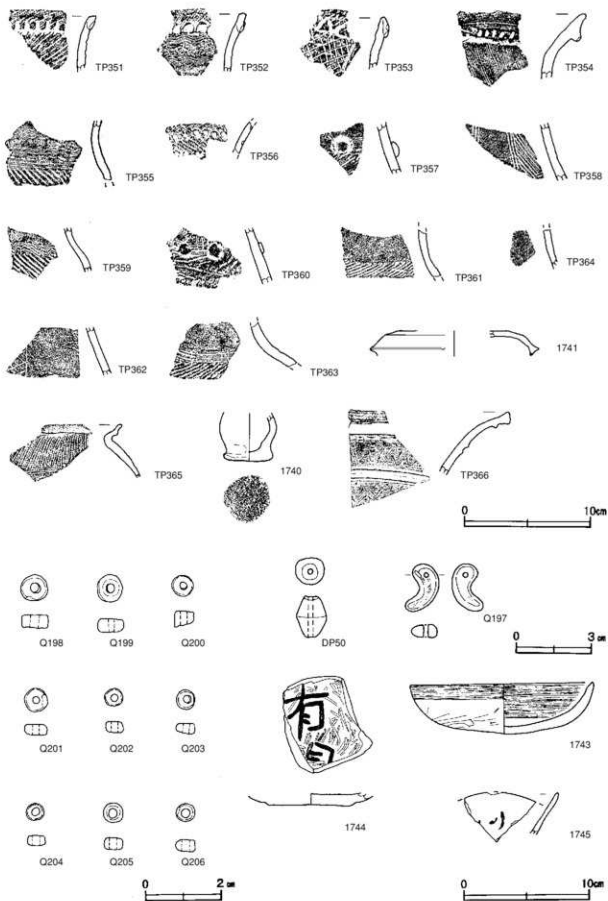
第388図 遺構外出土遺物実測図 (1)



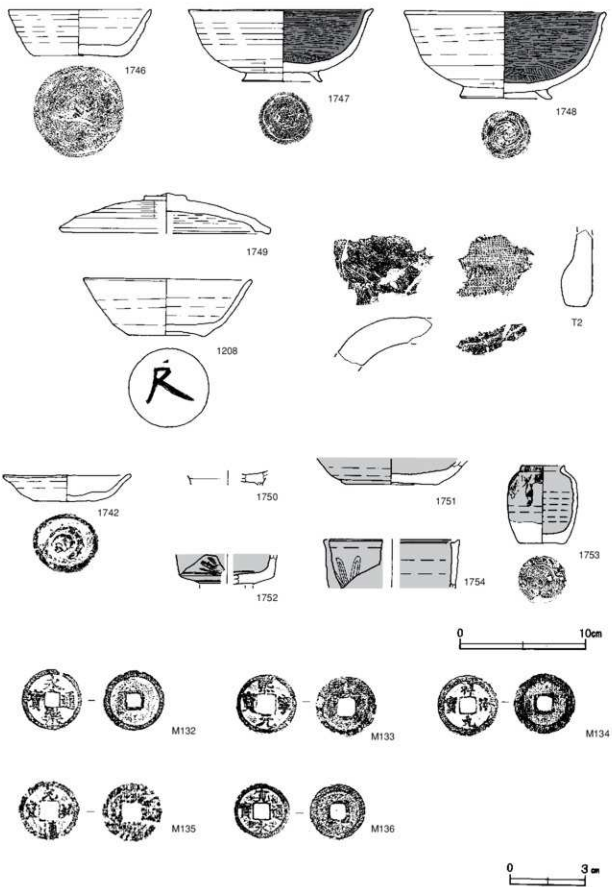
第389图 遺構外出土遺物実測図 (2)



第390图 遺構外出土遺物実測図(3)



第391图 遺構外出土遺物実測図(4)



第392図 遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外出土遺物観察表(第388～392図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP367	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	波状口縁部に2条の沈線。その下に斜位鋸歯状沈線を施す。内面にも太沈線を施す	SK3059	中期中葉
TP368	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母	橙	普通	口縁部を隆帯で区画し、隆帯に沿って1列の角押文を巡らして文様描出。角押文間に指頭押圧帯	SX1	中期中葉
TP369	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部文様帯に4条の沈線を施す。頸部無文	表採	中期中葉
TP370	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	口縁部を隆帯で区画。縄文施文の隆帯に沿って押引刺突文を施す	SK3578	中期中葉
TP371	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母	にぶい橙	普通	口縁部肥厚。口縁部から胴部はR Lの単節縄文施文	表採	中期中葉
TP372	縄文土器	深鉢	石英・長石・金雲母・小礫	橙	普通	口縁部はL R単節縄文上に隆帯による区画文	SK3575	中期中葉
TP373	縄文土器	深鉢	金雲母・赤色粒子	橙	普通	波状口縁。波頂部に6条の縦位短沈線。R L単節縄文地の口縁部に隆帯が高る。口縁部文様帯は連続する隆帯によるJ字状文☆。胴部を2条の隆帯で区画	SX1	中期中葉

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q190	石鏡	3.2	1.3	0.5	1.8	瑪瑙	基部欠損。ほぼ左右対称。両面押圧潤磨	表採	PL121
Q191	搔器	3.0	2.1	0.7	3.8	黒曜石	下縁部に調整を施し。刃部を作出	確認面 (B 1 e8)	PL121
Q192	剥片	3.4	4.2	0.9	13.4	黒曜石	横長剥片。割縁に一部刃磨し加工	確認面 (E 8 c4)	PL121
Q193	磨製石斧 (10.9)	5.7	3.1	3.06.0		閃緑岩	全面研磨。上部部に敲打痕。下部欠損	SD64	PL122
Q194	磨製石斧 (10.1)	5.5	3.2	3.02.0		閃緑岩	全面研磨。上部欠損。下部敲石転用	SI202	PL122
Q195	凹石	30.5	11.2	3.8	1320.0	雲母片岩	凹み表面6か所	確認面 (E 8 c4)	PL122
Q196	敲石	12.0	7.3	4.7	580.0	玄武岩	2か所の先端部敲打痕	SI141	PL122

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1729	弥生土器	壺	[11.0]	(45)	-	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	複合口縁で口唇部縄文原体押圧。口縁部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成後縄文原体を2段に押圧。縦長の楕胎付	確認面 (C 2 b0)	
1730	弥生土器	壺	[21.6]	(115)	-	石英・雲母・赤色粒子・白色粒子	赤褐	普通	複合口縁で口唇部縄文原体押圧。口縁部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成後縄文原体と棒状工具を2段に押圧	SH46	
1731	弥生土器	壺	[17.3]	(62)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁で口唇部縄文施文。口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文。頸部髑髏状工具(7本髑髏)による山形文	SI150	
1732	弥生土器	壺	[13.8]	(56)	-	石英・長石	赤褐	普通	複合口縁で口唇部へラ状工具でキザミ。口縁部附加条一種(輪郭不明)縄文を羽状に構成。頸部無文☆	SK2281	
1733	弥生土器	壺	[16.6]	(51)	-	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁で口唇部縄文施文。口縁部頸部附加条一種(附加2条)縄文施文後縄文原体押圧。頸部髑髏状工具による山形文	SI150	
1734	弥生土器	壺	-	(11.0)	-	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後縄文原体押圧。頸部髑髏状工具(6本髑髏)による横走文施文後髑髏状工具(6本髑髏)による山形文施文。頸部下端髑髏状工具による横走文施文	SI 237	
1735	弥生土器	壺	-	(5.8)	-	石英・長石・雲母・白色粒子	にぶい褐	普通	頸部髑髏状工具(8本髑髏)による縦幅の大きい波状文施文	SK 2510	煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1736	弥生土器	壺	-	(8.3)	-	雲母・白色粒子	灰褐	普通	胴部単筋 R L 縄文施文。 頸部無文。	SK2278	
1737	弥生土器	壺	-	(3.6)	7.1	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加2条)縄文施文。 底部木葉痕	SI218	
1738	弥生土器	壺	-	(3.2)	7.0	石英・長石	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文。 底部木葉痕	SI202	
1739	弥生土器	壺	-	(2.8)	[7.8]	石英・長石	にぶい褐	普通	胴部附加条一種(附加1条)縄文施文。 底部布目痕	SK2359	
1755	弥生土器	壺	-	(2.3)	[7.9]	雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文。 底部単比縄による不規則な斜格子文施文	SK3099	
1757	ミニチュア	高坏カ	-	(3.2)	3.7	石英・長石・雲母	橙	普通	外面ナデ、無文	SI150	弥生後期カ PL118
1758	ミニチュア	高坏カ	-	(2.2)	3.7	石英・長石・雲母	褐	普通	外面ナデ、坏部に縄文施文	SK2295	弥生後期カ

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP351	弥生土器	壺	石英・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	複合口縁で口唇部縄文施文。 口縁部・下端附加条一種(軸縄不明)縄文施文後爪形のキザミ	SI101	
TP352	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	口唇部縄文施文。 口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後指頭押圧。 頸部櫛歯状工具(4本櫛歯)による波状文施文	SH33	
TP353	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	複合口縁で口縁部附加条一種(附加2条)縄文施文後縄文原体を山形に押圧。 頸部スリット手法による縦区画内に単比縄による斜格子文施文	SK2427	
TP354	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部折り返し状に陰帯作出しヨコナデを施し、ヘラ状工具押圧。 頸部ハケム調整	確認面(C3E)	
TP355	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部櫛歯状工具(7本櫛歯)による波状文施文。 頸部下端櫛歯状工具(7本櫛歯)による横走文で区画。 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文	SI150	
TP356	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部胴部附加条一種(附加2条)縄文を羽状に構成後丸棒状工具による刺突	SI155	
TP357	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい褐	普通	頸部下端櫛歯状工具(8本櫛歯)による横走文で区画後壺貼付。 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文	SI150	
TP358	弥生土器	壺	石英	にぶい黄橙	普通	頸部櫛歯状工具(3本櫛歯)のスリット手法による縦区画充填斜線文施文	SH46	
TP359	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部-胴部櫛歯状工具(5本櫛歯)による波状文施文。 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文	SI101	
TP360	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	頸部スリット手法による縦区画。 頸部下端櫛歯状工具(6本櫛歯)による横走文で区画後壺貼付。 胴部附加条一種縄文施文	SK2621	
TP361	弥生土器	壺	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部単比縄のスリット手法による縦区画後単比縄の斜線文施文。 胴部附加条一種(附加2条)縄文施文	確認面(C1b8)	
TP362	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部単比縄のスリット手法による縦区画充填格子目文施文	SH33	
TP363	弥生土器	壺	石英・長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部下端櫛歯状工具(5本櫛歯)による横走文で区画。 胴部附加条一種(軸縄不明)縄文施文	SI107	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP364	弥生土器	壺	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部単沈線のスリット手法による縦区画後半沈線の斜走文施文	SI104	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1741	須恵器	蓋	[13.4]	(2.0)	-	石英・長石	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	表採	10%
1740	ミニチュア	壺	-	(3.8)	4.0	石英・長石・白雲母	にぶい濁	普通	壺のミニチュア土器、内・外面ナデ、体部外面下端指頭圧痕、底部もみ痕	SK2208	80%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP365	土師器	甕	石英・雲母・白色粒子	にぶい黄橙	普通	S字状口縁、胴部横方向のハケ目調整後縦方向のハケ目調整	SK2471	
TP366	須恵器	甕	長石	灰	普通	口縁部外面に2本の凸帯を施し、その上下に波状沈線(13本横帯と9本縦帯)を2段に組み合わせて歪らせている	確認面(C 3g3)	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP50	燧玉	1.6	1.2	1.2	(1.5)	粘土	ナデ、一部破損	SI152	
Q197	勾玉	1.9	0.8	0.5	1.6	頁岩	頭部に穿孔(孔径0.2×0.2cm)、全面研磨	SI103	PL121

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q198	白玉	0.70	0.35	0.30	0.16	滑石	側面は円筒状、片面穿孔	SI220	PL121
Q199	白玉	0.70	0.40	0.20	0.16	滑石	側面はやや膨らむ、片面穿孔	SI161	PL121
Q200	白玉	0.55	0.40	0.20	0.10	滑石	側面は円筒状、片面穿孔	確認面(C 2e6)	PL121
Q201	白玉	0.57	0.27	0.20	0.16	滑石	側面は円筒状、片面穿孔	SI152	PL121
Q202	白玉	0.46	0.33	0.20	(0.09)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔、一部欠損	SI152	PL121
Q203	白玉	0.48	0.28	0.23	0.10	滑石	側面は円筒状、片面穿孔	SI152	PL121
Q204	白玉	0.45	0.28	0.20	0.10	滑石	側面はやや膨らむ、片面穿孔	SH32	PL121
Q205	白玉	0.50	0.20	0.20	0.12	滑石	側面はやや膨らむ、片面穿孔	確認面(C 3a1)	PL121
Q206	白玉	0.50	0.30	0.18	(0.09)	滑石	側面は円筒状、片面穿孔、一部欠損	表採	PL121

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1742	土師器	小皿	10.1	2.1	5.0	金雲母	橙	普通	底部回転ヘラ切り、体部内・外面クロコナデ	SI108	80%、PL118
1743	土師器	坏	14.4	4.0	-	石英・長石・黒雲母	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、体部外面ヘラ削り	SI160	95%、PL118
1744	土師器	坏	-	(1.0)	[6.8]	白雲母	にぶい橙	普通	底部内面ヘラ磨き、底部外面回転糸切り	確認面(C 2J0)	20%、底部内面ヘラ書き「有口」、PL120
1745	土師器	坏	-	(3.3)	-	石英・長石	にぶい橙	普通	体部内・外面クロコナデ	SI150	5%、体部外面墨書「口」、PL120
1208	須恵器	坏	13.2	4.6	6.2	石英・長石	灰オリーブ	普通	体部内・外面クロコナデ、底部回転糸切り	SI103	100%、壺の内底、底部外面墨書「尺」、PL118
1746	須恵器	坏	11.4	3.7	7.4	石英・長石	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り後、ナデ	PG15 P 13	80%、壺の内底、体部外面火焼痕、PL118
1747	土師器	高台付筒	14.4	5.3	6.3	長石・白雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ヘラ磨き、底部回転ヘラ切り後、高台貼り付	SD59	100%、PL118

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1748	土師器	高台付碗	15.9	7.0	7.3	長石・白雲母・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部内面ヘラ磨き、体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	SD59	95%、PL118
1749	須恵器	蓋	[16.4]	3.2	-	石英・長石・白雲母	灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	SI160	30%、新治産
1750	緑釉陶器	碗 <small>カ</small>	-	(1.3)	-	緻密	オリーブ・浅黄	良好	内面ヘラ磨き、ハケ塗り 底部高台貼り付け後ナブ	SH26	5%、猿投産(黒笹90号窯式)、二次焼成により変色

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T2	丸瓦	(6.2)	(7.3)	2.5	(127.0)	粘土	凸面ヘラ削り、凹面布目痕	確認面(B1d9)	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	色調	絵付・施軸	手法の特徴	産地・年代	出土位置	備考
1751	陶器	志野丸皿	-	(2.0)	[7.6]	灰白・灰白	長石軸	底部内・外面・裏付施軸。底部回転系切り、円錐ピン跡有り	瀬戸産、大宮Ⅲ期(1570~1580)	確認面(E8b3)	20%、PL126
1752	磁器	筒茶碗	-	(2.3)	[4.3]	暗青灰・灰白	透明軸・染め付け	体部外面草花文。底部内・外面に染め付けで二重の輪	肥前産、18C	確認面(E8h2)	20%
1753	陶器	鉄軸茶入	3.2	6.2	3.6	にぶい赤褐・浅黄	鉄軸	体部外面下位露胎。裏付無軸。底部回転系切り	瀬戸産、大宮Ⅰ期(1490~1530)	確認面(E6a9)	70%、PL124
1754	陶器	給軸(尾呂軸)香炉	[10.6]	(3.8)	-	オリーブ褐・黒灰	給軸	体部外面鏝による平帯文 体部内・外面施軸	瀬戸産、連房登壇Ⅲb期(1710~1750)	確認面(E8e6)	5%、PL126

番号	銭名	径	孔	重量	初鑄年	材質	特徴	出土位置	備考
M132	永樂通寶	2.40	0.55	3.3	1408(明)	銅	真書	確認面(E7e9)	PL123
M133	熙寧元寶	2.39	0.70	3.5	1068(北宋)	銅	真書	確認面(C3㊦)	PL123
M134	祥符元寶	2.42	0.60	3.4	1009(北宋)	銅	真書	確認面(C3㊦)	PL123
M135	元祐通寶	2.38	0.73	2.4	1086(北宋)	銅	行書	確認面(C3㊦)	
M136	寛永通寶	2.24	2.63	2.1	1697	銅	真書。新寛永、虎の尾「寛」	確認面(C2㊦)	PL123

第4節 まとめ

大田神社前遺跡は平成14年に発掘調査されており、その成果がすでに「大田神社前遺跡1 茨城県教育財団文化財調査報告第229集」として刊行されている(以下、「大田神社前遺跡1」と略し、本報告分を「大田神社前遺跡2」とする)。今回は各時代の中から特徴ある遺構と遺物について取り上げ、若干の考察を加えまとめたい。考察には「大田神社前遺跡1」の報告分も一部扱うが、文責は今回の担当者が負うものである。執筆担当者は文末に括弧を付して記した。

1 弥生時代～古墳時代

(1) 弥生時代住居から古墳時代住居への拡張について—第195・164号住居跡の事例—

古墳時代の調査では、第164号住居跡を床面まで掘り下げたところ、一回り小さい第195号住居跡のプランが確認された。ここでは第195号住居跡と第164号住居跡の関係について、若干の考察を加える。

(ア) 第195号住居跡と第164号住居跡のピットと炉の位置(第393図)

第195・164号ともP1～P4が主柱穴で、P5が出入り口施設に伴うピットである。P1のみ共通しており、第164号のP2～P5は第195号のそれよりも外側に位置している。主柱穴の深さはP2～P4とも第164号住居跡の方が深くなっている。炉は第195号の炉のほぼ真上に、主軸を同じくして第164号の炉が位置している。

(イ) 第195号住居跡と第164号住居跡の時期

第195号から出土している土器は、その文様から茨城県西部から栃木県に分布する所謂「二軒屋土器」とされるものであり、弥生時代後期後半の時期と考えられる。第164号は、出土土器から古墳時代前期前半(4世紀前半)の時期と考えられる。県内では弥生時代後期後半から古墳時代前期の土器が共存している例が確認されており、これらの時期は弥生時代から古墳時代への移行期と捉えられている。

(ウ) 第195号住居跡と第164号住居跡の関係

第164号のP2～P5は、第195号住居跡のそれよりも拡げるように外側に移動している。事実、第164号の面積は19.75㎡で、第195号の面積は9.61㎡であり、10.14㎡の増加で約2倍拡がっている¹⁾。炉も上と下の位置がほぼ同じということは、時間的に「断絶」しているとは考えられず「連続」していることを意味している。ピットの外側への移動とそれに伴う面積の増加、上下に位置する炉から第195号と第164号は単なる重複ではなく、「拡張」したと捉えることが可能である。つまり弥生時代住居から古墳時代住居への拡張ということになる。

(エ) ひたちなか市武田遺跡群における竪穴住居跡の改築例

白石真理氏は武田遺跡群(武田石高遺跡・武田西端遺跡・武田原前遺跡)の古墳時代の竪穴住居跡にみられる改築例を集成している(第394図)²⁾。武田遺跡群では13軒の竪穴住居跡に改築の痕跡が確認され、その内9軒が主柱の建て替えを行っている。武田西端遺跡第22・37B・165号住居跡³⁾、武田石高遺跡第107号住居跡⁴⁾、武田原前遺跡第18号住居跡⁵⁾については主柱穴の移動に拡張に伴う、もしくはその可能性があることが指摘されている。武田原前遺跡第18号住居跡では「掘形から検出されたピットはピット2～4の内側に位置しているが、ピット1の周辺にはみられなかったことから、ピット1を基準として、拡がるように主柱穴の移動が行われたことが明らかとなった。」とある。武田原前遺跡第18号住居跡のように拡張する前の住居跡の壁の立ち上がりまで確認されたものはないが、拡張されている住居跡は廃絶時のピット

ト、すなわち床面で確認されたピットが外側にある傾向が読み取れる。「拡張」と記載がなく、「建て替え」とのみ報告されている竪穴住居跡でピットの土層が確認されているものも、やはり外側が新しい。

白石氏の集成した例は第195・164号より時期が下るものである。しかし「改築」の仕方にも特徴が見出せないことや、特に武田原前遺跡第18号住居跡のピットの動きは、第195・164号のそれと同じであることから、これらの例は第195号→第164号と「拡張」したことを裏付けるものと考えられる。

(オ)改築の定義

白石氏は改築とは「発掘調査において、住居跡内にみられる痕跡から確認される改築」に限定して、「住居跡の一部を改めること」と定義している。主柱穴の建て替えが実施されている場合は「廃絶時に使用されていたピットの内側に古い主柱が検出されるケースが多く、拡張に伴うものであった可能性が高い」とし、それは「上屋根を全て改めて改築していたことを示している⁶⁾」としている⁶⁾。後藤信祐氏は栃木県横沢遺跡における縄文時代中期後半の竪穴住居跡の分析から、旧住居と同じ場所での建て替えについて「この場合、旧住居と新住居には大きな時間差はなく(基本的には同一型式内であり、せいぜい連続した1小型程度程度の時間差)、旧住居がその場所に存在していたことを知っているうえで、同じ場所に新たに住居を建て直したと考えられ、同一系譜の構築者である可能性が高い」と定義している。そして同じ場所での建て替えについて大きく3つに分類し、さらにそれを8つに細分している⁷⁾。第195号住居跡から第164号住居跡への建て替えは、後藤氏の分類の「B-1類」にあてはめることができる。

(カ)小結

白石氏は武田遺跡群における古墳時代住居跡の改築の背景に、「時期的にも住居跡をその場所に固定しうる土地の専有性の確立、家父長制度や居住形態の問題」がある可能性を示唆している⁸⁾。弥生時代から古墳時代への住居跡の拡張例は管見では本遺跡のみであり、その社会背景まで述べることはできない。しかし第195号と第164号を単なる重複ではなく「拡張」と位置付けることによって、時間的にもまたそこに居住する人々の「連続性」を強調することはできたのではないかと考える。また、遺構外からはあるが、器形・整形技法は弥生土器で、ハケ目調整されている土器が確認されている(図版番号第391図-354)。本遺跡における弥生時代から古墳時代への移行期の「ヒト」の存在がうかがえる資料である。

今回の改築例が弥生時代から古墳時代への移行期の諸問題にアプローチするためのひとつの資料となることを期待し、類例の蓄積を課題としたい。そのためには竪穴住居跡の改築の痕跡(主柱穴の建て替え、壁の拡張、炉や竈の再設置、床の貼替えなど)を発掘調査時に見落とさず、正確に記録することが第一歩である。(早川)

註

1) 面積の算出については、以下の論文を参考にした。

浅井辰悟・鈴木雅大「千葉県内の竪穴住居址の面積(Ⅰ)―計量考古学の勧め―」『東邦考古』7号 東邦考古学研究会 1981年9月

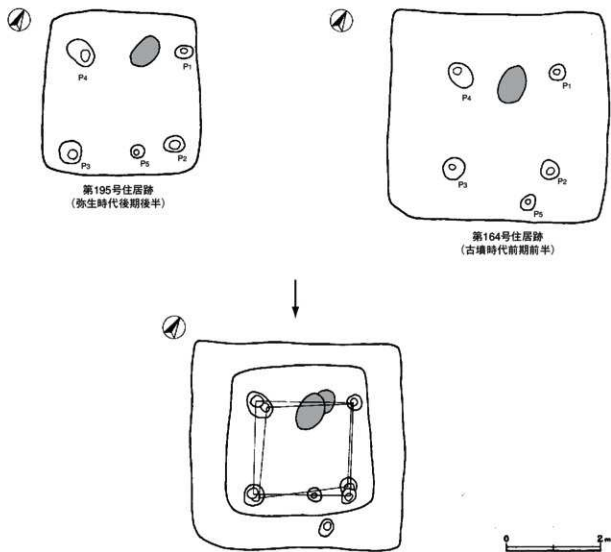
2) 白石真理「古墳時代の竪穴住居跡にみられる改築―武田遺跡群における主柱の建て替え例について―」『茨城県考古学協会誌』第16号 茨城県考古学協会 2004年5月

報告書で改築の可能性を指摘したもので、不確定なものはこの論文では省いていると断りがある。従って改築例の数は報告書とこの論文では合わない。

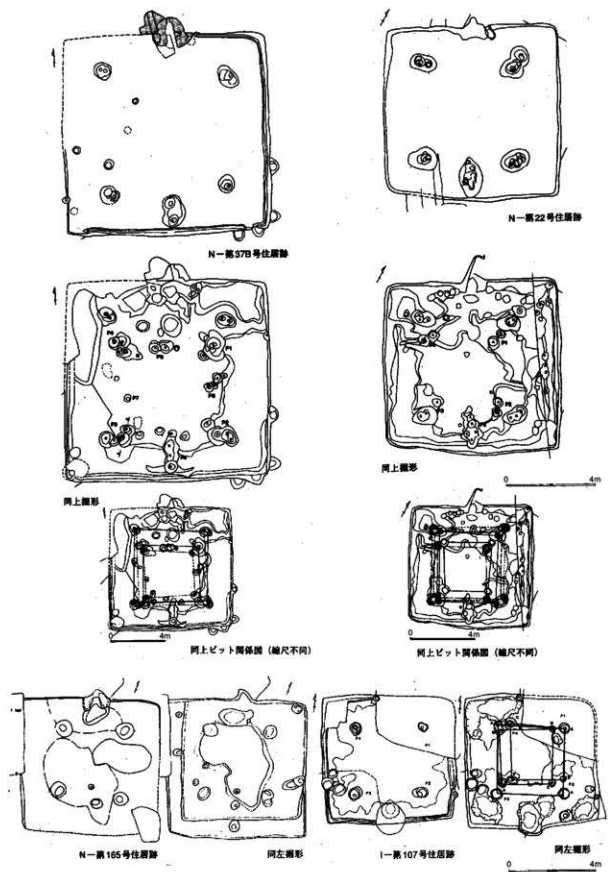
3) 白石真理「武田西場遺跡 古墳時代編」『財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第29集 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 2004年3月

第165号住居跡に関しては註2論文で「縮小していたかもしれない。」とある。今回は報告書の「拡張」を採用する。いずれにしても建て替えていたことには変わりはない。

- 4) 白石真理「武田石高遺跡 古墳時代編」『(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告』第17集 財団法人 ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 1999年1月
- 5) 武田原前遺跡第18号住居跡は現在整理中のため、「武田石高遺跡 古墳時代編」の第107号住居跡の註を参考にした。
- 6) 註2論文
- 7) 後藤信祐「槻沢遺跡における竪穴住居跡建て替えに関する覚書—竪穴住居建て替えに伴う知の作り替えパターン—」『研究紀要』第9号—埋蔵文化財センター創立10周年記念論集— 財団法人 とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化センター 2001年3月
後藤氏は同じ場所での建て替えでも規模を拡張する場合を「B類」とし、その中でも「同心円状に全体的に拡張する場合」を「B-1類」としている。
- 8) 註2論文



第393図 第195・164号住居跡模式図



第394図 武田遺跡群の改築例 (註2論文より一部転載。N=西塙遺跡, I=石高遺跡)

2 律令時代

(1) 時代別の変遷 (土器を中心にして)

大田神社前遺跡から出土した土器の概要及び器種については、すでに各遺構の項でふれた。ここでは、『大田神社前遺跡1』¹⁾をふくめて、奈良時代から平安時代にかけての住居跡等から出土した土器を10期に分類し、住居の変遷を述べ、特徴や性格についてまとめることとする。

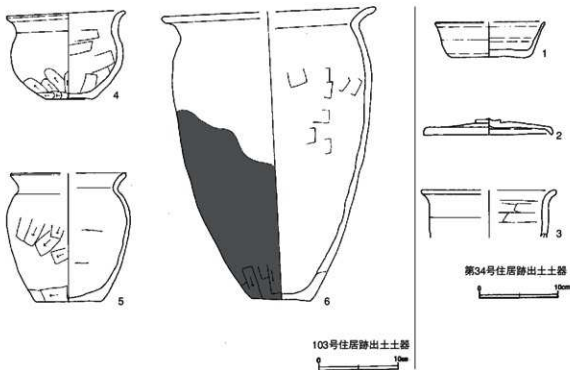
ア 奈良時代

奈良時代に時期が想定される住居跡は、『大田神社前遺跡1』で3軒、『大田神社前遺跡2』で11軒である。他に『大田神社前遺跡1』では掘立柱建物跡が1棟、土坑が1基確認されている。当遺跡は真壁郡伴部郷(白壁評からの改称は延暦3年(784))に属しており²⁾、郡衙(評衙)推定地から離れた位置にある。住居跡が最も増加する第2期には、帯金具の一部である鉸具や多量の土器が出土している住居跡も確認されている。金谷遺跡³⁾や当向遺跡⁴⁾に見られるような官衙に関連する掘立柱建物跡は確認されていない。住居跡は北竈を主体として、一部東竈も確認されている。

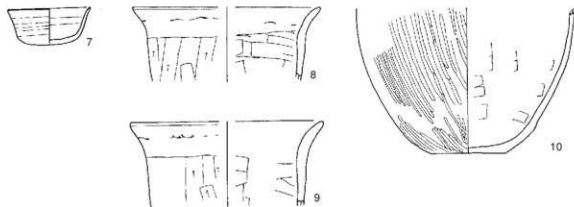
第1期(第395・396図)

第34・103・231号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。住居跡は、『大田神社前遺跡1』で1軒(第34号住居跡)、『大田神社前遺跡2』で3軒(第103・161B・231号住居跡)が確認されている。住居数が少ないため資料に乏しいが、須恵器製品では、胎土に雲母の含有が目立つ新治窯産の坏(7)が確認されている。土師器は甕や甔が出土している。住居は一辺が3mほどの方で、竈は北壁に設けられている。

第1期は、出土した須恵器をもとに8世紀前葉と考えた。



第395図 第1期の土器群(1)



第231号住居跡出土土器



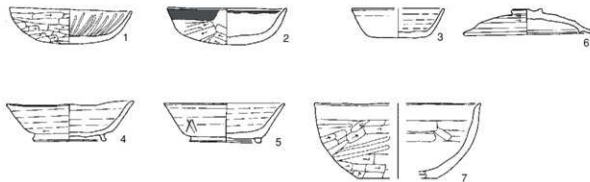
第396図 第1期の土器群 (2)

第2期 (第397・398図)

第131・154号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。土師器の坏はいずれも扁平で、器形が丸みを帯びている。堀の内窯産の須恵器が急増している。その他、益子窯産(11・30)や三湯窯産(13)、新治窯産(6)の須恵器も見られる。本期まで土師器の坏が相伴している。

住居跡は、『犬田神社前遺跡1』で1軒(第2号住居跡)、『犬田神社前遺跡2』で7軒(第112・115・131・154・161A・181・198号住居跡)確認されている。住居は一辺3～6mの方形もしくは長方形で、竈は北壁に設けられているものが主体である。第154号住居跡は、当遺跡の奈良時代では最も大形の住居跡(41.5m²)で、帯金具の一部である鉸具(35)を始め、多量の土器や鎌などが出土していることから、当集落で中心的な役割を果たしていたものと考えられる。本期は律令体制が確立している時期であり、白壁評衙推定地から離れてはいるが、鉸具が出土していることから評衙の支配体制が及んできた現れと考えられる。また、竈は北壁から東壁に作り替えている住居跡(第198号住居跡)も確認されている。

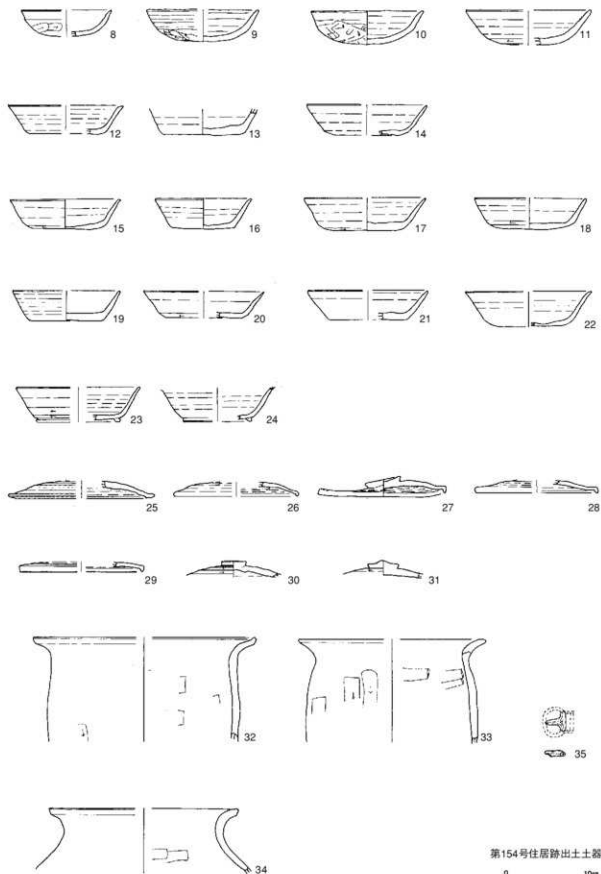
第2期は、出土した須恵器をもとに8世紀中葉と考えた。



第131号住居跡出土土器



第397図 第2期の土器群 (1)

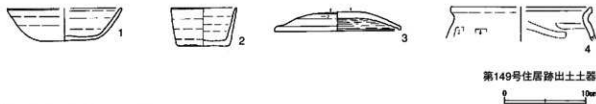


第398図 第2期の土器群(2)

第3期 (第399図)

第149号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。住居跡は、「犬田神社前遺跡1」で1軒(第4号住居跡)、「犬田神社前遺跡2」で1軒(第149号住居跡)が確認されている。2期に比べ住居数が減少している。住居は一辺4～5mの方形で、竈が北壁に設けられている。住居数は前期と比べて減少し、大形の住居も確認できない。

第3期は、出土した須恵器をもとに8世紀後半と考えた。



第399図 第3期の土器群

イ 平安時代

平安時代に時期が想定される住居跡は「犬田神社前遺跡1」で33軒(うち、7軒は時期が限定できない)、「犬田神社前遺跡2」で45軒(うち、11軒は時期が限定できない)、井戸跡は「犬田神社前遺跡1」で4基(平安時代ではあるが、時期が限定できない)、「犬田神社前遺跡2」で1基、土坑は「犬田神社前遺跡1」で7基(平安時代ではあるが、時期が限定できない)、「犬田神社前遺跡2」で6基である。金谷遺跡や当向遺跡からは多くの掘立柱建物跡が確認されているが、当遺跡では確認されていない。住居跡は、第8期に最も増加している。また、麻滓土坑が3基確認され、製鉄炉は確認されていないものの、当遺跡内で製鉄が行われていたものと考えられる。しかし、麻滓土坑は一時期に集中し、住居内からも鉄滓はほとんど出土していないため、継続的に製鉄が行われていた可能性は低い。竈は4期から6期が北壁に、7期から10期が東壁に主に設けられている。

また、施軸陶器は7点(灰軸陶器5点、緑軸陶器2点)だけ出土しており(表31)、辰海道遺跡の479点(灰軸陶器362点、緑軸陶器117点)⁵⁾と比べかなり少ない。調査面積に違いもあるが、出土数の極端な違いから、当該期、辰海道遺跡が中心的な集落で、当遺跡が一般的集落であった様相がうかがえる。

表31 出土施軸陶器一覧

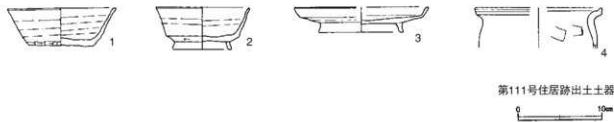
番号	遺物番号	遺構	遺構の時代	種別	器種	部位	色調	施軸方法	文様・特徴	産地・年代
1	1249	SI-116	9世紀前半	灰軸陶器	瓶	体部	灰白	確認できず	体部口ロナデ	猿投産(黒部90号産式)
2	1396	SI-163A	10世紀後半	灰軸陶器	瓶	体部	オリーブ黄・灰白	流し掛け	体部口口調整	猿投産(折F53号産式)
3	1422	SI-215	10世紀前半	灰軸陶器	皿	底部	灰オリーブ・灰白	漬け掛け	見込み無難。回転ヘラ削り後。高台貼り付け。やや緩な三日月高台	猿投産(折F53号産式)
4	1452	SI-226	10世紀中葉	灰軸陶器	瓶	体部	灰オリーブ・灰白	流し掛け	体部口口調整	猿投産(折F53号産式)
5	1515	SE-92	9世紀後半	灰軸陶器	短頸壺	体部	灰オリーブ・灰白	流し掛け	体部口ロナデ	猿投産(黒部90号産式)
6	1418	SI-207	11世紀前半	緑軸陶器	碗	底部	灰・灰オリーブ	ハケ塗り	胎土非常に緻密。高台貼り付け。二次焼成により変色	尾北産(鶴岡4号産式)
7	1750	遺構外		緑軸陶器	碗	底部	オリーブ・浅黄	ハケ塗り	内面ヘラ磨き。ハケ塗り。二次焼成によりやや変色	猿投産(黒部90号産式)

第4期（第400図）

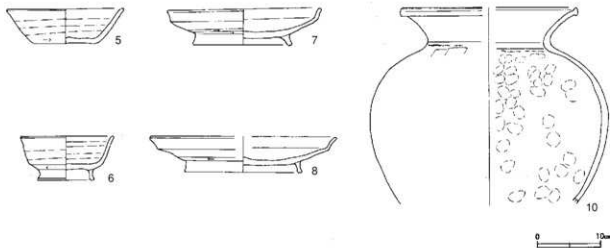
第111・210号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。堀の内窯産の須恵器は安定供給されており、一部益子窯産（5・7）と新治窯産の須恵器が確認できる。須恵器の坏は前段階のより器高が若干高くなり、口径と底径の差が広がっている。本期においては、盤が多く出土している。

住居跡は、『犬田神社前遺跡1』で3軒（第30・60・75号住居跡）、『犬田神社前遺跡2』で7軒（第111・116・140A・140B・141・199・210号住居跡）確認されている。9世紀前半と考えられる2軒（第113・158号住居跡）も確認されており、3期に比べ住居数が増加している。住居は一辺3～5mほどの方形もしくは長方形で、竈は北壁に設けられている。また、住居の東部に有段の床を設けている第140A号住居跡も確認されている。

第4期は、出土した須恵器をもとに9世紀前葉と考えた。



第111号住居跡出土土器



第210号住居跡出土土器

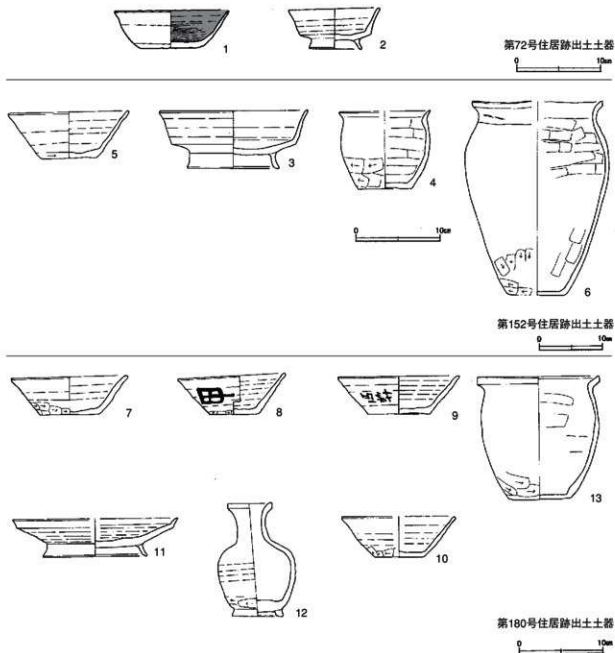
第400図 第4期の土器群

第5期 (第401図)

第72・152・180号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。堀の内窯産の須恵器は安定供給されているが本期から土師器の坏が器種構成に加わる。

住居跡は、「犬田神社前遺跡1」で2軒 (第72・74号住居跡)、「犬田神社前遺跡2」で3軒 (第133・152・180号住居跡)、土坑は「犬田神社前遺跡2」で3基 (第2655・2657・2658号土坑) が確認されている。住居は一辺3～5mほどの方形もしくは長方形で、竈が北壁に設けられている。土坑3基は廃滓土坑と考えられ、調査区から製鉄炉は確認されていないが、周囲で製鉄が行われていたものと考えられる。

第5期は、出土した須恵器をもとに9世紀中葉と考えた。



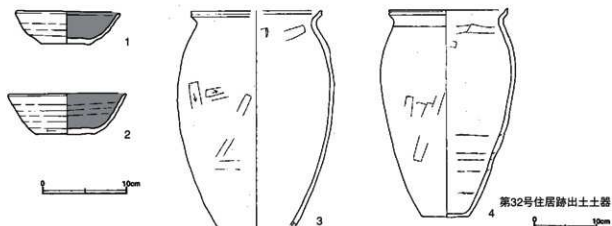
第401図 第5期の土器群

第6期 (第402・403図)

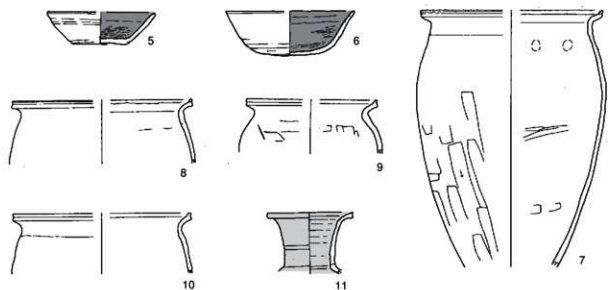
第32・70・77号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。須恵器の生産は衰退し、土師器が中心となる。土師器の坏は、前段階より底径が小さくなる傾向にあり、内面に黒色処理とミガキを施したものが一般化する。また、灰軸陶器は黒笹90号窯式と考えられる長頸瓶(11)が出土している。第123号住居跡からは、置き竈が出土している。

住居跡は『大田神社前遺跡1』で5軒(第32・46・70・77・87号住居跡)、『大田神社前遺跡2』で1軒(第123号住居跡)、井戸跡は『大田神社前遺跡2』で1基(第92号井戸跡)確認されている。9世紀後半と考えられる3軒(第55・105・182号住居跡)も確認されている。住居は一辺2～5mの方形もしくは長方形で、竈が北壁に設けられているものが主体であるが、一部東壁にも設けられている。竈の両側には、棚状施設を有している住居跡も確認されている(第70号住居跡)。

第6期は、出土した須恵器と土師器をもとに9世紀後葉と考えた。

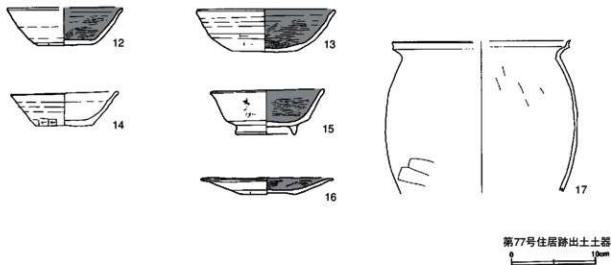


第32号住居跡出土土器



第70号住居跡出土土器

第402図 第6期の土器群(1)



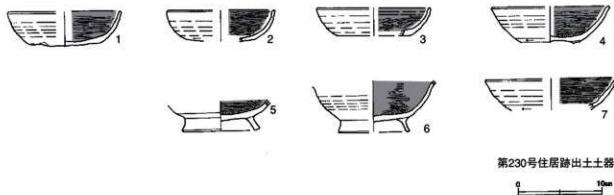
第403図 第6期の土器群 (2)

第7期 (第404図)

第230号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。須恵器は供膳具も貯蔵具もほとんど出土しなくなる。供膳具は土師器の坏と高台付碗が主体である。

住居跡は『大田神社前遺跡2』で1軒 (第230号住居跡)、土坑は1基 (第2253号土坑) 確認されている。10世紀前半と考えられる2軒 (第118・215号住居跡) も確認されている。住居数は減少しているが、調査区域外に展開されている可能性も考えられる。第230号住居跡は長軸2.7m、短軸2.5mの方形で、竈は東壁に設けられている。

第7期は、出土した土師器をもとに10世紀前葉と考えた。



第404図 第7期の土器群

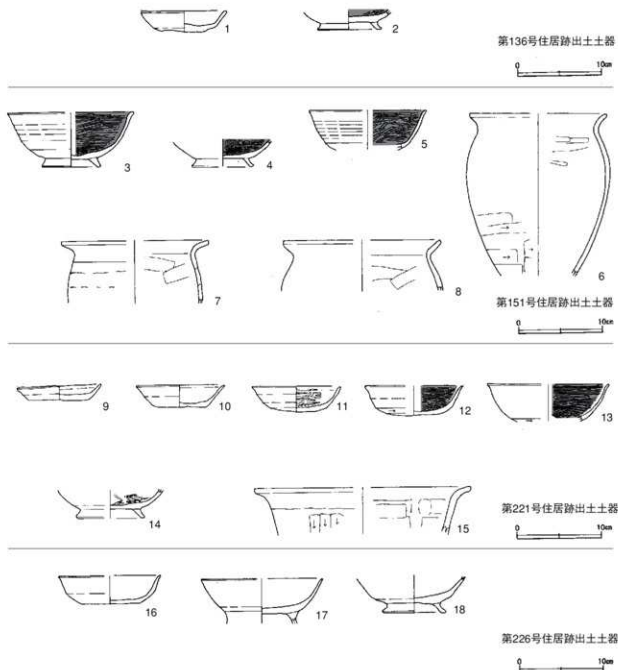
第8期 (第405図)

第136・151・221・226号住居跡から出土した土器が本期を代表する一群で、土師器だけの出土となる。本期には、小皿と高台がやや高い高台付碗が器種構成に加わる。

住居跡は『大田神社前遺跡1』で8軒 (第7・16・47・59・67・68・78・91号住居跡)、『大田神社前遺

跡2」で9軒（第120・136・151・160B・163B・217A・217B・221・226号住居跡）確認されている。前時期に比べ住居数が急増し、平安時代に最盛期を迎える。辰海道遺跡においても、本期に住居が急増している。「辰海道遺跡1」⁴¹では、10世紀中葉に住居数が急増する理由として、庄園に関わる墨書土器や施釉陶器、あるいは羽口や鉄滓などの鉄生産関連遺物がより多く出土していることから、在地有力者が庄園領主となり、鍛冶に関する工人を組み込み、豊かな経済活動が行われるようになったためと推測されている。しかし、本跡からは豊かな経済活動を裏付ける遺物は出土していないため、住居数が増えた理由は不明である。住居は一辺2～3mの方形もしくは長方形で、小形化している。竈は東壁に設けられているものが主体であるが、一部は北壁に設けられている。

第8期は、出土した土師器をもとに10世紀中葉と考えた。



第405図 第8期の土器群

第9期 (第406図)

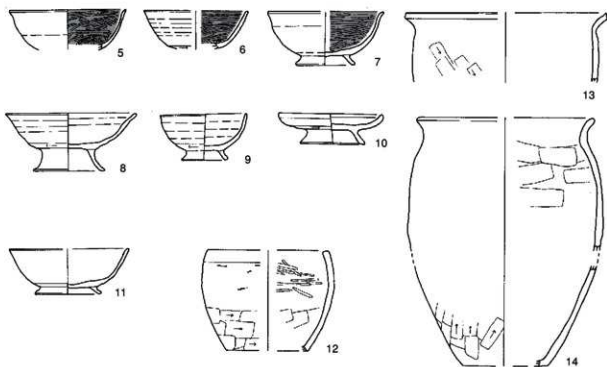
第163A・229号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。高台付皿が器種構成に加わる。小皿や坏は出土数が少なく、全体の形状が明確ではない。高台付碗は、口径が10~17cmと多様化し、体部の内彎が顕著になり、黒色処理とミガキは衰退する傾向にある。高脚化した高台付碗の出土数が増加している。

住居跡は「犬田神社前遺跡1」で6軒(第12・18・19・48・82・83号住居跡)、「犬田神社前遺跡2」で3軒(第143・163A・229号住居跡)、土坑は1基(第2659号土坑)確認されている。10世紀後半と考えられる2軒(第135・160A号住居跡)も確認されているが、前時期と比べ減少する。住居は一辺2~5mの方形もしくは長方形である。竈は東壁に設けられているものが主体であるが、一部北壁に設けられている。

第9期は、出土した土師器をもとに10世紀後葉と考えた。



第163A号住居跡出土土器



第229号住居跡出土土器



第406図 第9期の土器群

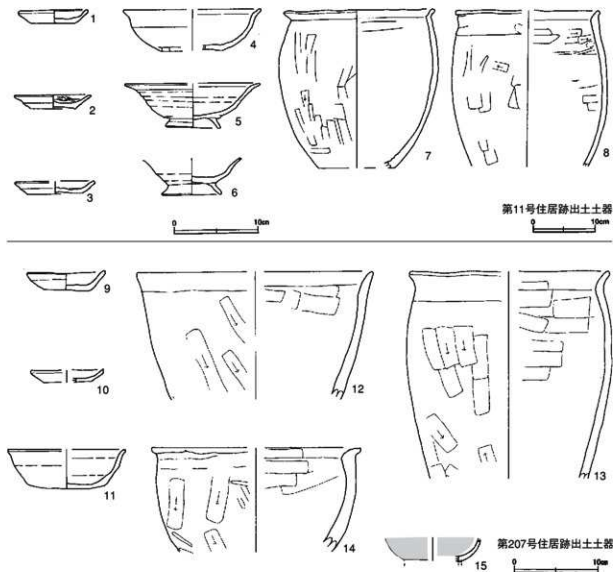
第10期 (第407・408図)

第11・207・220号住居跡から出土した土器が、本期を代表する一群である。小皿は小形化が進んでいる。高台付碗は高台部が低くなる傾向にある。また、緑釉陶器では尾北産篠岡4'号窯式の碗(15)が覆土中から出土している。

住居跡は「犬田神社前遺跡1」で1軒(第11号住居跡)、「犬田神社前遺跡2」で2軒(第207・220号住居跡)、土坑は1基(第2604号土坑)確認されている。住居は一辺2~4mの方形もしくは長方形である。竈は東壁に設けられているものが主体であるが、南西と南東のコーナー部の両方に竈を設けている住居跡(第11号住居跡)も確認されている。

また、前時期と比べて住居数が減少し、本期以後は堅穴住居跡が確認されていない。辰海道遺跡においても同様な様相を示し、「辰海道遺跡1」⁷⁾「辰海道遺跡2」⁸⁾の中で、堅穴式から平地式の住居への転換を予想している。当遺跡においても住居形態の転換が行われたものと想定されるが、当該期の平地式建物は確認されていない。

第10期は、出土した土師器をもとに11世紀前半と考えた。



第407図 第10期の土器群 (1)



第408図 第10期の土器群 (2)

以上、10期に分類した当遺跡の奈良時代、平安時代の土器の年代的位置付けについては、須恵器の年代観⁹⁾や同じ岩瀬町の辰海道遺跡¹⁰⁾や当向遺跡¹¹⁾の土器の変遷を参考に分類した。(鶴志田)

註

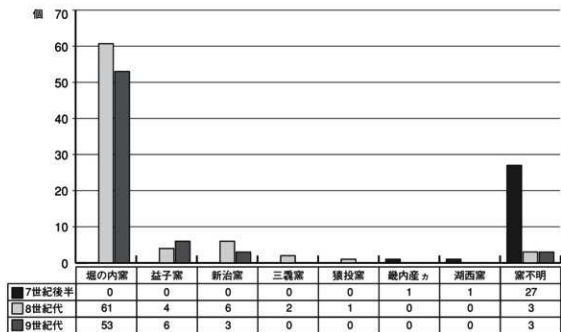
- 1) 榊雅彦・石川武志「大田神社前遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ」『茨城県教育財団調査報告』第229集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 2) 中山信名『新編常陸国誌』 峯書房第 1979年12月
- 3) 大塚雅昭・小松崎和治「金谷遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団調査報告』第225集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 4) 11) 小澤重雄・小野克敏「当向遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第224集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 5) 榊雅彦・小林健太郎「辰海道遺跡3 一般国道50号(岩瀬1C)改築事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第235集 (財)茨城県教育財団 2005年3月
- 6) 7・10) 仲村浩一郎・後藤一成・宮田和男・芳賀友博・鶴志田祐一「辰海道遺跡1 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第222集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 8) 越田真太郎「辰海道遺跡2 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団調査報告』第223集 (財)茨城県教育財団 2004年3月
- 9) a 高井禎三郎他「常陸国新治郡上代遺跡の研究Ⅱ」甲陽史学会 1979年12月
 b 吉沢悟「律令制成立期の須恵器の系譜-茨城県-」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会 1997年3月
 c 赤井博之「律令制変質期の須恵器の系譜-茨城県-」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会 1997年3月
 d 赤井博之「古代常陸新治宮跡群の基礎的研究(1)～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会 1998年5月
 e 内山敏行「律令制成立期の須恵器の系譜-栃木県-」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会 1997年3月
 f 山口耕一「律令制変質期の須恵器の系譜-栃木県-」『東国の須恵器-関東地方における歴史時代須恵器の系譜-』古代生産史研究会 1997年3月

(2) 須恵器の様相 (第409～412図, 表32, グラフ1・2)

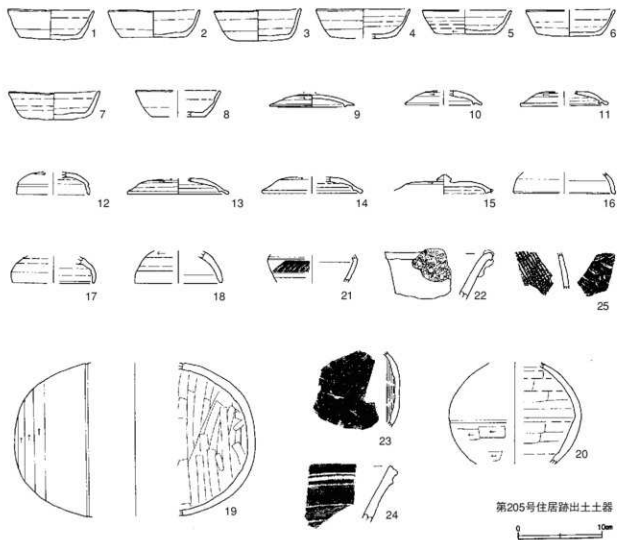
『犬田神社前遺跡2』で、律令時代以降の須恵器は、実測できたものが185点出土している。時期ごとの器種構成は、いずれの時代においても供膳具の出土割合は高く、炊飯具及び貯蔵具の出土割合が低い傾向にある。

出土した須恵器は、表32の分類基準をもとに次のように窯別分類を行った(グラフ1)。7世紀後半は、畿内産の可能性のあるもの1点、湖西窯産1点、窯不明27点である。8世紀代は、堀の内窯産61点、益子窯産4点、新治窯産6点、三義窯産2点、猿投窯産1点、窯不明3点である。9世紀代は、堀の内窯産53点、益子窯産6点、新治窯産3点、窯不明3点である。時期不明の遺構及び遺構外等からは堀の内窯産4点、新治窯産1点、窯不明9点である。

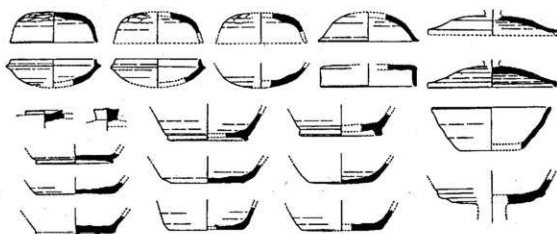
グラフ1 出土須恵器時期別窯別個体数



7世紀後半と考えられる第205号住居跡からは27点の須恵器(第409図)が出土し、特筆される。ここからは、畿内産の可能性のあるものが1点(12)、湖西産が1点(16)出土しており、他の25点とも合わせ7世紀後半の須恵器を考える上で貴重な資料となる。この25点は胎土観察の結果、堀の内窯跡の採取資料に酷似しているとの意見を得られた⁴¹⁾。しかし、7世紀代の堀の内窯は確認されておらず、近接する益子窯においても南高岡窯だけが確認されているにとどまっている。本跡出土の須恵器は、器形から7世紀前半と考えられている栃木県真岡市の南高岡窯²⁾(第410図)や7世紀中葉に位置づけられている東海村の馬頭根1号窯³⁾(第411図)より新しく、7世紀末葉と考えられる土浦市の栗山窯⁴⁾(第412図)より若干古い時期のものと考えられる。

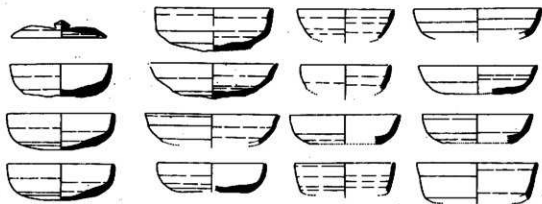


第409図 第205号住居跡出土須恵器



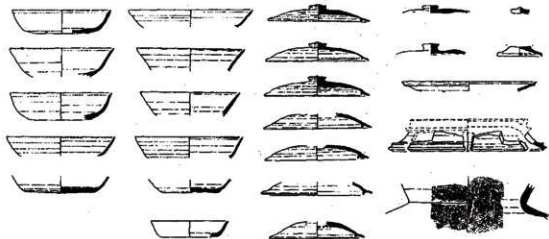
〔須恵器集成図録 第四巻 東日本編Ⅱ〕
より抜粋して転載

第410図 栃木県南高岡窯（『真岡市史案内』6号 1987）



【須恵器集成図録 第四巻 東日本編Ⅱ】
より抜粋して転載

第411図 東海村馬頭根1号窯（「常陸馬頭根窯址」 1983）

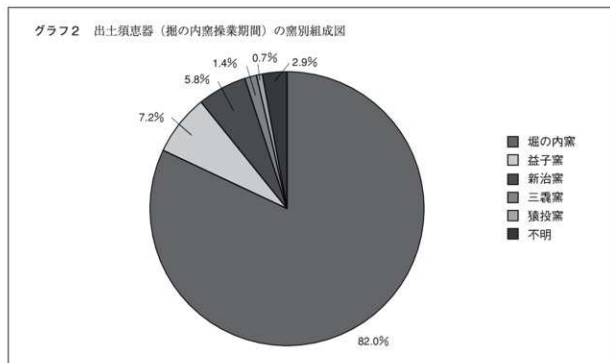


【古代生産史研究会 97シンポジウム
東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—】
古代生産史研究会より抜粋して転載

第412図 土浦市栗山窯

辰海道遺跡の8世紀代においては木葉下窯産が確認されているが²⁾、本跡においては木葉下窯産の須恵器を確認することはできなかった。三瀬窯産の須恵器は8世紀中葉の住居跡に2点出土しているだけであるが、下野国との交易を考える上で貴重な資料といえる。益子窯産の須恵器は8世紀中葉で4点、9世紀前葉で5点、9世紀中葉で1点が出土している。益子窯跡群は本集落と直線距離にして北約3.5kmに位置していることが、供給される要因と考えられる。益子窯跡群の一部は堀の内窯跡群と同一丘陵で操業しており、益子窯産の須恵器には堀の内窯産の須恵器と胎土が酷似しているものがあると考えられ、堀の内窯産ととらえたもののなかに益子窯産のものが含まれる可能性も高い。新治窯産の須恵器は8世紀前葉で1点、8世紀中葉で4点、8世紀後葉で1点、9世紀前葉で2点、9世紀中葉で1点出土している。新治窯からは桜川や陸路を経由して、本集落にもたらされたものと考えられる。堀の内窯産の須恵器は、

8世紀中葉から9世紀後葉まで安定的に供給されている。堀の内窯産の須恵器は、堀の内窯の操業が想定されている期間（堀の内窯の操業は8世紀中葉から9世紀中葉までは確認されているが、消費地遺跡の分析から10世紀第1四半期には消滅するものと考えられる⁶⁾。）の住居跡から出土している須恵器の82.0%を占めている（グラフ2）。堀の内窯は10世紀第1四半期まで操業していたと考えられているが、10世紀代になると須恵器はほとんど確認できないため、本集落においての須恵器の使用は9世紀後葉までと考えられる。（鴨志田）



註

- 1) ミュージアムパーク茨城県自然博物館副主任学芸員小池渉氏に第205号住居跡の須恵器と堀の内窯の窯資料及び新治窯産の須恵器を見てもらった結果、胎土から第205号住居跡の須恵器と堀の内窯の須恵器は酷似しているとの指摘をいただいた。
- 2・3) 酒井清治・伊藤博幸『須恵器集成図録 第4巻 東日本編Ⅱ』 雄山閣出版 1995年11月
- 4) 内山敏行『律令制成立期の須恵器の系譜—橋本県—』『東国の須恵器—関東地方における歴史時代須恵器の系譜—』古代生産史研究会 1997年3月
- 5) 仲村浩一郎・後藤一成・宮田和男・芳賀 友博・鴨志田祐一『辰海道遺跡1 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』『茨城県教育財団調査報告』第222集（財）茨城県教育財団 2004年3月
- 6) 瀧美賢吾『常陸の須恵器窯』『須恵器窯構造資料集2—8世紀中頃～12世紀を中心として—』窯跡研究会 2004年6月

表32 茨城県及び栃木県の主な須恵器窯跡群の胎土の特徴

所在県	窯跡の名称	胎土の特徴
茨城県	新治窯跡群	A類 角を持つ白色粒子・透明粒子をやや多く含む。白雲母を多量に含む。(長石・石英・雲母を含む)
		B類 角をもつ白色粒子・透明粒子を多量に含む。白雲母少量含む(ほとんど見られない場合もある)。(長石・石英を多量に含むが、雲母は確認されない)。(赤井・佐々木 1996)
		A類・B類ともに、石英 ¹⁾ と長石 ²⁾ が未分離なものが見られる ³⁾ 。自然博での胎土分析の結果 2004.8
	木葉下窯跡群	① 角をもつ白色砂礫をやや多量に含む。 ② 角をもつ透明砂礫を少量含む。 ③ 丸みをおびた灰色砂粒(チャート?)を少量含む ④ 海綿骨針(白色針状物)を含む。(佐々木 1995)
	福の内窯跡群	・白色(半透明)粒子を少量含むものがあるが精練されている。焼成はかなり硬質で、青灰色を呈するものが一定量確認される。黒色の滲出物が確認されるものも一定量存在する。 ・石英と長石がよく分離されている ⁴⁾ 。白色粒子の多くは風化した長石とみられる。自然博での胎土分析の結果2004.8
三和窯跡群	・白色粒子(軟質・パミス=軽石砂片)を多量に含む。ガラス質の透明の鉱物を含む。	
稲敷郡周辺に存在が予想される窯跡群	・白色粒子を多量に含む。白色針状物を含むものも一定量存在する。焼成は新治産に比べて、堅硬であるが、橙色を呈するものや、火だすき痕が確認されるものが多い。技術的には新治産とほとんど変わりはないが、体部下端の調整に回転へう雨りのものも一定量存在する。作りは粗雑で、厚手のものが多い。	
栃木県	益子窯跡群	・焼成は比較的良好で、硬質な感じ。色調は暗灰青色で、須恵器の環の中でも暗い印象を受ける色調。胎土には灰白色、白色の砂礫と粗砂・砂粒が含まれている。(山口1999) ・白色不透明で角をもつ砂(長石)が多く、特に径2mm以上のものを含む。他の石や鉱物は目立たない。青灰色で硬質な焼成が一般的。自然釉がある場合はほとんどが黒色。(内山2002)
	三島窯跡群	・色調は灰白色で、益子産の製品と比較すると焼成があまく、軟質な感じ。胎土には黒色の光沢のある砂粒、白色の砂粒が多く含まれる。(山口1999) ・全体的に混入物が目立たず、黒色光沢および白色の細かい砂を微量含む程度。坏類は焼成があまく軟質・黄白色で、さわると粘土粉が付きそうなのが主体。変態は硬質焼成も多い。(内山2002)
	宇都宮窯跡群	・色調は青灰色であるが、胎土に白色系の砂粒を多く含んでいるため、器壁が摩耗している遺物では黄色がかって見える。白色系の砂粒は硬質な礫を起源とするのではなく、凝灰岩のような軟質な礫を起源としている。変態の破片では凝灰岩の礫そのものが混入していることもある。(山口1999) ・軟質黄白色の凝灰岩粒が目立ち、多種の石や鉱物は目立たない。青灰色か薄灰青色で均質・やや硬質。(内山2002)
	南那須窯跡群	白色砂が多い。中山窯以外は、白色針状鉱物(海綿骨針化石)を含む。(内山 2002)
	田島岡窯跡群・岡支群	三島産と酷似するが、雲母の微細片を少量含むものが見られる点は異なる。(内山 2002)
	<p>・茨城県内の須恵器は、赤井博之「古代常陸新治産窯跡群の基礎的研究(1)～奈良・平安時代の須恵器編年を中心に～」『豪良岐考古』第20号 豪良岐考古研究会 1998年5月に自然博物館での胎土観察の結果を加筆して転載する。</p> <p>・栃木県内の須恵器は、山口耕一「多功南原遺跡 -住宅- 都市整備公社宇都宮都市計画事業多功南原地区埋蔵文化財発掘調査- (写真図版編)」「栃木県埋蔵文化財調査報告」第222集 1999年3月及び内田敏行(とちぎ生涯学習文化財財団埋蔵文化財センター)「下野の須恵器について」『法令令における辰海遺跡の須恵器』茨城県教育財団整理第二課 課内研修レジュメ 2002年12月より引用する。</p>	
注		
1) 石英・・・一般的に透明。風化が進むと白っぽく見える。断面は曲線をえがき、平らな面がない。		
2) 長石・・・一般的に白い。色だけでは風化した石英と区別がたいときがある。断面は、直線的な面(劈開面)があり、曲線がない。		
3) 石英と長石が付いている状態。水等による分離が進んでいない段階で見られる。分離が進んでいない段階では、粘土中の雲母の含有率も高い。		
4) 水等により石英・長石・雲母が分離している状態。この状態では雲母は流され、粘土中に含まれないことが多い。		

参考文献

- ・ 稲田義弘「熊の山遺跡 鳥名・稲田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ」『茨城県教育財団調査報告』第190集（財）茨城県教育財団 2002年3月
- ・ 稲田義弘「熊の山遺跡出土の平安時代の土器様相—土師器を中心として—」『領域の研究—阿久津久先生選哲記念論集—』阿久津久先生選哲記念事業実行委員会 2003年3月
- ・ 佐々木義則「常陸におけるロクロ成形土師器の展開—古代久慈・那珂・信太の三郡を中心として—」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会 1998年5月
- ・ 佐々木義則「茨城県北半分における土師器碗の形式変遷」『婆良岐考古』第21号 婆良岐考古同人会 1999年5月
- ・ 茨城県史編集委員会『茨城県史 原始古代編』茨城県 1986年3月
- ・ 川井正一「蒨色の器—施輪陶器の交易と流通について」『茨城史林』26 茨城地方史研究会 2002年6月
- ・ 奈良・平安時代研究会「茨城県域における施輪陶器の検討（1）～（5）」『研究ノート』第4～8号（財）茨城県教育財団 1995～1999年
- ・ 内山敏行・山口耕一「下野の須恵器窯」『須恵器窯構造資料集 2—8世紀中頃～12世紀を中心にして—』窯跡研究会 2004年6月
- ・ 岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年3月
- ・ 茨城地方史研究会編『茨城の歴史 県西編』茨城新聞社 2002年5月

3 中・近世

中・近世の遺構は、「大田神社前遺跡1」を含めて、掘立柱建物跡14棟、方形竪穴遺構31基、地下式坑20基、土塋墓15基、井戸跡45基、土坑群1か所、土坑128基、溝跡28条が確認されている。これらは掘立柱建物跡や溝跡が多いエリアと方形竪穴遺構や地下式坑が多いエリアに分けることができる。方形竪穴遺構からは中世、掘立柱建物跡と溝跡からは近世の遺物が多く出土している。

(1) 方形竪穴遺構（第413・414図・付図）

「方形竪穴遺構」は、これまでの発掘事例から12世紀代～17世紀代までのものが確認され、その性格について「住居」・「倉庫」・「馬屋」・「工房」等の説がある。そこで、確認された31基の形態分類と他の遺構との関係から、その特徴をまとめ、性格等について考察を加えることとする。

ア 形態から見た方形竪穴遺構の性格(第413・414図)

柱穴の配置・出入り口部の状況などからA～Eの5類に大別し、特徴を明確にするために、さらに細分することにした。

A類 主柱穴を南北の壁際中央部に配置し、スロープ状の出入り口部を有していないもの

- I 主柱穴2か所が南北の壁際中央部に配置されているもの・・・8基（SH-2・4～6・8・9・11・19）

面積は平均3.9㎡であるが、SH-5・19は規模がやや大きく、2基の平均が5.8㎡である。

SH-4の床面からは焼土が、SH-6の床面からは炭化物と骨粉（性格不明）が出土している。

SH-2・5・6・8の覆土中からは内耳鍋片が、SH-9の覆土中からは焙烙片が出土している。

- II 主柱穴2か所が南北の壁際中央部に配置され、内側に段状の出入り口部が確認できるもの・・・2基（SH-39・42）

面積は、平均3.2㎡である。SH-39の覆土中からは常滑甕細片と多量の粘土塊が、SH-42の床面からは粘土塊が出土している。

- III 主柱穴3か所が南北軸に沿って配置されているもの・・・1基（SH-37）

面積は3.7㎡であり、覆土中から内耳鍋片が出土している。

- IV 主柱穴2か所が南北の壁際中央部のやや内側に配置されているもの・・・2基（SH-13・14）

SH-13の面積は、8.0㎡である（SH-14の面積は不明）。

- V 主柱穴2か所が南北の壁際中央部、補助柱穴が東壁際及び西壁際の北側に配置されているもの・・・1基（SH-44）

面積は2.8㎡であり、覆土中から15世紀代の小皿片が出土している。

- VI 主柱穴2か所が南北に確認され、補助柱穴が東壁際及び西壁際の南側に配置されているもの・・・1基（SH-15）

面積は11.9㎡と当遺跡では大形である。覆土中から土師質土器片（小皿、内耳鍋）が出土し、踏み固められた痕が確認できた。

B類 主柱穴が東西の壁際中央部に配置され、スロープ状の出入り口部を有していないもの

- I 主柱穴2か所が東西の壁際中央部に配置されているもの・・・3基（SH-1・3・7）

面積は平均3.2㎡であり、SH-1・3の覆土中からは内耳鍋片が出土している。

- II 主柱穴3か所が東西軸に沿って配置されているもの・・・1基（SH-38）

面積は4.8㎡であり、覆土中から多量の粘土塊が出土している。

- III 主柱穴が東西壁のやや内側に配置されているもの・・・1基（SH-18）

面積は13.8㎡で、当遺跡の中では最も大形である。

C類 スロープ状の出入り口部を有しているもの

（スロープを有しているが、大部分がエリア外のため柱穴不明1基（SH-40）あり・・・15世紀末葉から16世紀初頭にかけたの陶器の鈿皿が床面から出土）

- I 主柱穴2か所が南北の壁際中央部に配置されているもの・・・1基（SH-32）

面積は4.9㎡である。覆土中から陶器細片（碗）、床面から少量の骨片（性格不明）と粘土塊及び炭化材が出土している。粘土塊を敷き、板張りをしたと想定される。

- II 主柱穴2か所が南北の壁際中央部に配置され、床に粘土が貼られているもの・・・1基（SH-43）

面積は3.7㎡である。

- III 主柱穴2か所が東西の壁際中央部に配置されるもの・・・2基（SH-36・41）

平均面積は4.4㎡である。SH-36・41の床面からは粘土塊が出土している。SH-41は泥炭粒子を混ぜて貼床を構築している。

- IV 主柱穴のないもの・・・1基（SH-45）

面積は5.0㎡である。覆土中から土師質土器片（小皿、火舎、内耳鍋）、陶器片（16世紀前葉の端反皿、15世紀後半の播鉢）が出土している。

D類 柱穴が四方の壁際に配置されるもの—2基

- I 主柱穴3か所が南北軸に沿って配置され、柱穴が四方の壁際に多く確認できるもの・・・1基 (SH-33)

面積は7.3㎡であり、覆土中から土師質土器の小皿片が出土している。

- II 外側に段状の張り出し部（出入り口部）を有し、柱穴が四方の壁際に多く確認できるもの・・・1基 (SH-34)

面積は7.8㎡であり、踏み固められた痕が確認できた。

E類 柱穴も出入り口部もないもの

- I 形状が方形もしくは長方形のもの・・・2基 (SH-31・46)

SH-46の面積は8.1㎡である (SH-31は不明)。SH-31の覆土中からは内耳鍋片、SH-46の覆土中からは内耳鍋片及び15世紀前半の片口鉢が出土している。

- II 形状が隅丸長方形のもの・・・1基 (SH-35)

面積は7.8㎡である。覆土中から13世紀代の小皿片が出土している。

以上の形態分類から、以下の5点が指摘できる。

- ① A類のI（2基除く）・II・III・V、B類のI・II、C類は面積が5.0㎡以下である（20基）。A類のIの2基・IV・VI、B類のIII、D類、E類は面積が5.0㎡以上である（8基）。
- ② A類、B類、C類のI～III、D類は主柱穴を有していることから、上屋構造を有していると考えられる。C類のIV及びE類は柱穴がないことから、上屋構造は不明である。
- ③ 出土遺物は少なく、床面から出土している遺物はSH-40の銅皿だけである。
- ④ E類のIIには中世前半、A～C類及びE類のIには中世後半（A類には近世前葉のものも確認できた）に位置づけられる遺物が覆土中から出土している。
- ⑤ 踏み固められた痕が2基（SH-15・34、ともに面積が5.0㎡以上）、板張りの床痕が1基（SH-32、面積は4.9㎡）確認できた。

次に、これらの特徴を、方形竪穴遺構が多く確認されているつくば市の柴崎遺跡¹⁾や栃木県国分寺町の下古館遺跡²⁾と比較検討し、以下のようにまとめた。柴崎遺跡では、12世紀以降の方形竪穴遺構が94基確認され、床に踏み固められた痕（報告書では明確な床）や柱穴、あるいは火の使用が考えられる炭化材、炉状施設（報告書では竈や炉）があることから住居跡と考えられている。下古館遺跡では、13～14世紀の方形竪穴遺構が125基確認され、形態の違いなどから性格・用途には多様性があると考えられている。

- ① 2～3か所の主柱穴を有するものやスロープ状もしくは階段状の出入り口部を有するものは、柴崎遺跡や下古館遺跡でも多く確認されている。
- ② 炉状施設は、柴崎遺跡や下古館遺跡では確認されているが、当遺跡では認められない。
- ③ 床面が踏み固められた痕は、柴崎遺跡では多く認められているが、当遺跡では少なく、下古館遺跡では確認されていない。
- ④ 柴崎遺跡や下古館遺跡は中世前半、当遺跡は中世後半が中心である。

当遺跡の方形竪穴遺構は、この2遺跡と年代差はあるものの柴崎遺跡より下古館遺跡との共通点が多く見られる。下古館遺跡では、踏み固められた痕がないことや小柱穴が見られるものがあることから、板張り床の可能性を示唆している。当遺跡においても、板張り床痕が1基で確認できたことから、他の方形竪穴遺構でも板張り床を設けていた可能性が考えられる。柴崎遺跡においては、床に踏み固められた痕があることや炉状施設があることを住居跡の根拠としている。当遺跡にも床に踏み固められた痕があるものが2基確認されており、さらにその2基の面積は7.8㎡と11.9㎡と当遺跡では規模が大きい。しかし、炉状施設は認められないことから、住居跡の可能性も考えられるが、明確には不明である。

イ 他の遺構との関係から見た方形竪穴遺構の性格（付図）

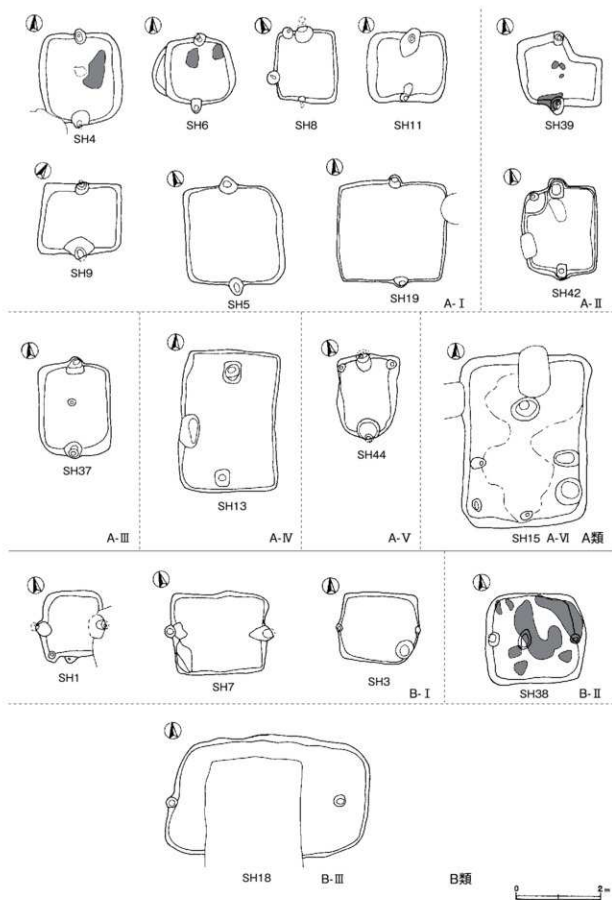
方形竪穴遺構については、「遺跡の中での役割・性格という観点から機能を考える必要がある³⁾」との指摘がある。ここでは、方形竪穴遺構の性格を他の遺構との関係からも検証することとする。

『犬田神社前遺跡1』⁴⁾では、第15号溝跡（15世紀）の南側に、方形竪穴遺構13基（A・B類、面積5.0㎡以下が12基）と地下式坑19基、井戸跡10基がまとめて確認されている（付図参照）。さらに、このエリアは南側が緩やかに傾斜し、方形竪穴遺構は南側に、地下式坑は北側に位置する傾向にある。廃絶時期が特定できたのは、方形竪穴遺構で13基中7基が中世後半、1基（SH-9）が近世初頭、地下式坑で19基中5基が中世後半（1基は15世紀後半）、井戸跡で5基が中世後半（内2基は15世紀～16世紀）である。このことから、方形竪穴遺構と地下式坑、井戸跡は、中世後半を中心として同時期に機能していた可能性が高いと考えられる。

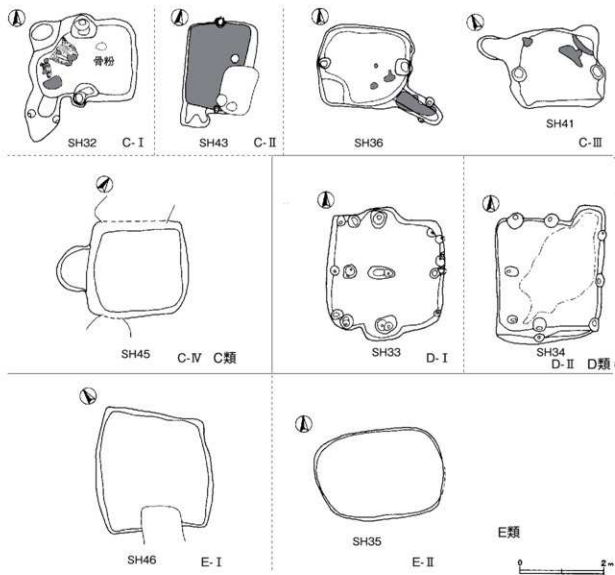
同時期の方形竪穴遺構と地下式坑が接近している遺跡としては、谷和原村の西ノ脇遺跡⁵⁾や前田村遺跡⁶⁾、千葉県袖ヶ浦市の山谷遺跡⁷⁾などがある。西ノ脇遺跡は、溝跡⁸⁾で区画されたエリアに、15世紀後半から16世紀前半と考えられる地下式坑と方形竪穴遺構が存在し、出土遺物から墓域と考えられている。前田村遺跡でも、支谷に面した部分に溝で区画された方形竪穴遺構と地下式坑が存在するエリアがあり、15～16世紀の墓域と考えられている。山谷遺跡は、鎌倉街道に沿った15世紀を主とする「市」跡の遺跡であり、方形竪穴遺構と地下式坑が存在するエリアが確認されている。山谷遺跡では、方形竪穴遺構（報告書では方形竪穴建物跡）を生活関連遺構、地下式坑を葬送関連遺構ととらえながらも、地下式坑と方形竪穴遺構とが接近しているエリアにおいては、地下式坑を蔵的な生活関連遺構ととらえている。

笹生衛氏は、前田村遺跡について、墓域という考えを再考し、地下式坑（方形竪穴遺構と地下式坑が存在するエリア）の床面から石臼と多量の炭化米が出土していることと方形竪穴遺構と地下式坑が支谷に面した部分に集中していることから、方形竪穴遺構と地下式坑を「支谷内の谷水田と台地上の畑の収穫物をあわせて加工・貯蔵するためのもの」と推定している⁹⁾。また、西ノ脇遺跡においても、同様の見解を示している。さらに、笹生氏は、山谷遺跡においても、市に集積された流通物資を貯蔵する施設の必要性から「地下式坑と方形竪穴遺構は流通物資の貯蔵施設としての役割を持っていた」と推定している¹⁰⁾。

当遺跡の状況（溝に区画されたエリアに方形竪穴遺構と地下式坑が存在する状況、年代観）は、西ノ脇遺跡や前田村遺跡と酷似している。しかし、当遺跡においては、石臼などの加工具は出土していない。そこで、当遺跡においては、収穫物の貯蔵施設の可能性が高いと考えた。また、半地下



第413図 方形堅穴遺構の分類 (1)



第414図 方形竪穴遺構の分類 (2)

式で上屋構造をもつ方形竪穴遺構と地下式坑では、その構造の違いから貯蔵する農産物の種類が異なっていたのではないかという推測もできる。

ウ 小結

当遺跡の方形竪穴遺構は、上屋構造を持つものの、面積が5.0㎡以下の小規模のものが全体の71%で、遺構に伴う遺物がほとんど出土していない。また、方形竪穴遺構と地下式坑の関係については、笹生氏の指摘のように、収穫物の加工・貯蔵施設ならば、小規模でも十分であり、供膳具や炊飯具の出土が少ないことも納得できる。

面積が5.0㎡以上あるものは、床に踏み固められた痕があるものが2基あり、収穫物の加工・貯蔵施設とは異なり、住居跡などの別な用途も考えられるが、明確には不明である。(鴨志田)

註

- 1) a 高村勇「柴崎遺跡Ⅰ・Ⅱ-Ⅰ区 研究学園都市計画桜柴崎土地計画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)」『茨城県教育財団調査報告』第54集(財)茨城県教育財団 1989年9月
- b 佐藤正好・松浦敏「柴崎遺跡Ⅱ区 中塚遺跡 研究学園都市計画桜柴崎土地計画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)」『茨城県教育財団調査報告』第63集(財)茨城県教育財団 1991年3月
- c 土生明治「柴崎遺跡Ⅲ区 研究学園都市計画桜柴崎土地計画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)」『茨城県教育財団調査報告』第72集(財)茨城県教育財団 1992年3月
- d 荻野谷悟「柴崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区 研究学園都市計画桜柴崎土地計画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)」『茨城県教育財団調査報告』第93集(財)茨城県教育財団 1994年9月
- 2) 田代隆他「下古館遺跡 一住宅・都市整備公団小山・栃木都市計画事業 自治医科大学周辺地区埋蔵文化財発掘調査-Ⅰ」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第166集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995年3月
- 3) 高橋右衛門「中世の建物跡」『戦国時代の考古学』高志書院 2003年3月
- 4) 榊原彦・石川武志「大田神社前遺跡Ⅰ 北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第229集(財)茨城県教育財団 2004年3月
- 5) 吉原作平「西ノ脇遺跡, 前田村遺跡 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第87集(財)茨城県教育財団 1994年3月
- 6) a 吉原作平「西ノ脇遺跡, 前田村遺跡 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団調査報告』第87集(財)茨城県教育財団 1994年3月
- b 横堀孝徳「前田村遺跡C・D・E区 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団調査報告』第116集(財)茨城県教育財団 1997年3月
- c 宮崎修土他「前田村遺跡D・F区 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団調査報告』第127集(財)茨城県教育財団 1997年9月
- d 吹野富美夫他「前田村遺跡G・H・I区 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ」『茨城県教育財団調査報告』第146集(財)茨城県教育財団 1999年3月
- e 小林孝他「前田村遺跡」・K区 伊奈・谷和原丘陵部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」『茨城県教育財団調査報告』第147集(財)茨城県教育財団 1999年3月
- 7) 麻生正信他「一袖ヶ浦市山谷遺跡- 東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財発掘調査書Ⅸ」『千葉県文化財センター調査報告』第411集(財)千葉県文化財センター 2001年3月
- 8) 報告者は13～14世紀の溝としているが, 出土遺物から16世紀と考えられ, 方形竪穴遺構や地下式坑と一体のものと考えられる。
- 9・10) 笹生衛「地下式坑の掘られた風景- 景観復元から見た中世地下式坑の機能と歴史的意義-」『戦国時代の考古学』高志書院 2003年3月

(2) 掘立柱建物跡と溝跡

調査区中央部から、近世の掘立柱建物跡や溝跡などが数多く確認できた。そこで、掘立柱建物跡や溝跡については、『犬田神社前遺跡2』で確認された部分（中央部5区）を中心に、『犬田神社前遺跡1』¹⁾の様相も加えながら、出土した陶磁器を時間軸に3期に分類し、その変遷を把握し、その特徴をまとめることと、性格などについて考察を加えることとする。また、文献や伝承からも、当遺跡と関連のある事項を考慮し、他の遺跡とも対比しながら考察を加えることとする。

ア 掘立柱建物跡と溝跡の変遷

変遷を考えていく際には、中央部5区で確認された11棟の掘立柱建物跡（第4・10・16・17・33・37号掘立柱建物跡）のうち、時期がほぼ分かる6棟（第4・7・9・10号掘立柱建物跡）について取り上げることとする。

第Ⅰ期（第415・416図）

本期には第5・6・9・10号掘立柱建物跡、第7号井戸跡、第62号溝跡が該当する。2×2間の第9号掘立柱建物跡は南側に廂をもち、身舎の面積は27.3㎡（約8.3坪）で、母屋は確認されていないが、規模から副屋の機能を果たしていたものと推測される。その後、3×2間の第5号掘立柱建物跡が建てられる。第5号掘立柱建物跡も南側に廂を持っているが、身舎の面積が43.9㎡（13.3坪）であり、やはり副屋の機能を果たしていたものと考えられる。重複関係から、第6号掘立柱建物跡は第5号掘立柱建物跡より古く、第10号掘立柱建物跡は第9号掘立柱建物跡より新しいと考えられる。

第62号溝跡は長さ10mほどであるが、断面形が段状で、北側が緩やかで南側が急になっており、土層観察から1回の堀深い（第1～6層が堀深い後の層：第310図）が確認できる。また、周囲に土塁は認められなかったが、北側からローンプロックが堆積していることから、北側に土塁が巡っていた可能性が高い。第5・6・9・10号掘立柱建物跡は、第62号溝跡から北西に8～19mの位置にあり、出土遺物から同時期に機能していたものと考えられる。

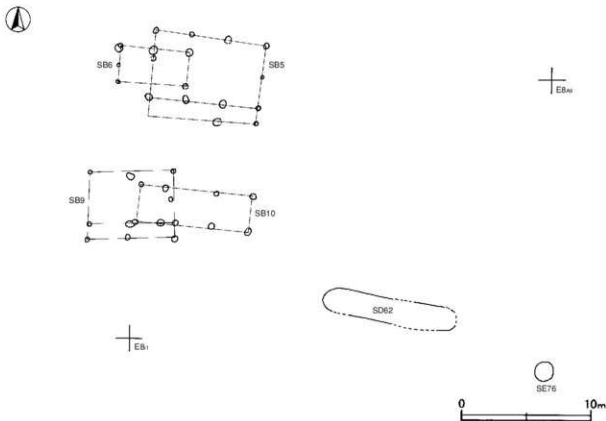
また、第5号掘立柱建物跡の柱穴からは、茶席などで食器として用いたものと考えられる唐津産の四方鉢（2）が出土している。他に、口径6.5cm前後の土師質土器の小皿（1・3）や口径38cm前後の内耳鍋（6）や石鉢（7）が出土している。また、調査区中央部からは、16世紀から17世紀初頭と考えられる茶入や志野丸皿・志野鉄絵皿が出土しており、16世紀代から喫茶が行われていた可能性も推測できる。

第Ⅰ期は、17世紀前半の唐津産の陶器が覆土中から出土していることから、17世紀前半に比定し、廃絶時期ととらえた。

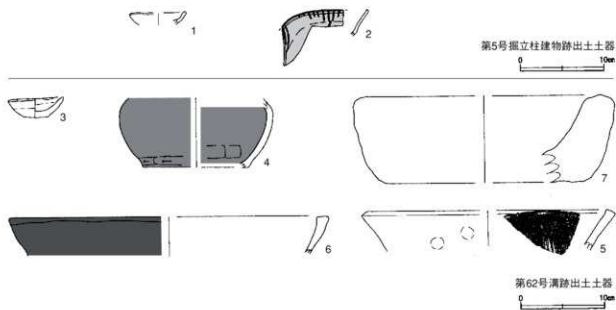
第Ⅱ期（第417～420図）

本期は、第4・7号掘立柱建物跡、第77号井戸跡、第21・23・63～65号溝跡が該当し、溝跡の規模が最も大きくなる時期である。第4・7号掘立柱建物跡は、重複関係から第7号掘立柱建物跡が新しいと考えられる。

第21・23・63～65号溝跡に区画された北側は若干高台となっており、第4・7号掘立柱建物跡が位置している。4×2間の第4号掘立柱建物跡は、第5号掘立柱建物跡を建て替えたものと考えられる。第4号掘立柱建物跡は南側に廂を持ち身舎の面積が49.0㎡（約14.8坪）で、柱穴の一つには根石が確認できたが、



第415図 第I期の変遷図



第416図 第I期の出土遺物

掘り方には貧弱なものも見られ、副屋的機能を果たしていたと考えられる。第7号掘立柱建物跡は、身舎の面積が32.0㎡（約9.7坪）であり、規模が小さくなる。

さらに、第4・7号掘立柱建物跡の西側には空間域がある。この空間域は、庭的な機能を果たしていた

ものと推測できるが、母屋が確認されていないため、明確には不明である。

第21・23・63～65号溝跡はすべて断面形が箱築研状である。土層観察から、第21号溝跡では2回の堀浅い（第1～4層と第5～14層が堀浅い後の層：第299図）、第64号溝跡では1回の堀浅い（第1～3層が堀浅い後の層：第313図）、第65号溝でも1回の堀浅い（土層解説Aでは第1～13層が、土層解説Bでは第1～8層が堀浅い後の層：第318図）が確認できる。また、周囲に土塁は確認されていないが、覆土の堆積状況から、第21号溝跡では西側、第23・63・64・65号溝跡では北側に土塁が巡っていた可能性が高い。第64号溝跡は、第63号溝跡が埋まった後に掘り直されたものと考えられる。第77号井戸跡は第62号溝跡より新しく、第65号溝跡より古いと考えられる。

また、第64号溝跡の西側と第65号溝跡の東側の間及び第21号溝跡の北側と第65号溝跡の西側の間は、地山を掘り残しており、土橋として機能していたものと考えられる。

第21・23・64・65号溝跡と土橋、溝に区画された北側の土塁痕、さらにその北側の第4号掘立柱建物跡は、出土遺物や重複関係などから、ほぼ同時期に機能していたものと考えられる。

『犬田神社前遺跡1』²⁷に報告されている第1～3・40・41号溝跡も、出土遺物から本期とほぼ同時期と考えられ、第21・23・64・65号溝跡及び第4号掘立柱建物跡と関連していたものと考えられる。また、第41号溝跡の底面には、ほぼ直線的に柱穴が確認されており、溝内に柵を設けていた可能性が考えられる。本期に確認された溝跡に区画された範囲は、確認されただけでも南北60m、東西75mとなる。また、『犬田神社前遺跡1』では「権」が報告されており、商業活動をうかがわせるもとらえている²⁸。

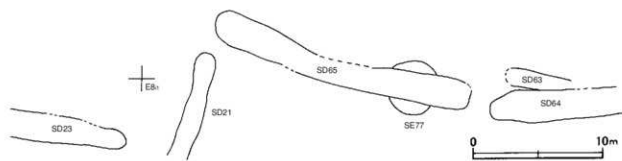
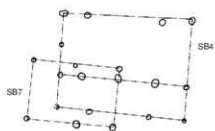
第23・64・65号溝跡から出土した土師質土器の小皿の口径は5～11cmと多様化し、中には黒色処理を施したもの（34）や白いもの（4～6・11）も出土している。内耳鉢は、器高が低いもの（9・10・27・51）の他に高いもの（52）も出土している。また、播鉢は在地系土器（28・29・54）だけである。第4号掘立柱建物跡の柱穴からは尾呂碗（1）が、第23号溝跡からは鼠志野丸皿（7）や片口鉢（8）が、第64号溝跡からは天目茶碗（30）が出土している。中世領主層（武士や僧侶）が仏事葬送や祭事などで行っていた喫茶は、17世紀初頭ごろから近世名主層もしくは豪農層が取り入れて、17世紀後半以降次第に一般化する傾向にある²⁹。本期では、天目茶碗や尾呂碗あるいは鼠志野丸皿等の茶器類が出土していることから、喫茶が行われていたことを示し、喫茶が一般化し始める時期と符合する。

第Ⅱ期は、連房登壇Ⅲa期（17世紀後葉から18世紀初頭）の陶器が覆土中から出土していることと第Ⅰ期との関係から、17世紀後半から18世紀初頭に比定し、廃絶時期ととらえた。

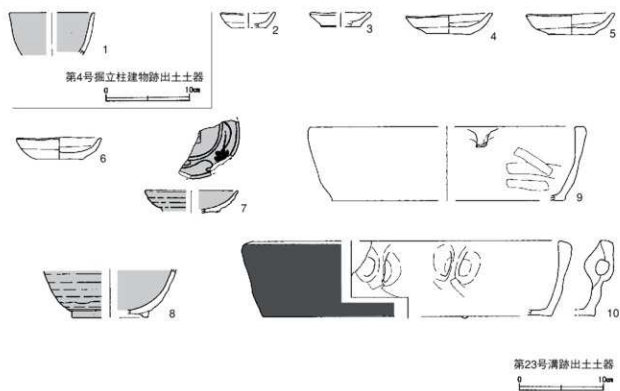
第Ⅲ期（第421～423図）

本期には、第19・20号土墳墓、第74・75号井戸跡、第3082・3085・3087・3530・3576号土坑が該当する。第19・20号土墳墓や第3082・3085・3087号土坑は、第Ⅱ期に機能していた溝跡を掘り込んでいる。『犬田神社前遺跡1』で報告されている第16号溝跡も、18世紀前半と考えられる丸碗が出土していることから、本期前後と考えられる。第16号溝跡は溝の全域に渡って礫を配置している。

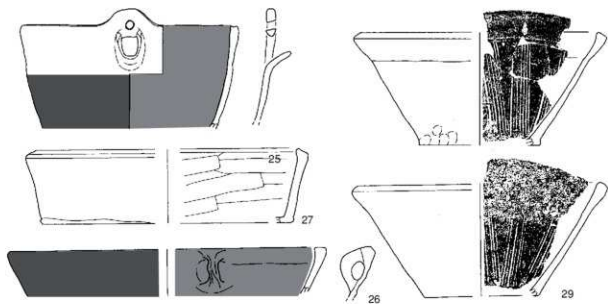
第3530号土坑からは、18世紀前半と考えられる菊皿（1）や片口鉢（3）、天目茶碗（4）の他に、焙烙（5）や瓦質土器の香炉（6）や火舎（7）が出土している。また、出土した五輪塔（8）は当遺跡内では唯一である。第3576号土坑からは、18世紀中葉から後半にかけての信楽産の播鉢（13）、輪壳皿（9）や天目台（10）、丸碗（11）、仏食器（12）や瓦質土器の火舎（14）などが出土している。天目茶碗や天目台などの茶器も含まれていることは、第Ⅱ期と同様である。



第417図 第Ⅱ期の変遷図



第418図 第Ⅱ期の出土遺物 (1)

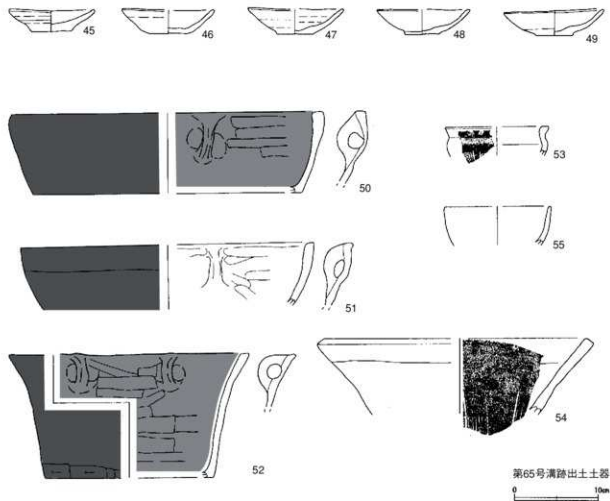


第64号溝跡出土土器
0 10cm



第65号溝跡出土土器
0 10cm

第419図 第Ⅱ期の出土遺物 (2)



第420図 第Ⅱ期の出土遺物(3)

第Ⅲ期は、連房登窯Ⅲb期(18世紀前半)の陶器及び18世紀中葉から後半にかけての信楽産の播鉢が覆土中から出土していることから、18世紀代に比定し、廃絶時期ととらえた。

イ 文献や伝承から見た建物跡と溝跡の性格

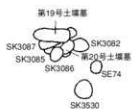
「ア 掘立柱建物跡と溝跡の変遷」では、掘立柱建物跡と溝跡の特徴や性格について、遺構の配置や形状あるいは出土遺物などから言及してきた。そこで、本論においては「岩瀬町史」⁹⁾に載せられている資料や伝承あるいは他の遺跡との対比をもとに、掘立柱建物跡と溝跡の特徴や性格、あるいは建物跡の家主の推定を試みることにする。

第Ⅰ期

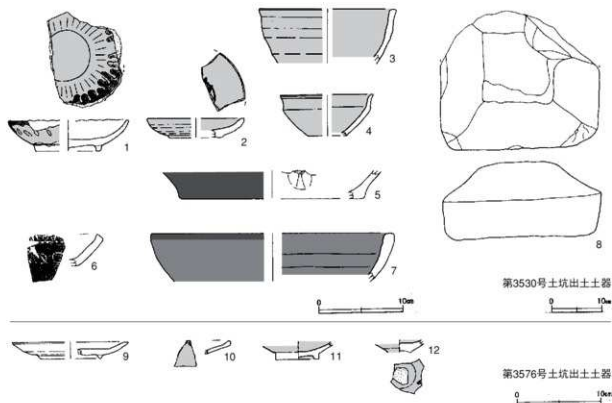
戦国時代の中郡地方は、佐竹氏、宍戸氏、宇都宮氏、芳賀氏、結城氏、多賀谷氏、小田氏、小山氏などの侵攻に合っていたが、天正18年(1590)には宇都宮氏の家臣玉生宗高が、慶長2年(1596)には浅野長政が治めるようになる。江戸幕府開幕後、当地は笠間藩の治下に入る。笠間藩主は、慶長6年(1601)に松平康重が、次いで小笠原吉次、松平康長、永井直勝、浅野長重・長直と譜代大名が入れ替



SK3576



第421図 第Ⅲ期の変遷図



第422図 第Ⅲ期の出土遺物 (1)



第3576号土坑出土土器

第423図 第三期の出土遺物(2)

わって入封する。

本期は、太閤検地に伴う庄・保・郷の解体や兵農分離により、郷の範囲で屋敷を構えていた中世土豪層が帰農し、近代名主層もしくは豪農層へと変容する時期でもある⁹⁾。近世において当地は笠間藩の犬田村に所在しており、当地においても、同様な情勢であったと考えられる。宇都宮氏の譜代であった堀江善三郎が書写した「旧臣姓名書」(慶長2年(1597)10月13日)には、下野・常陸・下総など291か村の宇都宮氏の旧臣1406人が載っており、犬田村関係では、仙波勘三良、仙波伝之丞、仙波藤兵衛、仙波長左衛門の4名が記されている¹⁾。元和6年(1620)の犬田村の検地帳には、主作地及び分付地を持つ農民として、藤兵衛、五兵衛、新太郎、五郎兵衛、九兵衛、惣左衛門、左京之助、主水の八家があり、この八家の農地保有率は犬田村の農地の80%近くになっている⁸⁾。また、同検地帳には左京之助、主水、内蔵之丞、ふんご、たんごなど侍名を持ったものも見うけられ、兵農分離以前に領主から官途状を受けた者か、帰農した者のいずれかであると考えられている⁹⁾。慶長2年(1597)の「旧臣姓名書」に載っている仙波藤兵衛は、兵農分離後に帰農して、元和6年(1620)の検地帳に藤兵衛として載っている人物と考えられる。加えて、仙波氏の墓地は、本跡から東に70m離れた宝蔵院近くの小字「峯」に位置し、中世後半の様相を示している五輪塔などの墓塔があることから、仙波氏が中世後半から当地に居住していたものと推測される。

また、仙波氏は江戸時代に犬田村の名主を代々務め、屋敷地は中央部5区から西北西200mに位置し、近世においても現在の屋敷の地に居を構えていたという伝承が残っている。しかし、本期に確認されている4棟の掘立柱建物跡と1条の溝跡は、名主の屋敷跡としては規模が小さい。

第二期

正保2年(1645)、笠間藩主として入封した井上正利は、二代にわたり46年間治める。元禄5年(1692)には本庄宗資が、次いで元禄15年(1702)には井上正岑が入封する。

仙波氏の屋号は「根の下」であり、本遺跡周囲の字名「根ノ下」と一致し、仙波氏と当遺跡との関わりが考えられる。また、「根の下」の「根」は、「根小屋」の「根」と考えられ、当遺跡の周囲に根小屋もしくは屋敷があった可能性も推測される。

名主や豪農層の屋敷跡との関連が考えられる遺跡として、つくば市の古屋敷遺跡がある¹⁰⁾。古屋敷遺跡は、17世紀後葉に廃絶した屋敷跡と考えられ、多くの溝に区画された内側に掘立柱建物跡群が確認されている。最も大きな掘立柱建物跡は、三方(四方カ)に廂がつき、面積は確認された部分で約45㎡であるが、他は10~38㎡で、当遺跡のものとはほぼ同規模である。また、古屋敷遺跡でも溝に区画された内側に空間域

があり、当遺跡と共通している。加えて、出土した陶器片は17世紀後葉から18世紀前葉のものが多く、18世紀中葉以降のものが激減している点も共通している。しかし、陶器の出土数は当遺跡（「犬田神社前遺跡1」も含めて）が180点、古屋敷遺跡が1700点と大きな開きがある。

また、溝跡と溝跡に区画された内側に掘立柱建物跡がある近世の遺跡としては、阿見町の前畑遺跡がある¹³⁾。溝跡は17世紀後半に廃絶されたと考えられ、陶磁器が73点出土し、一般集落ではないと報告されている。確認された掘立柱建物跡で最も大きいものは、面積が68.04㎡（約20.6坪）で、当遺跡のものより若干大きい程度である。当遺跡の溝跡や掘立柱建物跡の規模及び年代観などについては、古屋敷遺跡や前畑遺跡と共通する点が見られる。しかし、陶器の出土数では、前畑遺跡の約2.5倍であるが、古屋敷遺跡と対比すると約10%に過ぎない。そこで、当遺跡の溝跡や掘立柱建物跡を、名主（仙波氏）の屋敷跡と想定することは難しいが、土塁痕のある溝跡の規模などから名主に準じる階層との関わりが想定できる。

第Ⅲ期

延享4年（1747）には牧野貞通が入封して、牧野氏が廃藩置県まで治めている。18世紀前半は、天候不順や天災による凶作飢饉がたびたび発生しており、寛延2年（1749）10月に年貢の軽減を訴え山外郷（岩瀬町）に百姓一揆が起こっている¹⁴⁾。天明年間（1781～89）の飢饉は特にひどく、浅間山の噴火とそれに前後して発生した冷害、洪水などの天変地異のため大凶作となっている。

本期には、18世紀前半の陶器片が8点出土しているが、井戸跡や土坑、それに土塁を伴わない溝跡だけとなる。

文化15年（1818）の犬田村人別宗門改帳の中には「仙波藤左衛門」の名前が、嘉永元年（1848）の犬田村と真壁郡青木村と村境議定書の中には、大田村の名主「仙波傳之丞」の名前が記載されている¹⁵⁾が、当遺跡の遺構は、本期以後激減してしまう。

ウ 小結

当遺跡からは、17世紀後半から18世紀初頭に廃絶したと考えられる10条の溝跡と2棟の掘立柱建物跡などが確認でき、隣接する仙波氏に準じる階層との関連が想定できた。しかし、掘立柱建物跡と溝跡の性格を明確にすることはできなかったため、今後の検討課題である。（鴨志田）

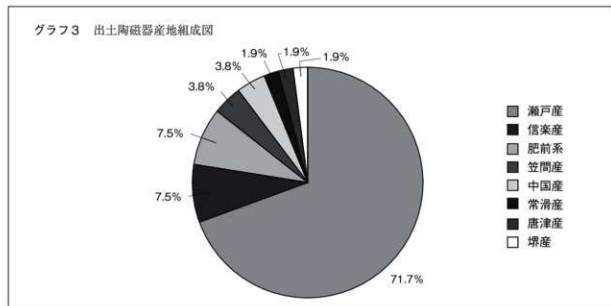
註

- 1・3）榊雅彦・石川武志「犬田神社前遺跡1 北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」〔茨城県教育財団調査報告〕第229集 茨城県教育財団 2004年3月
- 2）報告者は、15～16世紀の溝としているが、出土遺物から17世紀後半から18世紀初頭と考えられる
- 4・6）桃崎祐輔「霞ヶ浦沿岸の近世とやきもの流れ」「やきもの旅～近世霞ヶ浦の水運と流通～」霞ヶ浦町郷土博物館 2002年1月
- 5・8・12・13）a 岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年3月
b 岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 資料編』岩瀬町 1983年10月
- 7・9）岩瀬町史編さん委員会『岩瀬町史 通史編』岩瀬町 1987年3月
- 10）白田正子「三度山・古屋敷遺跡（仮称）茅丸地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」〔茨城県教育財団調査報告〕第132集（財）茨城県教育財団 1998年3月

- 11) 後藤孝行・綿引英樹「ワサル下遺跡・反子遺跡・大高田遺跡・前畑遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事 地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第211集 (財)茨城県教育財団 2004年3月

(3)陶磁器の様相(表33, グラフ3・4)

『犬田神社前遺跡2』では、実測できた陶磁器類が53点出土している。内、陶器は47点、磁器は6点で、陶器が88.7%を占めている。陶磁器類を産地ごとに分類すると(グラフ3)、瀬戸産38点で71.7%を占め、信楽産・肥前系が4点ずつ、中国産・笠間産・常滑産・唐津産・堺産は極少量出土している。美濃産は確認できなかった。



磁器は、中国産が白磁(白磁碗Ⅳ-2類)と青磁(折縁鉢)の各1点である。国内産は肥前系の白磁1点(猪口)、青磁1点(輪花小鉢)、磁器2点(仏飯具・筒茶碗)である。また、時期別で見ると中世は2点で中国産、近世は4点で肥前系である。

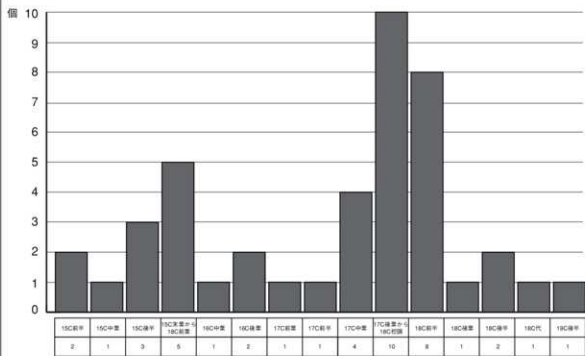
陶器は器種ごとに分類すると、碗が13点、皿が20点、鉢が4点、播鉢が4点、その他が6点である。碗・皿類が出土陶器の70%を占め、食膳具が中心である。産地ごとに器種をみると、常滑産は片口鉢(1点)、信楽産は播鉢(3点)、汁次(1点)、堺産は播鉢(1点)、笠間産は灰落とし(2点)、唐津産は四方鉢(1点)である。瀬戸産は、碗・皿類(33点で、碗・皿類はすべて瀬戸産)、片口鉢(2点)、天目台(1点)、茶入(1点)、香炉(1点)である。皿の中には、志野丸皿(3点)、志野鉄絵皿(1点)、鼠志野丸皿(1点)も含まれている。

関東では、15世紀中葉頃を境に常滑で焼かれた播鉢のない片口鉢から同様な器形で播鉢のある瀬戸美濃系の播鉢に転換されており¹⁾、播鉢の近代化を江戸への丹波産播鉢の大量供給と江戸周辺での土器播鉢の終焉として捉えている²⁾点からも、信楽産の播鉢出土は、特筆される。安永年間(1772~81)に信楽の陶工を招いて箱田焼(後の笠間焼)が創始されており、笠間が当地域と隣接していることから、信楽との関わりは他地域より強かったものと想定される。しかし、陶器の播鉢は4点だけであり、少ない分が在地系土器で補充されていたものと考えられる。また、江戸後期と考えられる笠間産の灰落としが2点(同一個体と考えられる)

出土しており、笠間窯が笠間藩主の牧野氏の保護を受けている時期であることから、当地と笠間藩主との関わりが推測できる。唐津産は四方鉢が1点であるが、九州からの製品が搬入されている点は、特筆できる。志野は白磁模倣であり、茶陶としても知られている。茶陶と考えられる陶器としては、他に天目茶碗3点、尾呂碗1点、天目台1点、茶入1点（茶陶はすべて瀬戸産）が出土している。

時期が特定できた陶器は43点である。出土陶器は、時代ごとに分類すると次のようになる（グラフ4）。15世紀前半は2点（常滑産と瀬戸産）で、片口鉢と直縁大皿が1点ずつである。15世紀中葉（古瀬戸古段階Ⅳ期古段階）は1点（瀬戸産）で、鑊反小碗である。15世紀後半は3点（瀬戸産と信楽産）で、小皿・直縁大皿・播鉢が1点ずつである。15世紀末葉から16世紀前葉（大釜Ⅰ期）は5点（瀬戸産）で、鑊反皿が3点、鉦皿と茶入れが1点ずつである。16世紀中葉（大釜Ⅱ期）は1点（瀬戸産）で、志野丸皿である。16世紀後葉（大釜Ⅲ・Ⅳ期）は志野丸皿が2点（瀬戸産）である。17世紀前葉（連房登窯Ⅰ期）は1点（瀬戸産）で、志野鉄絵皿である。17世紀前半は1点（唐津産）で、四方鉢である。17世紀中葉（連房登窯Ⅱ期）は4点（瀬戸産）で、天目茶碗・丸碗・折縁皿・鼠志野丸皿が1点ずつである。17世紀後葉から18世紀初頭（連房登窯Ⅲa期）は10点（瀬戸産）で、丸碗4点、輪壳皿2点、尾呂碗・天目茶碗・筒型碗・片口鉢が1点ずつである。18世紀前半（連房登窯Ⅲb期）は8点（瀬戸産）で、輪壳皿と菊皿が2点ずつ、天目茶碗・片口鉢・香炉・天目台が1点ずつである。18世紀後半は2点（信楽産）で、播鉢である。18世紀後葉（連房登窯Ⅳa期）は丸碗が1点（瀬戸産）で、第65号溝の確認面から出土している。18世紀代は1点（堺産）で、播鉢である。19世紀後半は1点（信楽）で、汁次である。

グラフ4 陶磁器時期別個体数



大釜Ⅰ期の陶器は、5点のうち、方形竪穴遺構（SH-40・45）から2点出土し、中世後半と考えられる方形竪穴遺構も多く確認されていることから、方形竪穴遺構との関連が推測できる。連房登窯Ⅲa期（17世紀末葉から18世紀初頭）の陶器は23.3%、連房登窯Ⅲb期（18世紀前半）の陶器は18.6%を占めている。17世紀末葉から18世紀初頭にかけては、当遺跡中央部に掘立柱建物跡や溝が展開されていた時期であり、出土陶器の面からも当遺跡の中心的な時期であると判断できる。遺構が減少する18世紀前半においても、多くの陶器が確認できたことから、調査区域外にそれらの陶器を保持したであろう階層の存在がうかがえる。18世紀前以降は、陶器の出土数は激減している。（鴨志田）

注

- 1) 桃崎祐輔「霞ヶ浦沿岸の近世とやきものの流れ」『やきものの旅—近世霞ヶ浦の水運と流通—』霞ヶ浦町郷土資料館 2002年1月
- 2) 鈴木祐子「土器摺鉢の終焉—江戸と江戸周辺から—」『江戸在地系土器の研究Ⅲ』江戸在地系土器研究会 1998年5月

参考文献

- ・成島一也「石畑遺跡 12号単道改12-03-261-0-052号埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団調査報告』第192集（財）茨城県教育財団 2002年3月
- ・上原康子・麻生高子「清六Ⅲ遺跡Ⅳ 渡良瀬川下流域及び思川流域下水道処理施設建設に伴う埋蔵文化財発掘調査」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第228集（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999年3月
- ・藤原均「茨城県行方郡北浦村古屋敷遺跡発掘調査報告書」山田地区遺跡発掘調査会 1990年3月
- ・白田正子「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳鍋について—つくば市古屋敷遺跡の出土例を中心に—」『研究ノート』第7号（財）茨城県教育財団 1998年6月
- ・小野正敏他「図解・日本の中世遺跡」東京大学出版会 2001年3月
- ・桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景—中世墓の諸相と通史的叙述への試論—」『茨城県考古学協会誌』第7号 茨城県考古学協会 1995年8月
- ・浅川滋男・箱崎和久「奈良国立文化財研究所シンポジウム 埋もれた中近世の住まい」同成社 2001年5月
- ・斎藤弘「栃木県下の中世集落遺跡の展開—掘立柱建物跡の検討から—」『唐澤考古』第20号 唐澤考古会 2001年5月
- ・佐久間好雄監修「水戸・並岡の歴史」郷土出版社 2004年4月
- ・茨城地方史研究会編『茨城の歴史 県西編』茨城新聞社 2002年5月

表 33 出土陶磁器類一覧

番号	遺物番号	遺構	種別	機種	部位	色調	絵付・施輪	文様・特徴	形成地・年代	備考
1	1601	SD-21	白磁	碗Ⅳ・2類	口縁部	灰白	透明輪	折り返し口縁	那波,Ⅱ期(11C中~12C初)	5%
2	1516	SK-2113	白磁	猪口	口縁部	灰白	透明輪	口縁部無文	肥前系,江戸時代	5%
3	1672	SD-64	青磁	折縁鉢	口縁部	明緑灰・灰白	青磁輪	口縁部屈曲して外反	龍象堂系,14C	5%
4	1728	SK-3239	青磁	輪花小鉢	口縁部	明オリブ灰・灰白	青磁輪	口縁部輪花	肥前系,江戸時代後期	5%
5	1589	SK-3576	磁器	仏飯器	天井部	灰白	透明輪	体部外面に輪状及び文様不明の染め付け,染め付けは灰色	肥前系,Ⅳ期(1690~1780)	10%

番号	遺物番号	遺構	種別	機種	部位	色調	絵付・施軸	文様・特徴	産地・年代	備考
6	1752	遺構外	磁器	煎茶碗	底部	暗青灰・灰白	透明軸・染め付け	体部外面草花文、底部内・外面に染め付け二重の輪	肥前産, 18C	20%
7	1474	SB-4	陶器	胎軸尾呂罎	口縁部	褐・浅黄	胎軸	口縁部直立	瀬戸産, 進房登窯Ⅲa期(1670~1710)	20%
8	1476	SB-5	陶器	緑釉小皿	口縁部	浅黄・橙	緑釉	体部内面下縁無軸	瀬戸産, 後Ⅳ期(15C後半)	5%
9	1477	SB-5	陶器	絵唐津木賊文四方鉢	口縁部	濁灰・にぶい赤褐	長石軸・鉄絵	口縁部外反り, 口縁部木賊文	唐津産, 17C前半	5%
10	1489	SH-40	陶器	卸皿	口縁部~底部	にぶい橙・灰白	灰軸	底部回転系切り, 卸目に摩滅痕なし。片口一部残存	瀬戸産, 大室Ⅰa期(1490~1510)	60%
11	1493	SH-45	陶器	緑釉端反皿	底部	灰オリーブ・にぶい赤褐	体部内・外面緑釉・見込み無軸	底部回転系切り	瀬戸産, 大室Ⅰ期(1490~1530)	10%
12	1494	SH-45	陶器	播鉢	口縁部	にぶい赤褐	無軸	5条1単位の播り目, 口縁部内面に比線	信楽産, 15C後半	5%
13	1497	SH-46	陶器	片口鉢	口縁部~底部	にぶい赤褐	無軸	体部外面下縁へり削り, 内面自然軸付着	常滑産, 9型式(15C前半)	50%
14	1502	SE-74	陶器	漆黒軸丸罎	底部	黒褐・オリーブ黄	漆黒軸	削り出し輪高台, 体部内・外面・高台内施軸, 畳付無軸	瀬戸産, 進房登窯Ⅲa期(1670~1710)	20%
15	1506	SE-75	陶器	灰軸輪壳皿	口縁部	浅黄・灰白	灰軸	口縁部外反り, 貫入多し	瀬戸産, 進房登窯Ⅲb期(1710~1750)	5%
16	1536	SK-3049	陶器	志野丸皿	口縁部	灰白・にぶい橙	長石軸	口縁部直線的に外反, 貫入あり	瀬戸産, 大室Ⅱ期(1530~1570)	5%
17	1537	SK-3049	陶器	灰軸端反皿	口縁部	オリーブ灰・浅黄	灰軸	体部外面回転へり削り, 貫入	瀬戸産, 大室Ⅰ期(1490~1530)	5%
18	1538	SK-3049	陶器	灰軸織部流し菊皿	底部	灰白・浅黄橙	織部軸・灰軸	口縁部菊花状の切り込み, ロタロ成形後, 形整形, 体部外面菊花状のへり削り, 口縁部織部軸, 体部内・外面灰軸, 体部外面下位露胎	瀬戸産, 進房登窯Ⅲb期(1710~1750)	10%
19	1542	SK-3057	陶器	鉄軸丸罎	体部	オリーブ黒・灰	鉄軸	体部外面下位露胎	瀬戸産, 江戸時代	5%
20	1552	SK-3143	陶器	播鉢	口縁部	にぶい赤褐	無軸	1単位3条までは確認	信楽産, 18C中~後半	5%
21	1568	SK-3524	陶器	灰軸端反小罎	完形	灰オリーブ・灰白	灰軸	体部外面へり削り, 削り出し高台, 体部外面下位露胎	瀬戸産, 古瀬戸後期Ⅳ期古段階(15C中葉)	100%
22	1569	SK-3524	陶器	鉄軸天目茶罎	底部	黒褐・浅黄	鉄軸	削り出し輪高台, 体部外面下位露胎	瀬戸産, 進房登窯Ⅱ期(1630~1670)	30%
23	1576	SK-3530	陶器	灰軸織部流し菊皿	口縁部~底部	灰オリーブ灰・灰白・浅黄橙	灰軸	口縁部菊花状の切り込み, ロタロ成形後, 形整形, 体部外面菊花状のへり削り, 口縁部織部軸, 体部内・外面灰軸, 体部外面下位露胎	瀬戸産, 進房登窯Ⅲb期(1710~1750)	60%
24	1577	SK-3530	陶器	灰軸片口鉢	口縁部	灰白・灰黄	灰軸	体部やや内湾, 貫入多し	瀬戸産, 進房登窯Ⅲb期(1710~1750)	10%
25	1578	SK-3530	陶器	志野鉄絵皿	口縁部~底部	灰白・灰黄	長石軸・鉄絵	底部内面鉄絵(草花文), 体部内・外面・高台内施軸, 畳付無軸, 細かい貫入	瀬戸産, 進房登窯Ⅰ期(1605~1630)	20%
26	1579	SK-3530	陶器	鉄軸天目茶罎	口縁部~体部	オリーブ黒・灰白	鉄軸	体部外面下位露胎	瀬戸産, 進房登窯Ⅲb期(1710~1750)	30%

番号	遺物番号	遺構	種別	機種	部位	色調	給付・施軸	文様・特徴	産地・年代	備考
27	1587	SK-3576	陶器	灰輪輪壳皿	口縁部 ～底部	オリープ黄・灰 黄	灰輪	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、高台内無軸、見込みに輪状の積み重ね痕	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	30%
28	1588	SK-3576	陶器	鉄輪丸碗	底部	オリープ黒・に ぶい黄褐・灰白	鉄輪	削り出し輪高台、体部内・外面・高台内施軸、登付無軸	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	20%
29	1590	SK-3576	陶器	灰輪天目台	口縁部	灰白・灰黄	灰輪	細かい貫入、口縁部内・外面施軸	瀬戸産、通房登窯Ⅲb期 (1710～1750)	5%
30	1591	SK-3576	陶器	押鉢	口縁部	灰白・にぶい黄 橙	無軸	1単位8条、口縁部外側に折り曲げ、口縁部自然軸付着	信楽産、18C中～後半	10%
31	1612	SD-23	陶器	泉志野鉄絵 草花文丸皿	口縁部 ～底部	オリープ黒・灰	長石軸・鉄 絵	体部内面鉄絵の草花文、高台内施軸	瀬戸産、通房登窯Ⅱ期 (1630～1670)	30%
32	1613	SD-23	陶器	灰輪片口鉢	体部 ～ 底部	淡黄・灰白	灰輪	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け、高台内無軸、細かい貫入	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	30%
33	1614	SD-51	陶器	銅緑釉磁器 部丸碗	口縁部	青白・浅黄	銅緑軸	内・外面施軸	瀬戸産、通房登窯Ⅱ期 (1630～1670)	5%
34	1615	SD-51	陶器	灰輪外須輪 皿	体部	灰オリープ・灰	灰輪・具須	体部内面一条の具須	瀬戸産、江戸中期～後期	5%
35	1617	SD-54	陶器	灰輪扇反皿	口縁部	オリープ灰・灰	灰輪	口縁部のみ施軸	瀬戸産、大窯Ⅰ期(1490～ 1530)	5%
36	1618	SD-57	陶器	灰輪直縁大 皿	体部	灰オリープ・に ぶい橙	灰輪	体部内・外面下位露胎	瀬戸産、15C前半	5%
37	1619	SD-58	陶器	灰輪汁次	底部	灰黄・灰白	灰輪	体部外面・底部外面施軸	信楽産、19C後半	20%
38	1620	SD-58	陶器	押鉢	口縁部	赤褐	無軸	1単位9条までは確認	堺産、18C	5%
39	1637	SD-64	陶器	鉄輪天目茶 碗	口縁部 ～底部	黒褐・浅黄橙	鉄輪	体部外面下位露胎、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	50%
40	1638	SD-64	陶器	鉄輪丸碗	底部	黒褐・にぶい黄 橙・浅黄橙	鉄輪	登付・高台内施軸、体部外面下端薄く施軸	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	30%
41	1639	SD-64	陶器	青織部麻竹 文折縁皿	口縁部 ～底部	オリープ黄・灰 白	織部軸・鉄 絵	口縁部織部軸、見込み部鉄絵麻竹文、輪状の積み重ね痕、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	瀬戸産、通房登窯Ⅱ期 (1630～1670)	40%
42	1640	SE-75	陶器	灰輪輪壳皿	体部	灰白・黄灰	灰輪	貫入多し、外反して立ち上がる	瀬戸産、通房登窯Ⅲb期 (1710～1750)	5%
43	1670	SD-64	陶器	灰輪輪壳皿	口縁部	浅黄・灰白	灰輪	体部内・外面全面軸、口縁部緩やかに屈曲し、外反	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)、瀬戸穴田窯*	10%
44	1671	SD-64	陶器	志野丸皿	底部	灰黄・灰白	長石軸	体部内・外面・登付施軸、高台部内面無軸、底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け	瀬戸産、大窯Ⅱ期(1580～ 1585)	5%
45	1708	SD-65	陶器	灰輪丸碗	口縁部	淡黄・浅黄	灰輪	細かい貫入、体部緩やかに彎曲	瀬戸産、通房登窯Ⅳa期 (1770～1800)	5%
46	1710	SF-1	陶器	灰輪直縁大 皿	底部	浅黄・にぶい黄 橙	灰輪	底部回転糸切り	瀬戸産、15C後半	5%
47	1711	PG21	陶器	灰輪丸碗	底部	淡黄・灰白	灰輪	体部外面下位露胎、削り出し輪高台、細かい貫入	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	30%
48	1717	SB-7	陶器	鉄輪筒型碗	口縁部 ～底部	黒褐・にぶい黄 橙	鉄輪	体部内・外面施軸、体部はほぼ直立	瀬戸産、通房登窯Ⅲa期 (1670～1710)	20%

番号	遺物番号	遺構	種別	機種	部位	色 調	給付・施軸	文 様 ・ 特 徴	産 地 ・ 年 代	備 考
49	1718	PG-30	陶器	灰落とし	口縁部	緑・白・明赤褐	緑軸・灰軸	緑軸流し掛け、口縁部軸割溝、体部外面施軸、内面無軸	笠間産（室焼風）、江戸時代後期の可能性	10%、1756と同一整体
50	1756	PG-30	陶器	灰落とし	底部	白・明赤褐	灰軸	高台部内・畳付施軸、内面無軸	笠間産（室焼風）、江戸時代後期の可能性	10%、1718と同一整体
51	1751	遺構外	陶器	志野丸皿	底部	灰白・灰白	長石軸	底部内・外面・畳付施軸、底部回転糸切り	瀬戸産、大室Ⅲ期(1570～1580)	20%
52	1753	遺構外	陶器	鉄軸茶入	口縁部～底部	にぶい赤褐・浅黄	鉄軸	体部外面下位露胎、畳付無軸、底部回転糸切り	瀬戸産、大室Ⅰ期(1490～1530)	70%
53	1754	遺構外	陶器	鉛軸（尾呂軸）香炉	口縁部	オリーブ褐・褐灰	鉛軸	体部外面錆による半菊文	瀬戸産、連房登窯Ⅲb期(1710～1750)	5%

付 章

犬田神社前遺跡出土銅鏡の保存処理及び分析結果

金属製品保存処理報告書

(株)吉田生物研究所

委託業務名	犬田神社前遺跡出土の銅鏡の保存処理業務委託
処理方法	樹脂含浸被膜防錆保存処理
点数	銅鏡 1点
保存処理行程	処理前調査 (X線撮影・分析等) → 泥落とし → 写真撮影 → 錆取り → 脱塩処理 → 樹脂含浸 → 接合・充填 → 処理後写真撮影 → 防錆剤・フィルムバック
使用材質	キレストール (キレート剤) 水酸化ナトリウム 1% 溶液 アルタイン G (ポリビニルブチラール + BTA) 防錆剤 (気化性防錆剤・脱酸素剤) エスカル (セラミック蒸着系フィルム)
処理上注意点	形状を壊さないよう錆落としを慎重に施しました。 小片が多数あったので、紛失しないよう特に注意しながら作業をすすめました。
保管・取り扱い	できるだけ温度・湿度変化の少ない、直射日光の当たらないところで保管してください。 接合した箇所は厚みが薄い箇所です、慎重にお取り扱いください。

金属製遺物の成分分析結果

株式会社吉田生物研究所

1 はじめに

茨城県に所在する犬田神社前遺跡から出土した金属製遺物について、以下の通り成分分析を行ったのでその結果を報告する。

2 資料

調査した資料は表1に示す銅鏡1点である。

表1 調査資料一覧

No.	遺物名
1	銅鏡

3 方法

理学電機工業㈱製の全自動蛍光X線分析装置3270E（検出元素範囲B～U）によって資料本体に蛍光X線を照射して分析した。

4 分析結果

成分分析結果のスペクトルを付し、あわせて下に成分分析の結果表をのせる。この表にはAl, Si, P, S, K, Caなどの土壌成分等が含まれているので、あくまで参考資料である。遺物本来の構成金属は、Cu（銅）、As（ヒ素）、Pb（鉛）、Fe（鉄）、Sn（錫）、Ag（銀）である。

参考資料 表2 成分分析結果表

元素名	含有率 (%)
Al	2.00
Si	13.00
P	0.30
S	0.13
Cl	0.11
K	0.13
Ca	0.52
Fe	2.40
Cu	58.00
As	16.00
Ag	0.21
Sn	1.16
Pb	5.90

写 真 图 版



第205号住居跡出土土器



西部1区・2区調査区全景



中央部5区調査区全景



第134号住居跡
完掘状況



第134号住居跡
遺物出土状況1



第134号住居跡
遺物出土状況2

第142号住居跡
遺物出土状況



第168号住居跡
完掘状況



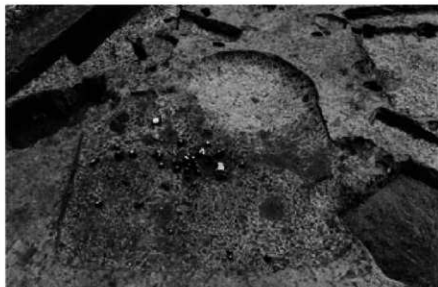
第195号住居跡
完掘状況



PL4



第147号住居跡
完掘状況



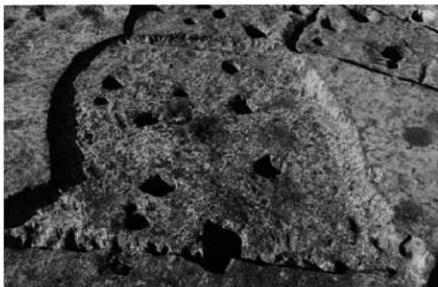
第147号住居跡
遺物出土状況1



第147号住居跡
遺物出土状況2



第193号住居跡
完掘状況



第236号住居跡
完掘状況



第236号住居跡
遺物出土状況



第101号住居跡
完掘状況



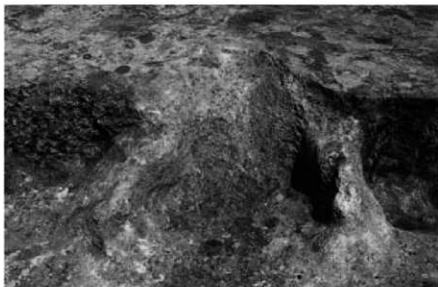
第101号住居跡
遺物出土状況1



第101号住居跡
遺物出土状況2



第101号住居跡
遺物出土状況3



第101号住居跡
完掘状況



第101号住居跡
遺物出土状況

PL8



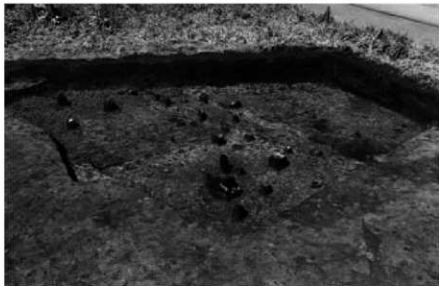
第102号住居跡
遺物出土状況 1



第102号住居跡
遺物出土状況 2



第104号住居跡
完掘状況



第104号住居跡
遺物出土状況 1

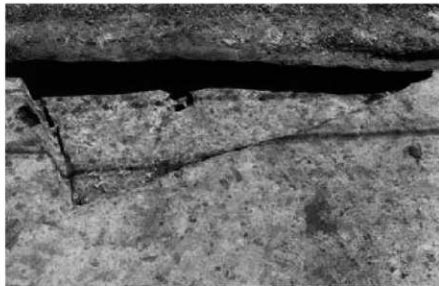


第104号住居跡
遺物出土状況 2



第104号住居跡
遺物出土状況 3

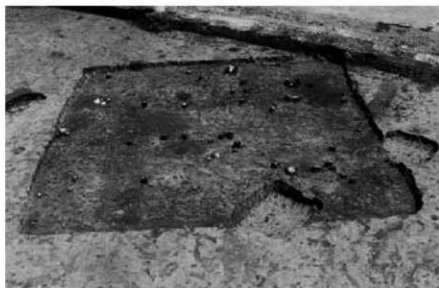
PL10



第106号住居跡
完掘状況



第107号住居跡
完掘状況



第107号住居跡
遺物出土状況1

第107号住居跡
遺物出土状況 2



第107号住居跡
遺物出土状況 3



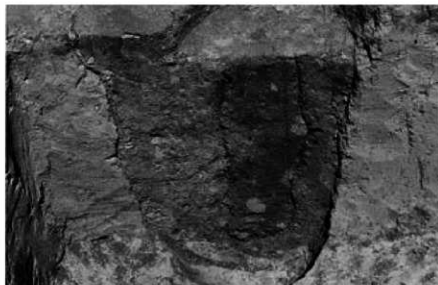
第107号住居跡
遺物出土状況 4



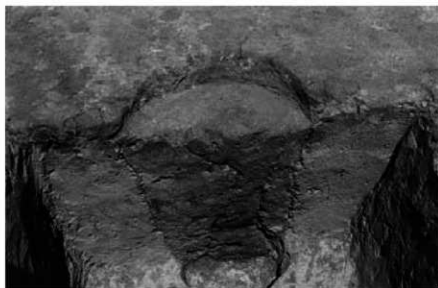
PL12



第107号住居跡
遺物出土状況 5



第107号住居跡ビット1
断ち割り状況



第107号住居跡ビット4
断ち割り状況

第108号住居跡
完掘状況



第108号住居跡
遺物出土状況 1



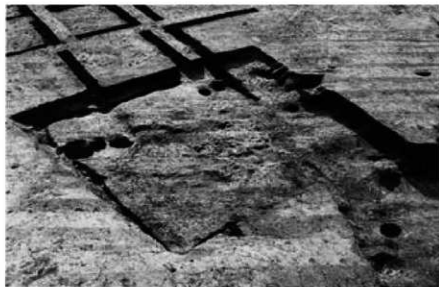
第108号住居跡
遺物出土状況 2



PL14



第108号住居跡
遺物出土状況 3



第109号住居跡
完掘状況



第109号住居跡
遺物出土状況

第110号住居跡
完掘状況



第110号住居跡
遺物出土状況 1



第110号住居跡
遺物出土状況 2



PL16



第114号住居跡
完掘状況



第114号住居跡
遺物出土状況1



第114号住居跡
遺物出土状況2



第114号住居跡
遺物出土状況 3



第114号住居跡
遺物出土状況 4



第114号住居跡
遺物出土状況 1

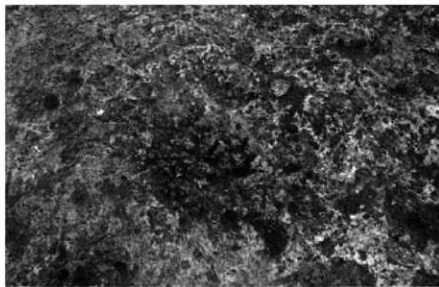
PL18



第114号住居跡竈
遺物出土状況 2



第114号住居跡竈
遺物出土状況 3



第114号住居跡炉
完掘状況

第117号住居跡
完掘状況



第117号住居跡
遺物出土状況



第117号住居跡貯藏穴
遺物出土状況



PL20



第128号住居跡
完掘状況



第128号住居跡
遺物出土状況



第150・162号住居跡
完掘状況

第150号住居跡
遺物出土状況 1



第150号住居跡
遺物出土状況 2



第150号住居跡
遺物出土状況 3



PL22



第155号住居跡
完掘状況



第155号住居跡
遺物出土状況1



第155号住居跡
遺物出土状況2

第155号住居跡
遺物出土状況 3



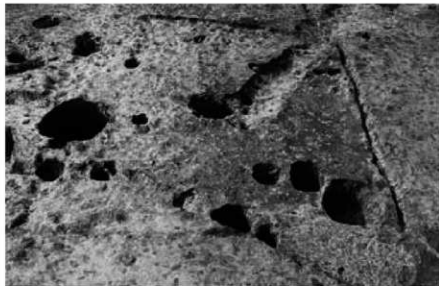
第155号住居跡竈
完掘状況



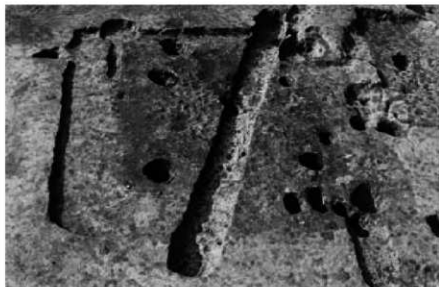
第155号住居跡竈
遺物出土状況



PL24



第162号住居跡
完掘状況



第164号住居跡
完掘状況



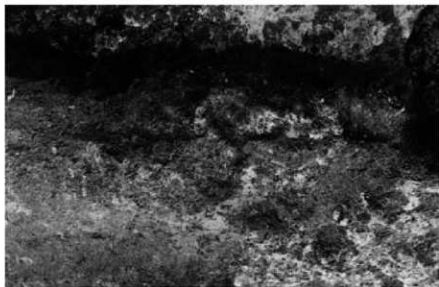
第164号住居跡
遺物出土状況1



第164号住居跡
遺物出土状況2



第164号住居跡貯藏穴
遺物出土状況



第164号住居跡炉
完掘状況

PL26



第169号住居跡
完掘状況



第169号住居跡
遺物出土状況1



第169号住居跡
遺物出土状況2

第172号住居跡
完掘状況



第172号住居跡
遺物出土状況 1



第172号住居跡
遺物出土状況 2



PL28



第172号住居跡竈
完掘状況



第172号住居跡竈
遺物出土状況



第173号住居跡
完掘状況

第173号住居跡
遺物出土状況



第178号住居跡
遺物出土状況 1



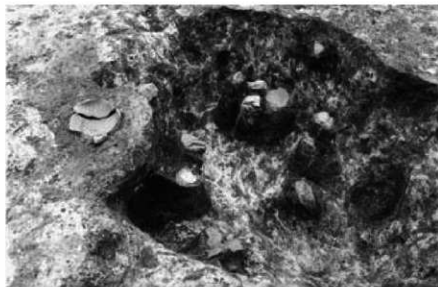
第178号住居跡
遺物出土状況 2



PL30



第184号住居跡
完掘状況



第184号住居跡
遺物出土状況1



第184号住居跡
遺物出土状況2



第187号住居跡
遺物出土状況



第194号住居跡
完掘状況



第194号住居跡
遺物出土状況

PL32



第201号住居跡
完掘状況



第201号住居跡
遺物出土状況



第202号住居跡
完掘状況



第202号住居跡
遺物出土状況 1



第202号住居跡
遺物出土状況 2



第202号住居跡
遺物出土状況 3

PL34



第203号住居跡
完掘状況



第205号住居跡
完掘状況



第205号住居跡
遺物出土状況1

第205号住居跡
遺物出土状況 2



第205号住居跡
遺物出土状況 3



第205号住居跡
遺物出土状況 4





第205号住居跡
遺物出土状況 5

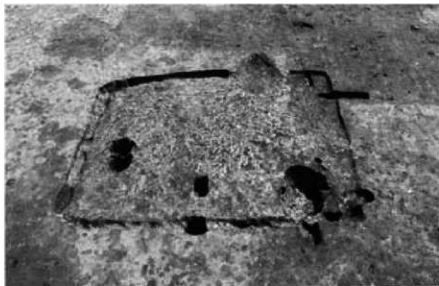


第205号住居跡
遺物出土状況 6



第205号住居跡
完掘状況

第209号住居跡
完掘状況



第213号住居跡
完掘状況



第213号住居跡竈
遺物出土状況



PL38



第218号住居跡
完掘状況



第218号住居跡
遺物出土状況1



第218号住居跡
遺物出土状況2



第218号住居跡
遺物出土状況 3

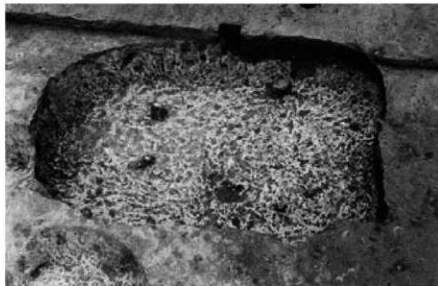


第 2 1 8 号 住 居 跡
遺物出土状況(炭化材)

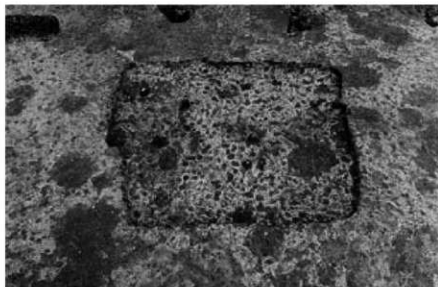


第 2 1 8 号 住 居 跡
遺物出土状況(炭化材)

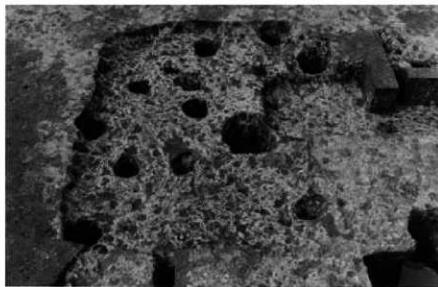
PL40



第20号方形竖穴遺構
遺物出土状況



第22号方形竖穴遺構
遺物出土状況



第24号方形竖穴遺構
完掘状況

第27号方形堅穴遺構
完掘状況

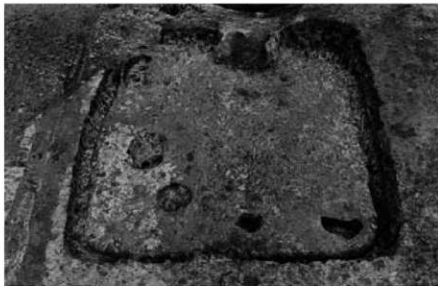


第29号方形堅穴遺構
完掘状況



第2668号土坑
遺物出土状況





第103号住居跡
完掘状況



第103号住居跡
遺物出土状況1



第103号住居跡
遺物出土状況2

第103号住居跡
遺物出土状況 3



第103号住居跡竈
完掘状況



第103号住居跡竈
遺物出土状況



PL44



第115号住居跡
完掘状況



第115号住居跡
遺物出土状況



第131号住居跡
完掘状況

第131号住居跡
遺物出土状況 1



第131号住居跡
遺物出土状況 2



第131号住居跡
遺物出土状況 3



PL46



第149号住居跡
完掘状況



第149号住居跡
遺物出土状況



第149号住居跡竈
完掘状況

第139・154号住居跡
完掘状況



第154号住居跡
遺物出土状況



第154号住居跡竈
遺物出土状況



PL48



第112号住居跡
完掘状況



第161A・B号住居跡
完掘状況



第161A号住居跡
遺物出土状況

第181号住居跡
完掘状況



第181号住居跡
遺物出土状況 1



第181号住居跡
遺物出土状況 2



PL50



第198号住居跡
遺物出土状況 1



第198号住居跡
遺物出土状況 2



第231号住居跡
完掘状況

第116号住居跡
完掘状況



第116号住居跡
遺物出土状況



第116号住居跡竈
遺物出土状況



PL52



第136号住居跡
完掘状況



第136号住居跡
遺物出土状況



第140A・B号住居跡
完掘状況

第140A号住居跡
遺物出土状況



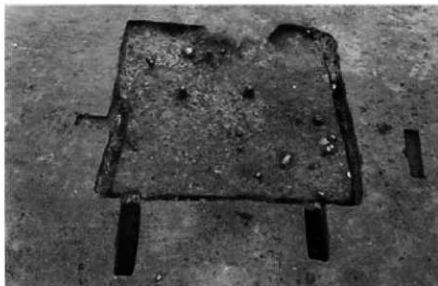
第140A号住居跡竈
完掘状況



第151号住居跡
完掘状況



PL54



第151号住居跡
遺物出土状況

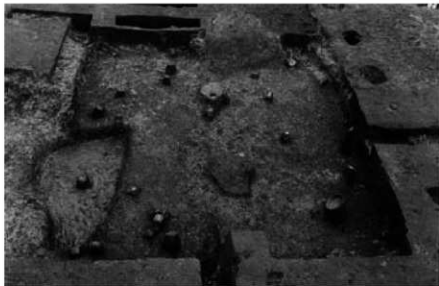


第151号住居跡竈
遺物出土状況



第152号住居跡
遺物出土状況1

第152号住居跡
遺物出土状況 2



第152号住居跡竈
完掘状況



第152号住居跡竈
遺物出土状況



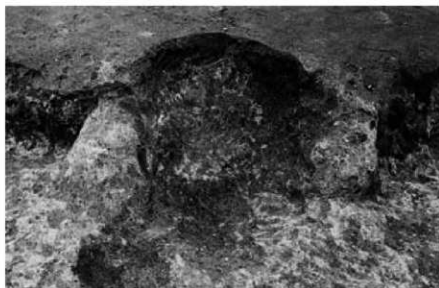
PL56



第158号住居跡
完掘状況



第158号住居跡
遺物出土状況

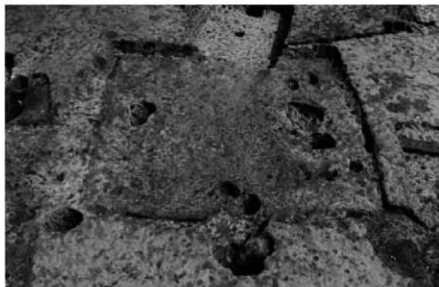


第158号住居跡竈
完掘状況

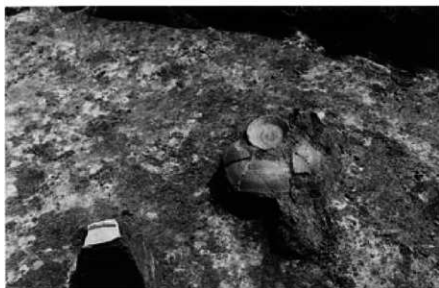
第158号住居跡竈
遺物出土状況



第163号住居跡
完掘状況



第163号住居跡
遺物出土状況



PL58



第160号住居跡
完掘状況



第160号住居跡
遺物出土状況1



第160号住居跡
遺物出土状況2

第166号住居跡
完掘状況



第166号住居跡
遺物出土状況



第166号住居跡竈
完掘状況



PL60



第180号住居跡
完掘状況



第180号住居跡
遺物出土状況1



第180号住居跡
遺物出土状況2



第180号住居跡竈
完掘状況



第180号住居跡竈
遺物出土状況



第207号住居跡
遺物出土状況1

PL62



第207号住居跡
遺物出土状況 2



第210号住居跡
完掘状況



第210号住居跡
遺物出土状況

第220号住居跡
完掘状況



第220号住居跡竈
完掘状況



第221号住居跡
完掘状況



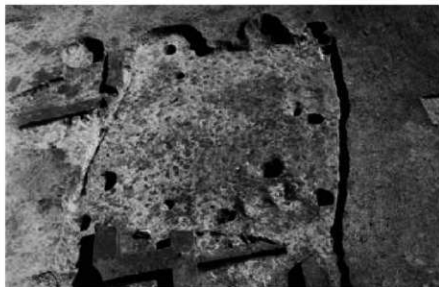
PL64



第221号住居跡竈
完掘状況



第221号住居跡竈
遺物出土状況



第229号住居跡
完掘状況

第229号住居跡竈
遺物出土状況



第230号住居跡
完掘状況

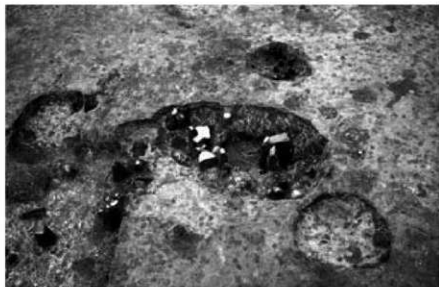


第230号住居跡
遺物出土状況





第2253号土坑
遺物出土状況



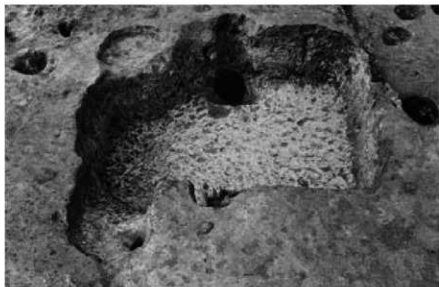
第2655・2657号土坑
遺物出土状況 1



第2655・2657号土坑
遺物出土状況 2



第4・5号掘立柱建物跡
完掘状況



第32号方形堅穴遺構
完掘状況



第33号方形堅穴遺構
完掘状況

PL68



第34号方形竖穴遺構
完掘状況



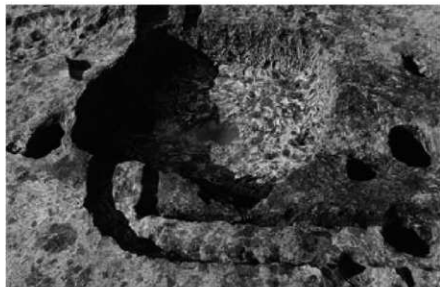
第35号方形竖穴遺構
遺物出土状況



第36号方形竖穴遺構
完掘状況



第36号方形堅穴遺構
遺物出土狀況



第38号方形堅穴遺構
完掘狀況

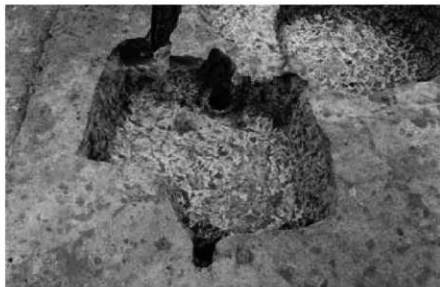


第38号方形堅穴遺構
遺物出土狀況

PL70



第37号方形竖穴遺構
完掘状況



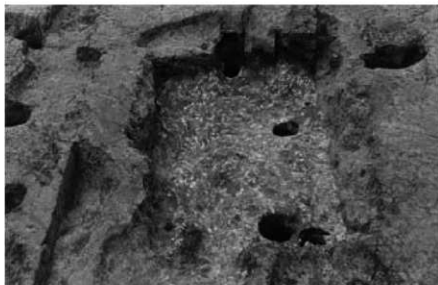
第39号方形竖穴遺構
完掘状況



第41号方形竖穴遺構
完掘状況



第42号方形堅穴遺構
完掘状況



第43号方形堅穴遺構
完掘状況



第46号方形堅穴遺構
完掘状況

PL72



第46号方形竖穴遺構
遺物出土狀況



第22号地下式坑
完掘狀況



第1号火葬土坑
完掘狀況

第15号土擴墓
完掘狀況



第71号井戸跡
完掘狀況



第75号井戸跡
完掘狀況



PL74



第92号井戸跡(平安時代)
完掘状況



第3239号土坑
遺物出土状況

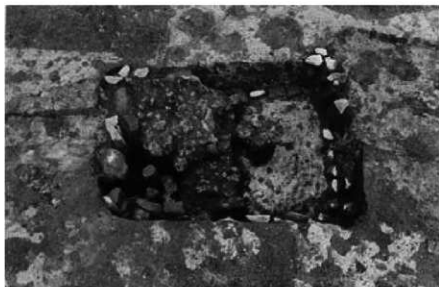


第3530号土坑
遺物出土状況1

第3530号土坑
遺物出土状況 2



第3538号土坑
遺物出土状況 1



第3538号土坑
遺物出土状況 2



PL76



第21号溝跡
完掘状況



第21号溝跡
遺物出土状況



第23号溝跡
遺物出土状況

第63・64号溝跡
完掘状況 1



第63・64号溝跡
完掘状況 2



第63号溝跡
遺物出土状況



PL78



第65号溝跡
遺物出土状況



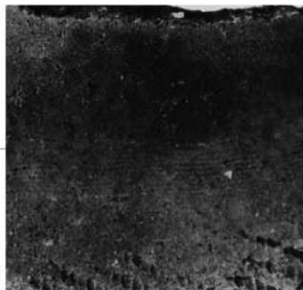
第65号溝跡, 第77号井戸跡
土層断面



第1号道路跡
遺物出土状況



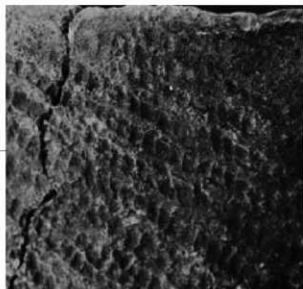
SI147-685



SI147-681



SI193-713



PL80



第193号住居跡・第2346号土坑出土遺物







SI175-TP171



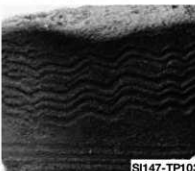
SI193-TP207



SI175-TP170



SI145-TP99



SI147-TP103



SI147-TP108



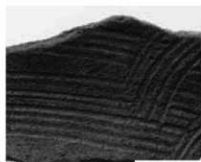
SI147-TP109



SI193-TP214



SI147-TP102



SI147-TP100



SI236-TP274



SI147-TP126



SI193-TP223



SI147-TP122

PL84



SI175-TP168



SI147-TP104



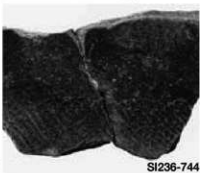
SI147-TP80



SI147-TP82



SI147-688



SI236-744



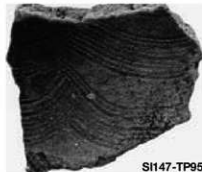
SI147-TP89



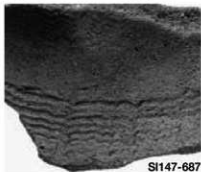
SI193-716



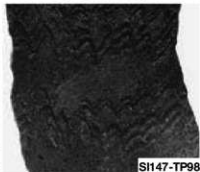
SI147-682



SI147-TP95



SI147-687



SI147-TP98

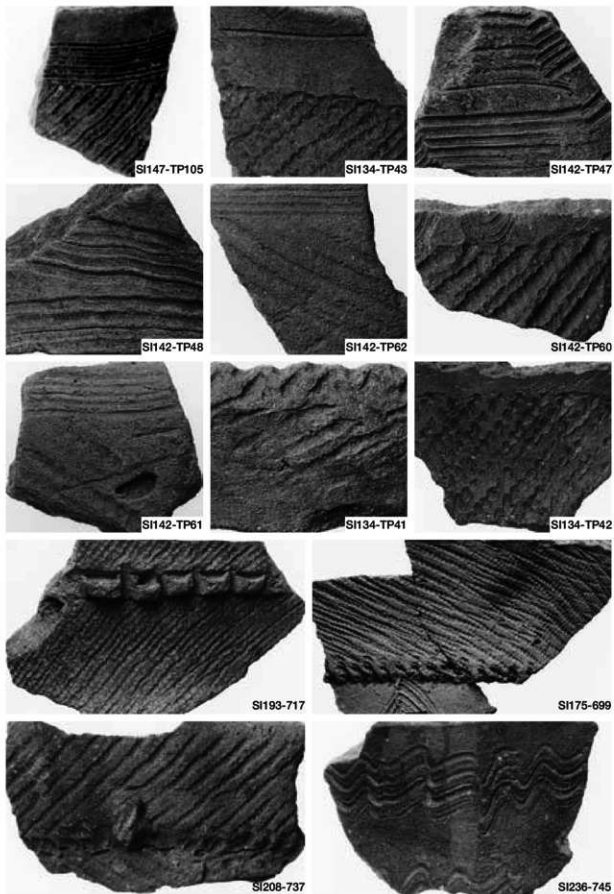


SI142-TP46

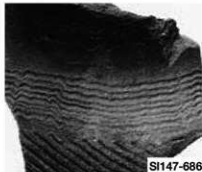


SI147-TP69

第142・147・175・193・236号住居跡出土遺物



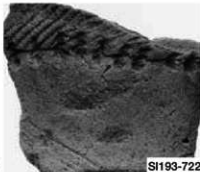
PL86



SI147-686



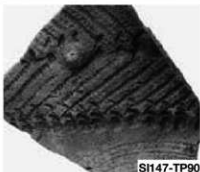
SI175-700



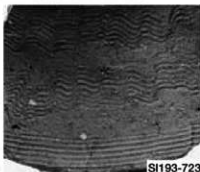
SI193-722



SI193-718



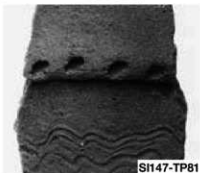
SI147-TP90



SI193-723



SI236-738



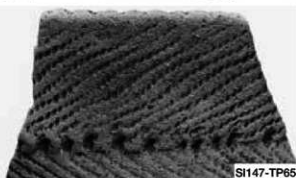
SI147-TP81



SI147-TP68



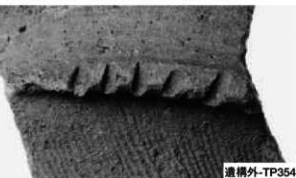
SI147-TP96



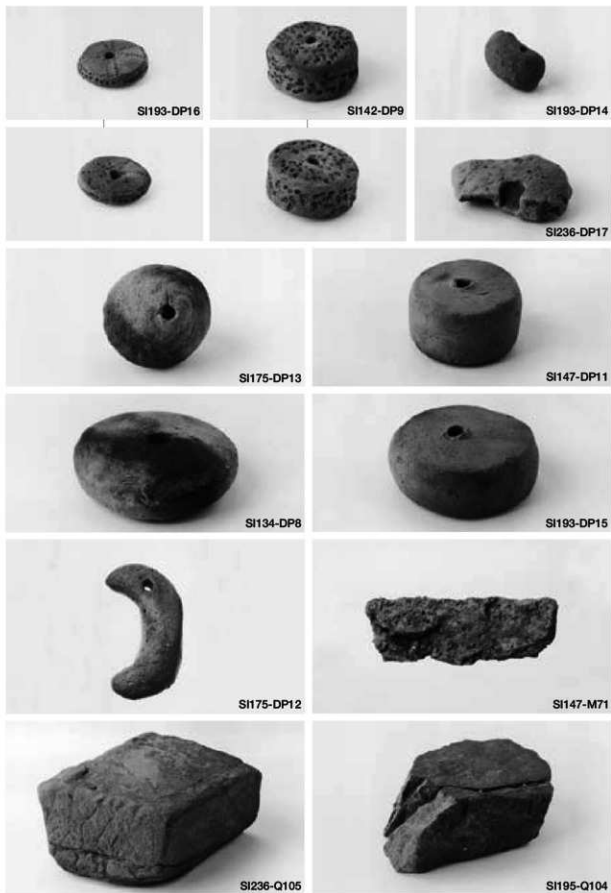
SI147-TP65



SI147-TP106



遺構外-TP354



土製品, 金属製品, 石器





PL90



第114号住居跡出土遺物



PL92



第117・150号住居跡出土遺物



PL94



第150・172・173・178・184・187号住居跡出土遺物



SI201-1019



SI205-1044



SI202-1022



SI205-1050



SI202-1031



SI205-1070



SI172-982



SI173-999

SI128-908

SI101-765





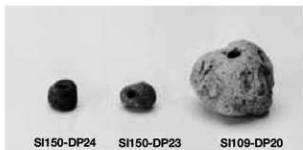
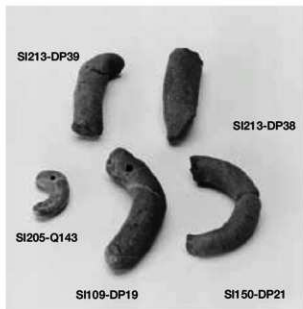




PL100



第218号住居跡，第2668号土坑出土遺物



第107·109·150·172·205·213·218号住居跡，第30号方形竖穴遺構，第2668号土坑出土遺物

PL102



土製品, 石器, 石製品











PL108



第180・199・207・210号住居跡出土遺物



PL110



第35号方形堅穴遺構，第22号地下式坑，第75・80号井戸跡
第2253・2604・2655・2657号土坑出土遺物



SK2642-1523



SK2642-1522



SK2642-1524



SK2642-1528



SK2642-1526



SK2642-1527



SK3185-1556



SK2659-1535



SK3085-1546



SK2642-1529

PL112



第3185・3538・3576号土坑，第23・62・64号满跡出土遺物





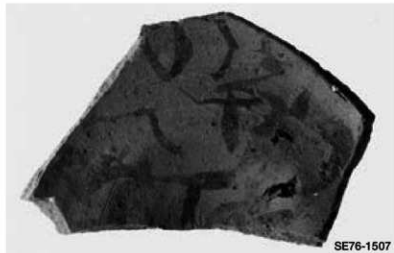


第65号溝跡，第1号不明遺構出土遺物





第46号方形堅穴遺構，第3051・3576号土坑，第75号井戸跡，第23・64・65号溝跡出土遺物



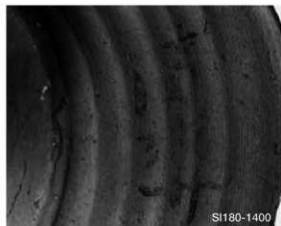
SE76-1507



遺構外-1744



SK2253-1519



SI180-1400



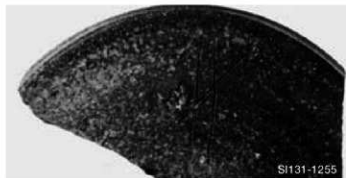
遺構外-1745



SI131-1251



SI105-1323



SI131-1255



SI152-1376



PL120



SI131-Q160



SI111-Q159



遺構外-Q193



SK3552-Q185



遺構外-Q194



SB4-Q171



SE75-Q173



SI158-Q167



SK3530-Q179



SD62-Q186



SD65-Q187



遺構外-Q196

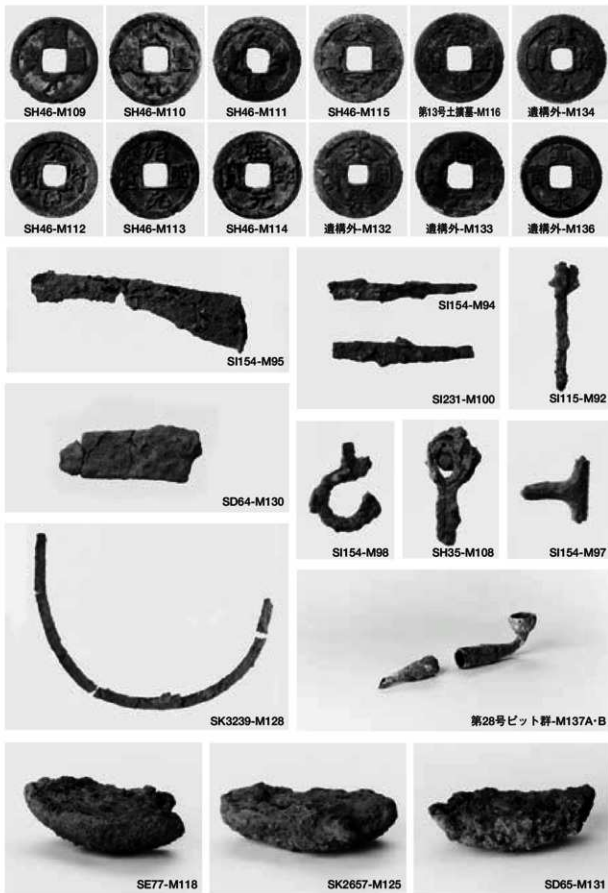


遺構外-Q195



SK3530-Q180

石器・石製品



金属製品



SI101-M72



遺構外-1753



SK3524-1568



SD64-1639



SK3530-1576



第101号住居跡，第3524・3530号土坑，第64号溝跡，遺構外出土遺物



第40・45号方形竪穴遺構，第74号井戸跡，第3530・3576号土坑，第64号溝跡，
第21号ビット群出土遺物

PL124



第5号掘立柱建物跡, 第3530・3576号土坑, 第21・23・64号溝跡, 遺構外出土遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第248集

犬田神社前遺跡2

(下 巻)

北関東自動車道(協和～友部)建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ

平成17 (2005) 年 3 月22日 印刷
平成17 (2005) 年 3 月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 エリート印刷
〒300-1211 牛久市柏田町3259
T E L 029-873-2231